

佐賀市文化財調査報告書第37集

<sup>むら</sup>村 <sup>とく</sup>徳 <sup>なが</sup>永 遺跡(K地区)  
<sup>しの</sup>篠 <sup>ぎ</sup>木 <sup>の</sup>野 遺跡(1 区)

平成4年3月

佐賀市教育委員会



## 発刊にあたって

久保泉西部地区の農業基盤整備事業は、昭和61年度から開始され、本年度で6年目をむかえます。この地区の農業基盤整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査は、昭和63年の立野遺跡の調査にはじまり、今年度までに村徳永遺跡・古村遺跡・篠木野遺跡・琵琶原遺跡を調査しました。

本書は、平成2年度に行った村徳永遺跡・篠木野遺跡の発掘調査報告書であります。調査の結果、縄文時代から江戸時代にいたる遺構・遺物を検出し、多大な成果を収めました。

特に、村徳永遺跡では昭和63年度から毎年継続して調査を行い、弥生時代後半期の大規模な集落跡の存在を明らかにしています。

今回の調査では、村徳永遺跡の北半部でも多数の竪穴住居を検出し、この集落跡の範囲が北側まで広がっていることを確認しました。さらに、弥生時代に継続して古墳時代の集落跡も検出し、この地域が伝統的な居住空間であったことがわかりました。

こうした調査成果は、原始から古代社会における集落構造の変遷をたどるうえで貴重な資料となります。

この報告書が、市民のみなさんの郷土の歴史学習のお役に立てれば幸いです。

最後になりましたが、調査を行うにあたってご協力いただいた地元の方々に深く感謝いたします。

平成4年3月

佐賀市教育委員会  
教育長 山田清人

## 例 言

1. 本書は、久保泉西部地区農業基盤整備事業に伴い、平成2年度に実施した村徳永遺跡K地区と篠木野遺跡1区の発掘調査報告書である。
2. 調査は、佐賀県農林部の委託と国庫補助を受けて、佐賀市教育委員会が実施した。
3. 調査地の所在および規模などは、以下のとおり。

遺跡名	遺跡登録番号	遺跡略号	調査地	開発面積	調査対象面積	調査実施面積	遺跡調査番号	調査期間
村徳永遺跡K地区	2037・3054・5023	MTN-K	久保泉町大字上和泉字村徳永	42,800㎡	28,800㎡	4,439㎡	0211	7月23日
篠木野遺跡1区	2036・3053・5022	SGN-1	久保泉町大字上和泉字篠木野		2,600㎡	527㎡	0212	～1月16日

4. 発掘調査・整理作業・報告書作成の分担は、以下のとおり。

表土除去：有限会社松尾工建

空中写真：有限会社空中写真企画

全体遺構実測：新栄地研工業有限会社

遺構・遺物写真：前田達男

個別遺構実測：前田達男・古賀章彦

遺物接合：鬼崎玲子・馬場恵美子

友添丸子・龍由美子

遺物実測：前田達男・貞包洋子

副島カスミ・原京子

古賀尚子

製図：前田達男・貞包洋子

古賀尚子

5. 調査記録類・出土遺物は、佐賀市文化財資料館（本庄町大字本庄1121番地）で一括保管している。巻末の収蔵品目録を参照されたい。
6. 本書の執筆・編集は、前田がこれにあたった。

## 凡 例

1. 遺構には一連番号をつけ、SH：竪穴住居、SB：掘立柱建物、SD：溝・堀、SK：土壇、P：小穴・柱穴、SX：不明遺構、の略号を用いて標記した。
2. 表示した方位は、すべて座標北（G. N）である。
3. 容器類の実測図は、断面白ヌキ：縄文土器・弥生土器・土師器、断面黒ヌキ：須恵器・陶器・磁器、断面網カケ：瓦器、器面網カケ：黒色土器、を表現している。
4. 遺物の計測値は、収蔵品目録に掲載している。

# 本文目次

I. 序 説	1
1. 調査にいたる経過	1
2. 調査の組織	1
II. 遺跡の位置と環境	2
1. 遺跡の位置	2
2. 遺跡の立地	2
3. 歴史的環境	3
III. 調査の概要	9
1. 村徳永遺跡K地区の概要	9
(1) K 1 区の概要	9
(2) K 2 区の概要	10
(3) K 3 区の概要	11
(4) K 4 区の概要	11
2. 篠木野遺跡 1 区の概要	12
3. 記述の方法	12
IV. 村徳永遺跡K地区の記録 — K 1 区 —	15
1. 縄文時代の遺構と遺物	15
(1) 竪穴住居と出土遺物	15
(2) 土壌と出土遺物	16
(3) その他の出土遺物	18
2. 弥生時代の遺構と遺物	19
(1) 竪穴住居と出土遺物	19
(2) 土壌と出土遺物	33
3. 古墳時代の遺構と遺物	35
(1) 竪穴住居と出土遺物	35
(2) 土壌と出土遺物	39
4. 古代の遺構と遺物	45
(1) 溝と出土遺物	45
5. 中世の遺構と遺物	48
(1) 堀と出土遺物	48
(2) 土壌と出土遺物	49

V. 村徳永遺跡K地区の記録 — K 2 区 —	56
1. 弥生時代の遺構と遺物	56
(1) 竪穴住居と出土遺物	56
(2) 土壌と出土遺物	57
(3) その他の出土遺物	61
VI. 村徳永遺跡K地区の記録 — K 3 区 —	64
1. 弥生時代の遺構と遺物	64
(1) 竪穴住居と出土遺物	64
(2) 土壌と出土遺物	70
(3) 溝と出土遺物	72
(4) 不明遺構と出土遺物	73
(5) その他の出土遺物	76
2. 古墳時代の遺物	76
VII. 村徳永遺跡K地区の記録 — K 4 区 —	79
1. 弥生時代の遺構と遺物	79
(1) 竪穴住居と出土遺物	79
(2) 掘立柱建物と出土遺物	98
(3) 土壌と出土遺物	100
(4) 溝と出土遺物	107
2. 古墳時代の遺構と遺物	109
(1) 土壌と出土遺物	109
3. 古代の遺構と遺物	111
(1) 土壌と出土遺物	111
4. 中世の遺構と遺物	112
(1) 土壌と出土遺物	112
(2) 溝と出土遺物	113
VIII. 篠木野遺跡 1 区の記録	119
1. 近世の遺構と遺物	119
(1) 土壌と出土遺物	119
(2) 溝と出土遺物	122
IX. 付    論 — 埋没地形の復原 —	124

## 挿 図 目 次

Fig. 1 村徳永遺跡・篠木野遺跡位置図(1/1,000,000)……2	Fig. 2 周辺主要遺構分布図(1/25,000)……4
Fig. 3 調査区設定図(1/4,000)……8	Fig. 4 基本層序模式図……10
Fig. 5 村徳永遺跡K地区土層断面実測図(1/40)……11	Fig. 6 村徳永遺跡K1区遺構配置図(1/500)……13~14
Fig. 7 K1区縄文時代主要遺構配置図……15	Fig. 8 SH101竪穴式住居実測図(1/40)……16
Fig. 9 SK115土壇実測図(1/40)……17	Fig. 10 SK115出土縄文土器実測図……17
Fig. 11 K1区出土縄文土器実測図……18	Fig. 12 K1区出土打製石器実測図……18
Fig. 13 K1区弥生時代主要遺構配置図……19	Fig. 14 SH102竪穴住居実測図(1/40)……20
Fig. 15 SC103竪穴住居実測図(1/40)……21	Fig. 16 SH103出土弥生土器実測図(1/4)……22
Fig. 17 SH106竪穴住居実測図(1/40)……22	Fig. 18 SH106出土弥生土器実測図(1/4)……23
Fig. 19 SH107竪穴住居実測図(1/40)……23	Fig. 20 SC107出土弥生土器・土製品実測図(1/4)……24
Fig. 21 SH108竪穴住居実測図(1/40)……25	Fig. 22 SH108出土遺物実測図(1/4・1/2)……26
Fig. 23 SH109竪穴住居実測図(1/40)……26	Fig. 24 SH109出土石剣実測図(1/2)……27
Fig. 25 SH110竪穴住居実測図(1/40)……27	Fig. 26 SH110出土石鏃実測図(1/2)……28
Fig. 27 SH111竪穴住居実測図(1/40)……28	Fig. 28 SH111出土弥生土器実測図(1/4)……29
Fig. 29 SH112竪穴住居実測図(1/40)……30	Fig. 30 SH116竪穴住居実測図(1/40)……31
Fig. 31 SH116出土弥生土器実測図(1/4)……32	Fig. 32 SH116出土弥生土器実測図(1/4)……33
Fig. 33 SK114土壇実測図(1/40)……34	Fig. 34 SK114出土弥生土器実測図(1/4)……34
Fig. 35 K1区古墳時代主要遺構配置図……35	Fig. 36 SH105竪穴住居実測図(1/40)……36
Fig. 37 SH105出土土師器実測図(1/4)……37	Fig. 38 SH105出土土師器実測図(1/4)……38
Fig. 39 SH105出土土師器・須恵器・石製品実測図(1/4・1/2) 39	Fig. 40 SK113土壇実測図(1/40)……40
Fig. 41 SK131土壇実測図(1/40)……40	Fig. 42 SK113出土土師器実測図(1/4)……41
Fig. 43 SK131出土土師器実測図(1/4)……42	Fig. 44 SK132土壇実測図(1/40)……42
Fig. 45 SK132出土土師器実測図(1/4)……42	Fig. 46 SK133・134土壇実測図(1/40)……42
Fig. 47 SK133・134出土土師器・須恵器実測図(1/4)……43	Fig. 48 SK135土壇実測図(1/40)……44
Fig. 49 SK135出土土師器・須恵器実測図(1/4)……45	Fig. 50 SK138土壇実測図(1/40)……45
Fig. 51 SK138出土土師器実測図(1/4)……46	Fig. 52 SD121土層断面実測図(1/40)……46
Fig. 53 SD121出土土師器・黒色土器実測図(1/4)……47	Fig. 54 K1区中世主要遺構配置図……48
Fig. 55 SD141北壁土層断面実測図(1/40)……48	Fig. 56 SD141出土土師器・瓦器・陶器・磁器実測図(1/4)……49
Fig. 57 SK139土壇実測図(1/40)……50	Fig. 58 SK139出土土師器・瓦器実測図(1/4)……50
Fig. 59 SK139出土土師器・瓦器実測図2(1/4)……51	Fig. 60 村徳永遺跡2区遺構配置図(1/300)……55
Fig. 61 SH213竪穴住居実測図(1/40)……56	Fig. 62 SH213出土弥生土器実測図(1/4)……57

Fig.63	S K203土壤実測図(1/40) ……………	57	Fig.64	S K203出土弥生土器実測図(1/4) ……………	58
Fig.65	S K203出土弥生土器実測図2(1/4) ……………	59	Fig.66	S K203出土弥生土器・石製品(1/4・1/2) ……………	60
Fig.67	K 2区出土弥生土器・土製品実測図(1/4・1/2) ……	61	Fig.68	村徳永遺跡K 3区遺構配置図(1/300) ……………	63
Fig.69	S H302竪穴住居実測図(1/40) ……………	64	Fig.70	S H305竪穴住居実測図(1/40) ……………	65
Fig.71	S H305出土弥生土器実測図(1/4) ……………	66	Fig.72	S H306竪穴住居実測図(1/40) ……………	67
Fig.73	S H306出土弥生土器実測図(1/4) ……………	67	Fig.74	S H309竪穴住居実測図(1/40) ……………	68
Fig.75	S H309出土弥生土器実測図(1/4) ……………	69	Fig.76	S K301土壤実測図(1/40) ……………	70
Fig.77	S K301出土弥生土器実測図(1/4) ……………	70	Fig.78	S K301出土弥生土器実測図2(1/4) ……………	71
Fig.79	S K301出土弥生土器実測図3(1/4) ……………	72	Fig.80	S D303溝実測図(1/40) ……………	73
Fig.81	S D303出土弥生土器・石器実測図(1/4・1/2) ……	73	Fig.82	S X310不明遺構実測図(1/40) ……………	74
Fig.83	S X310出土弥生土器実測図(1/4) ……………	75	Fig.84	K 3区出土弥生土器実測図(1/4) ……………	76
Fig.85	K 3区出土土師器実測図(1/4) ……………	76	Fig.86	村徳永遺跡K 4遺構配置図(1/300) ……………	78
Fig.87	K 4区弥生時代主要遺構配置図 ……………	79	Fig.88	S H401竪穴住居実測図(1/60) ……………	80
Fig.89	S H401出土弥生土器実測図(1/4) ……………	80	Fig.90	S H404竪穴住居実測図(1/60) ……………	81
Fig.91	S H404出土弥生土器実測図(1/4) ……………	82	Fig.92	S H407竪穴住居実測図(1/60) ……………	83
Fig.93	S H407出土弥生土器実測図(1/4) ……………	83	Fig.94	S H410竪穴住居実測図(1/60) ……………	84
Fig.95	S H410出土弥生土器実測図(1/4) ……………	85	Fig.96	S H411竪穴住居実測図(1/60) ……………	85
Fig.97	S H411出土弥生土器実測図(1/4) ……………	86	Fig.98	S H415竪穴住居実測図(1/60) ……………	86
Fig.99	S H415出土弥生土器実測図(1/4) ……………	87	Fig.100	S H416竪穴住居実測図(1/60) ……………	88
Fig.101	S H416出土弥生土器実測図(1/4) ……………	88	Fig.102	S H417竪穴住居実測図(1/60) ……………	89
Fig.103	S H417出土弥生土器実測図(1/4) ……………	90	Fig.104	S H420竪穴住居実測図(1/60) ……………	91
Fig.105	S H420出土弥生土器・石製品実測図(1/4) ……	92	Fig.106	S H425竪穴住居実測図(1/60) ……………	93
Fig.107	S H425出土弥生土器・土製品実測図(1/4) ……	94	Fig.108	S H431竪穴住居実測図(1/60) ……………	94
Fig.109	S H431出土弥生土器実測図(1/4) ……………	95	Fig.110	S H433竪穴住居実測図(1/60) ……………	96
Fig.111	S H433出土弥生土器・石製品実測図(1/4) ……	96	Fig.112	S H434竪穴住居実測図(1/60) ……………	97
Fig.113	S H434出土弥生土器実測図(1/4) ……………	97	Fig.114	S B461掘立柱建物実測図(1/60) ……………	98
Fig.115	S B461柱穴出土弥生土器実測図(1/4) ……………	99	Fig.116	S B462掘立柱建物実測図(1/60) ……………	99
Fig.117	S B462柱穴出土弥生土器実測図(1/4) ……………	100	Fig.118	S K403土壤実測図(1/40) ……………	100
Fig.119	S K419土壤実測図(1/40) ……………	101	Fig.120	S K422土壤実測図(1/40) ……………	101
Fig.121	S K419出土弥生土器実測図(1/4) ……………	102	Fig.122	S K422出土弥生土器実測図(1/4) ……………	103
Fig.123	S K422出土弥生土器実測図2(1/4) ……………	104	Fig.124	S K423土壤実測図(1/40) ……………	104
Fig.125	S K423出土弥生土器実測図(1/4) ……………	105	Fig.126	S K424土壤実測図(1/40) ……………	105
Fig.127	S K424出土弥生土器・石製品実測図(1/4) ……	105	Fig.128	S K432土壤・出土遺物実測図(1/40・1/4) ……	106

Fig.129	S K436土壌実測図(1/40).....	106	Fig.130	S K436出土弥生土器実測図.....	107
Fig.131	S D409・413・430出土弥生土器実測図(1/4).....	108	Fig.132	K 4区古墳時代主要遺構配置図.....	109
Fig.133	S K428・438土壌実測図(1/40).....	110	Fig.134	S K428・438出土土師器実測図(1/4).....	110
Fig.135	K 4区古代主要遺構配置図.....	111	Fig.136	S K408土壌・出土土師器実測図(1/40・1/4).....	112
Fig.137	S K418土壌実測図(1/40).....	112	Fig.138	S K418出土土師器実測図(1/4).....	113
Fig.139	K 4区中世主要遺構配置図.....	113	Fig.140	S K421土壌・出土土師器実測図(1/40・1/4).....	114
Fig.141	S D402土層断面・出土遺物実測図(1/40・1/4).....	114	Fig.142	篠木野遺跡1区遺構配置図(1/300).....	118
Fig.143	S K102・103土壌実測図(1/40).....	119	Fig.144	S K103出土遺物実測図(1/4).....	120
Fig.145	S K105・106土壌実測図(1/40).....	120	Fig.146	S K113土壌実測図(1/40).....	121
Fig.147	S K106・113出土遺物実測図(1/4).....	121	Fig.148	S D104・107・108・109出土遺物実測図.....	122
Fig.149	地山区分概念図.....	124	Fig.150	地表観察による洪積段丘面の分布(1/25,000).....	125
Fig.151	微地形図(1/6,000).....	126	Fig.152	地山区分図(1/8,000).....	127
Fig.153	埋没地形復原図(1/6,000).....	128			

## 表 目 次

Tab.1	村徳永遺跡K 1区出土遺物一覧.....	54~52
Tab.2	村徳永遺跡K 2区出土遺物一覧.....	62
Tab.3	村徳永遺跡K 3区出土遺物一覧.....	77
Tab.4	村徳永遺跡K 4区出土遺物一覧.....	115~117
Tab.5	篠木野遺跡1区出土遺物一覧.....	123

# 図 版 目 次

- PL. 1 1. 調査区全景 (南から)
- PL. 2 1. 村徳永遺跡K1区全景 (北から) 2. 村徳永遺跡K1東側 (北から)
- PL. 3 1. 村徳永遺跡K1区西側 (東から) 2. K1区東側竪穴住居群 (北から)
- PL. 4 1. K1区西側竪穴住居群 (北から) 2. SH101炭化木検出状況 (北西から) 3. SH101完掘状況 (北西から)
- PL. 5 1. SH103床面検出状況 (南から) 2. SH106完掘状況 (北から) 3. SH107床面検出状況 (北から)
- PL. 6 1. SH110完掘状況 (北西から) 2. SH111完掘状況 (北西から) 3. SH16床面検出状況 (北東から)
- PL. 7 1. SH113完掘状況 (北から) 2. SK114完掘状況 (西から) 3. SK115完掘状況 (南から) 4. SK135完掘状況 (南から)
- PL. 8 1. SK136土層断面 (南東から) 2. SK137-138完掘状況 (南から) 3. SD121土層断面 (南西から) 4. SD141土層断面 (南から)
- PL. 9 村徳永遺跡K1区出土遺物
- PL. 10 村徳永遺跡K1区出土遺物
- PL. 11 村徳永遺跡K1区出土遺物
- PL. 12 1. SK203遺物出土状況 (北西から) 2. SK203遺物出土状況 (南から) 3. SH213完掘状況 (北西から)
- PL. 13 村徳永遺跡K2区出土遺物
- PL. 14 1. 村徳永遺跡K3区全景 (南から) 2. 村徳永遺跡3区全景 (北から) 3. SH305・306完掘状況 (南東から)
- PL. 15 村徳永遺跡K3区出土遺物
- PL. 16 1. 村徳永遺跡K4区全景 (南から) 2. 村徳永遺跡K4区全景 (南から) 3. 村徳永遺跡K4区全景 (南西から)
- PL. 17 1. SH401完掘状況 (東から) 2. SH404完掘状況 (東から) 3. SH407完掘状況 (東から)
- PL. 18 1. SH410完掘状況 (北から) 2. SH411完掘状況 (北から) 3. SH431完掘状況 (東から)
- PL. 19 1. SH433・434・435 (南から) 2. SH433完掘状況 (南東から) 3. SB461 (東から)
- PL. 20 1. SK403完掘状況 (西から) 2. SK419完掘状況 (東から) 3. SK423完掘状況 (北から) 4. SK429完掘状況 (西から)
- PL. 21 1. SD402・SK408土層断面 (南から) 2. SK418土層断面 (南東から) 3. SK418完掘状況 (南から) 4. SD402土層断面 (南から)
- PL. 22 村徳永遺跡K4区出土遺物
- PL. 23 村徳永遺跡K4区出土遺物
- PL. 24 村徳永遺跡K4区出土遺物
- PL. 25 1. 篠木野遺跡1区全長景 (北から) 2. SK102完掘状況 (東から) 3. 105完掘状況 (西から) 4. SD104完掘状況 (東から)
- PL. 26 篠木野遺跡1区出土遺物

## 1. 調査にいたる経過

# I. 序 説

## 1. 調査にいたる経過

平成元年10月17日に佐賀県農林部から、平成2年度の久保泉西部地区における農業基盤整備事業計画が提示された。24.3haにわたる施工計画範囲は、周知の埋蔵文化財包蔵地である村徳永遺跡・篠木野遺跡と大部分が重複していた。この事業計画を受けて、佐賀県農林部・佐賀市土地改良課・佐賀県教育委員会・佐賀市教育委員会の四者で、埋蔵文化財の保存について協議を行ない、平成元年11月に当該地区の埋蔵文化財確認調査を実施することになった。

確認調査の結果、前年度までの先取り調査で確認した分を含めて、当該地区に31,437㎡にわたり遺跡の広がりを確認した。

この調査結果に基づき四者で協議を重ね、盛土などの計画変更で対応できる部分については埋蔵文化財を保存し、止むを得ず削平される水路部分などの4,964㎡（村徳永遺跡4,439㎡／篠木野遺跡527㎡）については発掘調査によって記録保存を図ることで、平成元年12月12日に協議がまとまった。

農林省と文化庁の取り決めによって、農家負担分にあたる調査面積の4分の1(1,241㎡／村徳永遺跡)を国庫補助事業で、4分の3(3,723㎡／村徳永遺跡・篠木野遺跡)については佐賀県農林部の委託事業として、佐賀市教育委員会社会教育課（平成3年度から文化課）が発掘調査を実施した。

発掘調査は、平成2年7月23日から開始し、平成3年1月16日にすべての現地作業を終了した。出土遺物・調査記録の整理事業および報告書作成は、平成3年1月から平成4年3月にかけて、佐賀市文化財資料館で行なった。

## 2. 調査の組織

以下の体制で調査を行なった。記録的な炎天が続いた夏をのりきり、作業員各位の健闘と多くの人々の協力と激励によって、無事に調査が終了したことをここに明記し、感謝したい。

調査主体 佐賀市教育委員会

[平成元・2年度]

事務局 教育委員会 社会教育課  
社会教育課長 古川靖邦  
課長補佐兼文化係長 中野和彦  
事務吏員 甲木亮一(庶務担当)

福田義彦(試掘担当)

前田達男(試掘・調査担当)

発掘作業員

杉町スミ子・野中ツタエ・松林キミ子・杉町英子・金崎タキヨ・福田スマ子

[平成3年度]

事務局 教育委員会 文化課  
文化課長 中野和彦  
文化係長 野口義通

事務吏員 甲木亮一(庶務担当)

文化財係長 福田義彦

事務吏員 前田達男(報告書担当)

## II. 遺跡の位置と環境

中村ミヨ子・腹巻ケイ子・江口ケサエ・木原ツギノ・井上ミツエ・前山澄江  
宮地富子・原ケサ代・原ナミ子・小副川富子・小副川勝美・松本ノリ子・山  
口美枝子・生田美代子・広瀬八重子・広瀬幸子・村川キクエ・武富ヨシエ・  
古賀主殿・野中マツエ・福田妙子・武富サチ子・大林サト子・江下生子・宮  
崎久枝・古賀章彦

調査協力 地元各位・佐賀県農林部・佐賀市土地改良課・久保泉土地改良区・佐賀県教  
育委員会

## II. 遺跡の位置と環境

### 1. 遺跡の位置

佐賀市は佐賀県の東南部に位置し、その市域は北の脊振山系から南の有明海沿岸にいたる佐賀平野中央部を縦貫するかたちで広がっている。市域周辺は、東側で佐賀郡諸富町・神埼郡神埼町・千代田町、最東方で筑後川を挟んで福岡県大川市と対向し、西側で佐賀郡大和町・久保田町・小城郡三日月町、南側で佐賀郡東与賀町・川副町、北側で佐賀郡大和町・神埼郡脊振村に接する。

市域の地形は、北から山地・洪積段丘面・合流（複合）扇状地・沖積低地に分類される<sup>2)</sup>。市域最北部は脊振山系が東西に連なる山地帯である。その南麓の標高15~40m付近は洪積段丘面

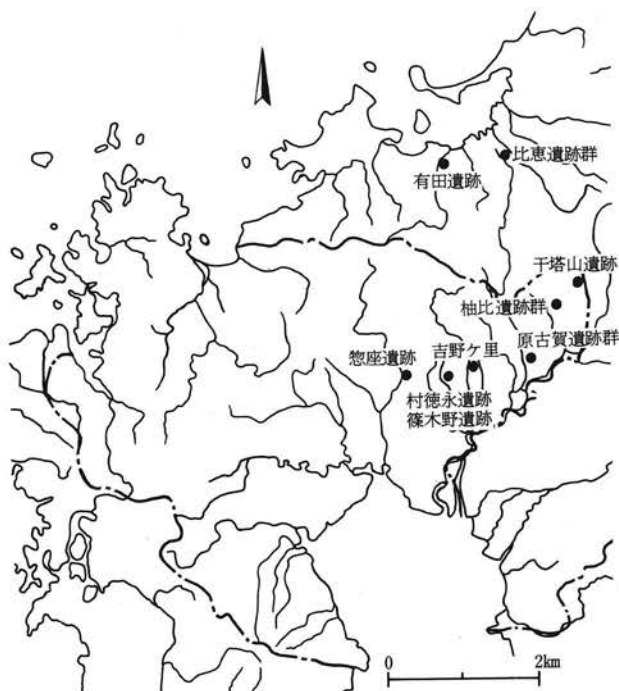


Fig. 1 村徳永遺跡・篠木野遺跡位置図 (1/1,000,000)

が発達している。段丘は舌状あるいは樹枝状の低丘陵として南に突き出しているが、段丘崖は標高15m付近で終息し、それ以南では段丘面は水田に埋没して複雑な微地形を形成している。標高5~15m付近は、嘉瀬川などの河川群による合流扇状地が分布する。標高4~7m付近は扇状地の下位あるいは沖積低地の上位にあたるが、その境界が不分明な漸移地帯である。それ以南は三角州などの平坦な沖積低地が広がる。

市域における遺跡の分布は、北部の洪積段丘面とそれに続く扇状地上位に密集する。それ以南を占める扇状地中位から沖積低地にかけての遺

## 2. 遺跡の立地

跡の概要はよくわからないが標高3m前後に弥生時代中期以降の遺跡が点在する傾向がある。

村徳永遺跡と篠木野遺跡は、巨瀬川中流域の東岸に位置し、佐賀市中心部に所在する佐賀市役所からは北北東約6kmに位置にあたる。遺跡が所在する久保泉町は、佐賀市域の北東部にあたり、東は神埼郡神埼町に接する。宅地化は進んでおらず、大部分は田・畑等の農地として利用されている。

### 2. 遺跡の立地

村徳永遺跡と篠木野遺跡は、巨瀬川東岸に位置する埋没した洪積段丘面上に立地する。この段丘は中位段丘に同定され、砂礫を基盤とする。その上面に、白黄灰色～黄褐色を呈するローム質の粘土（八女粘土・鳥栖ローム）、褐色を呈する火山灰質の粘土が堆積する。さらに上面に風成火山灰と思われる腐植土質層が堆積している部分もある<sup>2)</sup>。

村徳永遺跡K地区は、巨瀬川の東方約600mに位置し、微高地状の高まりの先端部に立地する。ゆるやかに北東から南西にむかって傾斜し、標高8.5～9.5mを測る。周辺は大部分が水田・畑として利用されている。

篠木野遺跡1区は、巨瀬川の東方約150mに位置する。南にむかう緩斜面に立地し、標高7～7.5mを測る。周辺は大部分が水田として利用されている。

埋没地形の復原についての詳細は後述するが、試掘の結果からは村徳永遺跡と篠木野遺跡は南西方向にのびる谷地形によって隔てられていることがわかっている。村徳永遺跡K地区でも、K1区とK2・K3・K4区の間は狭い谷地形によって遺跡の広がり分断されている。また、村徳永遺跡G地区・J地区の調査成果では、こうした谷地形を貫流する小河川の氾濫により、遺跡の一部が攪乱されたり、砂をかぶっていることが確認されている。これらの旧河道と遺跡との関係は、埋没時期などの問題を含め、現時点ではよくわかっていない。

### 3. 歴史的環境

村徳永遺跡では、佐賀市教育委員会により昭和63年以来毎年にもわたり、14地点で25,000㎡ほどの発掘調査が実施され、その調査成果は以下の報告書で提示されている。これらの調査成果によると、村徳永遺跡として周知されている範囲は、北から西側にかけての弥生時代を主体とする遺跡と、南から東側にかけての平安時代から鎌倉時代を主体とする遺跡、の二つの様相で構成されていることがわかる。

- ① 1989『立野遺跡・村徳永遺跡（C地区）』：佐賀市文化財調査報告書第24集
- ② 1989『村徳永遺跡（A・B地区）』：佐賀市文化財調査報告書第26集
- ③ 1990「VI. 村徳永遺跡の記録」『南宿遺跡・本村遺跡・阿高遺跡・牟田寄遺跡・村徳永遺跡・古村遺跡』：佐賀市文化財調査報告書第28集
- ④ 1990『村徳永遺跡－E・F・G・H地区の調査－』：佐賀市文化財調査報告書第32集
- ⑤ 1991『村徳永遺跡－J地区の調査－』：佐賀市文化財調査報告書第34集

## II. 遺跡の位置と環境

⑥ 本報告書；1992『村徳永遺跡（K地区）・篠木野遺跡（1区）』：佐賀市文化財調査報告書第37集

⑦ 1992『村徳永遺跡－L地区の調査－』：佐賀市文化財調査報告書第42集

村徳永遺跡と篠木野遺跡が所在する久保泉町周辺は、現時点では市域において最も遺跡の発掘調査が進んでいる地区で、弥生時代から中世にいたる遺跡の変遷が具体的に捉えられつつある。脊振山系南麓地帯における歴史的展開を考察するうえで、ひとつの標式地になっていくだろう。ここでは、久保泉町周辺の歴史的環境について、時代を追って、発掘調査の成果を中心に

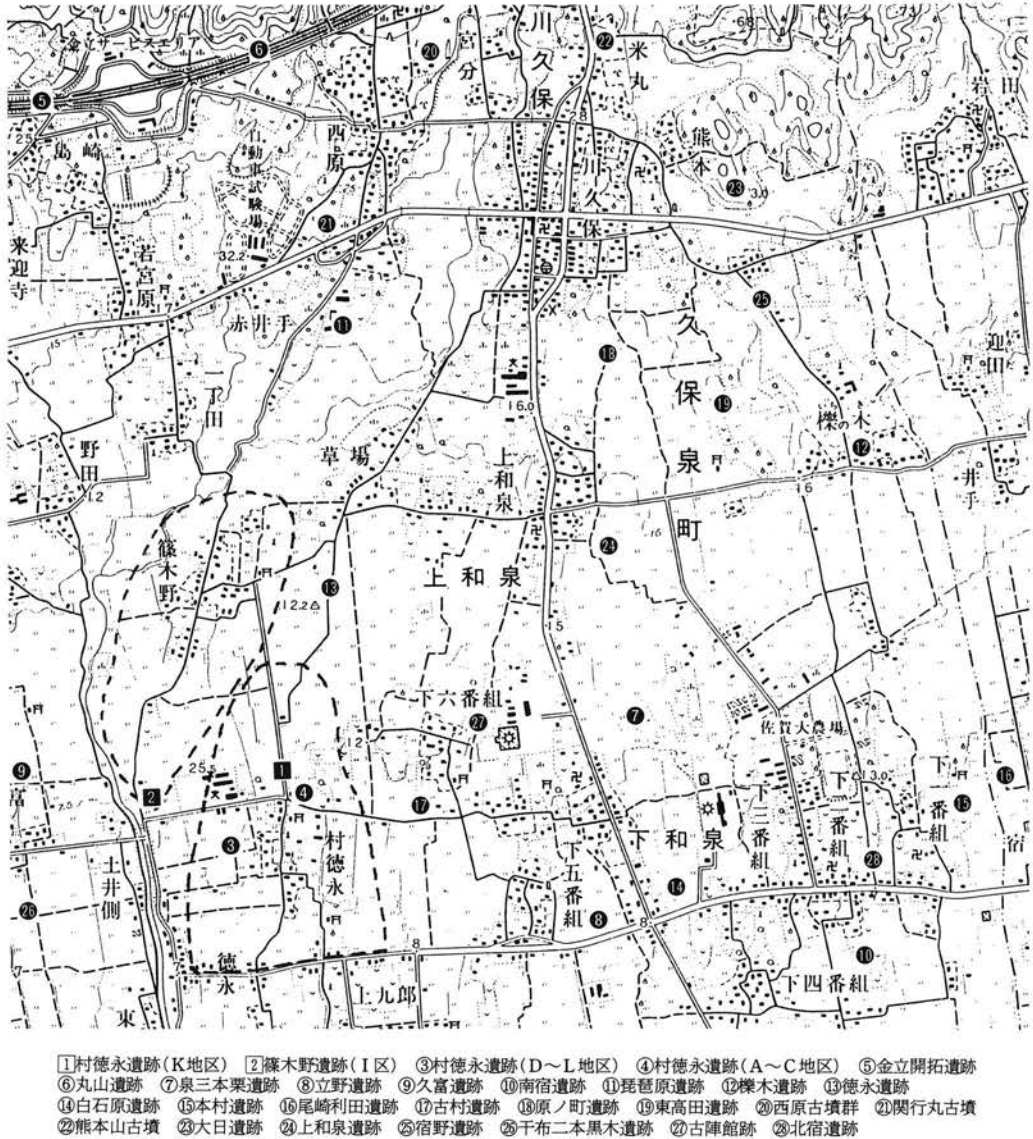


Fig. 2 周辺主要遺跡分布図 (1/25,000)

### 3. 歴史的環境

に概観する。

旧石器時代遺跡についてはよくわかっていない。洪積段丘面の上位で断片的な資料が採集されているのみである。

縄文時代の遺物出土地点は洪積段丘面の上位を中心に多いが、遺構の検出例は少ない。金立開拓遺跡<sup>3)</sup>では後期の竪穴住居・土器埋納遺構が検出されている。丸山遺跡<sup>4)</sup>では晩期末から弥生時代前期にかけての支石墓群が検出されている。

村徳永遺跡では、晩期末の貯蔵穴と考えられるF地区SK024で丸木の梯子が検出され、F・G・H地区で晩期末の土器資料が出土し、G地区周辺の水田では20年ほど前まで支石墓が存在していたらしい<sup>5)</sup>。篠木野遺跡では1区の北方約600mの畑に支石墓が現存している。

弥生時代<sup>6)</sup>に入ると確実に遺跡は増加し、また調査例も多い。集落遺跡としては、泉三本栗遺跡<sup>7)</sup>（Ⅰ期）・立野遺跡<sup>8)</sup>・久富遺跡<sup>9)</sup>（Ⅱ～Ⅲ期）・南宿遺跡<sup>10)</sup>（Ⅲ～Ⅳ期）・琵琶原遺跡<sup>11)</sup>（Ⅴ期）で調査が行われている。墓地遺跡としては、支石墓群が検出された丸山遺跡、大形甕棺墓群が検出された金立開拓遺跡（Ⅰ～Ⅱ期）などで調査が行われている。また、樺木遺跡<sup>12)</sup>では広形銅戈鋳型が出土している。集落遺跡は、標高6～18mの埋没段丘面か洪積段丘面下位に分布していて、水田耕作との関連を窺わせる。墓地遺跡はこれとは逆に、洪積段丘面の中上位に集中している。

村徳永遺跡F・G・H・J・L地区にまたがって確認された集落は、遺構の大部分がⅣ期に属し、現在までに竪穴住居40軒・掘立柱建物100棟以上が検出されていて、その規模からいってこの時期の佐賀平野における拠点的な集落のひとつである。その他、擬朝鮮系無文土器・細形銅剣・石製把頭飾・細形銅戈鋳型を出土した鍋島本村南遺跡<sup>13)</sup>（Ⅱ期）、200基を超える甕棺墓を検出した増田遺跡<sup>14)</sup>（Ⅰ～Ⅱ期）の調査が行われた市域西北部の鍋島地区は、佐賀平野における弥生時代前半期の拠点のひとつと考えられる。

古墳時代の集落遺跡は、前半期の久富遺跡・琵琶原遺跡・徳永遺跡<sup>15)</sup>・泉三本栗遺跡・白石原遺跡<sup>16)</sup>・本村遺跡<sup>17)</sup>・尾崎利田遺跡<sup>18)</sup>と、後半期の古村遺跡<sup>19)</sup>・原ノ町遺跡<sup>20)</sup>・東高田遺跡<sup>21)</sup>などが確認されている。埋没段丘面および洪積段丘面下位から洪積段丘面の中上位へ、時期を追うにしたがい北進する傾向が認められる。

洪積段丘面上位から山地帯への接点にかけては、多数の古墳が存在していたが、昭和30年代の蜜柑畑造成でかなりの数が破壊され、その状況は不明な点が多い<sup>22)</sup>。前方後円墳としては、埴輪を伴っていた西原前方後円墳<sup>23)</sup>と、古式の装飾横穴式石室をもつ関行丸古墳<sup>24)</sup>がある。また、熊本山古墳<sup>25)</sup>からは、舟形石棺が出土していて、前方後円墳であった可能性が高い。その他、首長墓系列に属する円墳群の丸山遺跡がある。後期のいわゆる群集墳の様相はよくわからない。

奈良時代の集落遺跡では、大日遺跡<sup>26)</sup>・古村遺跡・原ノ町遺跡・東高田遺跡が調査されている。この時期には洪積段丘面上中位に遺跡が集中する。大日遺跡は、竪穴住居を伴わない掘立柱建物群で構成された集落で、同時期の集落遺跡とはその性格がやや異なる。他に、琵琶原遺跡で

## II. 遺跡の位置と環境

は、「稻主」「五月」と読める墨書土器が出土している。

平安時代の集落遺跡は、前半期の上和泉遺跡<sup>27)</sup>・泉三本栗遺跡・村徳永遺跡・徳永遺跡、後半期の村徳永遺跡・本村遺跡・尾崎利田遺跡で調査が行われている。この時期には、洪積段丘面下位から埋没段丘面上に遺跡分布が広がり、古墳時代の集落とは逆に南進する傾向にある。前半期では、徳永遺跡で10世紀代の掘立柱建物群が畑の耕作痕跡を伴って検出され、この時期の集落の様相を示す資料として注目される。また、上和泉遺跡では良好な一括土器資料が出土している。後半期には、前代とは異なる集落が開始され鎌倉時代まで継続する。

鎌倉時代の集落遺跡では、村徳永遺跡・本村遺跡・立野遺跡<sup>28)</sup>・宿野遺跡<sup>28)</sup>・千布二本黒木遺跡<sup>28)</sup>で調査が行われている。この時期の集落は14世紀中頃以降には継続せず、南北朝期に入ると集落形態が大きく変動したことを示唆している。本村遺跡の周辺は<阿富荘泉村>と呼ばれた荘園村落に属し、肥前国衙領→大宰府府領（平家領）→関東御領（鎌倉將軍家領）→北条得宗領といった図式で領有形態が変遷し、南北朝期には北朝方の恩賞配分により細分割領有され荘園村落としてのまとまりがなくなったものと想定されている。<sup>30)</sup>その他、発掘調査は行われていないが、古陣館跡は福岡市柏原K遺跡<sup>31)</sup>に類似した形態を示す居館で、ほぼ一町×二町の長方形をなす堀とその内部の土塁が地表面観察で確認できる。

室町時代に入ると、遺物は散見するが、集落の様相はわからない。

江戸時代の集落遺跡では村徳永遺跡・北宿遺跡<sup>32)</sup>で調査が行われ、村徳永遺跡では屋敷地の一部が調査された。

### 註と引用参考文献

- 1) 「佐賀平野」は、広義では筑紫平野の筑後川以西の平野部をさし、狭義では筑後川と六角川間の平野部をさす。本書で「佐賀平野」という場合は、狭義の「佐賀平野」をさす。
- 2) 経済企画庁1966；『土地分類基本調査 佐賀』
- 3) 佐賀市教育委員会1974；『金立開拓遺跡』；佐賀市文化財調査報告書第10集  
佐賀県教育委員会1984『九州横断自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書(4) 金立開拓遺跡』；佐賀県文化財調査報告書第77集
- 4) 佐賀県教育委員会1986『九州横断自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書(5) 久保泉丸山遺跡』；佐賀県文化財調査報告書第84集
- 5) 地元での聞き取りによれば、水田を掘削中に掌石と4個の支石が発見され、その下に刻目突帯文を有する土器が納められていたとのことである。現在、掌石は久保泉小学校内で記念碑として再利用されている。
- 6) 本書では、弥生時代の時期区分はI～V期区分を用いる。  
佐原眞・金関愼編；『弥生文化の研究』雄山閣出版
- 7) 佐賀市教育委員会1987；『泉三本栗遺跡』；佐賀市文化財調査報告書第18集
- 8) 佐賀市教育委員会1989；『立野遺跡・村徳永遺跡（C地区）』；佐賀市文化財調査報告書第24集
- 9) 佐賀市教育委員会1985；『東千布遺跡（東千布遺跡・久富遺跡）』；佐賀市文化財調査報告書第15集  
佐賀市教育委員会1992；『久富遺跡』；佐賀市文化財調査報告書第38集
- 10) 佐賀市教育委員会1990；『II. 南宿遺跡の記録』『南宿遺跡・本村遺跡・阿高遺跡・牟田寄遺跡・村徳永遺跡・古村遺跡』；佐賀市文化財調査報告書第28集

### 3. 歴史的環境

- 佐賀市教育委員会1992；「Ⅶ. 南宿遺跡」『原ノ町遺跡・東高田遺跡・櫟木遺跡・北宿遺跡・南宿遺跡』：佐賀市文化財調査報告書第38集
- 11) 佐賀市教育委員会1981；『琵琶原遺跡』：佐賀市文化財調査報告書第13集
- 12) 畑の開墾中に発見され、現在は国立東京博物館に収蔵されている。
- 13) 佐賀市教育委員会1991；『鍋島本村遺跡』：佐賀市文化財調査報告書第35集
- 14) 佐賀市教育委員会が平成3年に発掘調査実施。平成5年に報告書刊行予定。
- 15) 佐賀市教育委員会が平成3年から発掘調査実施。
- 16) 昭和48年に佐賀県教育委員会が試掘を実施。竪穴住居群が確認されたいが、詳細は不明。
- 17) 佐賀市教育委員会1990；「Ⅲ. 本村遺跡の記録」『南宿遺跡・本村遺跡・阿高遺跡・牟田寄遺跡・村徳永遺跡・古村遺跡』：佐賀市文化財調査報告書第28集  
佐賀市教育委員会1990；『本村遺跡—1・2区の調査—』：佐賀市文化財調査報告書第29集  
佐賀県教育委員会1991；『筑後川下流用水事業に係る文化財調査報告書3 本村遺跡』：佐賀県文化財調査報告書102集
- 18) 佐賀県教育委員会1980；『尾崎利田遺跡』：佐賀県文化財調査報告書第55集
- 19) 佐賀市教育委員会1990；「Ⅶ. 古村遺跡の記録」『南宿遺跡・本村遺跡・阿高遺跡・牟田寄遺跡・村徳永遺跡・古村遺跡』：佐賀市文化財調査報告書第28集
- 20) 佐賀市教育委員会1992；「Ⅲ. 原ノ町遺跡」『原ノ町遺跡・東高田遺跡・櫟木遺跡・北宿遺跡・南宿遺跡』：佐賀市文化財調査報告書第38集
- 21) 佐賀市教育委員会1992；「Ⅳ. 東高田遺跡」『原ノ町遺跡・東高田遺跡・櫟木遺跡・北宿遺跡・南宿遺跡』：佐賀市文化財調査報告書第38集
- 22) 蜜柑畑造成に際して一応の事前調査は行われているが、今日の水準からは資料として用いるのにかなりの困難を感じる。  
佐賀市教育委員会1967；『佐賀市金立地区・久保泉地区古墳群』
- 23) 松尾禎作1936；「埴輪円筒を繞らせる西原古墳」『佐賀県史蹟名勝天然記念物調査報告』：第五輯
- 24) 佐賀県教育委員会1958；『佐賀市関行丸古墳』：佐賀県文化財調査報告書第七輯
- 25) 蜜柑畑開中に舟形石棺が発見された。墳形などの詳細は不明。現在、石棺は佐賀県立博物館に収蔵されている。
- 26) 佐賀市教育委員会1989；『大日遺跡』：佐賀市文化財調査報告書第25集
- 27) 佐賀市教育委員会1988；『上泉遺跡—A・B・C地区—』：佐賀市文化財調査報告書第20集  
佐賀市教育委員会1988；『上泉遺跡—D・E地区—』：佐賀市文化財調査報告書第21集
- 28) 佐賀市教育委員会が平成3年に発掘調査実施。平成5年報告書刊行予定。
- 29) 佐賀市教育委員会が平成3年に発掘調査実施。平成5年報告書刊行予定。
- 30) 宮武正登1991；「Ⅳ. 一4. 本村遺跡をめぐる中世世界—安富荘内村落として位置付け—」『筑後川下流用水事業に係る文化財調査報告書3 本村遺跡』：佐賀県文化財調査報告書第102集
- 31) 福岡市教育委員会1987；『柏原遺跡群Ⅲ—柏原K・L遺跡・中世居館社と中世水田の調査』：福岡市埋蔵文化財調査報告書第157集
- 32) 佐賀市教育委員会1992；「Ⅵ. 北宿遺跡」『原ノ町遺跡・東高田遺跡・櫟木遺跡・北宿遺跡・南宿遺跡』：佐賀市文化財調査報告書第38集

III. 調査の概要

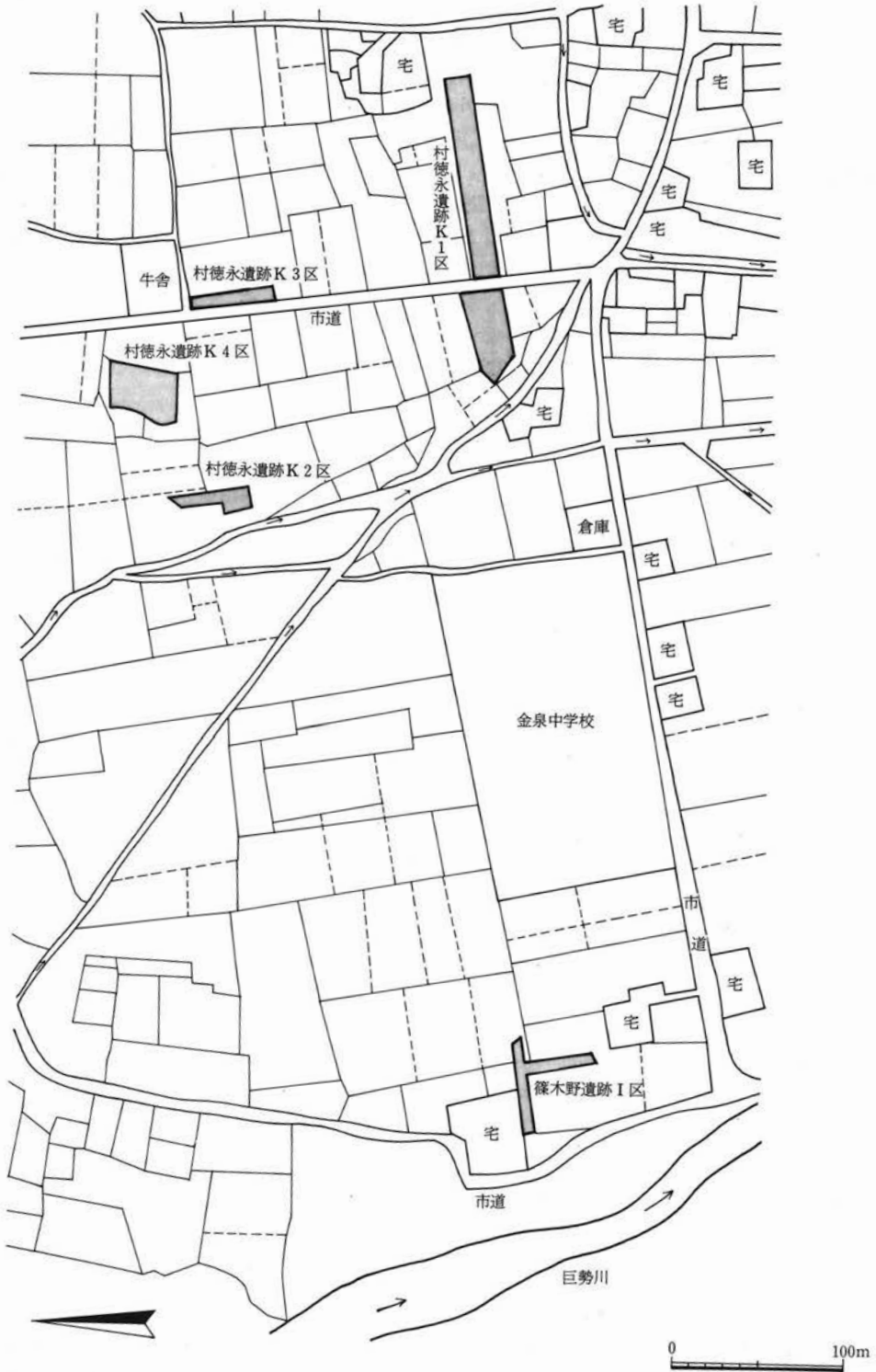


Fig. 3 調査区設定図 (1/4,000)

### III. 調査の概要

#### 1. 村徳永遺跡K地区の概要

**調査区の名称** 今回の発掘調査は、平成2年度久保泉西部地区農業基盤整備事業に伴うもので、村徳永遺跡では第12～15地点にあたる。今回発掘調査を実施した4地点の調査区をK地区と総称し、その中で4地点の調査区をK1区・K2区・K3区・K4区と区分した。

**調査の方法** 発掘調査は、K1区のバックフォアによる表土除去作業から開始した。K4区では予想以上に表土が厚く、除去作業は難渋した。表土除去後、人力による掘削及び記録作業に入った。

作業は遺構検出から開始し、順次国土座標第II系を基準とした5m方眼の測量杭を調査区全面に設定した。検出作業が終了した部分から遺構の掘り下げ作業に移り、遺構配置図を作成し遺構番号の設定と遺物の取り上げを行った。

検出段階で竪穴住居と判断したものは、四分法による掘り下げを原則とし、土層断面の確認を行って床面と基底部の構造を把握することに留意した。検出段階で認識できた掘立柱建物については、柱穴上面で柱痕跡の把握を試み、必要な場合は半切して土層の確認を行った。土壌・井戸と判断した遺構は、半切して土層堆積状態を確認した。柱穴と認識できなかった小穴については、そのまま掘り上げた。

検出した遺構のすべては、全体遺構図(1/20)に完掘状態で記録し、写真撮影はバルーン空中写真と組立足場上からの撮影を併用した。必要があった遺構については、個別の写真撮影と遺構実測を行った。個別実測の基準点は全体遺構図に記録している。

遺構番号は、K1区で1番代(S101～・P1001～)、K2区は2番代(S201～・P2001～)、K3区は3番代(S301～・P3001～)、K4区については4番代(S401～・P4001～)を用いた。遺構に伴わない出土遺物は方眼区画ごとに取り上げ、必要な場合は出土層位をマークした。

#### (1) K1区の概要

**層序** 調査区の地表には現水田耕作土(I層)がのっけていて、その下に厚さ10cmほどの鉄・マンガ分が沈着した床土(II層：黄褐色～褐色土)が存在する。床土より下部には、旧耕作土の褐色～暗褐色土(III層)が堆積する。調査区西側では、河川氾濫によると思われる暗黄褐色～褐色砂(IV層)が堆積し、弥生時代遺物を包含する。III層ないしIV層の下は基盤層(いわゆる地山)となり、上から褐色粘性土(V層)・砂混じりの黄褐色粘性土(VI層)・黄褐色粘土(VII層)・青灰色粘土(VIII層)で、段丘面上の堆積物と判断される。基盤面上には微妙な起伏がかなりあった。遺構はこうした基盤層に褐色・黒褐色・灰褐色の有機質土が落ち込んだ状態で検出されその判別は比較的容易であったが、調査区西側ではIV層が基盤層に不整合な状態で堆積し検出作業は難行した。

### III. 調査の概要

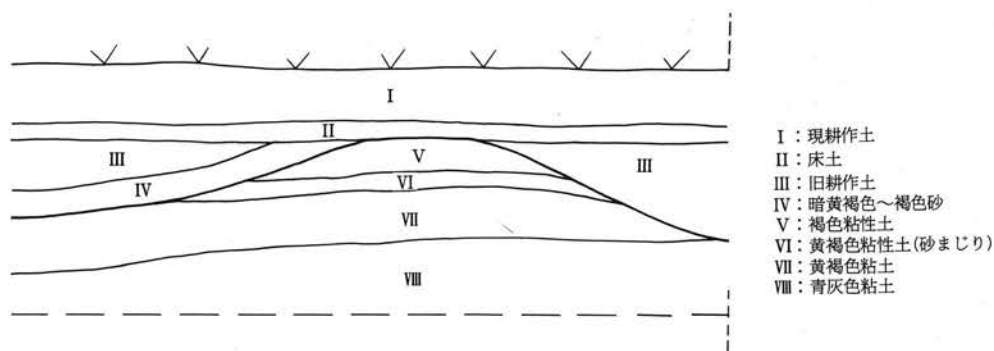


Fig. 4 基本層序模式図

調査区が南北にのびる低丘陵を東西に横断する形で設定されたため、基盤面の標高は中央部が最も高く、そこから東西に向って低くなっている。調査区の中央部は開田により削平され、II層を剥ぐとすぐ基盤面であった。東側ではAFライン以東で、III層がしだいに1mほど厚くなると同時に基盤面が急激に低くなり、この低丘陵の東側下端に近いことがわかる。

**縄文時代** 調査区全体の遺構から縄文時代晩期土器片の出土は認められるが、当該期に属する確実な遺構としては土壌1基だけが検出されている。また、8本柱の円形竪穴住居は縄文時代晩期に属する可能性がある。

**弥生時代** この調査区の主体をなす時期で、ほぼ全面に遺構が分布し大部分がIII期に属する。竪穴住居を主体とする集落の一部であろう。主要な遺構としては、竪穴住居・土壌を検出した。10軒検出した竪穴住居は、長方形ないし方形の平面プランを有する。掘立柱建物は伴っていない。その他、井戸などの生活遺構や集落を区画する溝のようなものは検出していない。また、円形竪穴住居が弥生時代に属するものであれば、II期以前の所産であろう。

**古墳時代** 前半期を主体とするもので、一部の遺構は古式の須恵器を伴う。検出された主要な遺構は竪穴住居1軒・土壌7基である。

**古代** 調査区西側で、平安時代前半には埋没しきつたと思われる流水路（小河川か？）が検出されている。埋土中の遺物から、流水路として機能したのは奈良時代以前と判断する。

**中世** 調査区の東端で、南北方向の堀と土壌を検出している。

#### (2) K 2 区の概要

**層序** K 1 区とはほぼ同様だが、IV層が基盤層（VI・VII層）と不整合な状態で堆積し、遺構上面を攪乱していて、検出作業は難行した。IV層からは多量の弥生時代遺物が出土した。

**弥生時代** 遺跡はIII～IV期に属する弥生時代集落の一部と判断する。主要な遺構は、長方形竪穴住居1軒と土器溜の土壌1基である。その他、掘立柱の柱穴が検出されているが、建物は確認できなかった。

## 1. 村徳永遺跡K地区の概要

### (3) K 3 区の概要

**層序** K 1区とほぼ同様だが、開田によりかなり削平されていて、II層の下にすぐ基盤層（V・VI層）があらわれた。

**弥生時代** 遺跡の大部分は、III～IV期に属する竪穴住居を主体とする集落である。検出した主な遺構は、方形ないし長方形竪穴住居4軒、溝状遺構1基、土壌7基である。調査区が狭いため、全形がわかる竪穴住居はない。

### (4) K 4 区の概要

**層序** K 1区とほぼ同様だが旧状が高畑であったため、I層が厚く、II層は存在せず、III層も厚かった。III層の下で基盤層（V層）があらわれたが、調査区の西側ではIV層が基盤層と不整合に堆積し、遺構上面を攪乱していた。基盤層上面の標高は水田面より高く、遺構の残存状況は比較的良好である。

**弥生時代** この調査区の主体となる時期で、IV～V期に属する竪穴住居を中心とした集落である。方形ないし長方形竪穴住居13軒が検出され、調査区の南側で激しく切り合っていた。また、3間×4間の掘立柱建物と、1間×2間と思われる掘立柱建物の一部を検出している。他に、土壌9基を検出した。

**古墳時代** 前半期に属する土壌2基を検出した。

**古代** 土壌2基を検出した。

**中世** 溝と土壌を検出した。

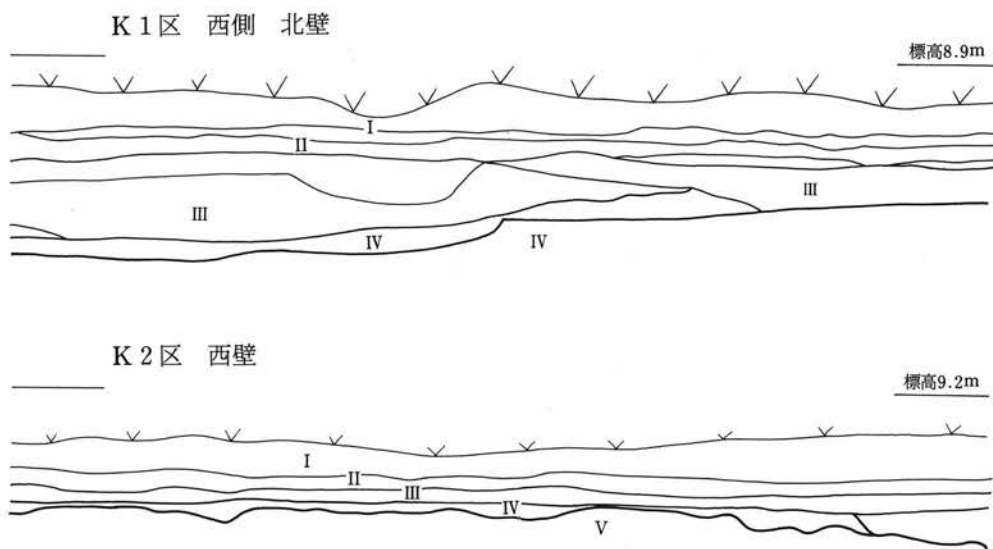


Fig. 5 村徳永遺跡K地区土層断面実測図 (1/40)

### III. 調査の概要

#### 2. 篠木野遺跡1区の概要

**調査区の名称** 今回の発掘調査は、篠木野遺跡では最初の発掘調査にあたり、この調査区を1区とした。

**調査の方法** 村徳永遺跡K地区と同様である。

**層序** 村徳永遺跡K地区とほぼ同様であるが、開田により削平されていて、II層の下にすぐ基盤層（VI層）があらわれた。

**江戸時代** 溝・井戸・土塙を検出した。

#### 3. 記述の方法

後章で各調査区の記録を記述するが、その方針は以下のとおりである。

**時代** 遺構と出土遺物が所属する時代を分類し、時代ごとに記述する。

**遺構** 発掘調査で記録されたもののうち、整理作業の段階で主要な（有意な）遺構と判断したものを記述する。柱穴・小穴は掘立柱建物建物の遺構との関連が認められない限り記述しない。溝などで図を掲示することが困難な場合は、個別には図示しない。遺構図では、切り合い・重複関係を表示するよう努めたが、煩雑になる場合は省く。

**遺物** 遺物の図示は主要遺構ごとに行い、記述には一覧表を用いる。同一遺構で遺物群が時期的に複合して出土した場合は、最新の時期に属すると判断したものを中心に掲載する。その他の出土遺物は必要な場合、時代ごとにまとめて掲載し、出土遺物一覧に出土遺構・区画を表示する。

IV. 村徳永遺跡K地区の記録—K1区—



Fig.6 村徳永遺跡K1区 遺構配置図 (1/500)

## IV. 村徳永遺跡K地区の記録—K1区—

### 1. 縄文時代の遺構と遺物

#### (1) 竪穴住居と出土遺物

##### SH101竪穴住居

**位置** AN-5・6区画に検出した。検出面の標高は8.0m前後である。他の主要遺構との切り合い関係はない。

**形態** 平面は径3.5~4.0mをはかるやや不整な円形をなし、残存壁高は8cmほどである。

**埋土** 淡褐色土で、住居埋没に伴う自然流入土と判断する。

**床面** 張床らしいものは認められなかった。炭化木が床面から浮いた状態で出土した。

**柱穴** 8個検出した。柱穴埋土は、住居内埋土よりやや暗い色調の淡褐色土。建替えの痕跡は認められず、8本柱の住居と判断する。

**炉** 床面中央に、径40cmほどの不整円形をなすレンズ状の浅いくぼみを検出した。埋土は住居内埋土と同様だが、周辺の床面は赤変しているので炉跡と判断した。

**出土遺物** 住居内埋土から、土器・黒曜石・安山岩の細片が出土した。住居埋没に伴う流れ込みによるものか。図示できるものはない。

**所見** 時期決定にたる遺物に欠けるが、埋土の状況から縄文時代に属する可能性があると判断したので、一応ここにあげておく。弥生時代に属する場合、II期以前の所産であろう。

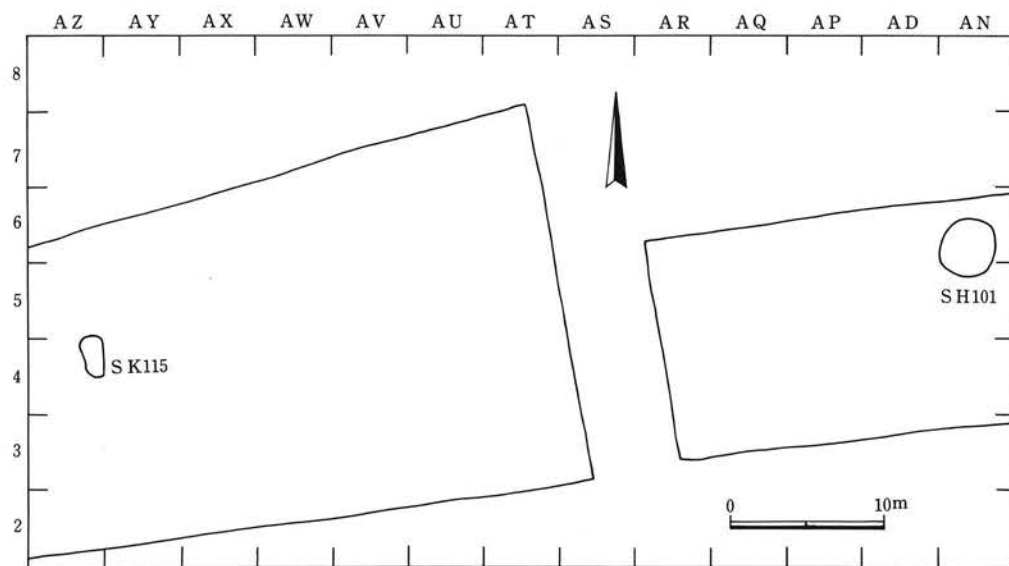


Fig. 7 K I 区縄文時代主要遺構配置図

IV. 村徳永遺跡K地区の記録—K1区—

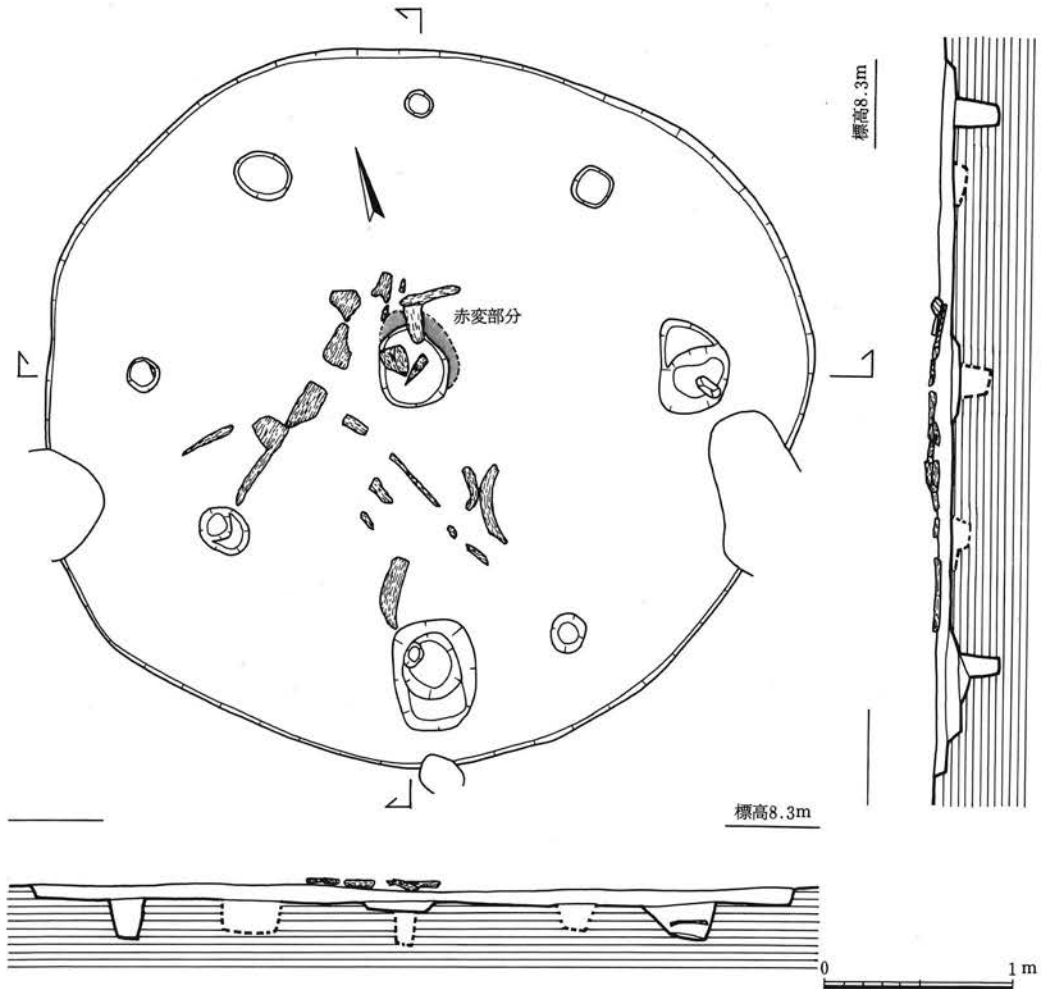


Fig.8 SH101竪穴住居実測図 (1/40)

(2) 土壌と出土遺物

SK115土壌 (Fig.9)

**位置** AZ-4区画に検出した。検出面の標高は8.3m前後である。SH116と切り合い関係にあり、SK115が先行する。

**形態** 平面形は長辺2.9m・短辺1.2~1.9mをはかる不整な隅丸台形状をなす。残存壁高は30cmほどで、壁面はきつく立ち上り、底面はごく浅い舟底状をなす。南側の底面には台石が置かれてあった。

**埋土** 暗褐色~褐色土で、埋没に伴う自然流入土と判断する。

**出土遺物** (Fig.10) 全体に少量で、埋土下部から縄文時代晩期土器片と安山岩・黒曜石の剝片・細片がビニール袋1個ほど出土した。遺物取り上げのさいに若干の弥生土器片が混じっていたが、それらはSH116に伴うものと判断した。

1. 縄文時代の遺構と遺物

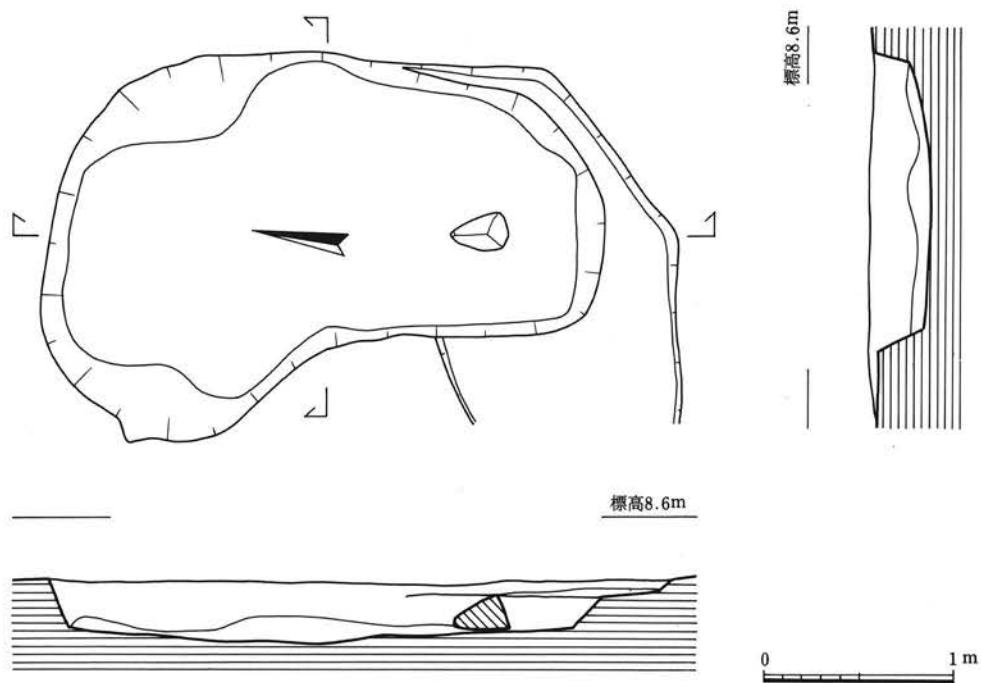


Fig.9 SK115土壌実測図 (1/40)

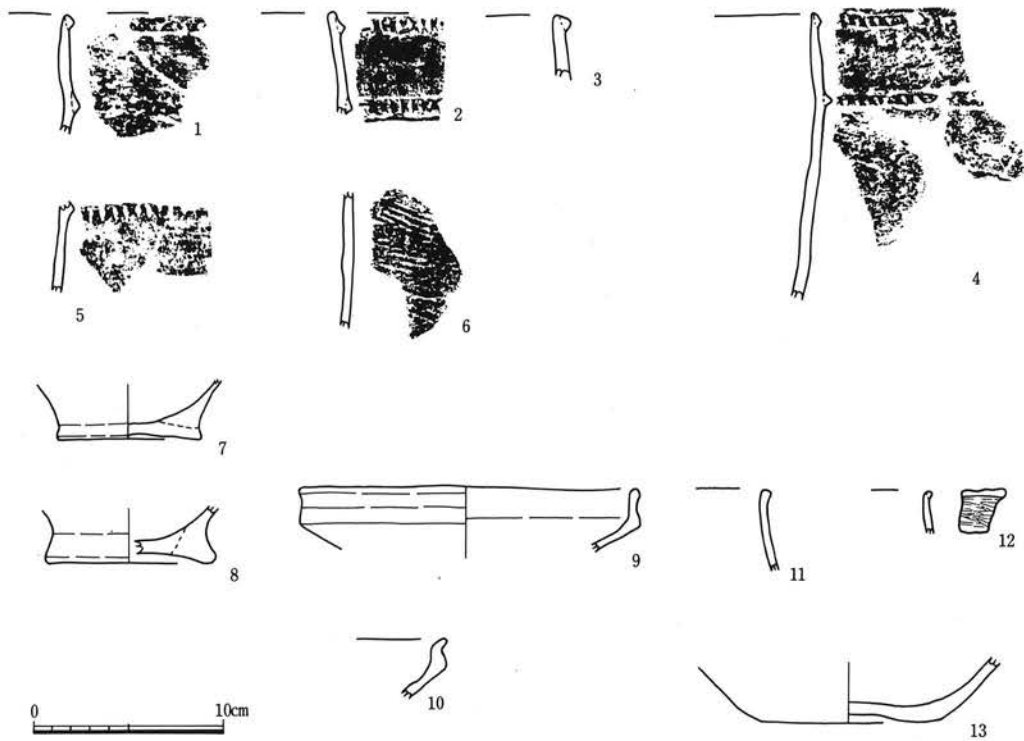


Fig.10 SK115出土縄文土器実測図

IV. 村徳永遺跡K地区の記録—K1区—

**所見** 台石の存在と剥片・細片の出土は、SK115が石器製作関連の遺構である可能性を提示している。

(3) その他の出土遺物

弥生時代以降に帰属する遺構から出土した縄文時代遺物を提示する。なお、打製石器については、その帰属が縄文時代あるいは弥生時代かの識別が困難であるため、ここで一括して提示することにする。

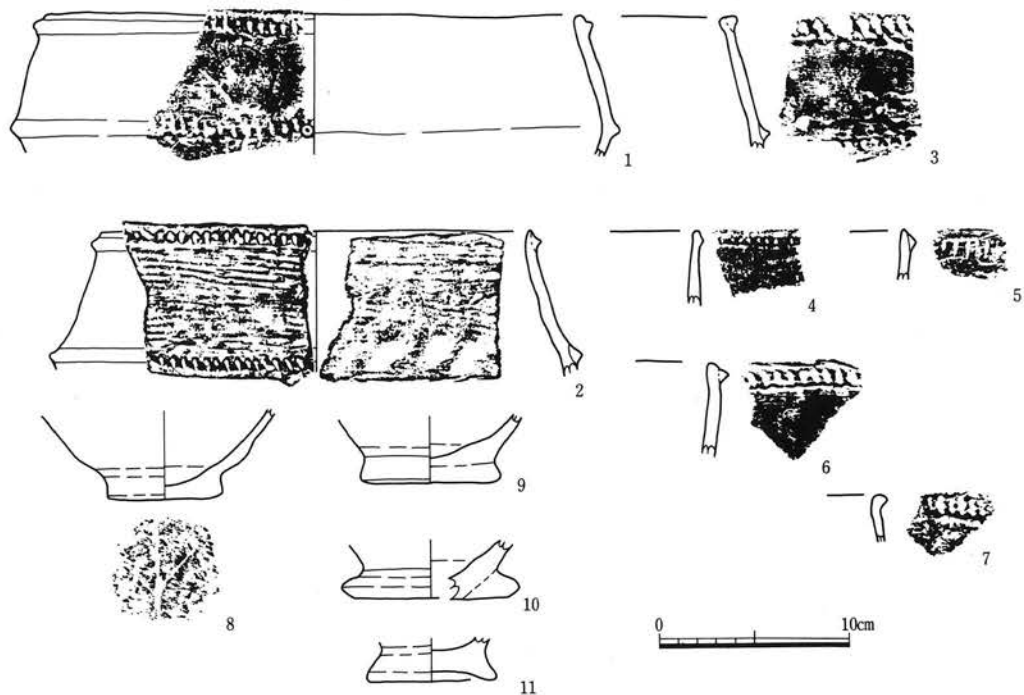


Fig.11 K I 区出土縄文土器実測図 (1/4)

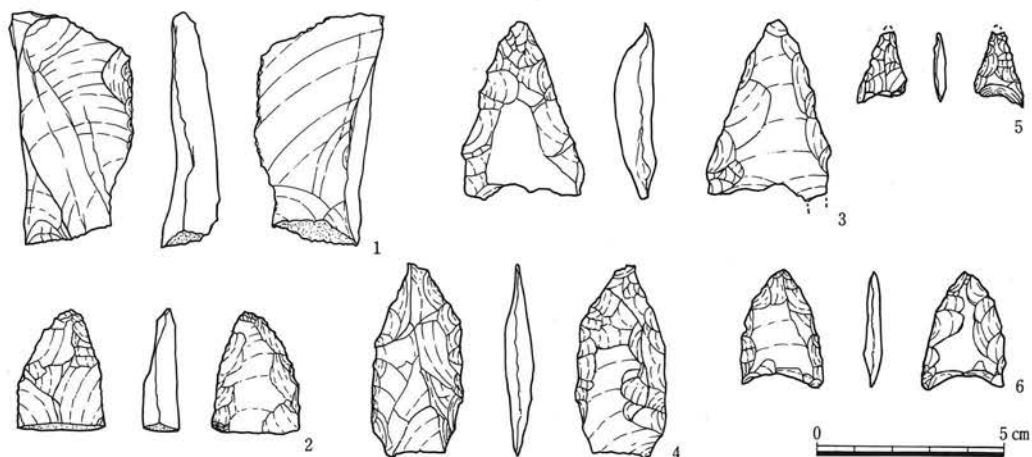


Fig.12 K I 区打製石器実測図 (1/2)

## 2. 弥生時代の遺構と遺物

### 2. 弥生時代の遺構と遺物

#### (1) 竪穴住居と出土遺物

##### SH102 竪穴住居 (Fig.14)

**位置** AL-4区画に検出した。検出面の標高は8.4m前後である。他の主要遺構との切り合い関係はない。

**形態** 平面は長辺4.0m・短辺3.5mのやや不整な隅丸長方形をなし、残存壁高は6~10cmほどである。北東隅の部分は壁が崩壊し判然としない。

**埋土** ①・②層は、住居埋没に伴う自然流入土と判断する。北側から堆積したものか。①層にはごく少数の遺物が含まれていた。

**床面** ⑥層が床面整地層である。南側の床面に5mmほど張ってあった。

**柱穴・炉** それらしいものは検出していない。

**住居内土壌** 床面を精査した段階で、住居内北側に切合った土壌2基を検出した。③~⑤層は土壌埋土である。出土遺物はない。住居内埋土上面からの切込みは認められず、⑥層を一部切込んでいるので、一応住居に伴うものとしておく。D-2がD-1に先行する。

**出土遺物** ①層から、ごく少数の安山岩・黒曜石細片、縄文土器片・弥生土器片が出土した。住居埋没に伴う流れ込みによるものである。弥生土器に図示できるものはないが、破片の観察ではIII期に属すると思われる。

##### SH103 竪穴住居 (Fig.15)

**位置** AK-6、AL-6・7区画に検出した。検出面の標高は8.5m前後である。SK134と切り合い関係にあり、SH103が先行する。

**形態** 平面は長辺3.5m・短辺2.6mの長方形をなし、残存壁高は10cmほどである。

**埋土** ①層は住居埋没に自然伴う流入土と判断する。少数の遺物が出土している。

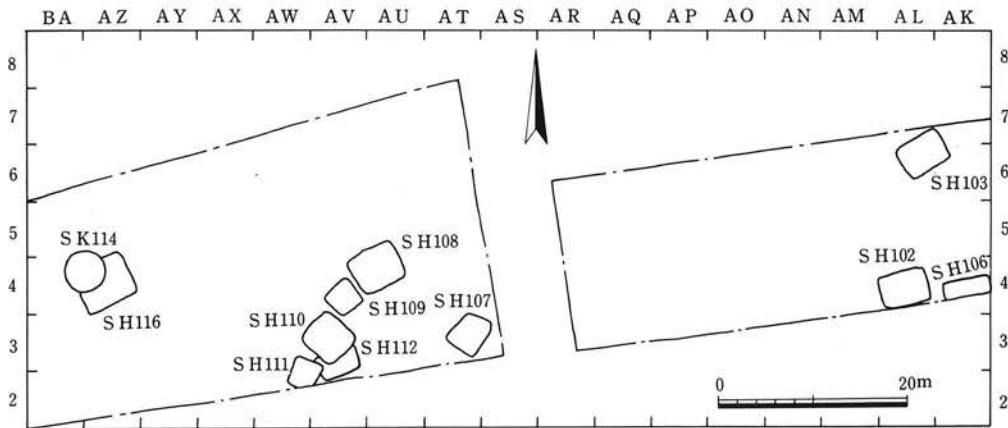


Fig.13 K I 区弥生時代主要遺構配置図

IV. 村徳永遺跡K地区の記録—K1区—

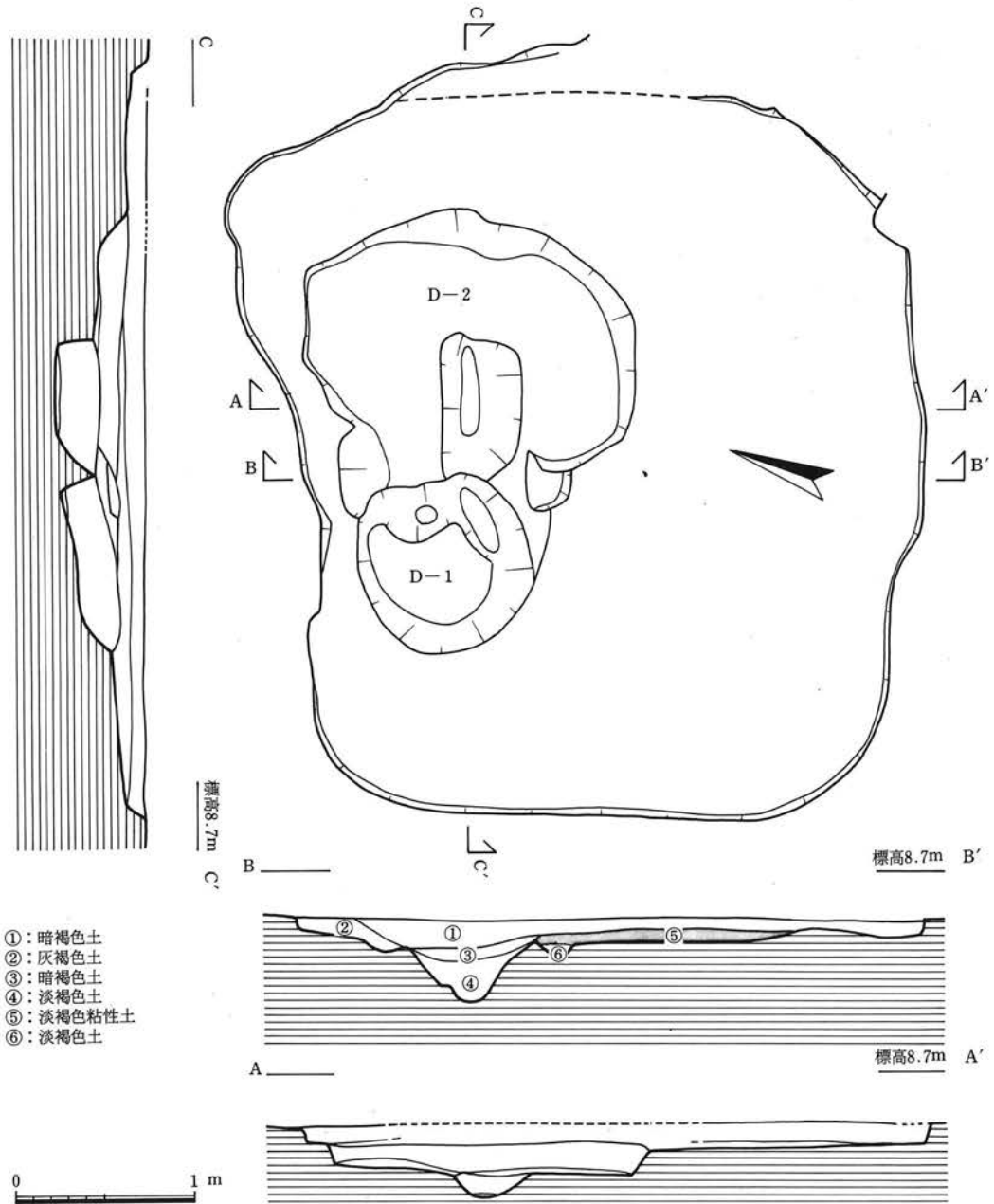


Fig.14 SH102竪穴住居実測図 (1/40)

**床面** ③層が床面整地層である。床面の東側と西側に厚い部分で1cmほど張ってあった。

**炉** 床面を精査した段階で住居中央に、径50cmほどの不整円形でレンズ状の浅いくぼみを検出した。②層がその埋土で少数の炭化物を含んでいた。炉跡と判断する。

**柱穴** 床面整地層を剥がした段階で、住居の長軸方向で炉をはさんで対向する位置に、2個の柱穴を検出した。埋土は褐色土。床面での柱痕跡は確認できていない。

2. 弥生時代の遺構と遺物

**出土遺物 (Fig.16)** ①層から、弥生土器片と黒曜石細片が出土している。住居埋没に伴う流れ込みによるものである。

**SH106 竪穴住居 (Fig.17)**

**位置** AK-4区画に検出した。検出面の標高は8.2m前後である。南側半分以上が調査区外に展開する。

**形態** 平面は東西辺3.8m・南北辺1.8m以上の方形ないし長方形をなすと思われる。残存壁高は5cmほどである。北東隅は攪乱で破壊されている。

**埋土** やや粘性の暗褐色～黒褐色土で、住居埋没に伴う自然流入土と判断する。ごく少数の遺物が出土している。

**床面** 床面整地層や張床らしい痕跡はない。

**柱穴・炉** 床面で複数の小穴を検出したが、それらしいものはない。

**出土遺物 (Fig.18)** 住居内埋土から、縄文土器片・弥生土器片・安山岩細片が出土して

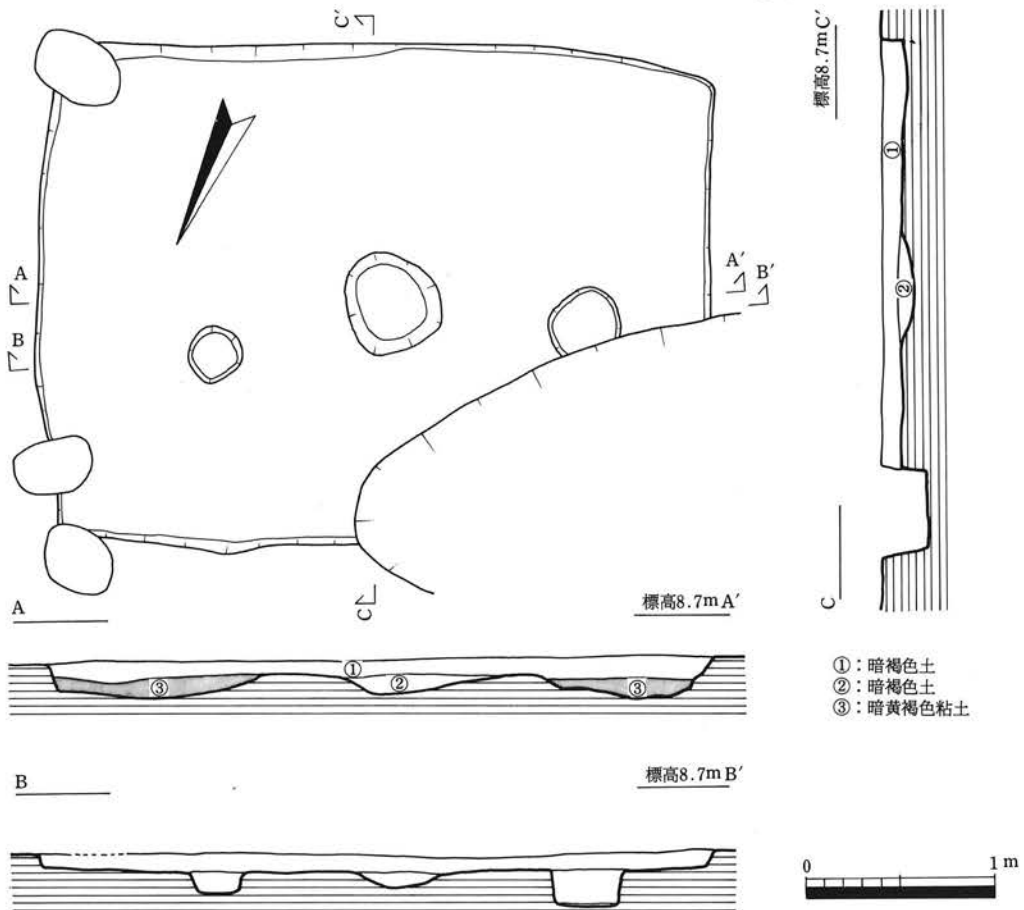


Fig.15 SH103竪穴住居実測図 (1/40)

IV. 村徳永遺跡K地区の記録—K1区—

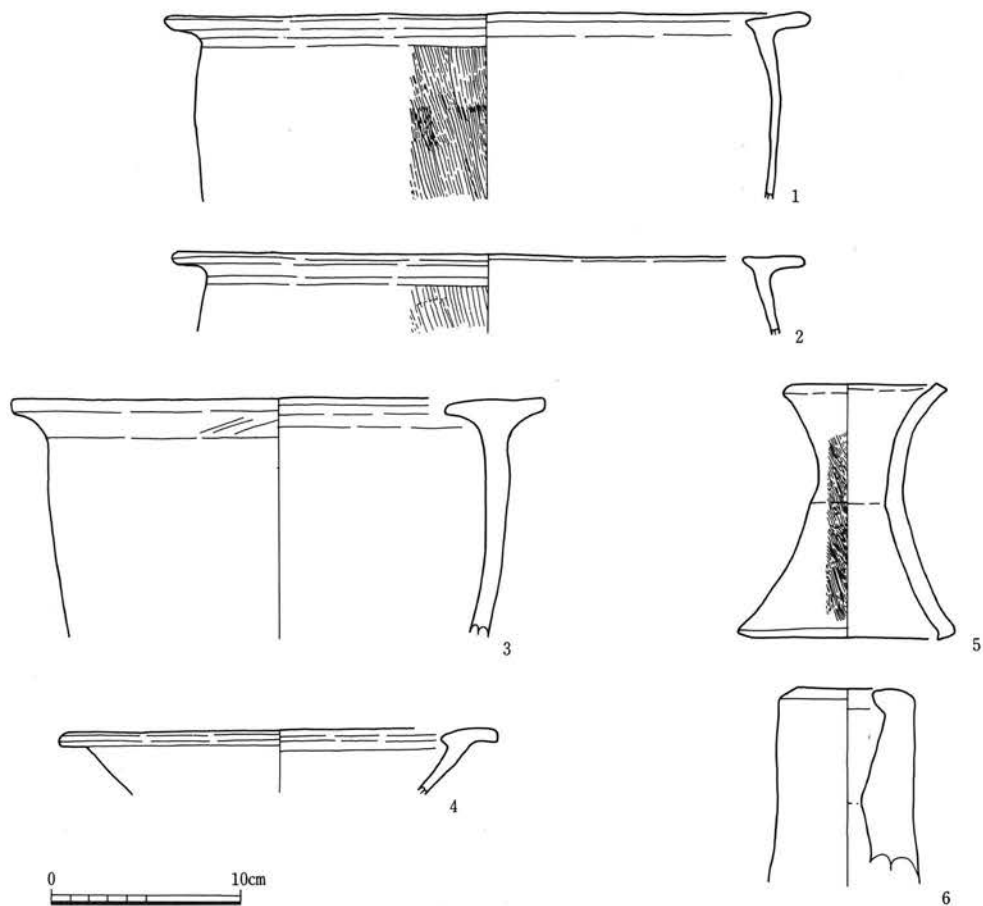


Fig.16 SH103出土弥生土器実測図 (1/4)

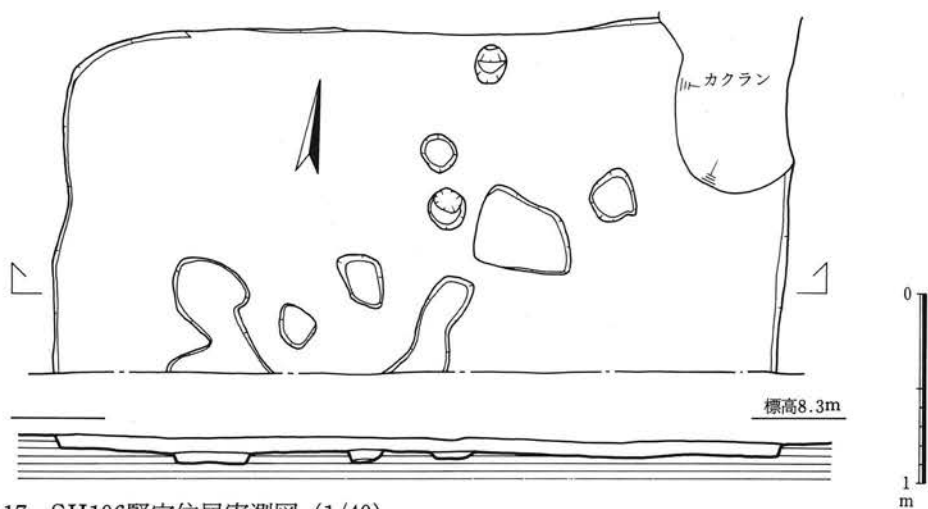


Fig.17 SH106竪穴住居実測図 (1/40)

## 2. 弥生時代の遺構と遺物

いる。住居埋没に伴う流れ込みによるものである。

### SH107 竪穴住居 (Fig.19)

**位置** AS・AT-3区画に検出した。検出面の標高は8.4m前後である。西側の一部が調査区外に展開する。

**形態** 平面は、長辺4.0m前後・短辺3.2mで、やや胴張りな隅丸長方形をなす。残存壁高は15cmほどである。

**埋土** 地山ブロック混じりの褐色土。住居埋没に伴う自然流入土と判断する。埋土中から若干の遺物が出土している。

**床面** 床全面に5mmほどの厚さで、淡褐色砂質土の床面整地層が叩き締めてあった。

**炉** それらしいものはなかった。

**柱穴** 床面を剥がした段階で、5個の柱穴を検出した。埋土は淡褐色土。P1・P2の2本柱である確率が最も大きい、P3・P4・P5と調査区外の柱穴による4本柱か、あるいはP

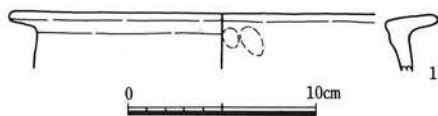


Fig.18 SH106出土弥生土器実測図 (1/4)

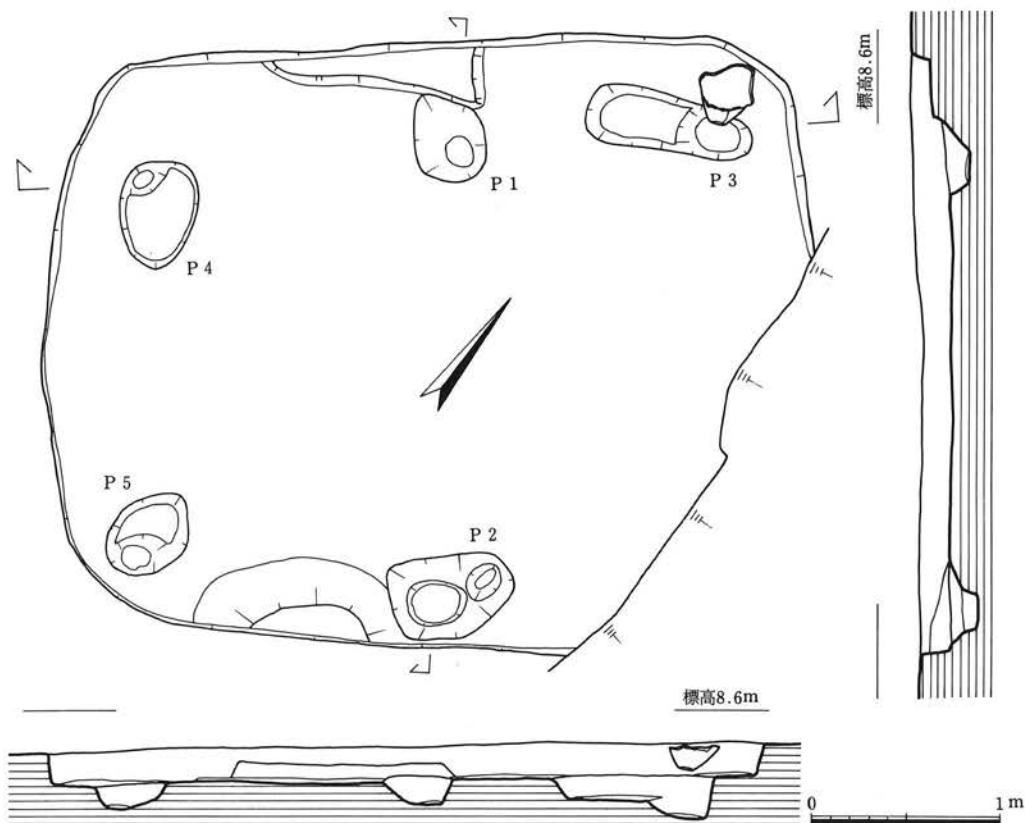


Fig.19 SH107竪穴住居実測図 (1/40)

IV. 村徳永遺跡K地区の記録—K1区—

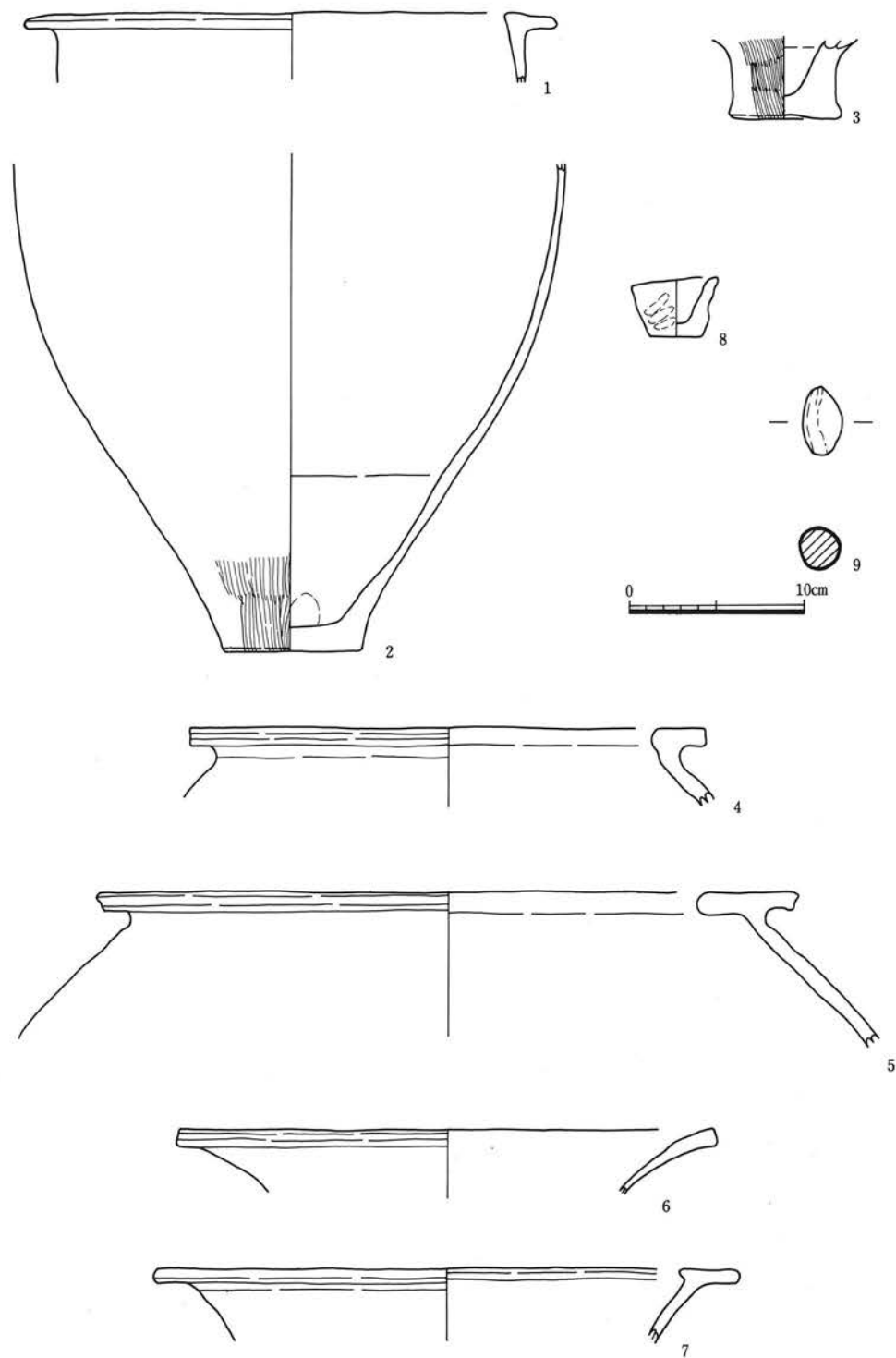


Fig.20 S H107出土弥生土器・土製器実測図 (1/4)

## 2. 弥生時代の遺構と遺物

1～P5ともうひとつで6本柱である可能性もある。床面での柱痕跡は確認できていない。

**ステップ状施設** 住居の北壁・南壁の中央から西側に、10cmほど地山を削りだした施設がある。住居の階段に類するものか。

**出土遺物 (Fig.20)** 甕底部 (2) は床面上で壁にもたれた形で出土した。住居内埋土からは、縄文土器片・弥生土器片・黒曜石細片が出土している。

### SH108 竪穴住居 (Fig.21)

**位置** AV-4・5、AU-4・5区画に検出した。検出面の標高は8.3m前後である。他の主要遺構との切り合い関係はない。

**形態** 平面は長辺3.9m・短辺3.5mのやや不整な長方形をなす。残存壁高は20cmほどである。建替えが行われた形跡があり、南側を除き、東にやや振れた旧住居の壁が10cmほど残存していた。

**埋土** ①・②層が、住居埋没に伴う自然流入土と判断する。東側から流入した形跡が認め

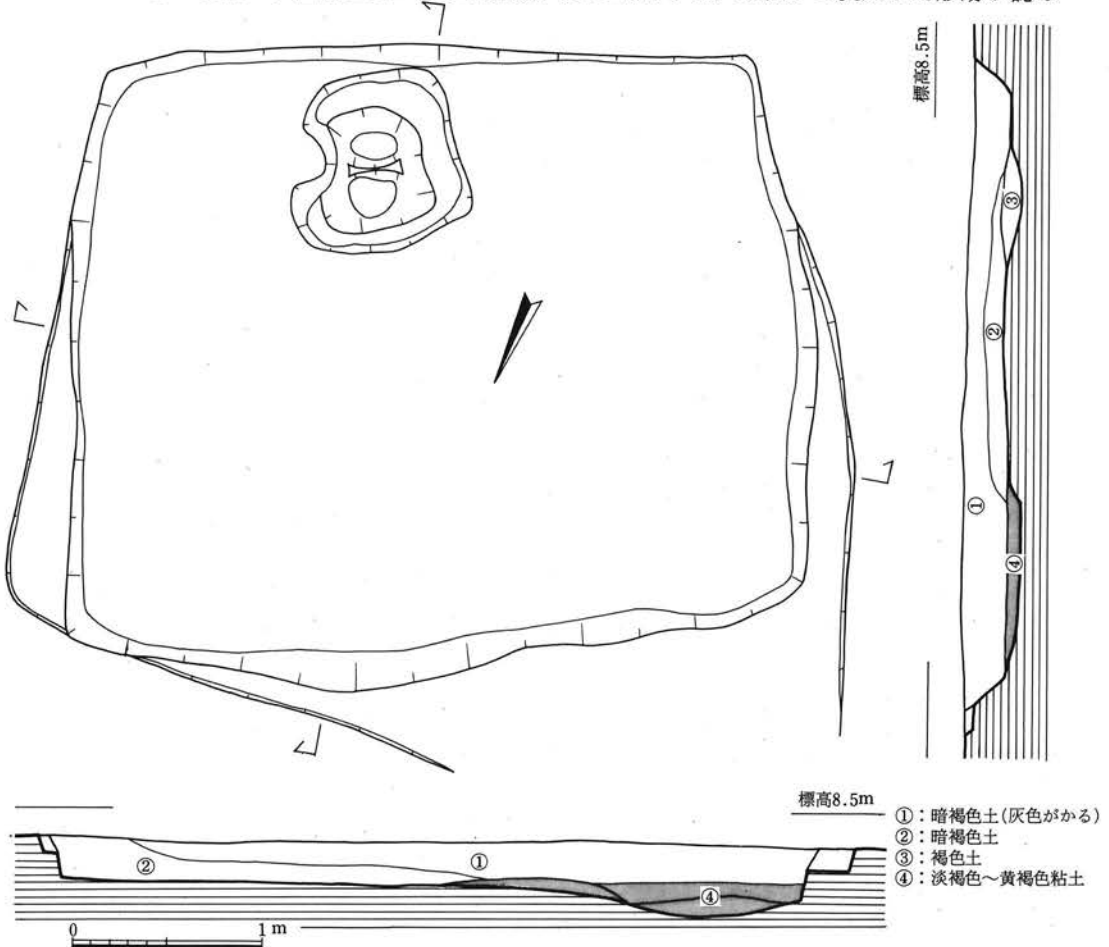


Fig.21 SH108竪穴住居実測図 (1/40)

IV. 村徳永遺跡K地区の記録—K1区—

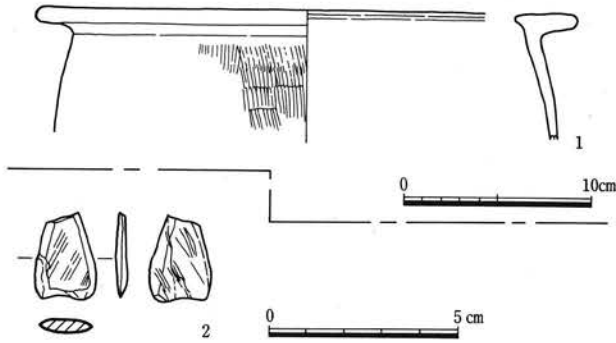


Fig.22 SH108出土遺物実測図 (1/4・1/2)

13~20cmほどの土壌を検出した。埋土は③層で、出土遺物はない。土層観察では住居内埋土上面から切込んだ形跡は認められず、一応住居に伴うものと判断しておく。

**出土遺物 (Fig.22)** 住居内埋土中から、弥生土器片・磨製石鏃と打製石鏃が出土した。住居埋没に伴う流れ込みによるものと判断する。どれも細片で、壘破片1点が図示できる。

られる。埋土中から若干の遺物が出土している。

**床面** 北側から西側にかけて淡褐色~暗黄褐色の砂混じり粘土が叩き締めてあった。

**炉・柱穴** それらしいものは確認していない。

**住居内土壌** 床面を精査した段階で南側壁中央近くに、平面が70~90cmほどの不整形形で深さ

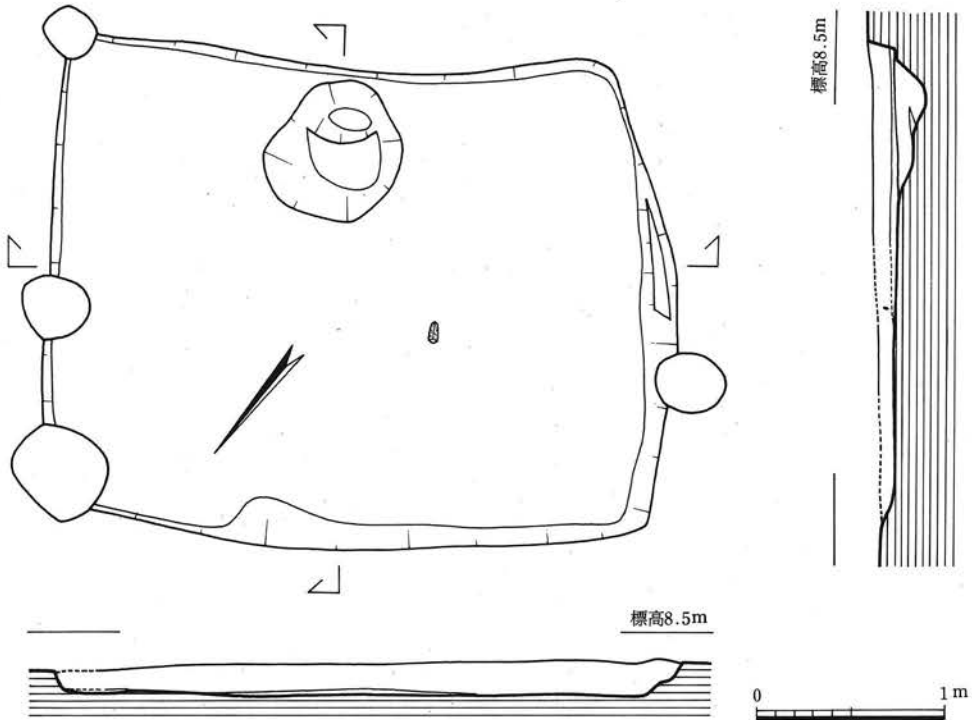


Fig.23 SH109竪穴住居実測図 (1/40)

2. 弥生時代の遺構と遺物

SH109 竪穴住居 (Fig.23)

**位置** AV-4区画に検出した。検出面の標高は8.3m前後である。他の主要遺構とは切り合い関係にはない。

**形態** 平面は長辺3.3m・短辺2.6mのやや不整な長方形をなし、残存壁高は10~16cmである。

**埋土** 暗褐色土で、住居埋没に伴う自然流入土と判断する。

**床面** 張床らしいものは認められない。

**炉・柱穴** それらしいものは検出していない。

**住居内土壌** 床面を精査した段階で、南側壁中

央に土壌を検出した。埋土は褐色土で、出土遺物はない。住居内埋土上面からの切込みは認められず、住居に伴うものと判断する。

**出土遺物 (Fig.24)** 住居内埋土中からはごく少数の弥生土器・黒曜石細片と石鏃が出土

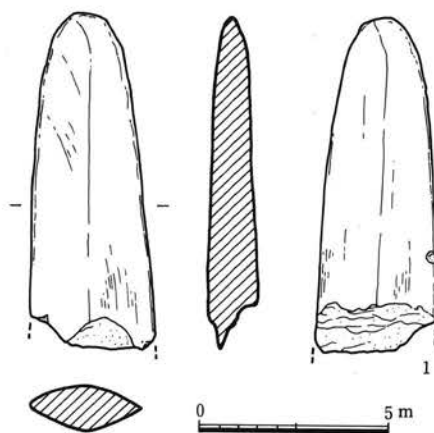


Fig.24 SH109出土石剣実測図 (1/2)

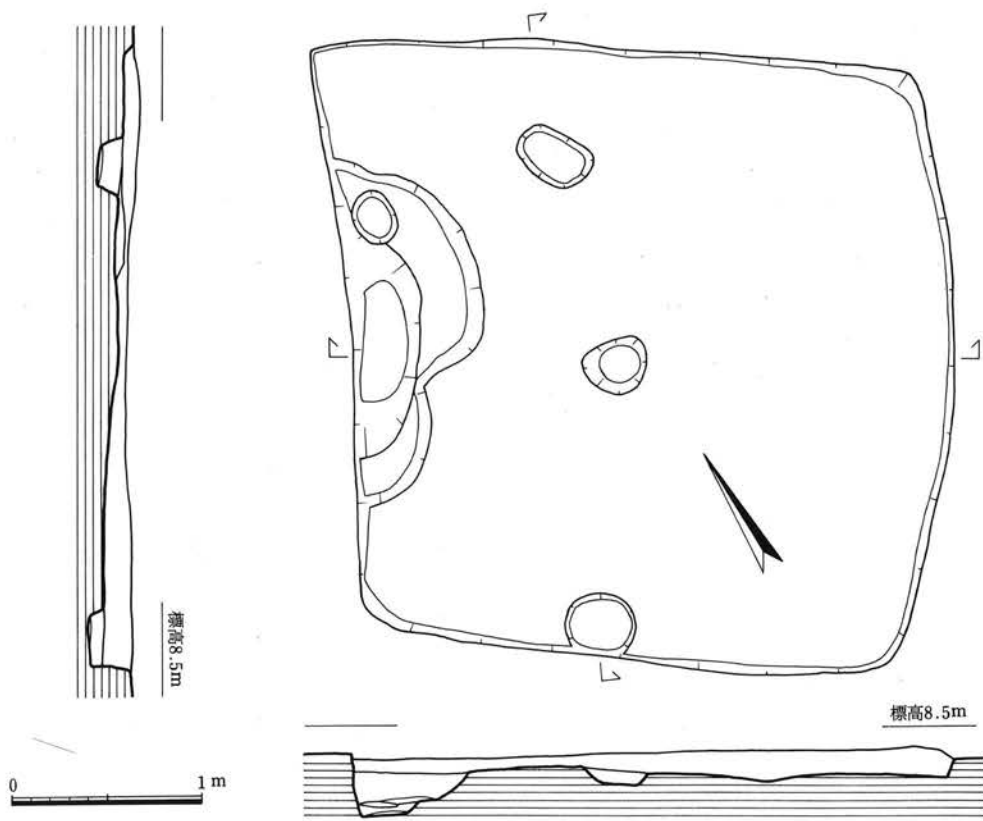


Fig.25 SH110竪穴住居実測図 (1/40)

IV. 村徳永遺跡K地区の記録—K1区—

した。弥生土器で図示できるものはない。住居ほぼ中央の床面上で出土した石剣先端部を図示する。

SH110 竪穴住居 (Fig. 25)

**位置** AV・AW-3区画に検出した。検出面の標高は8.4m前後である。SH112と切り合い関係にありSH110が後出する。

**形態** 平面は長辺3.2m・短辺3.1mのやや不整な正方形をなす。残存壁高は5~15cmほどである。

**埋土** 暗褐色土で、住居埋没に伴う自然流入土と判断する。埋土中にはわずかな遺物が含まれていた。

**床面** 西側の床面には、淡褐色の砂混じり粘土の床面整地層が叩き締めてあった。

**炉** 床面を精査した段階で住居中央に、平面が径30~40cmほどの楕円形をなす浅い小穴を検出した。埋土は淡褐色土。炉跡である可能性がある。

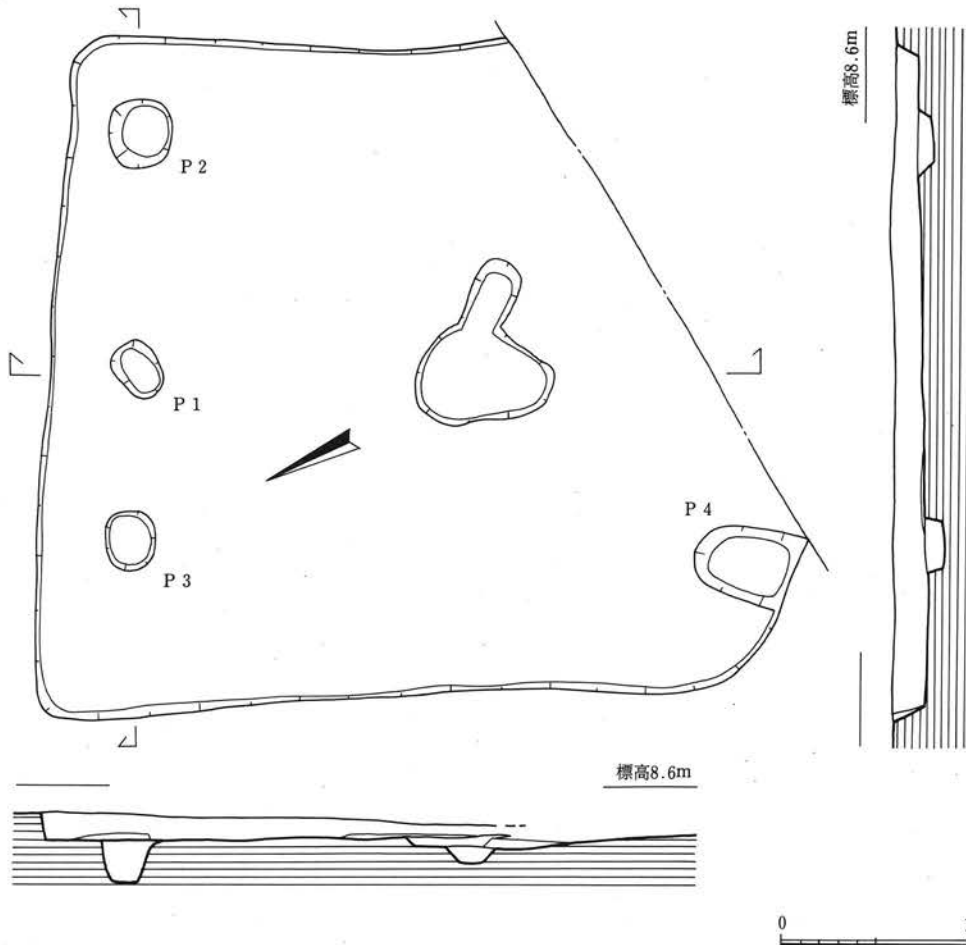


Fig.27 SH111竪穴住居実測図 (1/40)

## 2. 弥生時代の遺構と遺物

**柱穴** 2個の柱穴らしきものが、P1は床面を精査した段階で、P2は床面を剥がした後に出された。埋土は淡褐色土。柱位置が中心軸からかなりずれており、確実に柱穴であるかは判断できない。

**住居内土壌** 床面を精査した段階で、西側壁中央に土壌を検出した。埋土は褐色土で、埋土下部で小形台付鉢が出土している。住居内埋土上面からの切込みは認められず、住居に伴うものと判断する。

**出土遺物 (Fig.26)** 住居内埋土からは弥生土器細片、安山岩・黒曜石細片、石鏃が出土した。弥生土器には図示できるものはない。住居内土壌埋土から出土した小形台付鉢を図示する。

### SH111 竪穴住居 (Fig.27)

**位置** AW・AV-2・3区画に検出した。検出面の標高は8.4~8.5mである。SH112と切り合い関係にあり、SH111が後出する。南側の一部は調査区外に展開する

**形態** 平面形は長辺4.1m以上・短辺3.5mのやや不整な隅丸長方形をなす。残存壁高は10~20cmほどである。

**埋土** やや粘性の褐色~暗褐色土で、住居埋没に伴う自然流入土と判断する。埋土中にはごく少数の遺物が含まれていた。

**床面** 基底面の凹部に、砂混じりの淡褐色粘土の床面整地層が叩き締めてあった。

**炉** 床面を精査した段階で、住居中央に浅い小穴を検出した。埋土は暗褐色土。炉である可能性はあるが、焼土・炭・床面赤変などは認められなかった。

**柱穴** 床面を精査した段階及び張床を剥いだ段階で、4個の柱穴らしきものを検出した。埋土は褐色~暗褐色。P1と調査区外に想定されるもう1個の柱穴による2本柱である確率が高いが、P2~P4と調査区外に想定されるもう1個の柱穴による4本柱である可能性もある。

**出土遺物 (Fig.28)** 住居内埋土中からは、少数の弥生土器片と安山岩・黒曜石細片、石鏃が出土した。住居埋没に伴う流れ込みによると判断する。弥生土器片で図化できたのは、甕口縁部破片1点である。

### SH112 竪穴住居 (Fig.29)

**位置** AV-2・3区画に検出した。検出面の標高は8.3m前後である。SH110・SH111と切り合い関係にあり、SH112が先行する。

**形態** 平面は長辺4.3m・短辺3.2mほどの長方形をなす。残存壁高は10~15cmほどである。

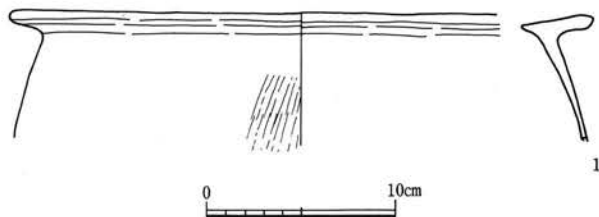


Fig.28 SH11出土弥生土器実測図 (1/4)

IV. 村徳永遺跡K地区の記録—K1区—

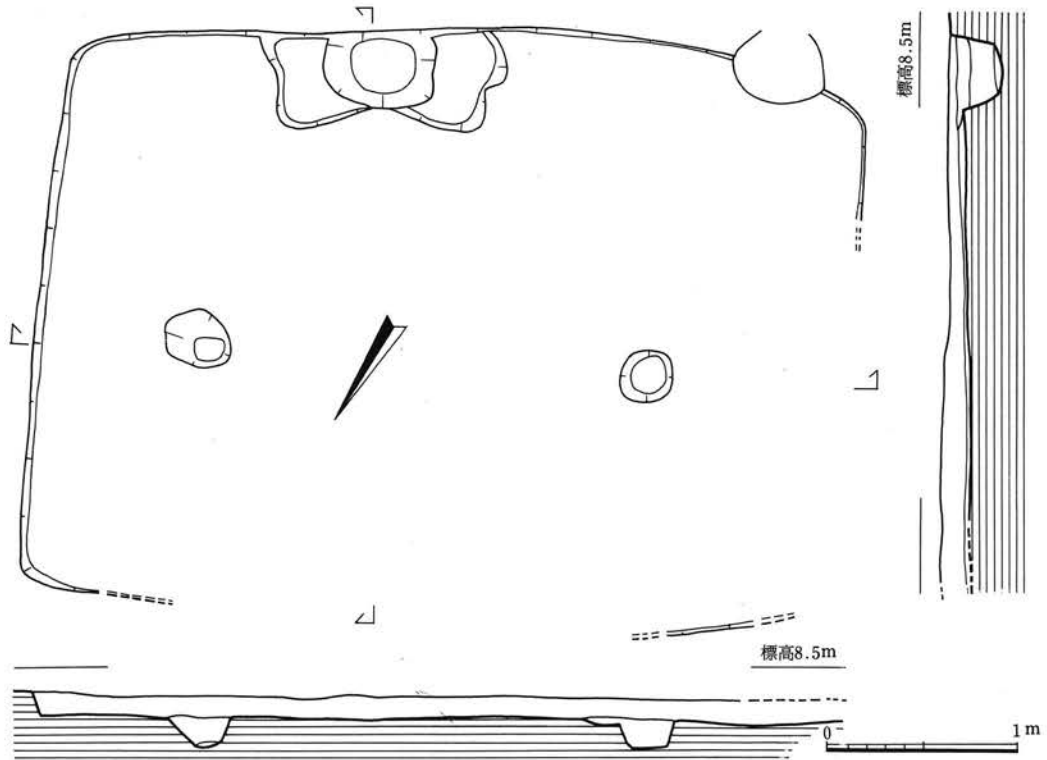


Fig.29 SH112堅穴住居実測図 (1/40)

**埋土** 暗褐色土で、住居埋没に伴う自然流入土と判断する。住居内埋土中にはごく少数の遺物が含まれていた。

**床面** 張床・床面整地層らしいものは認められなかった。

**炉** それらしいものは検出していない。

**柱穴** 床面を精査した段階で、2個の柱穴を確認した。埋土は淡褐色土。

**住居内土壌** 床面を精査した段階で、南側壁中央から東側に土壌を検出した。埋土は暗褐色土で、出土遺物はない。住居内埋土上面からの切込みは認められず、住居に伴うものと判断する。

**出土遺物** 住居内埋土中から、ごく少数の弥生土器・黒曜石細片が出土したが、図化できたものはない。

**SH116 堅穴住居 (Fig.30)**

**位置** AZ-4区画に検出した。検出面の標高は8.2m前後である。SK114と切り合い関係にあり、SH116が後出する。

**形態** 平面は長辺4.0m・短辺3.5mの隅丸長方形をなす。残存壁高は30cmほどである。

**埋土** 砂混じりの黒褐色土で、住居の埋没に伴う流入土と判断する。埋土中からは少数の

## 2. 弥生時代の遺構と遺物

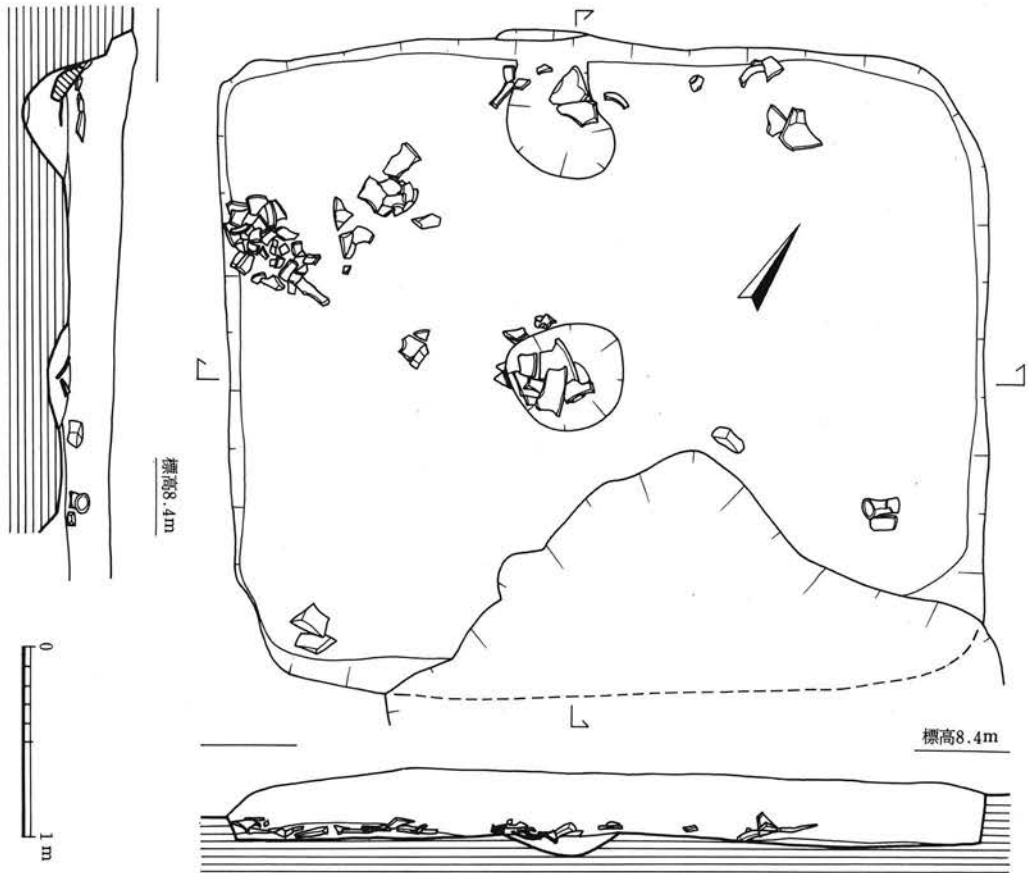


Fig.30 S H116堅穴住居実測図 (1/40)

遺物が出土した。

**床面** 張床・床面整地層らしいものは確認していない。

**炉** 床面を精査した段階で、住居中央に浅いレンズ状のくぼみを検出した。埋土は褐色土で、焼土・炭・床面赤変などは認められなかったが、炉跡である可能性がある。埋土上部で土器片群が落ち込んだ状態で出土した。

**柱穴** それらしいものは検出していない。

**住居内土壌** 床面を精査した段階で、北側壁中央に小規模な土壌を検出した。埋土は暗褐色土で、埋土上部に土器片群と台石が落ち込んだ状態で出土した。

**出土遺物 (Fig.31・32)** 住居内埋土中からは、埋没に伴い流れ込んだ少数の弥生土器片・安山岩黒曜石細片とスクレーパーが出土した。弥生土器は細片で図化できたものはない。

住居床面上には、7か所で土器片群の集中が認められた。住居の廃棄に際し床面に投棄されたものか。一括性が高い出土状態と判断する。なお、台石5個も床面上に置かれていた。

IV. 村徳永遺跡K地区の記録—K1区—

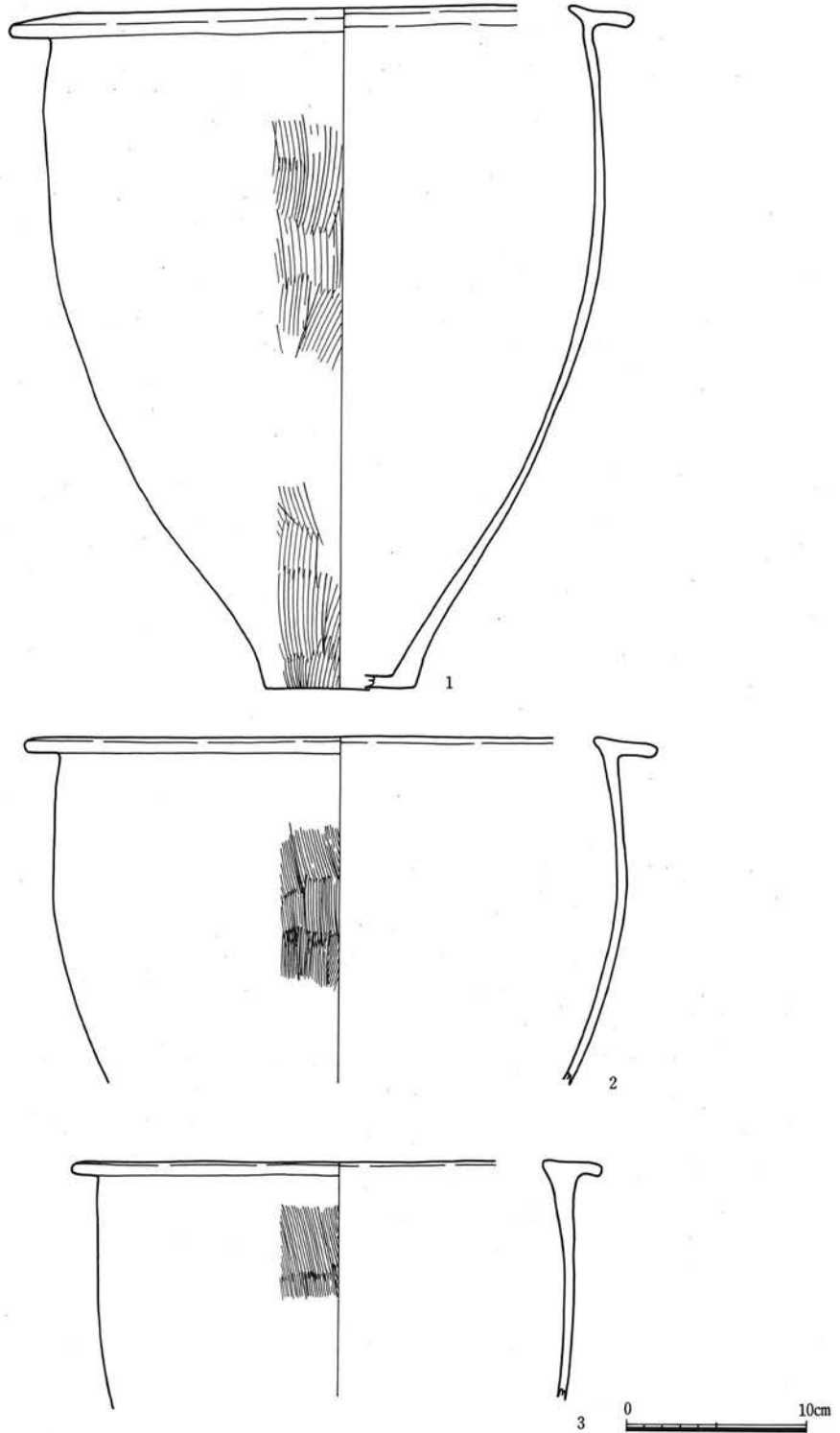


Fig.31 S H116出土弥生土器実測図1 (1/4)

2. 弥生時代の遺構と遺物

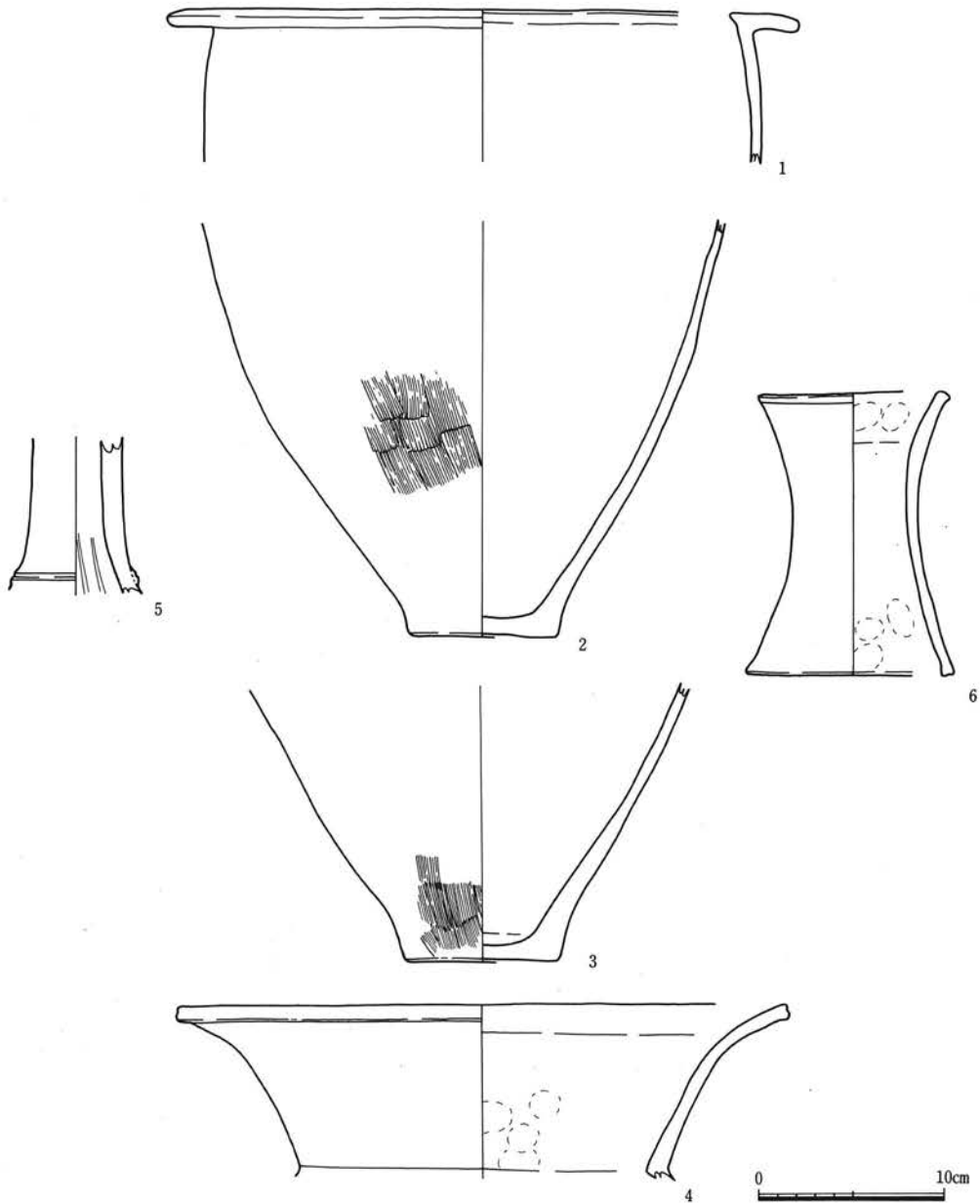


Fig.32 SH116出土弥生土器実測図2 (1/4)

(2) 土壙と出土遺物

SK114土壙 (Fig.33)

位置 AZ・BA-4・5区画に検出した。検出面の標高は8.2m前後である。SH116と切り合い関係にあり、SK114が後出する。

形態 平面形は長辺3.3m・短辺2.8~3.2mをはかる胴張りで不整な隅丸台形状をなす。

IV. 村徳永遺跡K地区の記録—K1区—

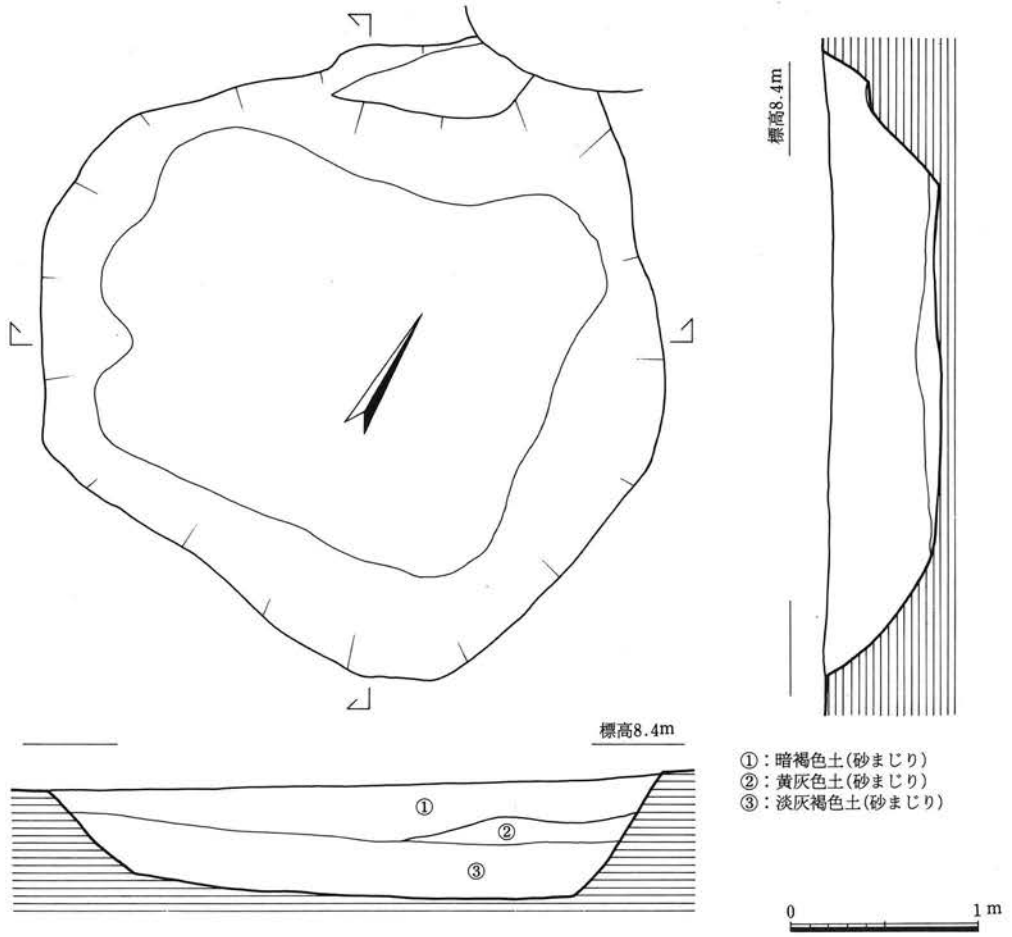


Fig.33 SK114土壌実測図 (1/40)

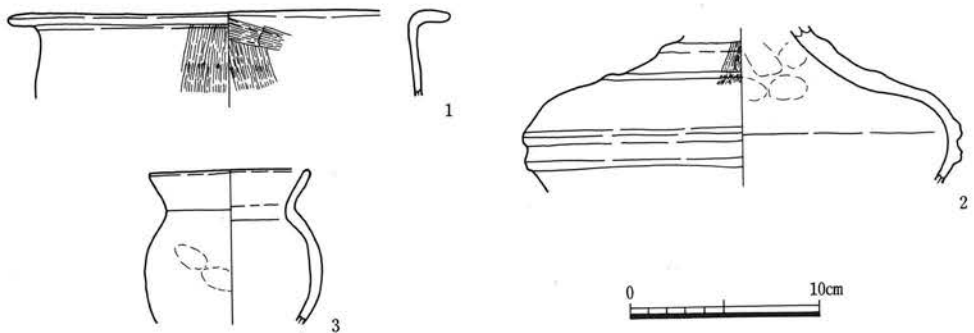


Fig.34 S K114出土弥生土器実測図 (1/4)

### 3. 古墳時代の遺構と遺物

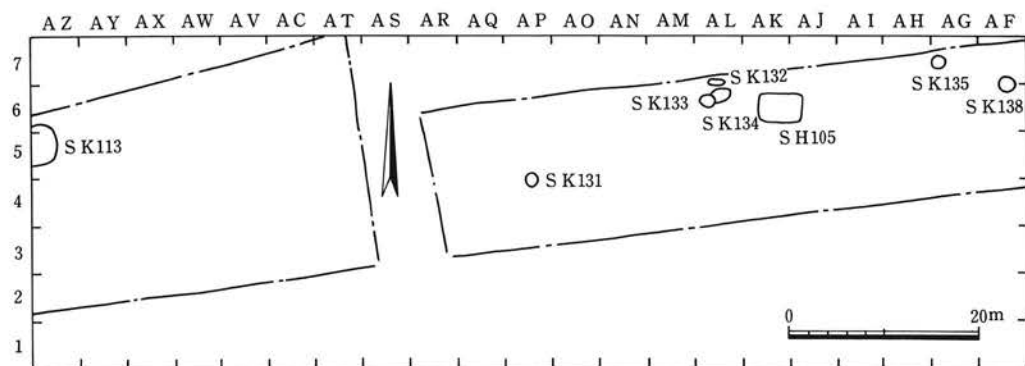


Fig.35 K 1区古墳時代主要遺構配置図

残存壁高は60cmほどで、壁面はきつく立ち上り、底面は平坦である。

**埋土** どれも埋没に伴う自然流入土と判断するが、②層は壁面の崩落土の可能性ある。埋土中には少数の遺物が含まれていた。壁面が基盤層VII層上部に達すると激しく湧水した。

**出土遺物 (Fig. 34)** 埋土中から、縄文土器片・弥生土器片・安山岩黒曜石細片が出土している。

### 3. 古墳時代の遺構と遺物

#### (1) 竪穴住居と出土遺物

##### SH105 竪穴住居 (Fig. 36)

**位置** AJ・AK-6区画に検出した。検出面の標高は8.4～8.5m前後である。他の主要遺構との切り合い関係はない。

**形態** 平面は長辺4.7m・短辺3.1mのやや不整な長方形をなす。残存壁高は10～15cmほどある。

**埋土** ①～③層は、住居埋没に伴う自然流入土と判断する。埋土にはまとまった量の遺物が含まれていた。

**床面** 北側床面一部は、厚さ10cmほど暗黄褐色粘土を叩き締めて床面を形成していた。

**柱穴** 床面を精査した段階で、短辺方向中心軸に2個の柱穴を検出した。埋土は暗褐色。

**住居内土壌** 床面を精査した段階で、2基のやや大形の土壌を検出した。住居内埋土上面からの切込みは認められず、一応住居に伴うものと判断しておく。人為的埋土(④層)の上には住居内埋土(②層)が流入していて、住居使用時には深さ10cmほどの<穴>として機能していたことが推定される。④層からの出土遺物はない。

**出土遺物 (Fig. 37・38・39)** 住居内埋土からは、まとまった量の土師器片と須恵器片・石製品・縄文土器片・弥生土器片・黒曜石細片が出土している。土師器の大部分は一括投棄によるものか。2個の鉢 (Fig. 38/16・17) は、床面直上で出土した。

IV. 村徳永遺跡K地区の記録—K1区—

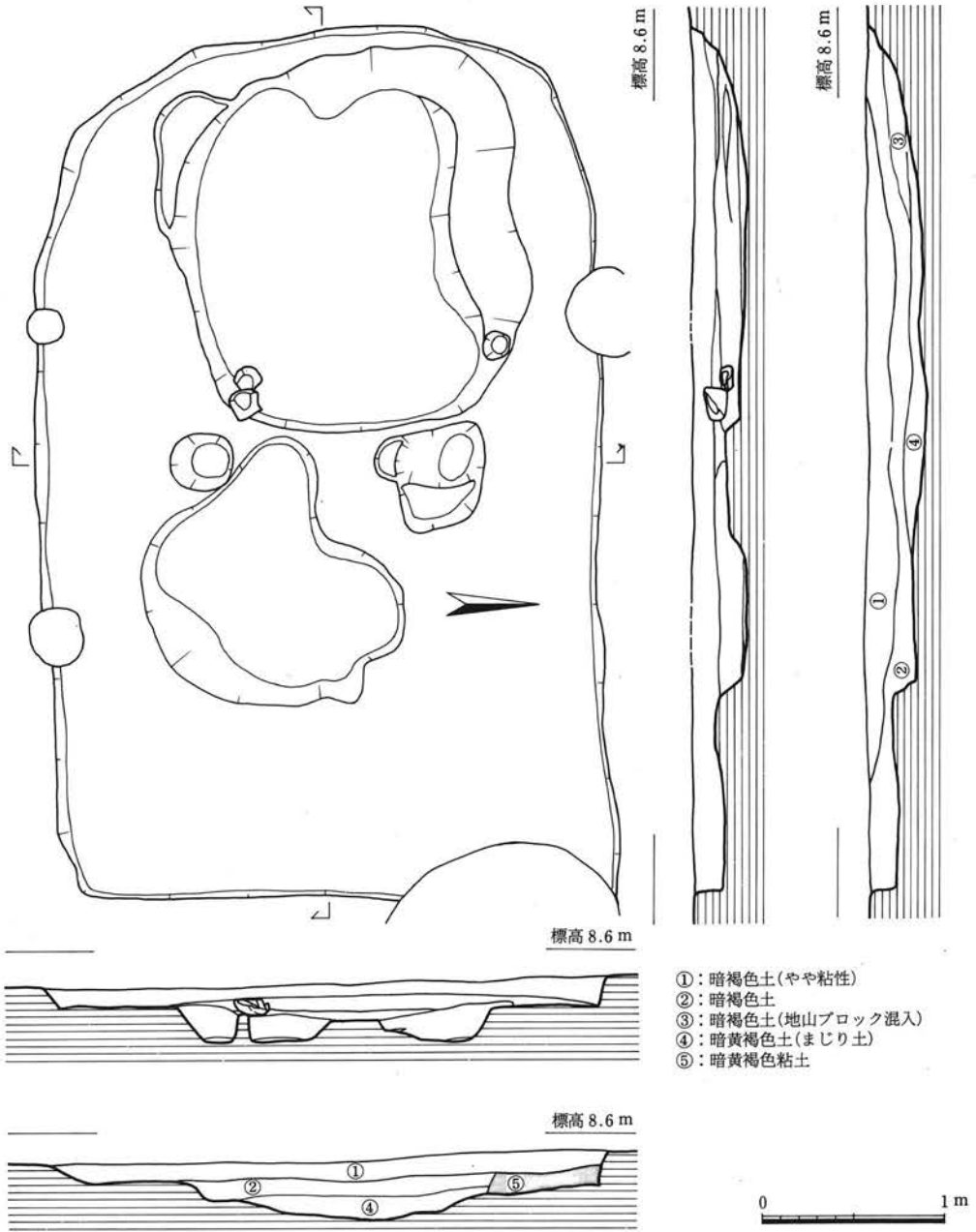


Fig.36 SH105 竖穴住居実測図 (1/40)

3. 古墳時代の遺構と遺物

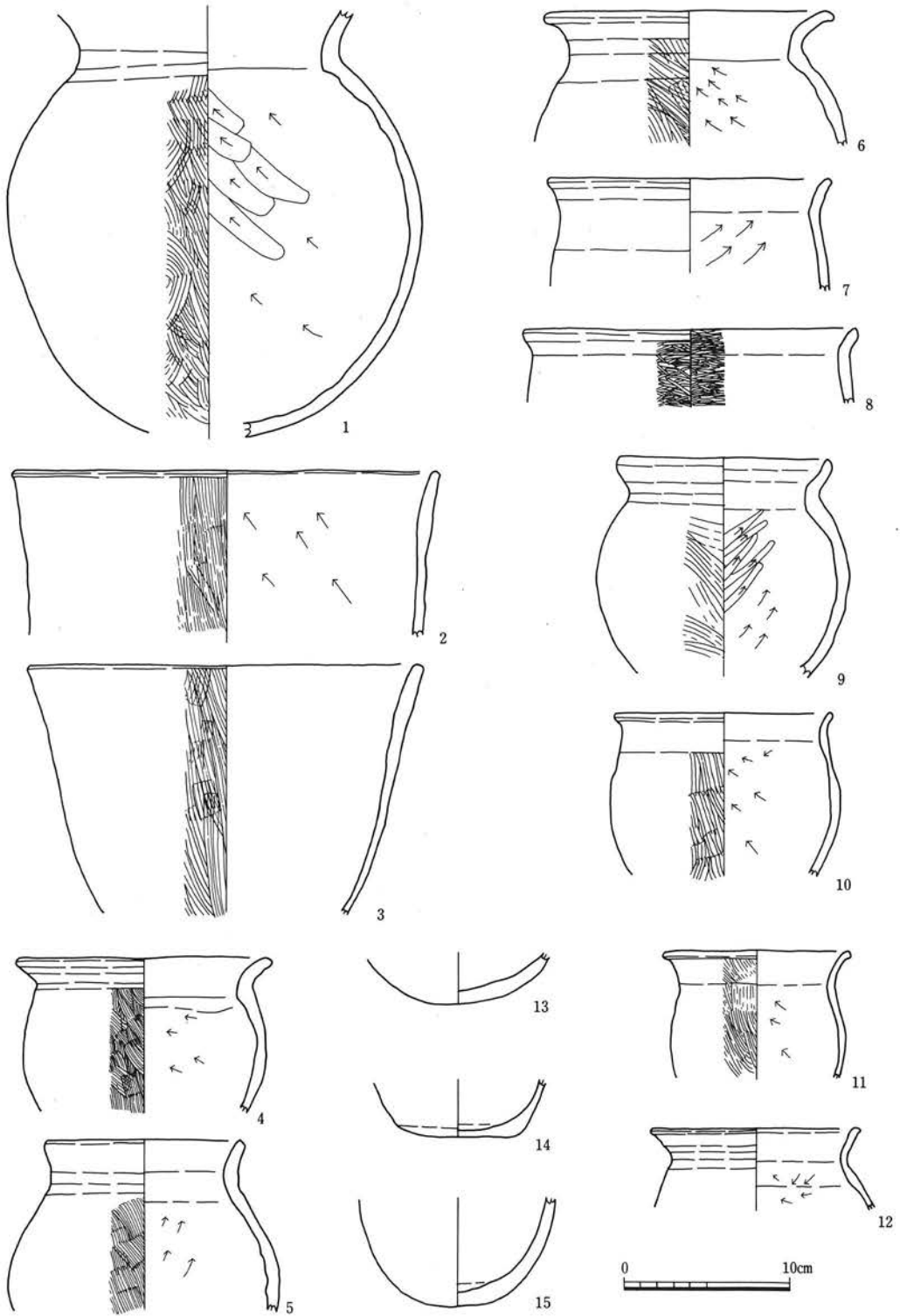


Fig.37 S H105出土土師器実測図1 (1/4)

IV. 村徳永遺跡K地区の記録-K1区-

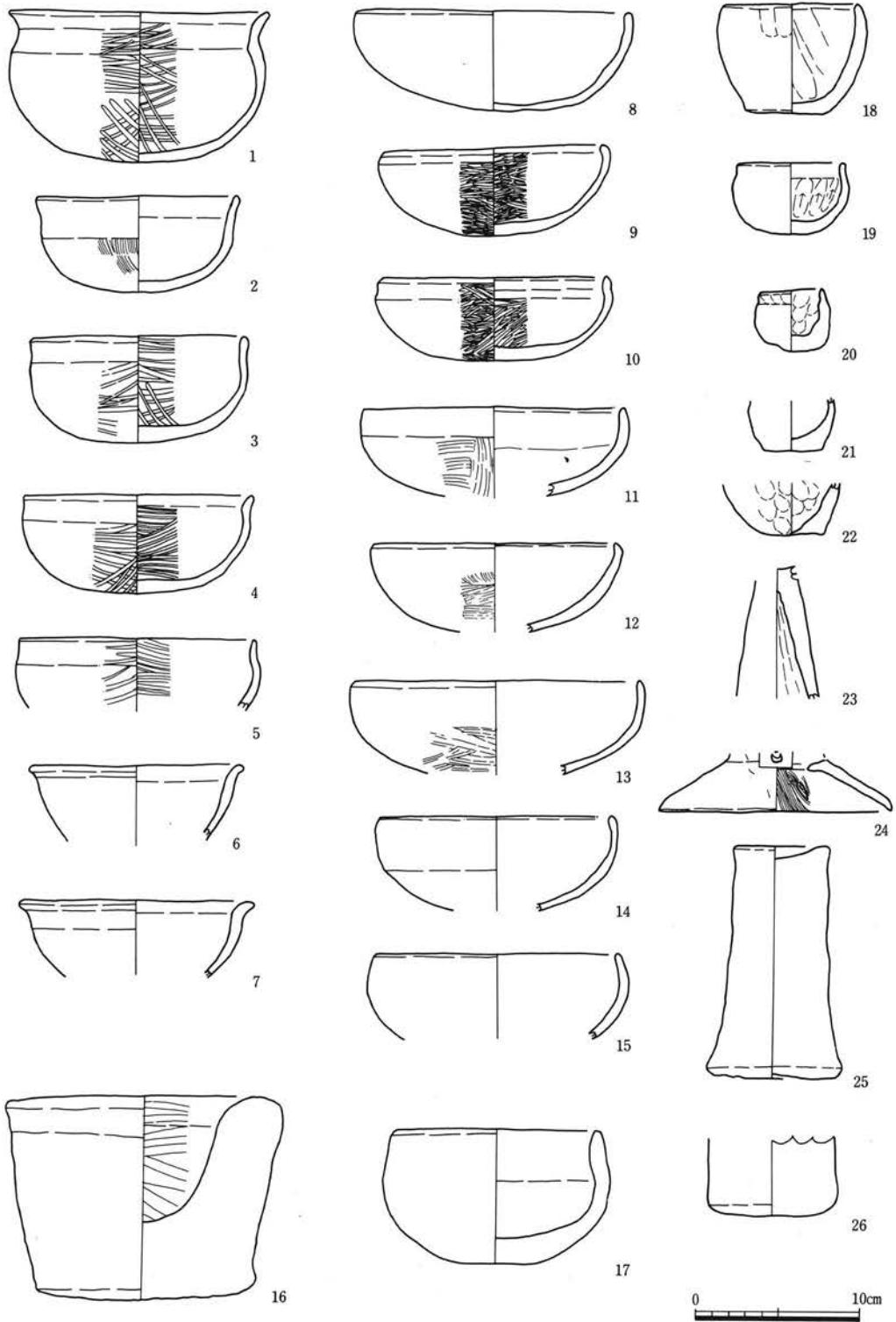


Fig.38 SH105出土土師器実測図2 (1/4)

3. 古墳時代の遺構と遺物

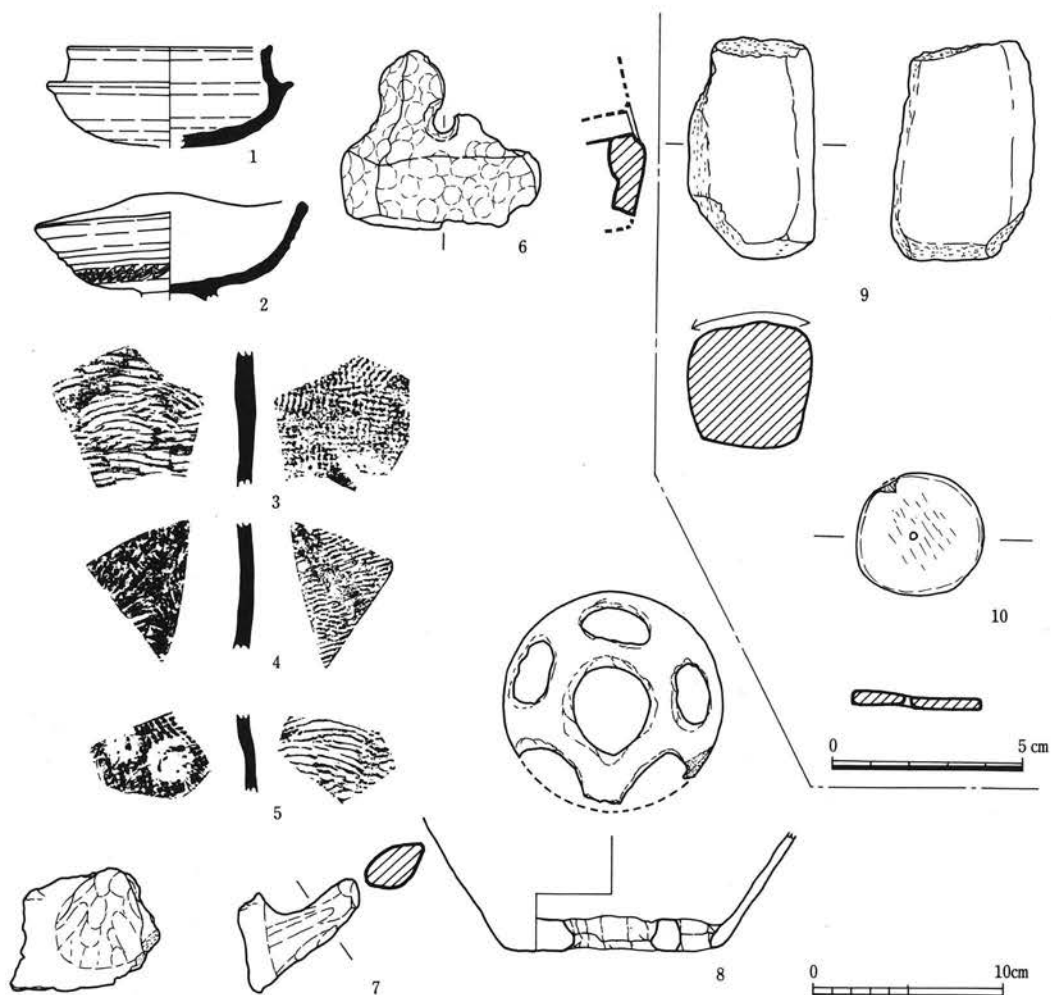


Fig.39 SH105出土土師器・須恵器・石製品実測図 (1/4・1/2)

(2) 土壙と出土遺物

S K 1 1 3 土壙 (Fig.40)

**位置** AZ・BA-5・6区画に検出した。検出面の標高は8.2m前後である。他の主要遺構とは切り合い関係はない。

**形態** 平面は長辺3.9m・短辺3.3mの不整な隅丸長方形をなす。残存壁高は70cmほどで、壁面はきつく立ち上がる。底面はほぼ平坦である。

**埋土** ①～③層は埋没に伴う自然流入土と判断する。②層には遺物が含まれ、特に上部に集中してした。壁面が基盤層VII層上部に達すると激しく湧水した。

**出土遺物** (Fig.42) 埋土②層から、土師器片・須恵器片・弥生土器片・安山岩黒曜石細片が出土した。土師器は一括投棄の可能性が高い。

IV. 村徳永遺跡K地区の記録—K1区—

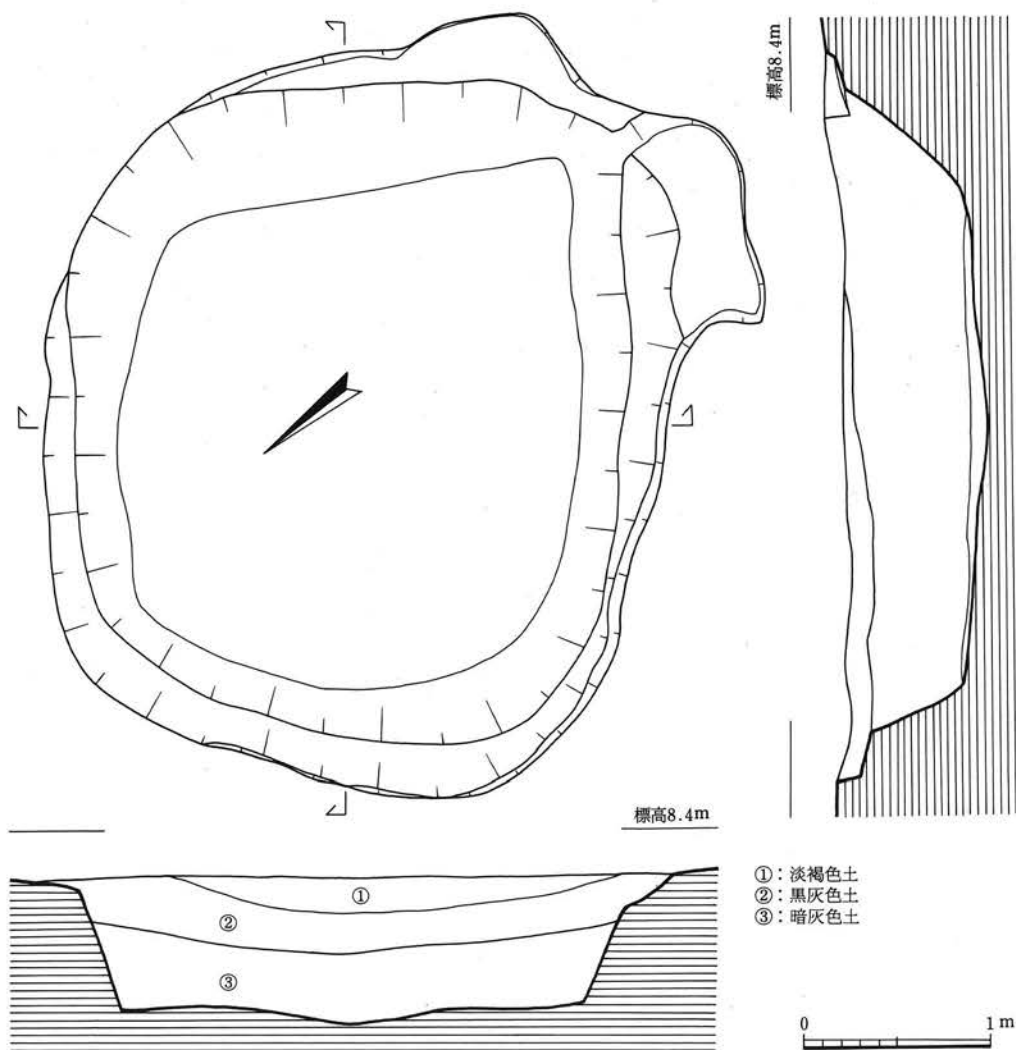
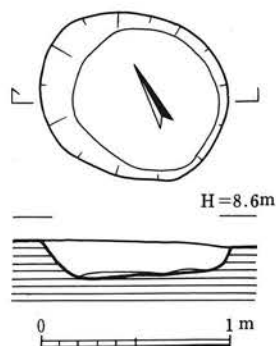


Fig.40 SK113土壌実測図 (1/40)



SK131土壙 (Fig.41)

**位置** AP-4・5区画に検出した。検出面の標高は8.5m前後である。他の主要遺構との切り合い関係はない。

**形態** 平面は径0.8~1mの短楕円形をなす。残存壁高は20cmほどで、壁面はゆるく立ち上がる。底面は平坦である。

**埋土** 淡褐色~褐色土。埋没に伴う自然流入土と判断する。埋土中には少数の遺物が含まれていた。

**出土遺物 (Fig.43)** 埋土中から、少数の土師器片が出土した。埋没に伴う流れ込みと判断する。

Fig.41 SK131土壙実測図

(1/40)

3. 古墳時代の遺構と遺物

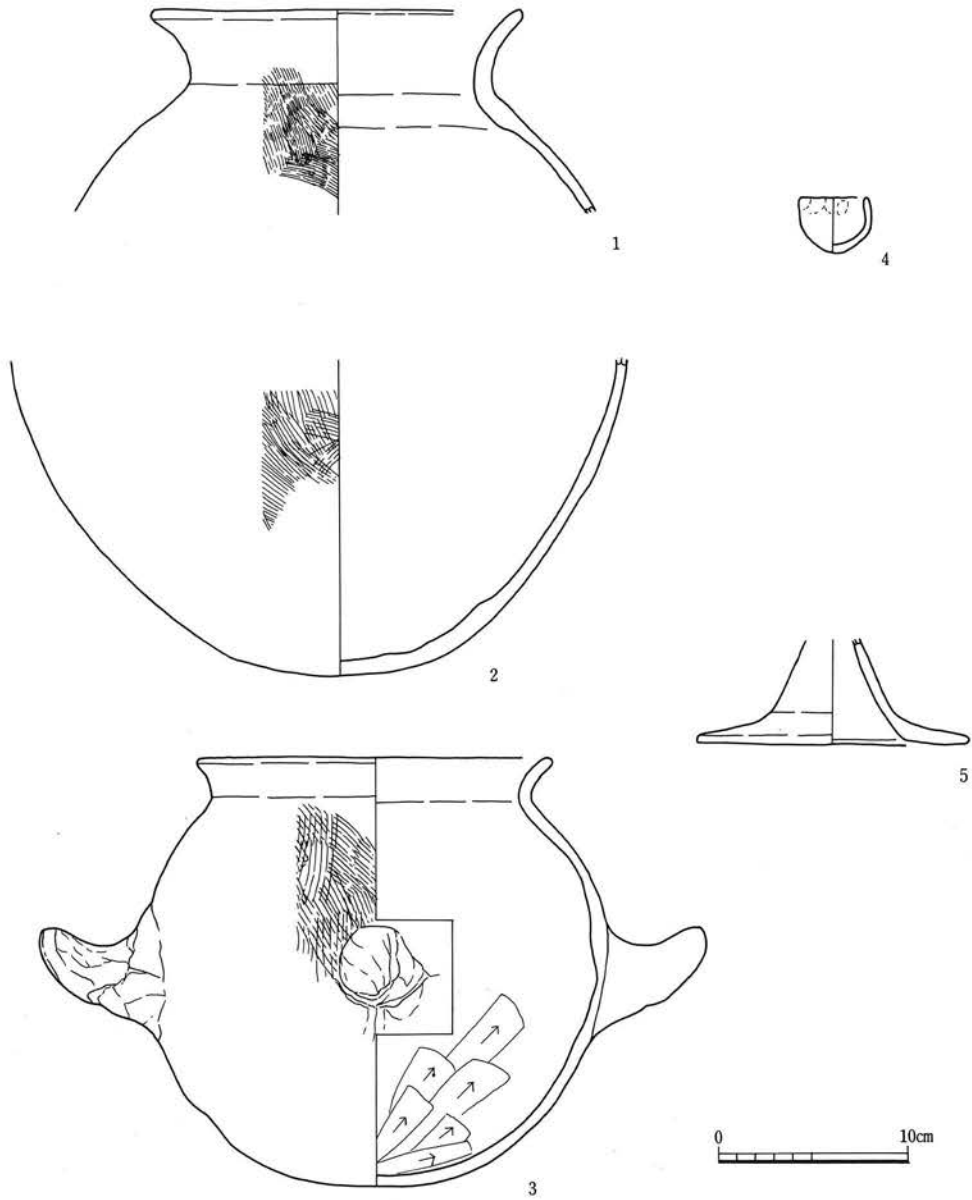


Fig.42 SK113出土土師器実測図 (1/4)

SK 1 3 2 土壙 (Fig.44)

**位置** AL-6・7区画に検出した。検出面の標高は8.5m前後である。他の主要遺構とは切り合い関係にはない。

**形態** 平面は0.8~1.2mの不整な長楕円形をなす。残存壁高は20cmほどで、壁面はややきつく立ち上がる。底面はやや舟底状をなす。

**埋土** 褐色~暗褐色土。埋没に伴う自然流入土と判断する。埋土中にはごく少数の遺物が

IV. 村徳永遺跡K地区の記録—K1区—

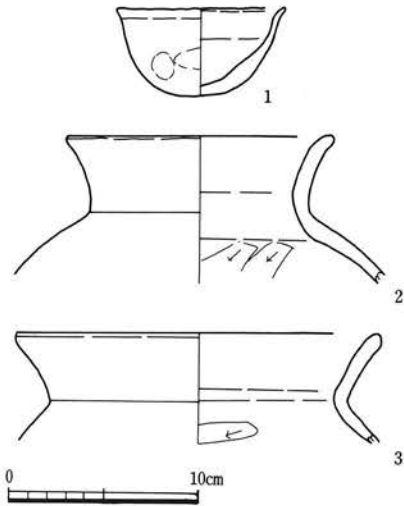


Fig.43 SK131出土土師器実測図 (1/4)

含まれていた。

**出土遺物 (Fig.45)** 埋土中から少数の土師器破片が出土した。埋没に伴う流れ込みと判断する。

**SK133土壌 (Fig.46)**

**位置** AL-6区画に検出した。検出面の標高は8.4~8.5mである。SK134と切り合い関係にあり、SK133が後出する。

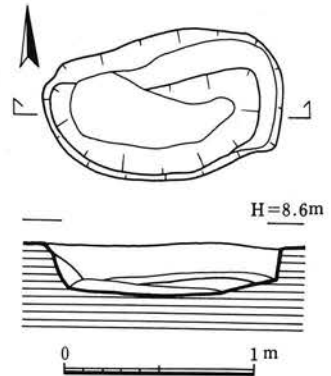


Fig.44 SK132土壌実測図 (1/40)

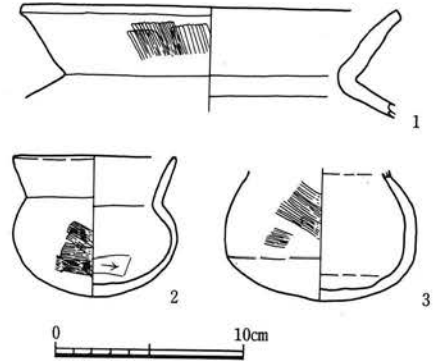


Fig.45 SK132出土土師器実測図 (1/4)

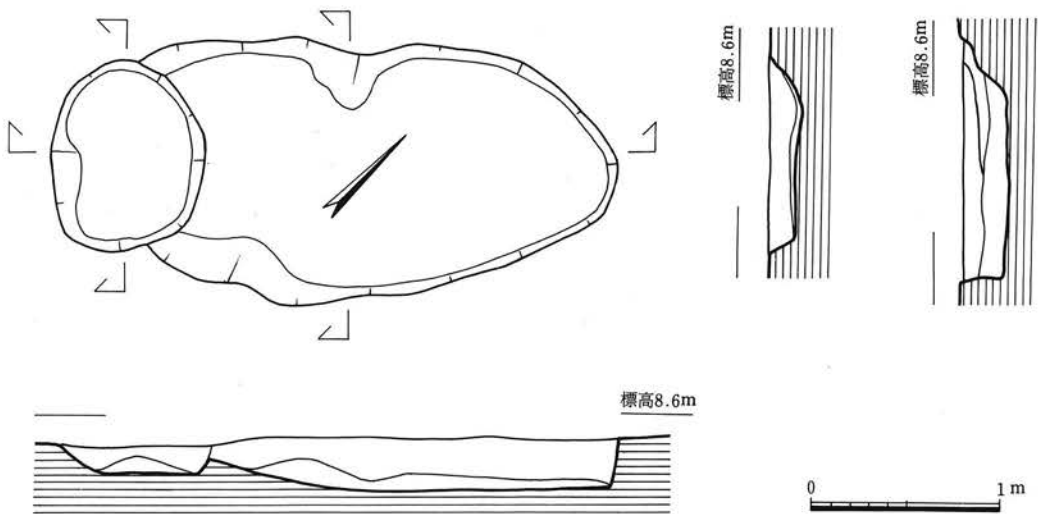


Fig.46 SK133・134土壌実測図 (1/40)

### 3. 古墳時代の遺構と遺物

**形態** 平面は径1.0～1.3mの不整な短楕円形をなす。残存壁高は15cmほどで、壁面はややゆるく立ち上がる。底面はほぼ平坦である。

**埋土** 褐色土で、埋没に伴う自然流入土と判断する。埋土中には少数の遺物が含まれていた。

**出土遺物 (Fig.47/1～3)** 埋土中から、土師器・須恵器破片が出土した。埋没に伴う流れ込みと判断する。

#### SK134土壙 (Fig.46)

**位置** AL-6区画に検出した。検出面の標高は8.4～8.5mである。SK133・SH103と切り合い関係にありSK134が、SK133に先行し、SH103に後出する。

**形態** 平面は長径2.5m以上・短径1.5mの不整な長楕円形をなす。残存壁高は10～30cmほどで、壁面はゆるく立ち上がる。底面はほぼ平坦である。

**埋土** ①～③層は、埋没に伴う自然流入土と判断する。埋土中には少数の遺物が含まれていた。

**出土遺物 (Fig.47/4・5)** 埋土中から、土師器・須恵器破片が出土した。埋没に伴う流

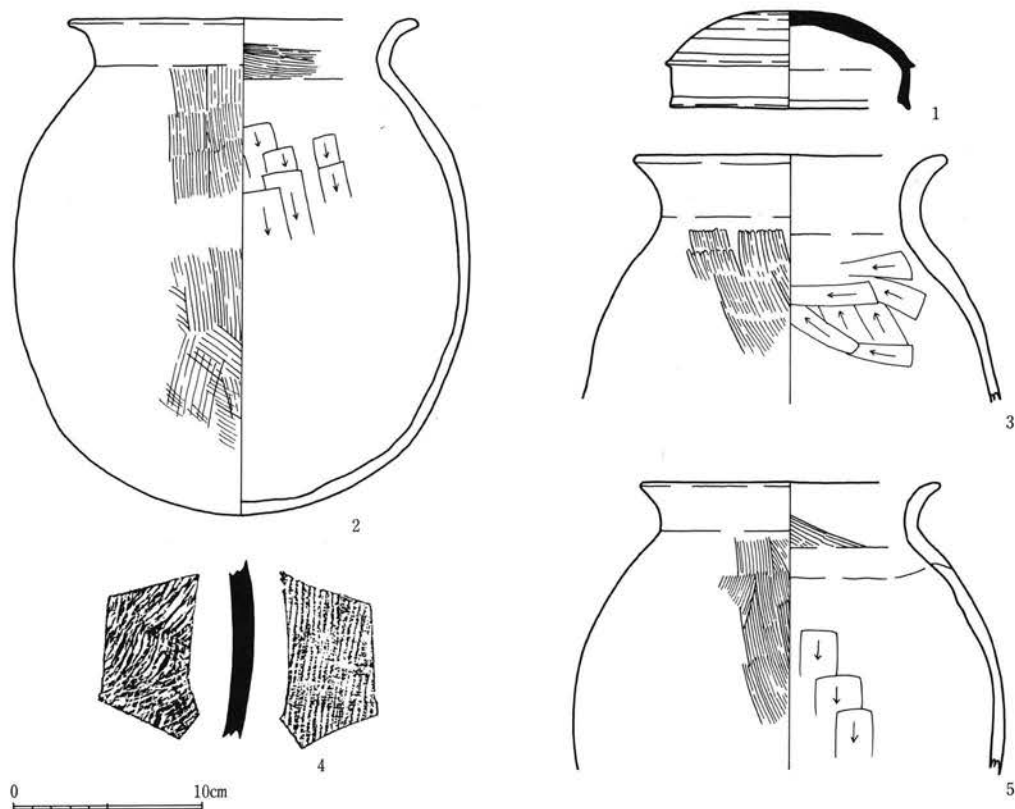


Fig.47 SK133・134出土土師器・須恵器実測図 (1/4)

IV. 村徳永遺跡K地区の記録—K1区—

れ込みと判断する。

**SK135土壙 (Fig.48)**

**位置** AG-7区画に検出した。検出面の標高は8.3m前後である。他の主要遺構とは切り合い関係にはない。

**形態** 平面は径1.2~1.4mの不整な短楕円形をなす。残存壁高は40cmほどで、壁面はきつく立ち上がる。底面はやや凸状である。

**埋土** 淡褐色~褐色土で、埋没に伴う自然流入と判断する。埋土下部に少数の遺物が含まれていた。

**出土遺物 (Fig.49)** 1・2は底面上での出土である。埋土下部からは土師器・須恵器破片が出土した。

**SK138土壙**

**位置** AF-6・7区画に検出した。検出面の標高は8.1~8.2mである。他の主要遺構とは切り合い関係にはない。

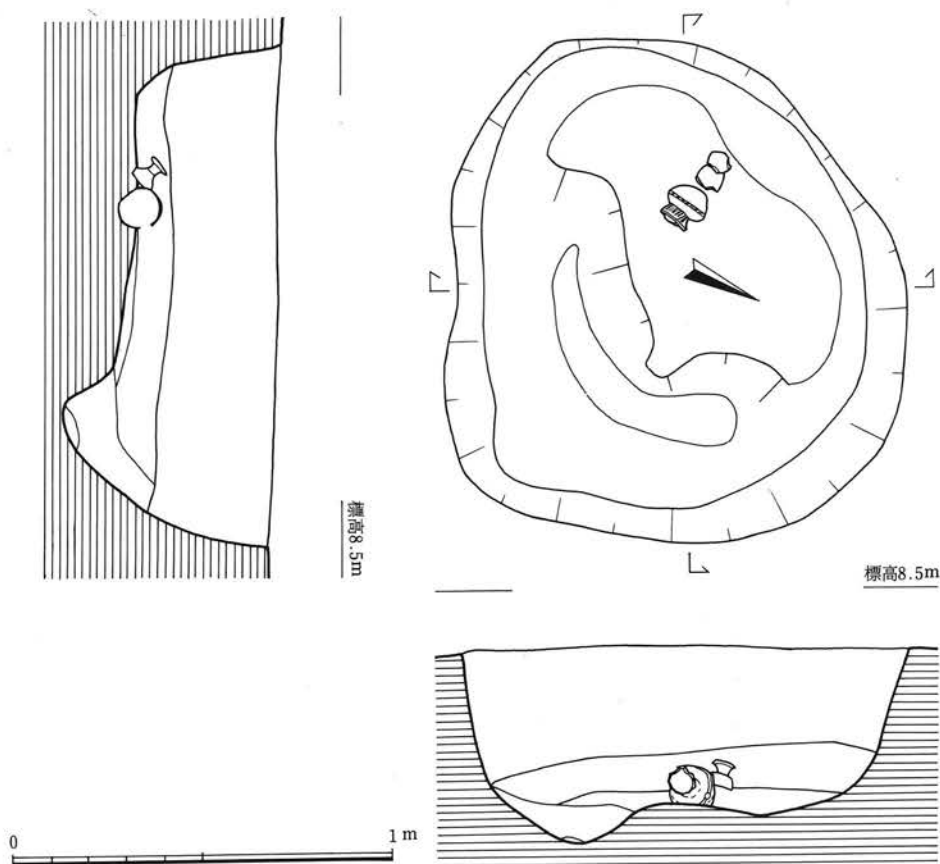


Fig.48 SK135土壙実測図 (1/20)

### 3. 古墳時代の遺構と遺物

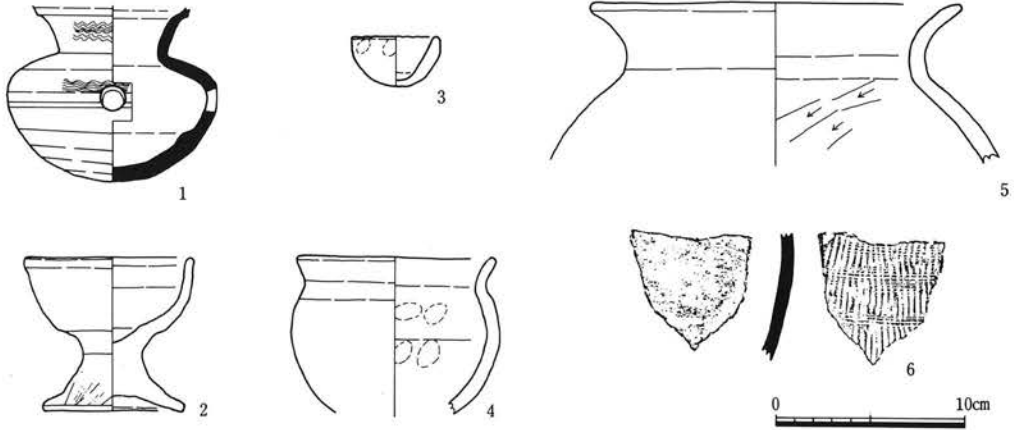


Fig.49 SK135出土土師器・須恵器実測図 (1/4)

**形態** 平面は径1.2~1.4mのやや不整な短楕円形をなす。残存壁高は60~80cmほどで、壁面はきつく立ち上がる。底面は深いレンズ状をなす。

**埋土** 暗褐色土で、埋没に伴う自然流入と判断する。埋土中には、少数の遺物が含まれていた。

**出土遺物 (Fig.51)** 埋土中から土師器破片が出土している。埋没に伴う流れ込みと判断する。

### 4. 古代の遺構と遺物

#### (1) 溝と出土遺物

##### SD121溝 (Fig.52)

**位置** AT-7・8、AU-5・6・7、AV-4・5・6・7、AW-3・4・5、AX-2・3・4、AY-2・3、AZ-2区画に検出した。検出面の標高は8.2~8.5m前後である。他の主要遺構との切り合い関係はない。

**形態** 直線的に走行し、溝幅4.7~5.2m、残存壁高は0.7~1.1mほどで、壁面は北西側できつく南東側でゆるく立ち上がる。南西に向かい底面の標高は徐々に低くなり、底面はほぼ平坦であるが細かい凸凹がかなりある。

**埋土** ①~⑦層が埋土である。検出面から底面まで砂層が堆積し、流水によって埋没した過程を示唆している。①~⑦層全般にわたってかなりの量の遺物を含んでいた。

**出土遺物 (Fig.53)** 埋土中から多量の土師器と黒色土器・須恵器が出土したが、細片が多く図化に耐えたものは比較的少ない。

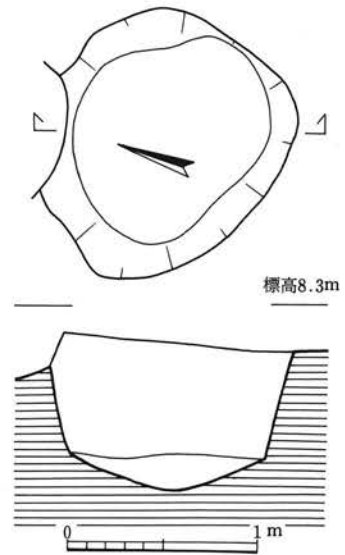


Fig.50 SK138土墳実測図(1/20)

IV. 村徳永遺跡K地区の記録—K1区—

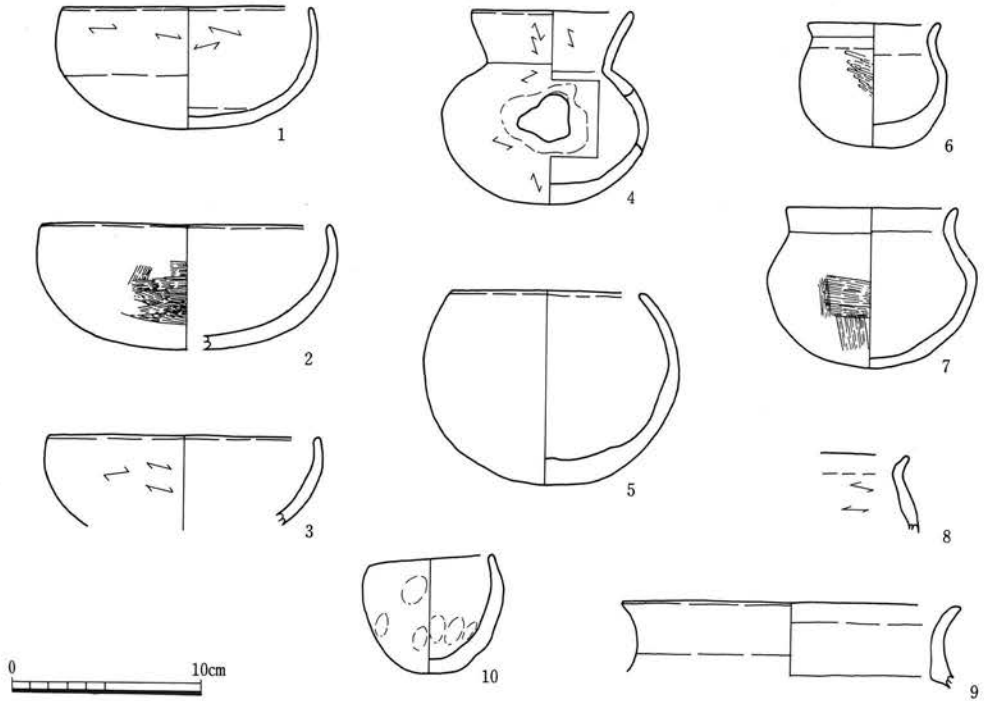


Fig.51 SK138出土土師器実測図 (1/4)

**所見** SD121は、自然流水路の壁面に一部手を加えた溝と判断する。出土遺物から判断して、9世紀の初頭には埋没しきったものと考えられ、流水路として機能していたのは7世紀以前と思われる。

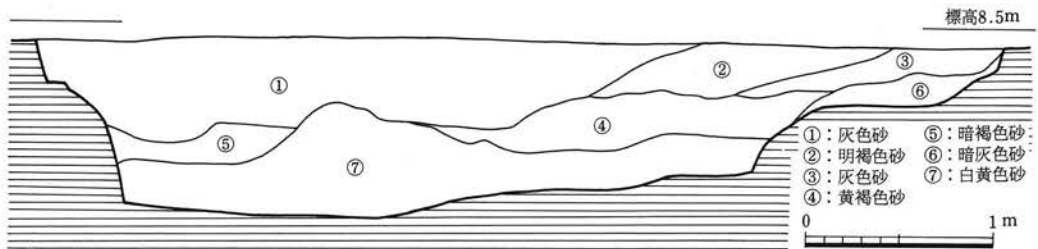


Fig.52 SD121土層断面実測図 (1/40)

4. 古代の遺構と遺物

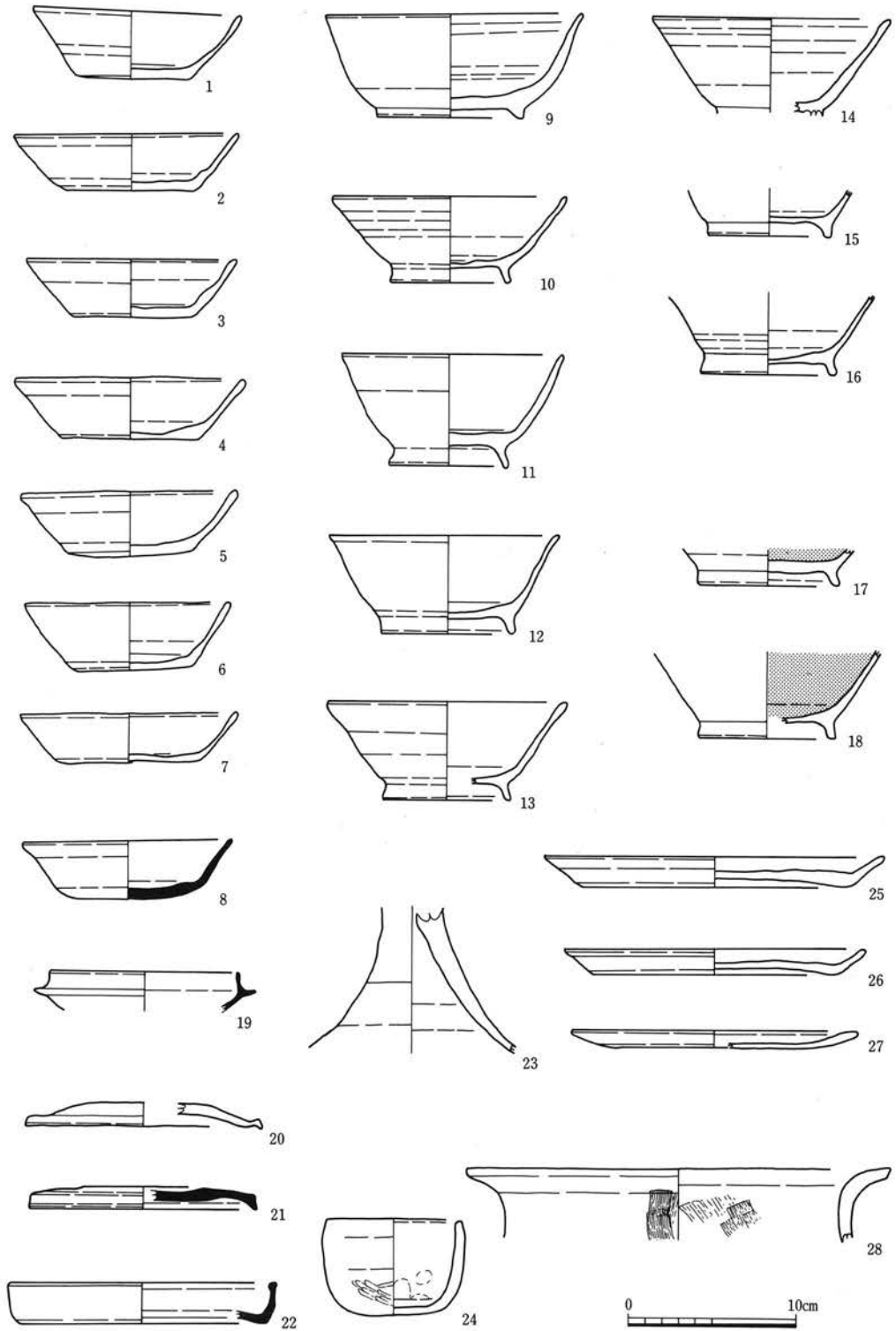


Fig.53 SD121出土土師器・黒色土器・須恵器実測図 (1/4)

IV. 村徳永遺跡K地区の記録—K1区—

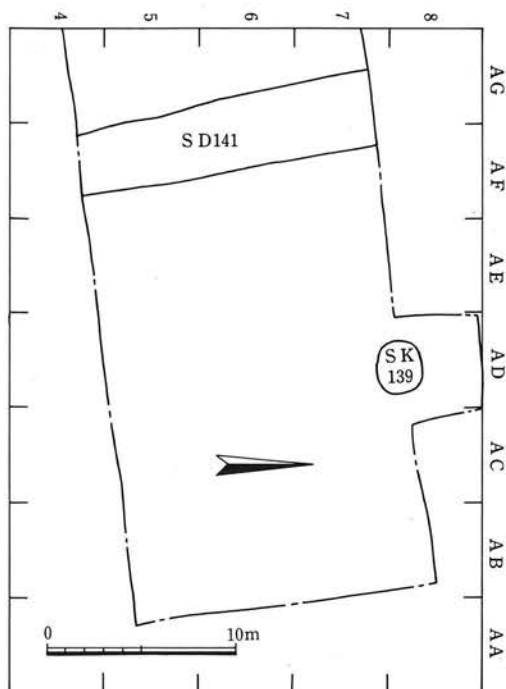


Fig.54 K1区中世主要遺構配置図

5. 中世の遺構と遺物

(1) 堀と出土遺物

SD141堀 (Fig.55)

**位置** AG-7・AF-7・AG-6・AF-6・AG-5・AF-5・AF-4区画に検出した。検出面の標高は8.0~8.3mである。他の主要遺構とは切り合い関係にはない。

**形態** 直線的に走行し、北から約20°ほど西へ振れている。堀幅は3.2~4.5mで、南に向かい狭くなる。堀の断面形はやや浅い「V」字形をなし、底面は浅い舟底状で南に向かい標高は低くなる。

**埋土** ①~⑫層に分層できた。①層は埋没最終段階の自然流入土である。②~⑤層は人工的な埋土である可能性が高い。⑥~⑫層は堀の埋没に伴う自然流入土であり、西側から流入し埋没した過程を示唆している。

。基盤層がVIII層上部に達すると激しく湧水した。②~⑤層にはわずかな遺物が、⑥~⑫層には少数の遺物が含まれていた。

**出土遺物** (Fig.56) ⑥~⑫層で、土師器・瓦器・陶器・磁器破片が少数出土した。

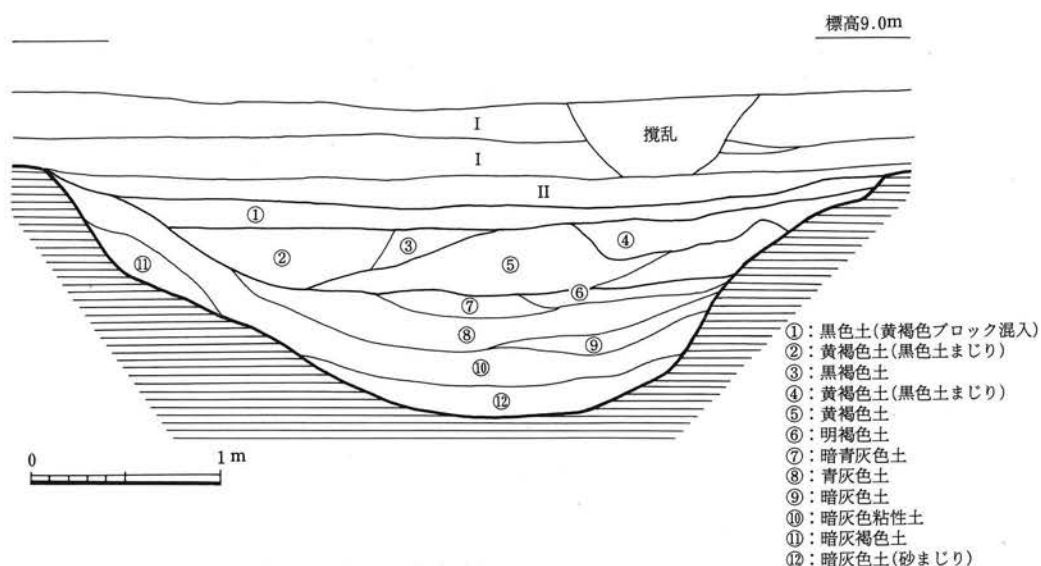


Fig.55 SD141北壁土層断面実測図 (1/40)

5. 中世の遺構と遺物

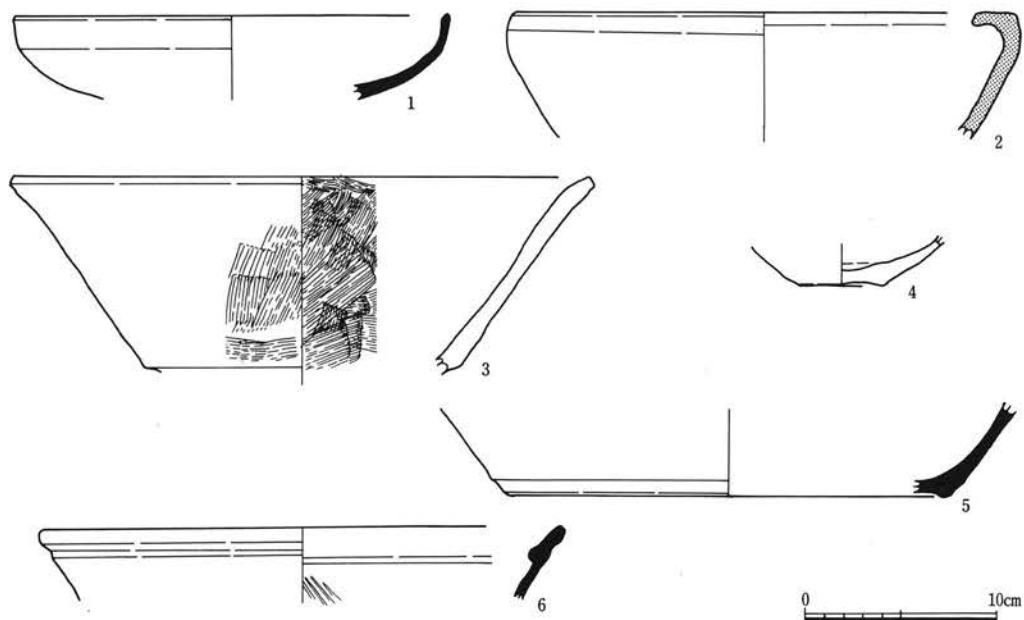


Fig.56 SD141出土土師器・瓦器・陶器・磁器実測図 (1/4)

(2) 土壌と出土遺物

SK139土壌 (Fig.57)

**位置** AD-7・8区画に検出した。検出面の標高は7.6~7.7mである。他の主要遺構との切り合い関係はない。

**形態** 平面は径2.9~3.1mのやや不整な円形をなす。残存壁高は90cmほどで、壁面はきつく立ち上がる。東側壁面にはなだらかなスロープ部分がある。底面はほぼ平坦だが、微妙な起伏がある。基盤層がⅧ層上部に達すると激しく湧水した。

**埋土** 上層(①~④層)と下層(⑤~⑦層)に分層できた。上層は埋没に伴う自然流入土である。⑤層は人工的な埋土である可能性が高い。⑥・⑦層は自然流入土である。埋土中からはややまとまった量の遺物が出土した。

**出土遺物 (Fig.58)** 埋土中の出土遺物は、上層・下層に分けて取り上げた。土師器・瓦器破片が出土している。

IV. 村徳永遺跡K地区の記録-K1区-

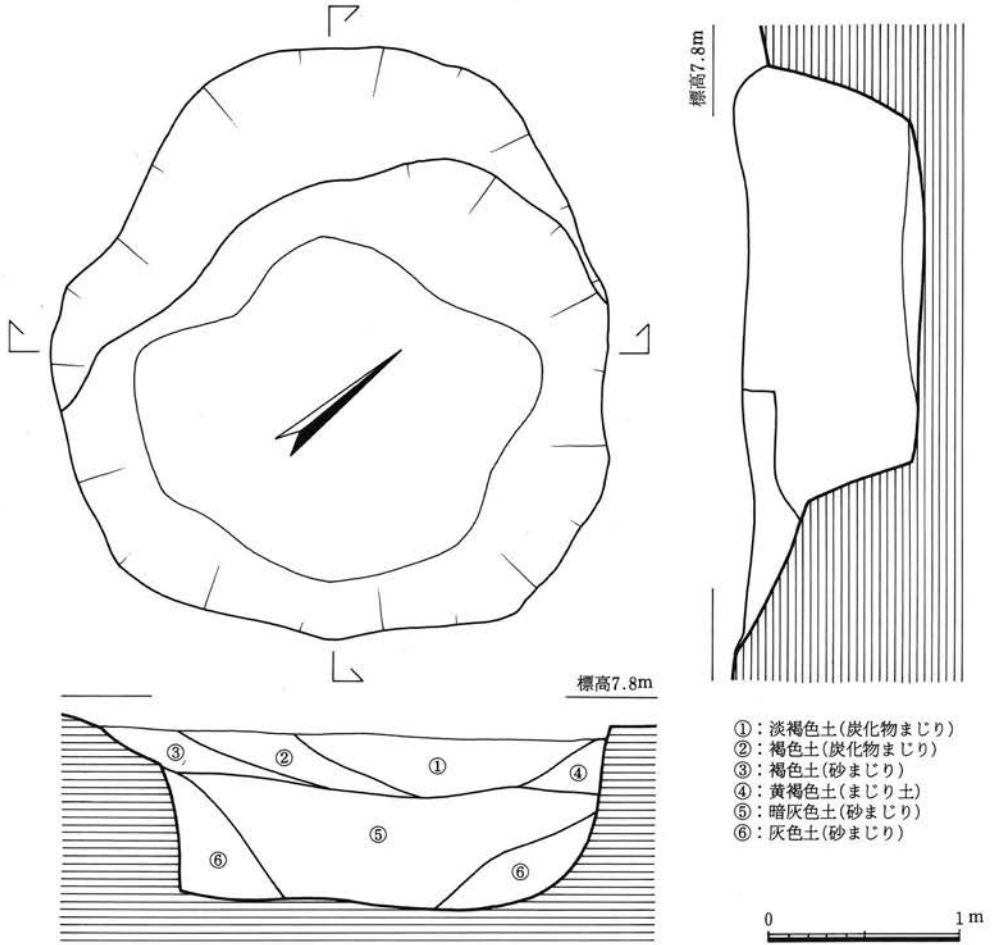


Fig.57 SK139土壌実測図 (1/40)

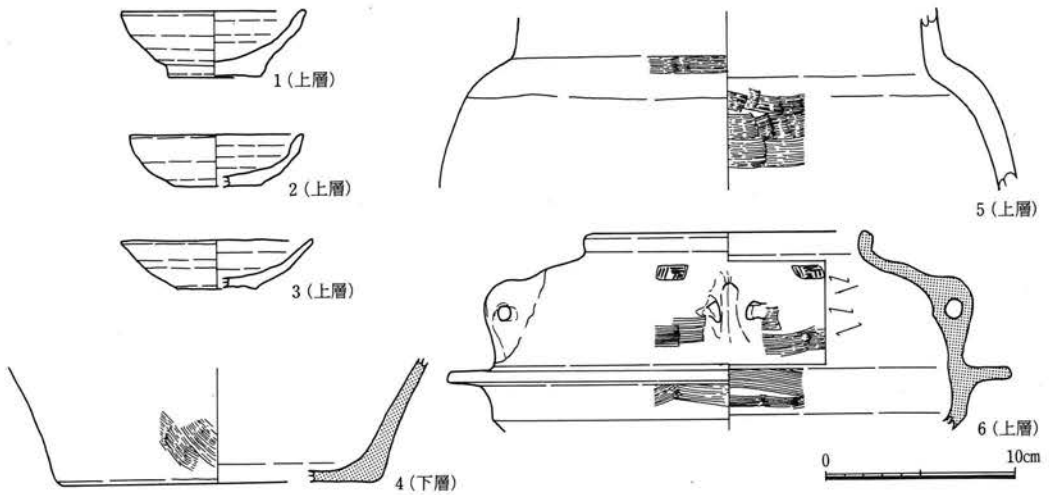


Fig.58 SK139出土土師器・瓦器実測図1 (1/4)

5. 中世の遺構と遺物

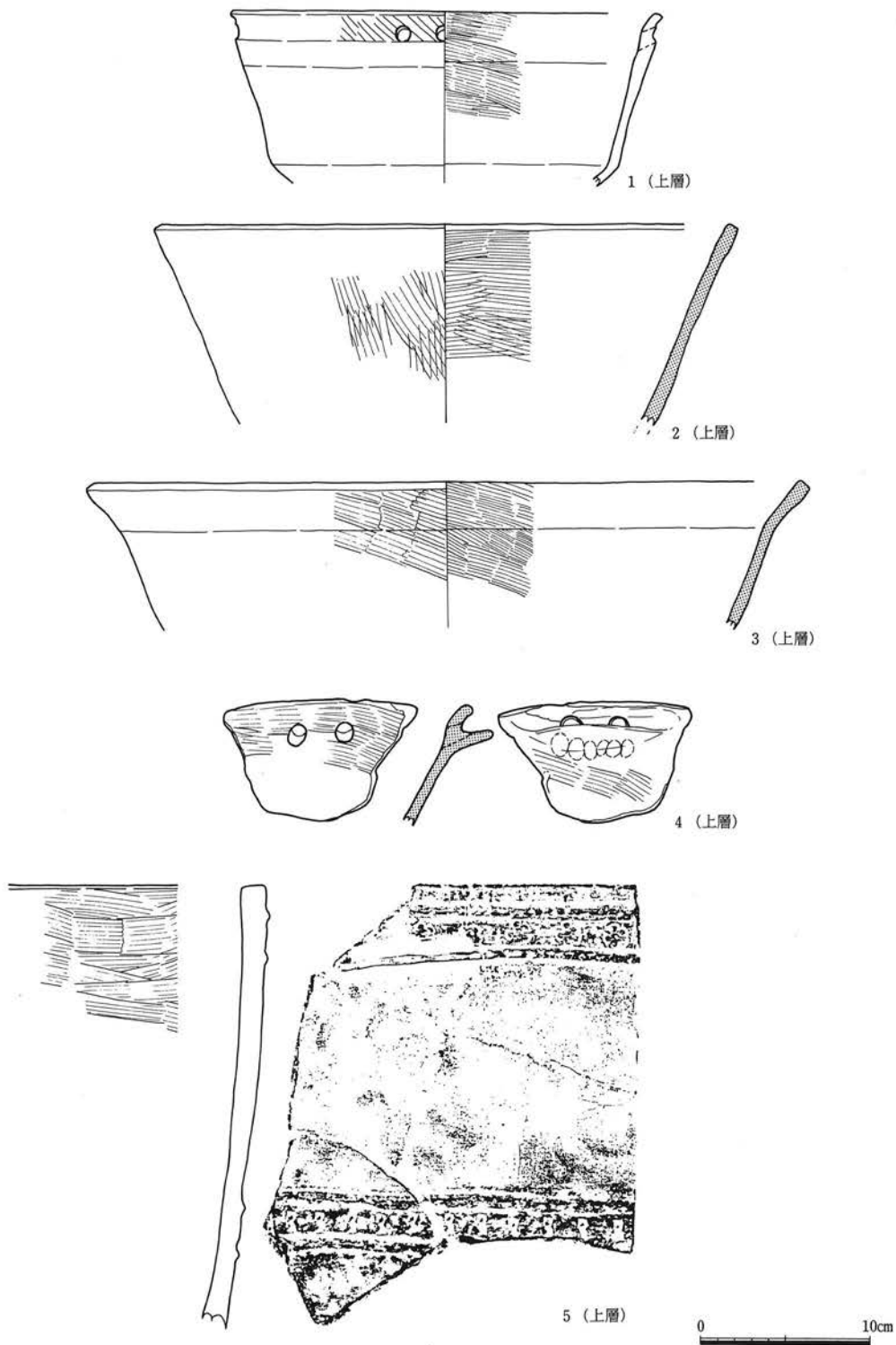


Fig.59 SK139出土土師器・瓦器実測図2 (1/4)

IV. 村徳永遺跡K地区の記録—K1区—

Tab. 1 村徳永遺跡K1区出土遺物一覧

挿図	番号	器種	遺構	特徴	層号
Fig. 10	1	甕	SK115	刻目は爪先によるものか。内外面ともに横方向の板ナデ。	098
	2	甕	SK115	内外面調整不明。	099
	3	甕	SK115	ヘラによる刻目。外面条痕文。	104
	4	甕	SK115	ヘラによる刻目。内外面ともに板ナデ調整。	095
	5	甕	SK115	ヘラによる刻目。外面は横方向の板ナデ、内面は調整不明。	096
	6	甕	SK115	外面に横方向の条痕をもつ。内面は調整不明。	100
	7	甕	SK115	張り出し底部の破片。内面剥離、調整不明。	102
	8	甕	SK115	張り出し底部の破片。内面剥離、調整不明。	103
	9	浅鉢	SK115	器壁磨耗により調整不明。一部に赤塗りの痕跡が残る。	105
	10	浅鉢	SK115	外面は横方向の研磨。内面は強い横ナデ。	106
	11	壺	SK115	内外面ともに横方向の板ナデ。	107
	12	壺	SK115	内外面ともに横方向の研磨。	097
	13	壺	SK115	大形品の底部破片。内外面ともに板ナデ。	108
Fig. 11	1	SD121	刻目はヘラによる。内外面横方向の板ナデ。	153	
	2	SE139	刻目はヘラによる。外面横方向の条痕、内面条痕の後ナデ。	193	
	3	SH104	刻目は爪先か。内外面横方向の板ナデ。	010	
	4	SH106	刻目は刺突による。内外面横方向の板ナデ。	065	
	5	SH107	刻目はヘラによる。内面は板ナデ。	067	
	6	SH114	刻目はヘラによる。内外面横方向の板ナデ。	094	
	7	SH102	刻目は爪先によるものか。内外面ともに横方向の板ナデ。	001	
	8	SH105	あるいは壺か。外底部に木葉跡。内面は縦方向の板ナデ。	026	
	9	SH102	外面ナデ。内面調整不明。	002	
Fig. 12	10	SH102	外面板ナデ。内面ナデ。	003	
	11	SD141	外底部繊維跡らしきものあり。	200	
	1	SH116	安山岩製。打面は自然面が残る。	124	
	2	SH105	安山岩製。基部欠損。	062	
	3	SH111	安山岩製。調整面に自然面が残る。	085	
	4	SH110	安山岩製。	083	
Fig. 16	5	SH109	安山岩製。先端部と茎部が一部欠損。	081	
	6	SH108	安山岩製。茎部がわずかに欠損。	078	
	1	SH103	口縁部横ナデ。外面斜方向のハケ目。内面ナデ。	004	
	2	SH103	口縁部横ナデ。外面斜方向のハケ目。内面ナデ。	005	
	3	SH103	口縁部横ナデ。内外面ナデ。	006	
	4	SH103	口縁部横ナデ。外面横ナデ。内面ナデ。	007	
Fig. 18 Fig. 20	5	SH103	端部横ナデ。外面斜方向のハケ目。内面ナデ。	008	
	6	SH103	端部横ナデ。内外面ナデ。	009	
	1	SH106	口縁部横ナデ。内外面ナデ。内面には指頭痕が残る。	066	
	1	SH107	口縁部横ナデ。内外面ナデ。	068	
	2	SH107	外面ハケ目ナデ消し。内面ナデ。内底部には指頭痕が残る。	076	
	3	SH107	あるいは蓋か。外面縦方向のハケ目。内面ナデ。	075	
	4	SH107	口縁部横ナデ。内外面ナデ。	069	
	5	SH107	口縁部横ナデ。内外面ナデ。	070	
	6	SH107	口縁部内面剥離。調整不明瞭。	071	
Fig. 22	7	SH107	口縁部横ナデ。外面横ナデ。内面ナデ。	072	
	8	SH107	指頭痕が明瞭に残る。外面一部黒斑あり。	073	
	9	SH107	完存。	074	
	1	SH108	口縁部横ナデ。外面縦～斜方向のハケ目。内面ナデ。	077	
	2	SH108	石材不明。先端部欠損。	079	
	Fig. 24	1	SH109	基部欠損	080
		1	SH110	内外面ナデ。外面には指頭痕が残る。	082
	Fig. 26	1	SH111	口縁部横ナデ。外面ハケ目ナデ消し。内面ナデ。	084
	Fig. 28	1	SH116	口縁部横ナデ。外面ハケ目一部ナデ消し。内面ナデ。	110
Fig. 31	2	SH116	口縁部横ナデ。外面ハケ目ナデ消し。内面ナデ、一部に黒斑。	111	
Fig. 32	3	SH116	口縁部横ナデ。外面ハケ目ナデ消し。内面ナデ。	112	
	1	SH116	口縁部横ナデ。外面ハケ目ナデ消し。内面ナデ。	113	
	2	SH116	外面ハケ目ナデ消し、一部黒斑あり。内面ナデ。	114	
	3	SH116	外面ハケ目ナデ消し。内面ナデ。外底部に黒斑あり。	117	
	4	SH116	口縁部横ナデ。外面横ナデ。内面ナデ、指頭痕が残る。	116	
	5	SH116	長頸壺の頸部。外面、暗紋不明瞭、赤塗り。	115	
Fig. 34	6	SH116	端部横ナデ。外面ナデ。内面ナデ、指頭痕が残る。	118	
	1	SK114	口縁部横ナデ。外面縦方向のナデ。内面斜～縦方向のナデ。	091	
	2	SK114	外面暗紋不明瞭、赤塗り。内面ナデ、上部に指頭痕が残る。	093	
Fig. 37	3	SK114	口縁部横ナデ。外面ナデ、指頭痕が残る。内面ナデ。	092	
	1	SH105	口縁部横ナデ。外面斜方向ハケ目。内面斜方向ヘラ削り。	011	
	2	SH105	外面縦方向ハケ目。内面斜方向ヘラ削り、上部横ナデ。	015	
	3	SH105	外面縦方向ハケ目。内面斜方向ヘラ削り、上部横ナデ。	016	
	4	SH105	口縁部横ナデ。外面斜方向ハケ目。内面横方向ヘラ削り。	021	
	5	SH105	口縁部横ナデ。外面斜方向ハケ目。内面斜方向ヘラ削り。	019	
	6	SH105	口縁部横ナデ。外面斜方向ハケ目。内面斜方向ヘラ削り。	012	
	7	SH105	口縁部横ナデ。外面ハケ目ナデ消し。内面斜方向ヘラ削り。	014	
8	SH105	内外面横方向ヘラミガキ。内面上部横ナデ。	022		

	9	甕	SH105	口縁部横ナデ。外面横～斜方向ハケ目。内面ヘラ削り。	017
	10	甕	SH105	口縁部内面横ナデ。外面縦方向ハケ目。内面斜方向ヘラ削り。	018
	11	甕	SH105	口縁部内面横ナデ。外面縦方向ハケ目。内面斜方向ヘラ削り。	013
	12	甕	SH105	口縁部横ナデ。外面ハケ目ナデ消し。内面横方向ヘラ削り。	020
	13	甕	SH105	外面ハケ目ナデ消し。内面ヘラ削りとナデ。	023
	14	甕	SH105	外面ハケ目ナデ消し。内面ナデ。	024
	15	甕	SH105	外面ハケ目ナデ消し。内面ナデ。	027
Fig. 38	1	鉢	SH105	口縁上部横ナデ。内外面横～斜方向ヘラミガキ。	031
	2	鉢	SH105	口縁部横ナデ。外面ハケ目ナデ消し。内面ナデ。	032
	3	鉢	SH105	口縁部横ナデ。内外面横～斜方向ヘラミガキ。	034
	4	鉢	SH105	口縁部横ナデ。内外面横～斜方向ヘラミガキ。	035
	5	鉢	SH105	内外面横方向ヘラミガキ。	036
	6	鉢	SH105	内外面赤塗り、ヘラミガキ不明瞭。	037
	7	鉢	SH105	内外面赤塗り、ヘラミガキ不明瞭。	038
	8	鉢	SH105	内外面ナデ。	030
	9	鉢	SH105	内外面横方向ヘラミガキ。	041
	10	鉢	SH105	口縁部内面横ナデ。内外面横方向ヘラミガキ。	042
	11	鉢	SH105	口縁部横ナデ。外面ハケ目ナデ消し。内面ヘラミガキ不明瞭。	043
	12	鉢	SH105	口縁部横ナデ。外面ヘラミガキ不明瞭。内面ナデ。	044
	13	鉢	SH105	口縁部横ナデ。外面ヘラミガキ不明瞭。内面ナデ。	045
	14	鉢	SH105	口縁部横ナデ。内外面ナデ。	046
	15	鉢	SH105	口縁部横ナデ。内外面ナデ。	047
	16	鉢	SH105	外面ナデ。内面棒状のものによる擦過痕。	040
	17	鉢	SH105	内外面調整不明瞭。	033
	18	手捏	SH105	外面ナデ、一部黒斑あり。内面指押さえ。	039
	19	手捏	SH105	外面ナデ。内面指押さえ。	052
	20	手捏	SH105	外面ナデ。内面指押さえ。	053
	21	手捏	SH105	内外面ナデ。	055
	22	手捏	SH105	外面ナデ。内面指押さえ。	054
	23	高杯	SH105	脚部。外面ナデ。内面ヘラ削り。	028
	24	高杯	SH105	脚台部。外面ハケ目ナデ消し。内面ハケ目。上部穿孔あり。	029
	25	支脚	SH105	内部充填。外面ナデ。	049
	26	支脚	SH105	内部充填。外面ナデ。	048
Fig. 39	1	杯	SH105	口縁部回転ナデ。外面2/3回転ヘラ削り。内面回転ナデ。	058
	2	高杯	SH105	内外面回転ナデ。	057
	3	瓶	SH105	外面格子タタキ目。内面円弧タタキ目。	059
	4	瓶	SH105	外面平行タタキ目。内面円弧タタキ目。	060
	5	瓶	SH105	外面格子タタキ目。内面円弧タタキ目。	061
	6	不明製品	SH105	内外面指押さえ。	056
	7	甌	SH105	把手部分。指押さえ。	051
	8	甌	SH105	底部。内外面ナデ。	050
	9	砥石	SH105	砂岩系。1面使用。	063
	10	紡錘車	SH105	石材不明。	064
Fig. 42	1	甕	SK113	口縁部横ナデ。外面斜方向ハケ目。内面斜方向ヘラ削り。	087
	2	甕	SK113	外面ハケ目ナデ消し。内面斜方向削り。	088
	3	甕	SK113	把手付。外面上部ハケ目、下部ナデ消し。内面ヘラ削り。	086
	4	手捏	SK113	外面ナデ。内面指押さえ。	090
Fig. 43	5	高杯	SK113	脚部。端部横ナデ。内外面ナデ。	089
	1	手捏	SK131	内外面ナデ。	156
	2	甕	SK131	口縁部横ナデ。外面ナデ。内面斜方向ヘラ削り。	154
	3	甕	SK131	口縁部横ナデ。外面ナデ。内面横方向ヘラ削り。	155
Fig. 45	1	甕	SK132	外面縦方向ハケ目。内面上部横ナデ、下部ヘラ削り。	157
	2	甕	SK132	口縁部横ナデ。外面横方向ハケ目。内面横方向ヘラ削り。	158
	3	甕	SK132	外面斜方向ハケ目。内面ナデ。	159
Fig. 47	1	杯蓋	SK133	口縁部回転ナデ。天井部2/3回転ヘラ削り。内面回転ナデ。	160
	2	甕	SK133	口縁部外面横ナデ、内面ハケ目。外面ハケ目。内面ヘラ削り。	162
	3	甕	SK133	口縁部横ナデ。外面ハケ目。内面ヘラ削り。	161
	4	瓶	SK134	外面平行タタキ目。内面円弧タタキ目。	164
	5	瓶	SK134	口縁部外面横ナデ、内面ハケ目。外面ハケ目。内面ヘラ削り。	163
Fig. 49	1	甕	SK135	外面上部回転ナデ、下部1/3回転ヘラ削り。内面回転ナデ。	165
	2	台付鉢	SK135	外面ハケ目ナデ消し。内面不明瞭なヘラミガキ。	166
	3	手捏	SK135	外面指押さえ。内面ナデ。	170
	4	鉢	SK135	口縁部横ナデ。内外面ナデ。	169
	5	甕	SK135	口縁部横ナデ。外面ハケ目ナデ消し。内面ヘラ削り。	167
	6	甕	SK135	外面平行タタキ目。内面円弧タタキ目。	168
Fig. 51	1	鉢	SK138	内外面横方向のヘラミガキ不明瞭。	176
	2	鉢	SK138	口縁部横ナデ。外面ハケ目ナデ消し。内面ナデ。	177
	3	鉢	SK138	外面横方向のハケ目不明瞭。内面ナデ。	178
	4	甕	SK138	胴部穿孔あり。口縁部・胴部外面ヘラミガキ。胴部内面ナデ。	172
	5	鉢	SK138	口縁部横ナデ。外面ナデ。内面調整不明。	171
	6	鉢	SK138	口縁部横ナデ。外面ヘラミガキ。内面ナデ。	173
	7	甕	SK138	口縁部横ナデ。外面ハケ目、一部黒斑あり。内面ナデ。	174
	8	甕	SK138	口縁部横ナデ。内面ヘラミガキ。外面調整不明。	175
	9	甕	SK138	口縁部横ナデ。	180
	10	手捏	SK138	内外面指押さえ。	179

IV. 村徳永遺跡K地区の記録—K1区—

Fig. 53	1	杯	SD121	体部回転ナデ。内底部ナデ。外底部ヘラ切り後ナデツケ。	125
	2	杯	SD121	体部回転ナデ。内底部ナデ。外底部ヘラ切り後ナデツケ。	126
	3	杯	SD121	体部回転ナデ。内底部ナデ。外底部ヘラ切り後ナデツケ。	127
	4	杯	SD121	体部回転ナデ。内底部ナデ。外底部ヘラ切り後ナデツケ。	128
	5	杯	SD121	体部回転ナデ。内底部ナデ。外底部ヘラ切り後ナデツケ。	129
	6	杯	SD121	体部回転ナデ。内底部ナデ。外底部ヘラ切り後ナデツケ。	130
	7	杯	SD121	体部回転ナデ。内底部回転ナデ。外底部ヘラ切り後ナデツケ。	131
	8	杯	SD121	体部回転ナデ。内底部ナデ。外底部ヘラ切り後ナデツケ。	132
	9	高台付杯	SD121	体部回転ナデ。内底部ナデ。外底部ナデツケ。	135
	10	高台付杯	SD121	体部回転ナデ。内底部ナデ。外底部ナデツケ。	138
	11	高台付杯	SD121	体部回転ナデ。内底部ナデ。外底部ナデツケ。	137
	12	高台付杯	SD121	体部回転ナデ。内底部ナデ。外底部ナデツケ。	136
	13	高台付杯	SD121	体部回転ナデ。内底部ナデ。外底部ヘラ削り。	139
	14	高台付杯	SD121	体部回転ナデ。	140
	15	高台付杯	SD121	体部回転ナデ。内底部回転ナデ。外底部回転ナデ。	142
	16	高台付杯	SD121	体部回転ナデ。内底部ナデ。外底部ナデツケ。	141
	17	高台付杯	SD121	内底部ヘラミガキ不明瞭。外底部回転ナデ。	143
	18	高台付杯	SD121	内面ヘラミガキ不明瞭。外面ヘラミガキ。外底部回転ナデ。	144
19	杯	SD121	内外面回転ナデ。	133	
20	杯蓋	SD121	内外面回転ナデ。	145	
21	杯蓋	SD121	天井部1/3回転ヘラ削り。他は回転ナデ。	146	
22	盤	SD121	内外面回転ナデ。	147	
23	高杯	SD121	外面赤塗り、横ナデ。内面ヘラ削り。	152	
24	鉢	SD121	外面ヘラミガキ不明瞭。内面ナデ。内底部に指頭痕。	134	
25	皿	SD121	体部・内底部回転ナデ。外底部ヘラ切り後ナデツケ。	148	
26	皿	SD121	体部・内底部回転ナデ。外底部ヘラ切り後ナデツケ。	149	
27	皿	SD121	黒色土器か? 体部・内底部ヘラミガキ。外底部ナデ。	150	
28	甕	SD121	口縁部横ナデ。外面ハケ目。内面ヘラ削り。	151	
Fig. 56	1	皿	SD141	釉は灰青色。	194
	2	鉢	SD141	内外面ナデ。	198
	3	鉢	SD141	外面ハケ目を一部ナデ消し。内面ハケ目。	199
	4	皿?	SD141	体部回転ナデ。外底部回転糸切り。	195
	5	鉢?	SD141	濃褐色の釉がかかる。内外面回転ナデ。	196
Fig. 58	6	播鉢	SD141	濃褐色の釉がかかる。内外面回転ナデ。播目は4本?	197
	1	皿	SK139	体部内外面回転ナデ。内底部ナデ。外底部回転糸切り。	189
	2	皿	SK139	体部内外面回転ナデ。内底部回転ナデ。外底部回転糸切り。	190
	3	皿	SK139	体部内外面回転ナデ。内底部ナデ。外底部回転糸切り。	191
	4	播鉢	SK139	外面ハケ目ナデ消し。内面ハケ目ナデ消し。	182
Fig. 59	5	湯釜?	SK139	外面ハケ目ナデ消し。内面ハケ目。	188
	6	湯釜	SK139	外面ハケ目ナデ消し。上部に印刻文。内面ハケ目。	181
	1	鍋	SK139	外面ハケ目ナデ消し。内面ハケ目。	187
	2	鍋	SK139	外面ハケ目ナデ消し。内面ハケ目。	184
	3	鍋	SK139	内外面ハケ目。	185
4	鍋	SK139	把手部分。内外面ハケ目。	186	
5	火鉢	SK139	外面ナデ、印刻文あり。内面上部ハケ目、下部ナデ。	183	

V. 村徳永遺跡K地区の記録—K2区—

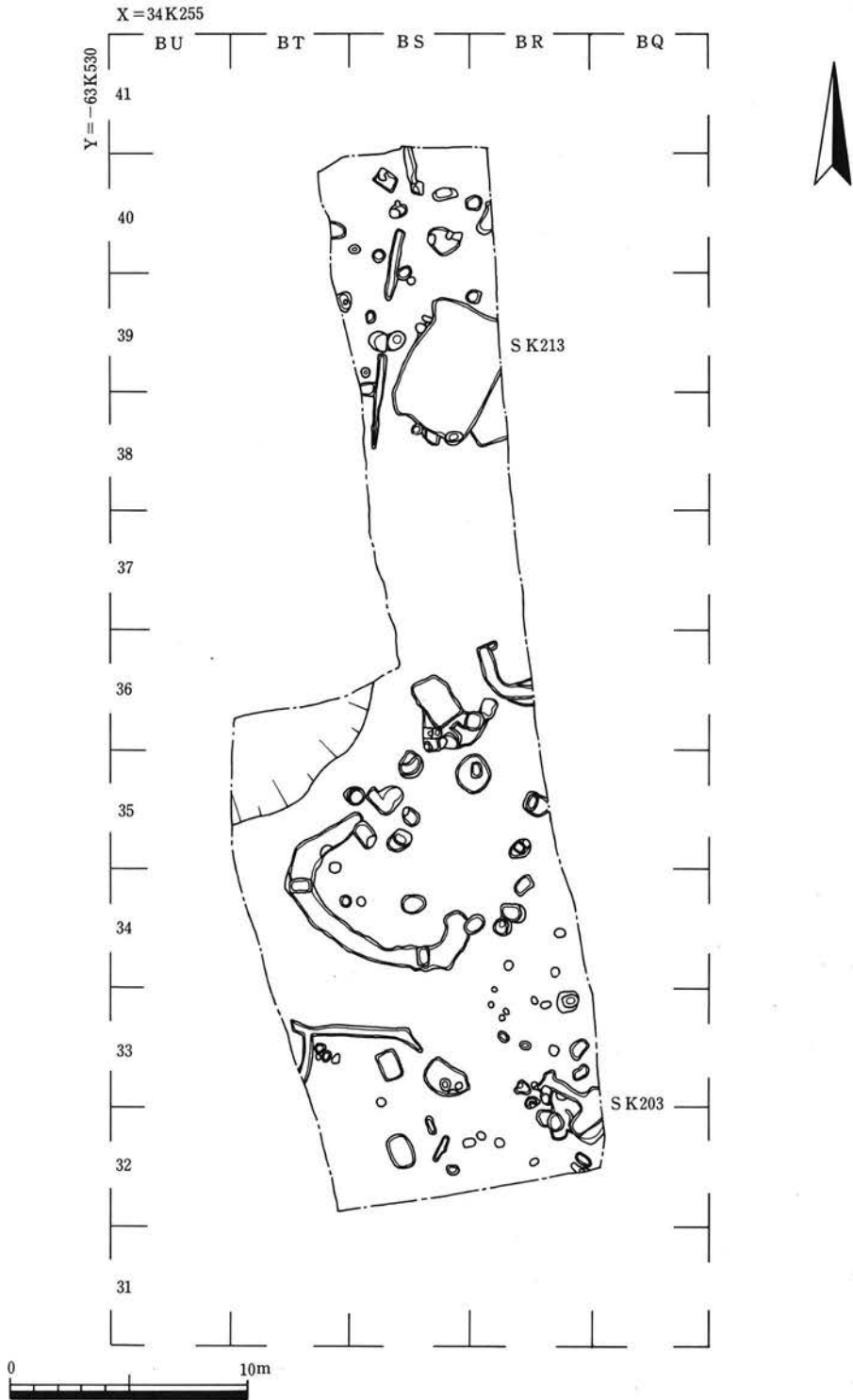


Fig.60 村徳永遺跡 K2区遺構配置図 (1/300)

## V. 村徳永遺跡K地区の記録—K2区—

### 1. 弥生時代の遺構と遺物

#### (1) 竪穴住居と出土遺物

#### SH213 竪穴住居 (Fig.61)



Fig.61 SH213竪穴住居実測図 (1/40)

1. 弥生時代の遺構と遺物

**位置** BS・BR-38・39区画に検出した。検出面の標高は8.5m前後である。一部が調査区外に展開する。

**形態** 平面は長辺5.5m・短辺3.7mの隅丸長方形をなすと思われる。残存壁高は15~20cmほどである。

**埋土** ①~③層が住居埋没に伴う自然流入土である。埋土にはごく少数の遺物が含まれていた。⑥層は床面直上に薄く広がるもので、住居使用時の生活汚染の痕跡と判断する。

**床面** ⑦層が床面整地層で、住居北側と西側の床面を形成している。

**炉** 床面を精査した段階で、住居中央でくぼみを検出した。埋土は④・⑤層である。⑥層がくぼみに落ち込んでいることと、⑤層はカーボンを含んでいたことから、炉と判断する。

**柱穴** それらしいものは検出していない。

**住居内土壌** 床面を精査した段階で、東側ほぼ壁中央で小規模な土壌を検出した。住居内埋土の②・③層と、⑥層が土壌内に落ち込んでいたは、この土壌が住居使用時にはく穴>として機能していたことを示唆している。

**出土遺物 (Fig. 62)** 住居内埋土から、ごく少数の弥生土器片が出土した。

(2) 土壌と出土遺物

SK203土壌 (Fig. 63)

**位置** BQ-32・BQ-33・BR-32・BR-33区画に検出した。検出面の標高は8.5m前後である。東側の一部が調査区外に展開する。

**形態** 平面は不整形を2個合わせた形で、長軸2.7m・短軸2.3m以上をはかる。2段掘りの形状をなし、残存壁高は1段目で10cm、2段目で30~40cmほどである。壁面は1段目でゆるく立ち上がり、2段目ではきつく立ち上がる。底面は、1段目・

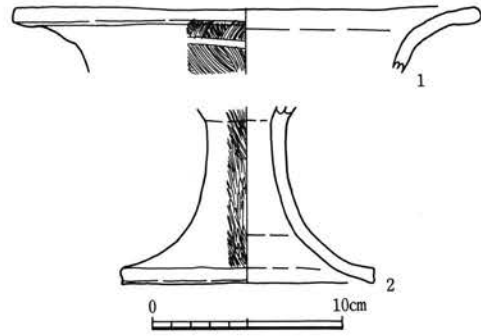


Fig.62 SH213出土弥生土器実測図 (1/4)

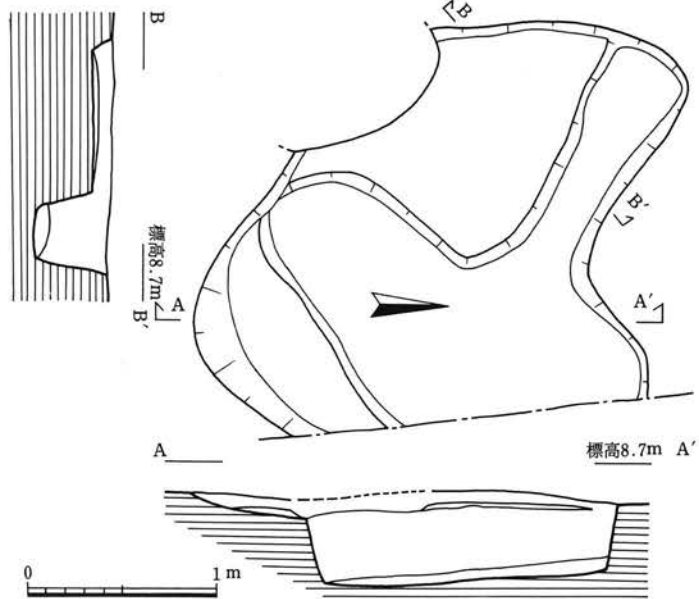


Fig.63 SK203土壌実測図 (1/40)

V. 村徳永遺跡K地区の記録—K2区—

2段目ともにほぼ平坦である。

**埋土** 上部で暗褐色土、下部で黒褐色土である。埋没に伴う自然堆積によるものか。埋土下部から底面にかけて、多量の遺物が出土した。

**出土遺物 (Fig. 64~66)** 埋土下部から底面にかけて、多量の弥生土器破片と砥石1個が出土した。一括投棄によるものと判断する。

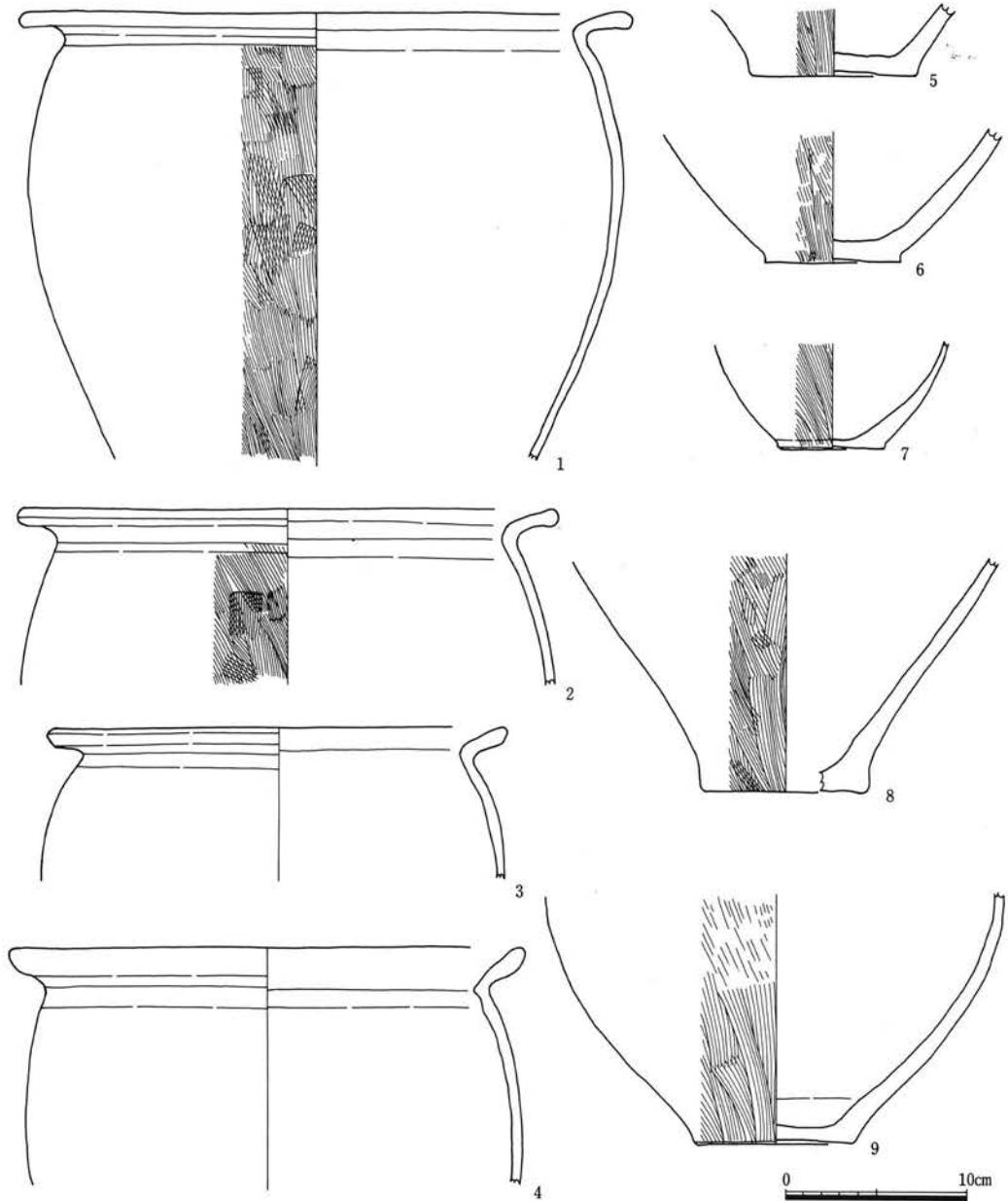


Fig.64 SK203出土弥生土器実測図 1 (1/40)

1. 弥生時代の遺構と遺物

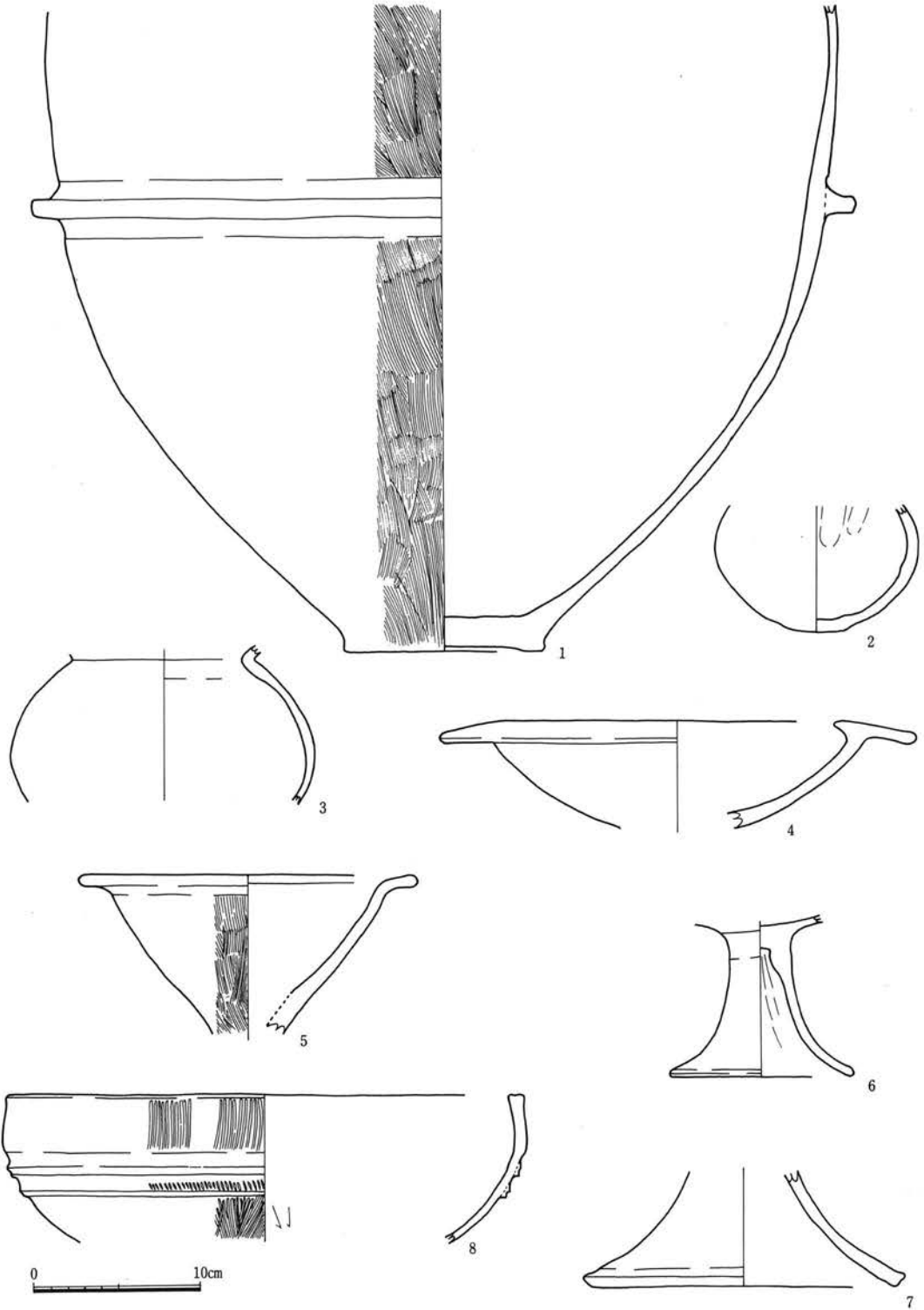


Fig.65 SK203出土弥生土器実測図2 (1/4)

V. 村徳永遺跡K地区の記録—K2区—

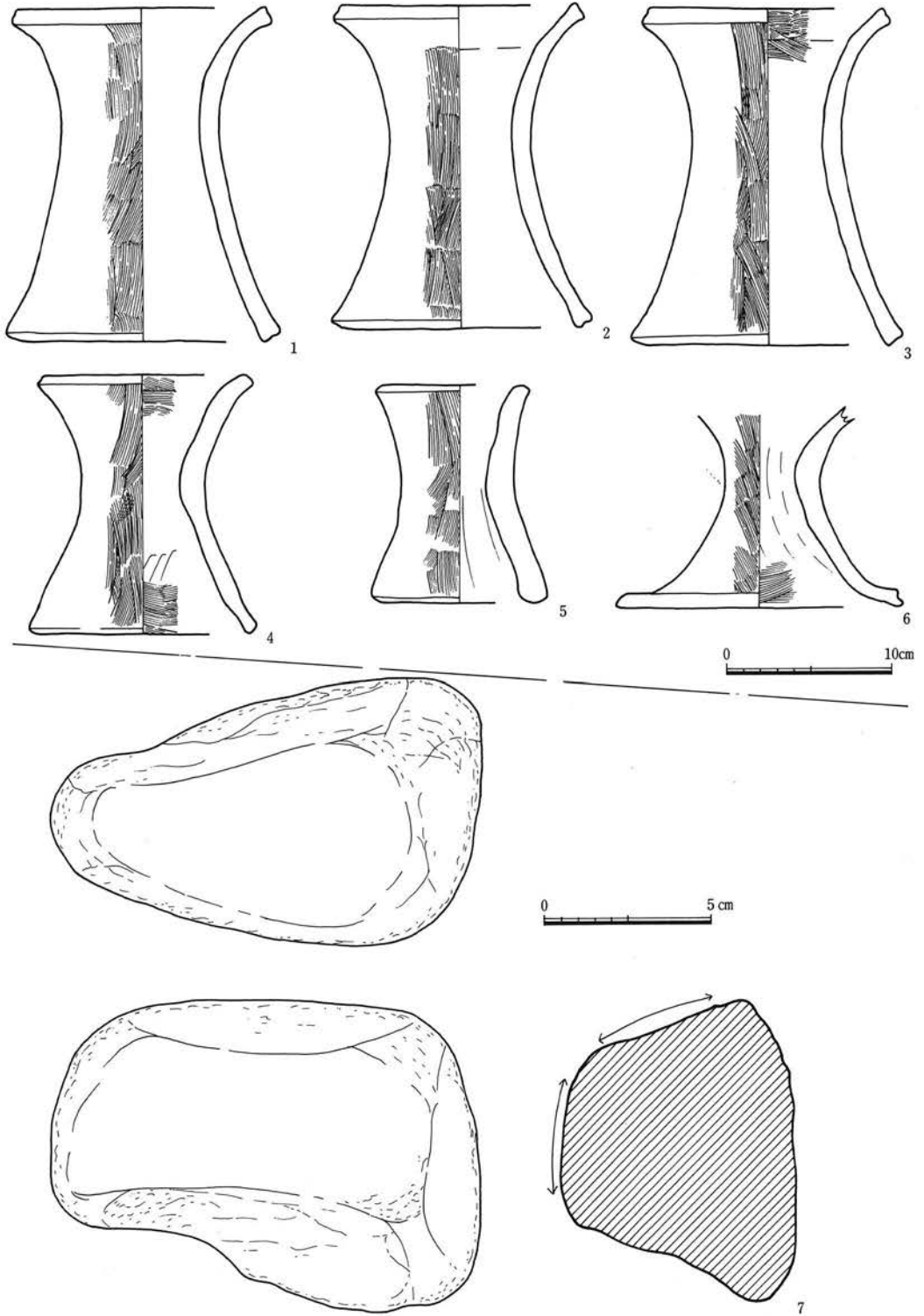


Fig.66 SK203出土弥生土器・石製品 (1/4・1/2)

1. 弥生時代の遺構と遺物

(3) その他の出土遺物 (Fig.67)

ここでは、主要遺構以外から出土した弥生土器・土製品のうち、特徴的なものを提示する。

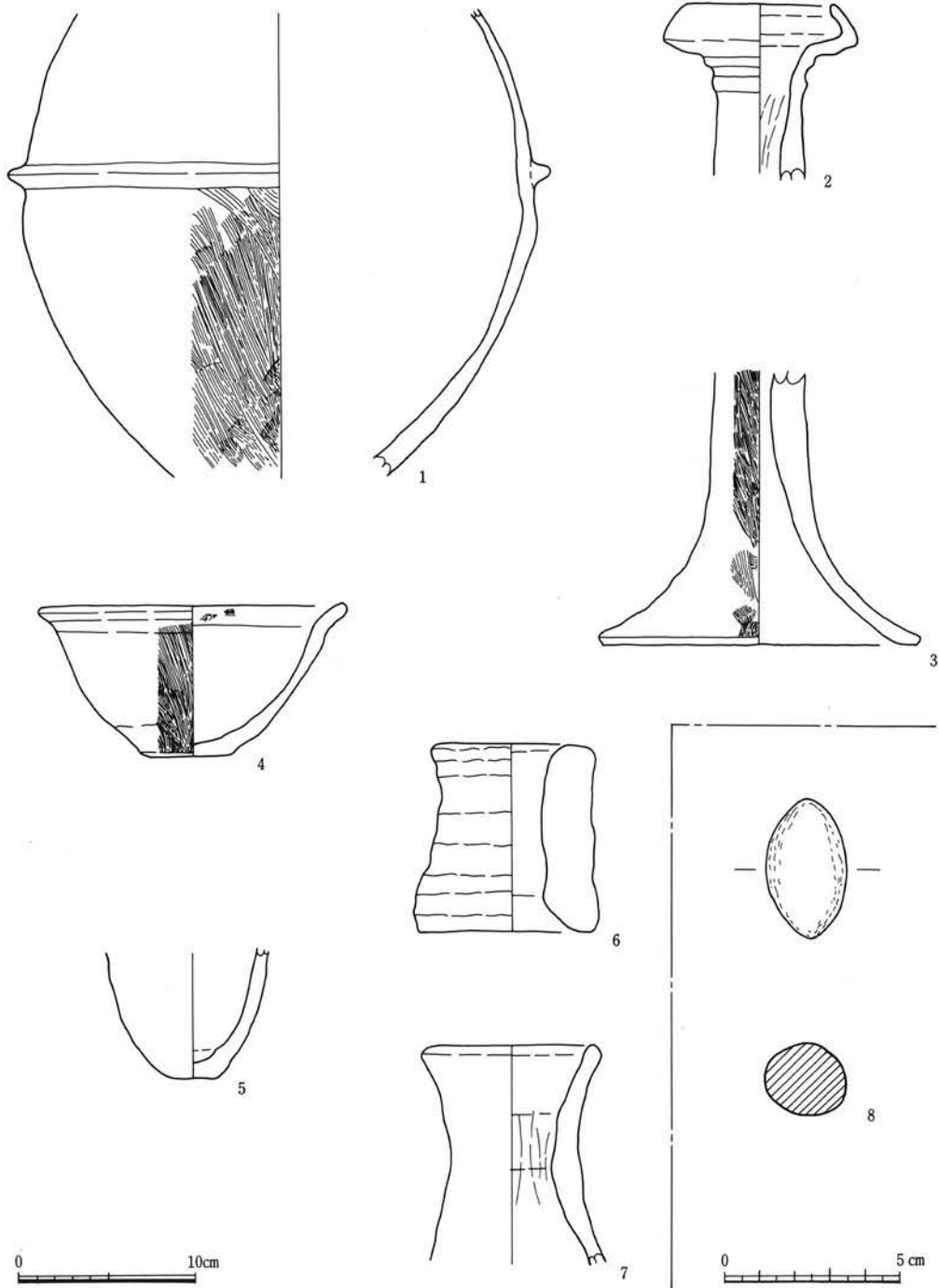


Fig.67 K 2 区出土弥生土器・土製品実測図 (1/4・1/2)

V. 村徳永遺跡K地区の記録—K2区—

Tab. 2 村徳永遺跡K2区出土遺物一覧

挿図	番号	器種	遺構	特徴	目録番号
Fig. 62	1	壺	SH213	端部横ナデ。外面斜方向の細かいハケ目。内面ナデ。	229
	2	高杯	SH213	外面斜～縦方向の細かいヘラミガキ。内面ナデ。	230
Fig. 64	1	甕	SK203	口縁部横ナデ。外面斜方向のハケ目。内面ナデ。	204
	2	甕	SK203	口縁部横ナデ。外面斜方向のハケ目。内面ナデ。	205
	3	甕	SK203	口縁部横ナデ。外面ハケ目をナデ消し。内面ナデ。	203
	4	甕	SK203	口縁部横ナデ。外面ハケ目をナデ消し。内面ナデ。	206
	5	甕	SK203	外面斜方向のハケ目。内面ナデ。	210
	6	甕	SK203	外面斜方向のハケ目。内面ナデ。	211
	7	甕	SK203	外面斜方向のハケ目。内面ナデ。	212
	8	甕	SK203	外面斜方向のハケ目。内面ナデ。	207
Fig. 65	9	甕	SK203	外面斜方向のハケ目。内面ナデ。	208
	1	壺	SK203	外面斜方向のハケ目。内面ナデ。	209
	2	壺	SK203	内外面ナデ。内面上部に指頭痕が残る。	214
	3	壺	SK203	内外面ナデ。	213
	4	高杯	SK203	器壁磨耗のため、調整不明瞭。	215
Fig. 66	5	高杯	SK203	あるいは鉢か。口縁部横ナデ。外面ハケ目。内面ナデ。	216
	6	高杯	SK203	外面調整不明瞭。内面上部はヘラ状工具の擦過痕、下部ナデ。	218
	7	高杯	SK203	外面調整不明瞭。内面ナデ。	217
	8	鉢	SK203	外面ヘラミガキ。内面ヘラミガキ不明瞭。	219
	1	器台	SK203	端部横ナデ。外面ハケ目。内面ナデ。	220
	2	器台	SK203	端部横ナデ。外面ハケ目、上部ナデ消し。内面ナデ。	221
	3	器台	SK203	端部横ナデ。外面ハケ目。内面ナデ、上部はハケ目。	222
	4	器台	SK203	端部横ナデ。外面ハケ目。内面ナデ、上下端はハケ目。	223
Fig. 67	5	器台	SK203	端部横ナデ。外面ハケ目。内面ナデ。	225
	6	器台	SK203	端部横ナデ。外面ハケ目。内面ナデ、下端はハケ目。	224
	7	砥石	SK203	砂岩系石材。2面に擦過痕。	226
	1	甕	S 215	外面ハケ目、上部はナデ消し。内面ヘラ状工具による擦過痕。	233
	2	甕	表採	外面ヘラミガキ不明瞭。内面上部ナデ、下部擦過痕。	238
	3	高杯	S 216	外面ハケ目。内面上部擦過痕、下部ナデ。	235
	4	鉢	P2038	口縁部横ナデ。外面ハケ目。内面ナデ。	236
	5	鉢?	S 215	内外面指押さえ。	234
	6	器台	P2040	端部横ナデ。外面横ナデ。内面指押さえ。	237
	7	器台	S 212	端部横ナデ。外面ハケ目ナデ消し。内面擦過痕。	228
8	投擲	S 209	指押さえ。	227	

IV. 村徳永遺跡K地区の記録—K3区—

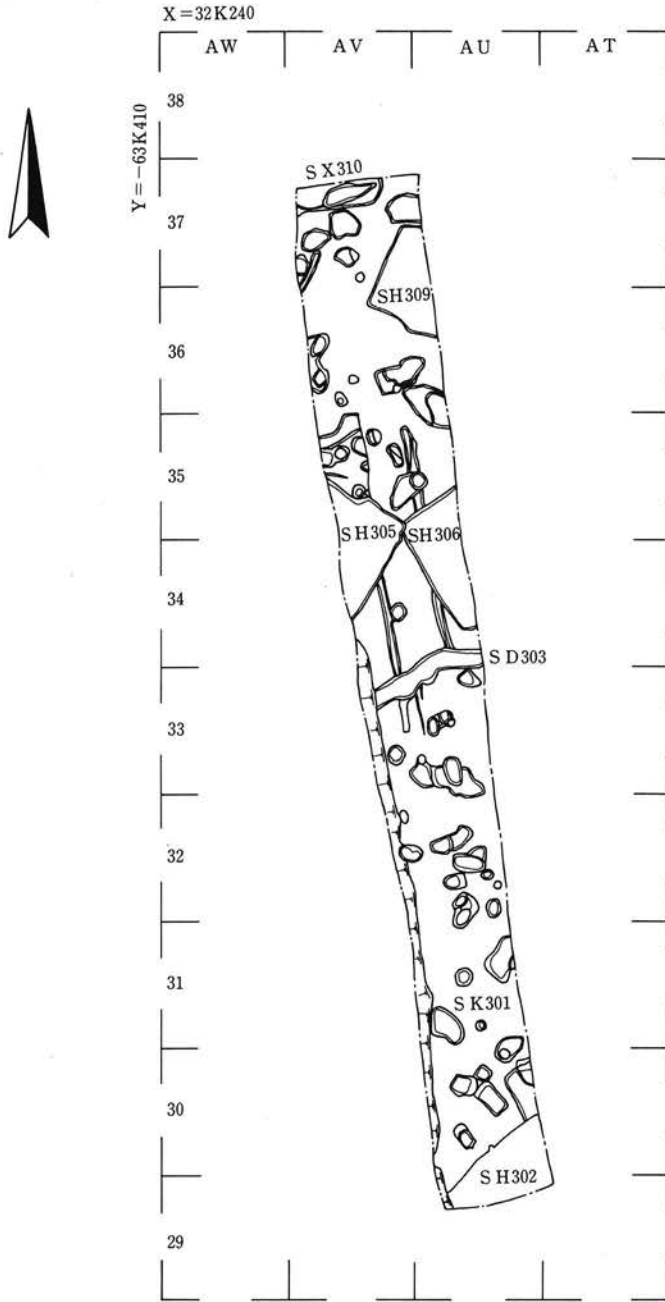


Fig.68 村徳永遺跡K3区遺構配置図 (1/300)

## VI. 村徳永遺跡K地区の記録—K3区—

### 1. 弥生時代の遺構と遺物

#### (1) 竪穴住居と出土遺物

#### SH302 竪穴住居 (Fig.69)

位置 AT-29・AT-30・AU-29・AU-30区画に検出した。他の主要遺構との切り合い関係

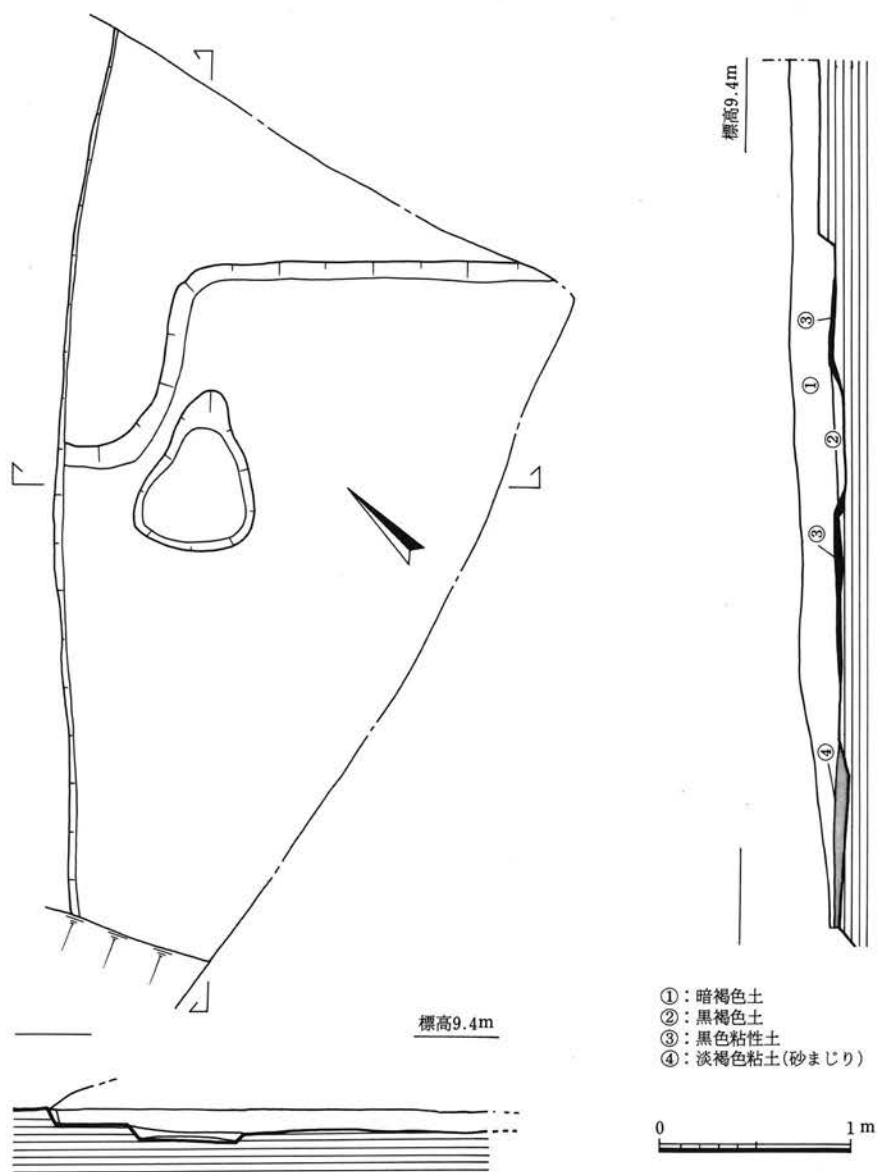


Fig.69 SH302竪穴住居実測図 (1/40)

### 1. 弥生時代の遺構と遺物

はない。検出面の標高は8.9～9.2mである。遺構の大部分が調査区外に展開し、西側は削平が著しく攪乱を受けている。

**形態** 平面は長辺4.6m以上・短辺2.7m以上の長方形をなすと思われる。残存壁高は5～20cmほどである。北東側辺に地山削り出しの段状部をもち、床面との比高は10cmほどである。

**埋土** ①層が住居埋没に伴う自然流入土と判断する。③層は床面に薄く広がるもので、住居使用時の生活汚染の痕跡と判断する。①層にはごく少数の遺物が含まれていた。

**床面** ④層が床面整地層で、住居西側の床面を形成していた。

**柱穴** それらしいものは検出していない。

**炉** 床面を精査した段階で、住居北側の段状部近くで、浅いくぼみを検出した。埋土は②層で、その下に③層が落ち込んでいた。出土遺物はない。③層の堆積状況から住居使用時にはくぼみ>として存在したものと判断でき、炉である可能性はあるが、炭・焼土・床面の赤変などは認められない。

**出土遺物** 住居内埋土からわずかな弥生土器片が出土しているが、細片で図化できない。

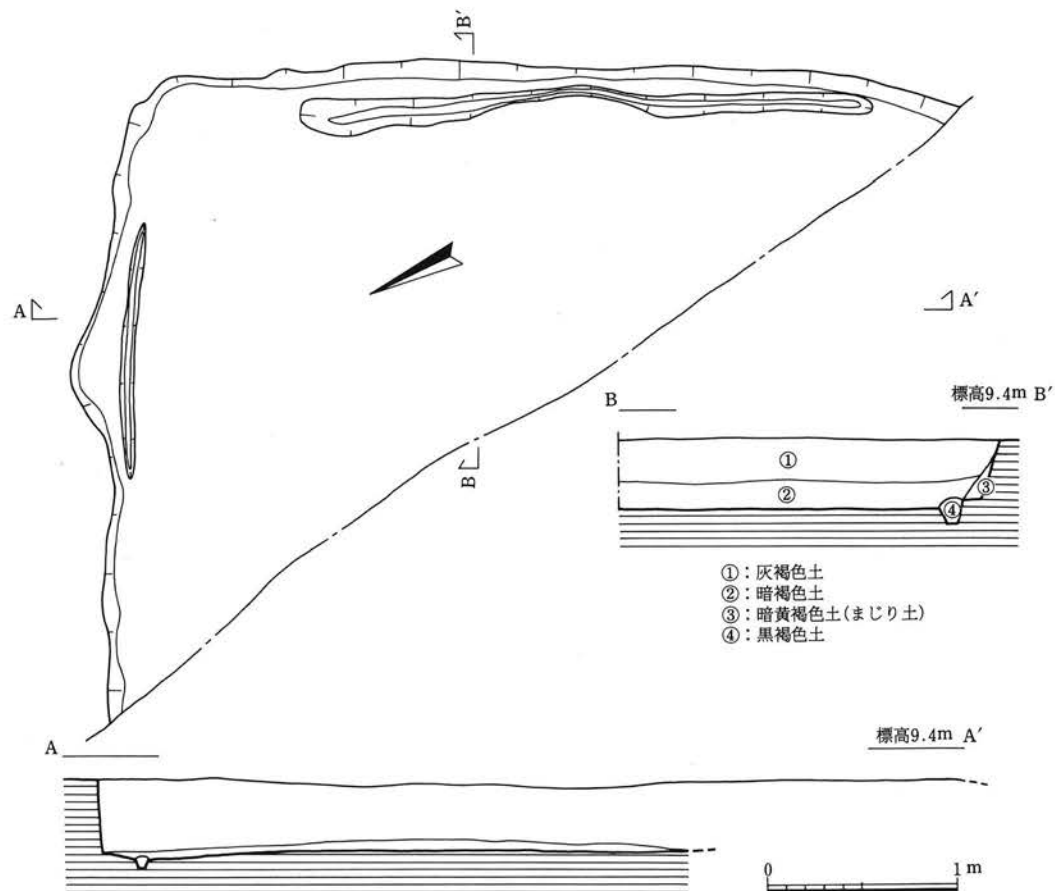


Fig.70 SH305竪穴住居実測図 (1/40)

SH305 竪穴住居 (Fig.70)

**位置** AV-34・35区画に検出した。検出面の標高は9.2~9.3mである。SH306と切り合い関係にあり、SH305が後出する。遺構の西側2/3以上が調査区外に展開する。

**形態** 平面形は辺4.4m以上の正方形ないし長方形をなすと思われる。残存壁高は40cmほどである。部分的に壁面が崩落していた。

**埋土** ①・②層は、住居埋没に伴う自然流入土と判断する。③層は壁面崩落土である。住居内埋土には少数の遺物が含まれていた。

**床面** 住居北側の一部は、暗黄褐色砂質土を叩き締めて、床面整地層を形成していた。

**炉・柱穴** それらしいものは検出していない。

**壁溝** 床面を精査した段階で、東側と北側の壁の一部に沿って壁溝を検出した。埋土は④

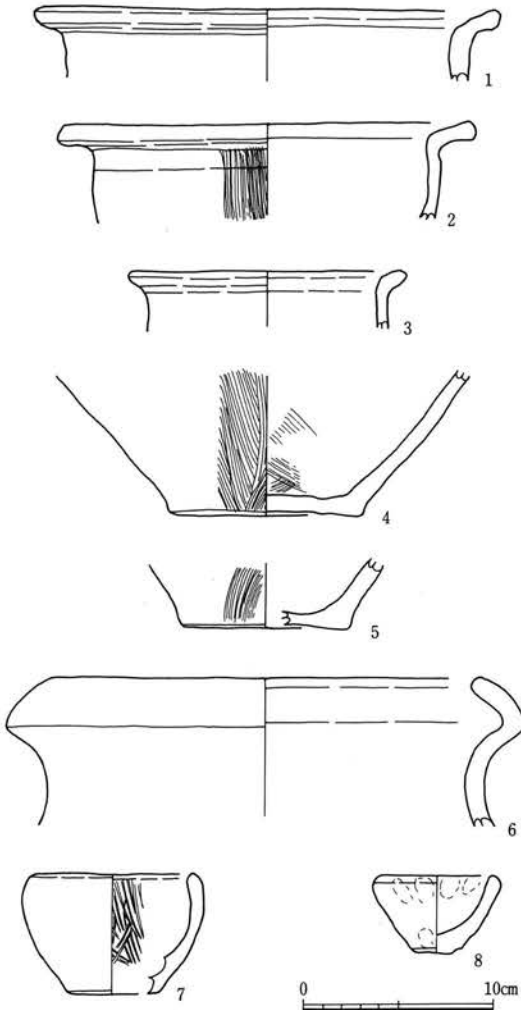


Fig.71 SH305出土弥生土器実測図 (1/4)

層である。出土遺物はない。

**出土遺物** (Fig.71) 住居内埋土から少数の弥生土器破片が出土している。住居埋没に伴う流れ込みと判断する。

SH306 竪穴住居 (Fig.72)

**位置** AV-35・AU-34・AU-35区画に検出した。検出面の標高は9.3m前後である。SH305と切り合い関係にあり、SH306が先行する。遺構の大部分は東側の調査区外に展開する。

**形態** 平面は長辺5.1m以上・短辺5.1mの長方形をなすと思われる。残存壁高は20cmほどである。西側壁に地山削り出しの段状部をもつ。床面との比高は7~10cmほどある。

**埋土** 褐色~淡褐色土で、住居埋没に伴う自然流入土と判断する。住居内埋土には、ややまとまった量の遺物が含まれていた。

**床面** 床面整地層らしいものはない。

**炉・柱穴** それらしいものは検出していない。

**出土遺物** (Fig.73) 4は住居北側床面出土である。住居内埋土からはややまとまった量の弥生土器破片が出土している。これら

1. 弥生時代の遺構と遺物

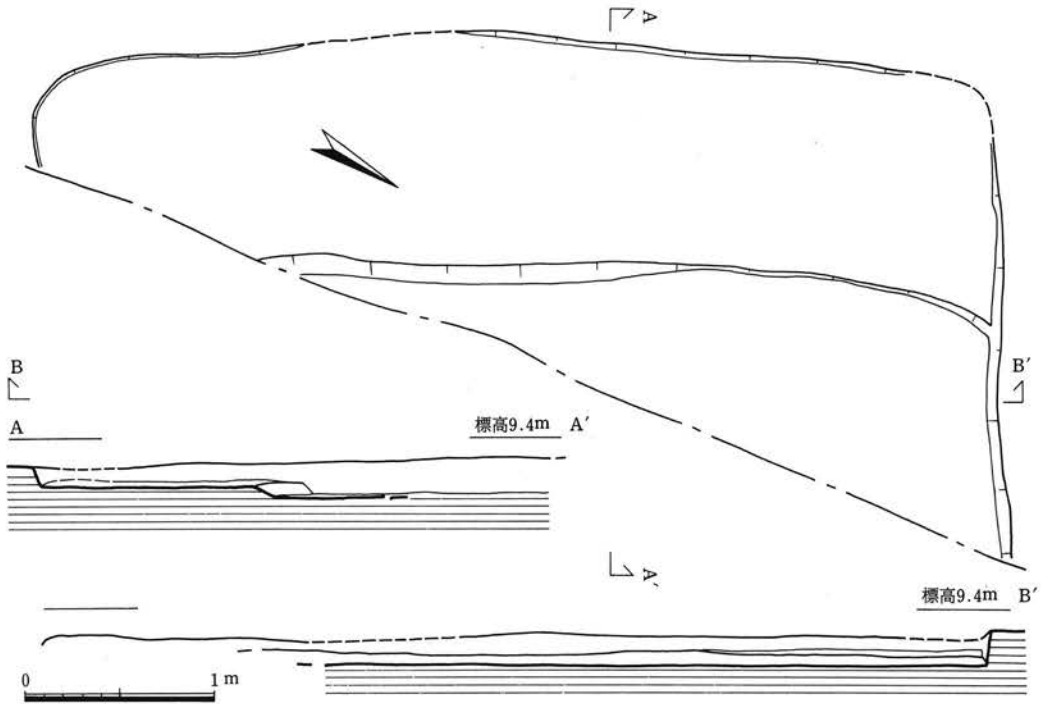


Fig.72 SH306竪穴住居実測図 (1/40)

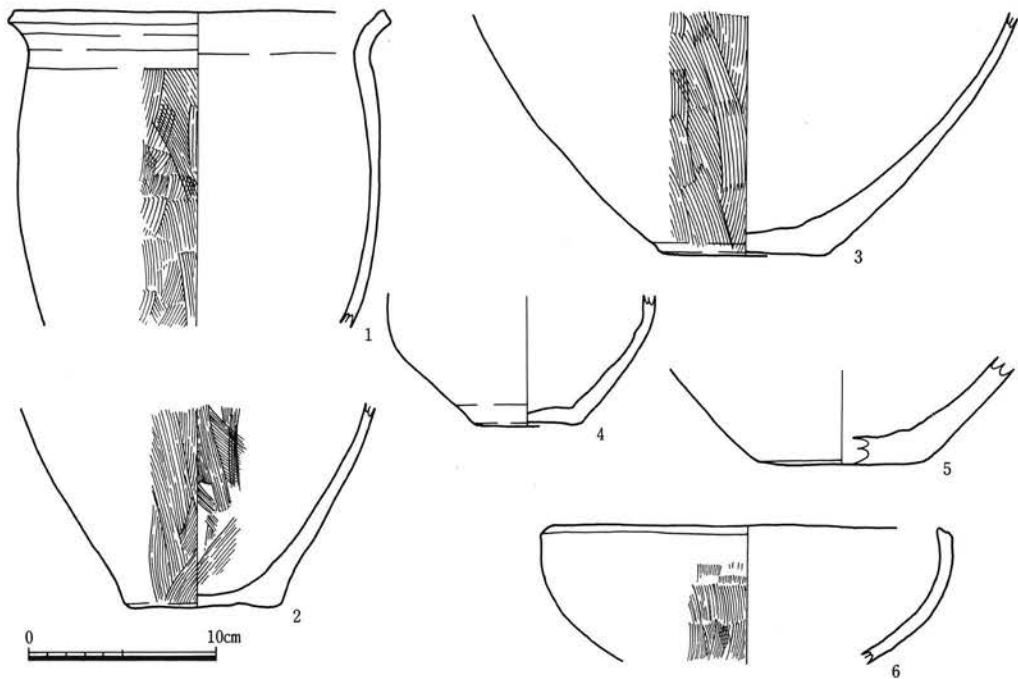


Fig.73 SH306出土弥生土器実測図 (1/4)

IV. 村徳永遺跡K地区の記録—K3区—

は住居埋没に伴う流れ込みと判断する。

SH309 竪穴住居 (Fig.74)

**位置** AU-36・AU-37・AV-36・AV-37区画に検出した。検出面の標高は9.2m前後である。他の主要遺構との切り合い関係はない。遺構の東側1/2以上は調査区外に展開する。

**形態** 平面は、辺3.5m前後の正方形か、長辺3.5m以上・短辺3.5mの長方形をなすと思われる。残存壁高は20~30cmほどである。

**埋土** 暗褐色土で、住居埋没に伴う自然流入土と判断する。住居内埋土にはややまとまった量の遺物が含まれていた。

**床面** 床面整地層・張床らしいものは確認していない。

**炉** 床面を精査した段階で、住居ほぼ中央と思われる位置にP3を検出した。埋土は暗褐色土。住居内埋土上面からの切込みは認められず住居に伴うものと判断するが、残存壁高が40cmほどあり炉としては深いので、炉である確率は小さい。

**柱穴** 床面を精査した段階で、2本柱と思われる位置にP1・P2を検出した。埋土はどちらも黒褐色土。形状からはP1が柱穴である確率が大きい。

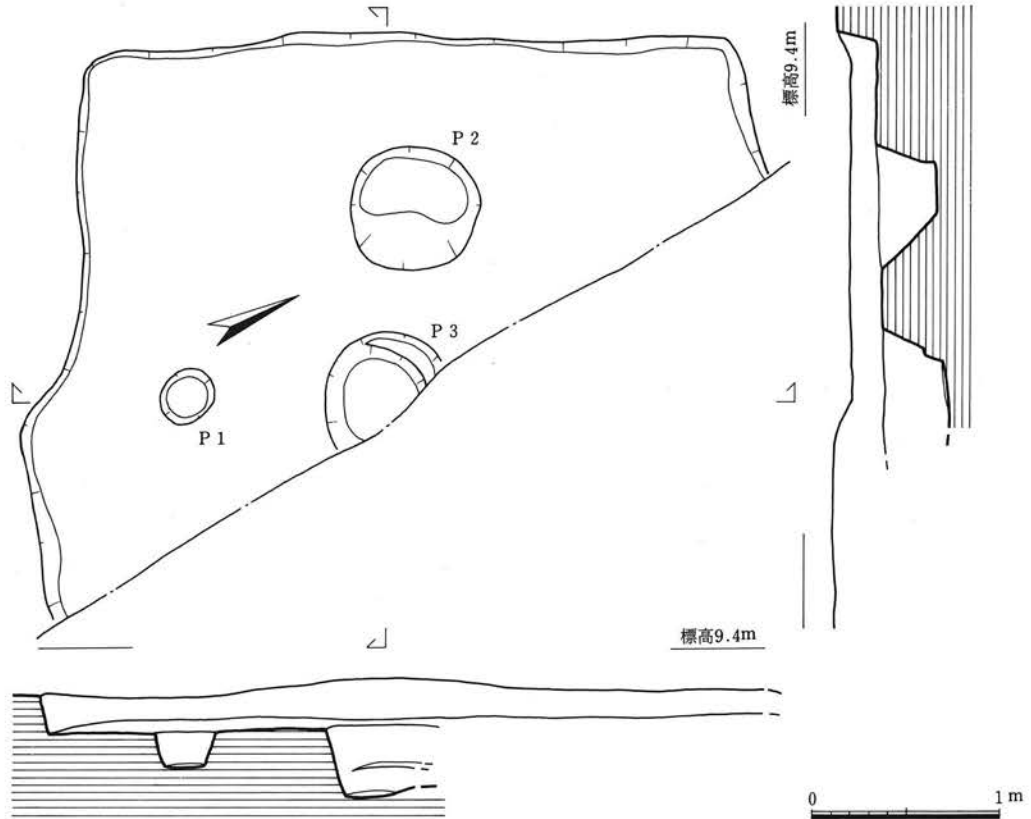


Fig.74 SH309竪穴住居実測図 (1/40)

1. 弥生時代の遺構と遺物

出土遺物 (Fig.75) 住居内埋土からはややまとまった量の弥生土器破片が出土している。  
住居埋没時の投棄によるものか。

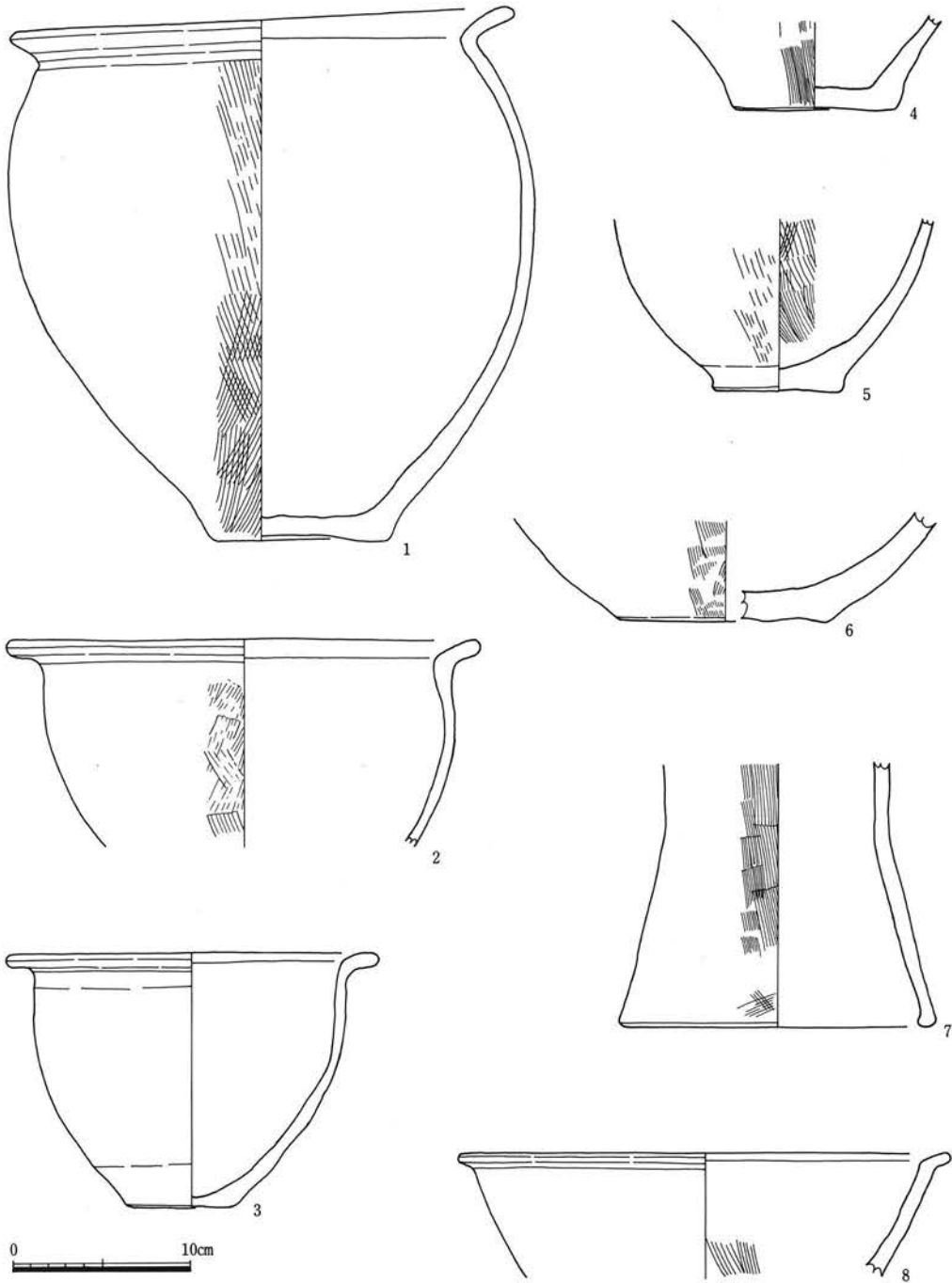


Fig.75 SH309出土弥生土器実測図 (1/4)

IV. 村徳永遺跡K地区の記録—K3区—

(2) 土壌と出土遺物

SK301土壌 (Fig.76)

**位置** AU-31区画に検出した。検出面の標高は9.2m前後である。他の主要遺構とは切り合い関係にはない。

**形態** 平面は長径1.6m・短径0.8~1.1mの不整な長楕円形をなす。残存壁高は40cmほどで、壁面はきつく立ち上がる。底面はほぼ平坦である。

**埋土** 褐色~暗褐色土で、土壌埋没に伴う自然流入土と判断する。埋土下部には多量の遺物が含まれていた。

**出土遺物** (Fig.77~79) 埋土下部で多量の弥生土器破片が出土した。大破片と完形に近いものが多く、埋没に伴って一括投棄された可能性が高い。

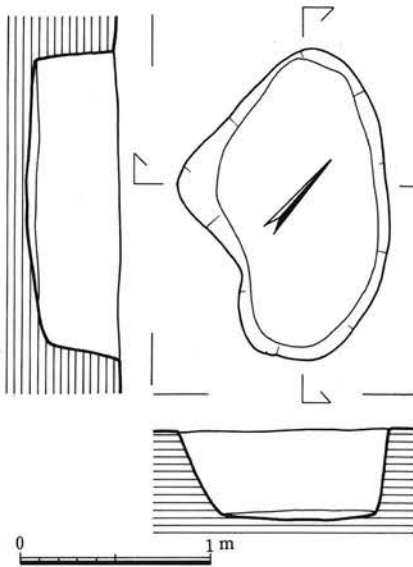


Fig.76 SK301土壌実測図 (1/40)

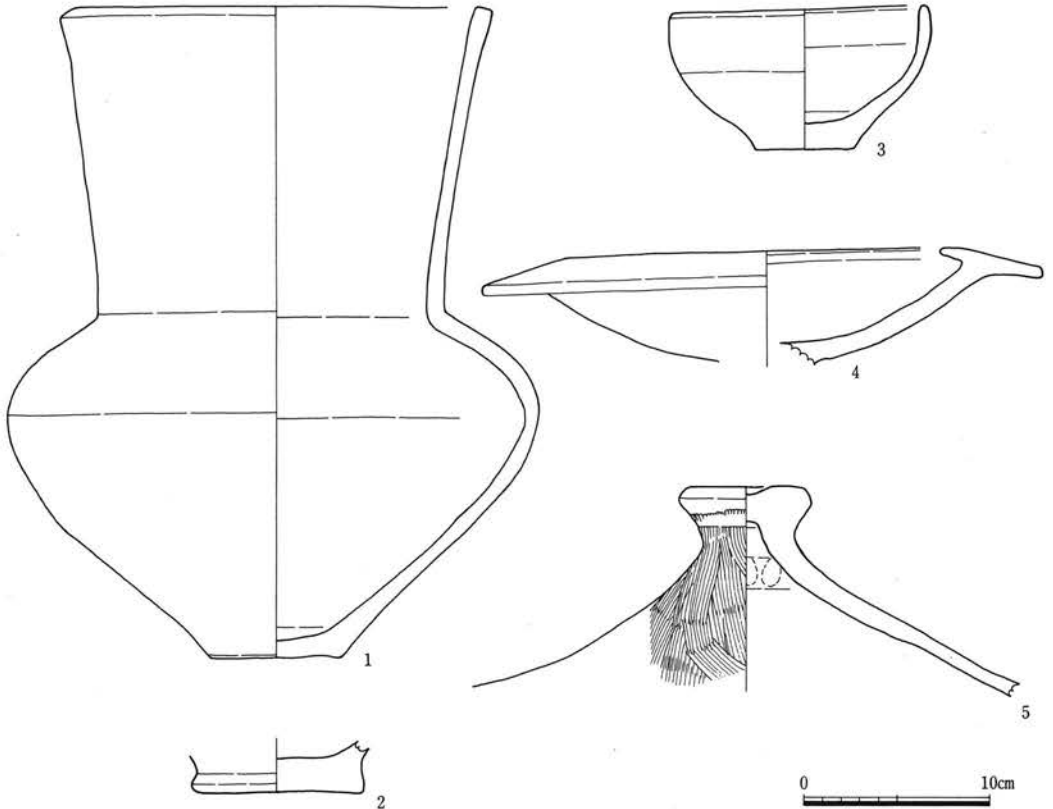


Fig.77 SK301出土弥生土器実測図1 (1/4)

1. 弥生時代の遺構と遺物

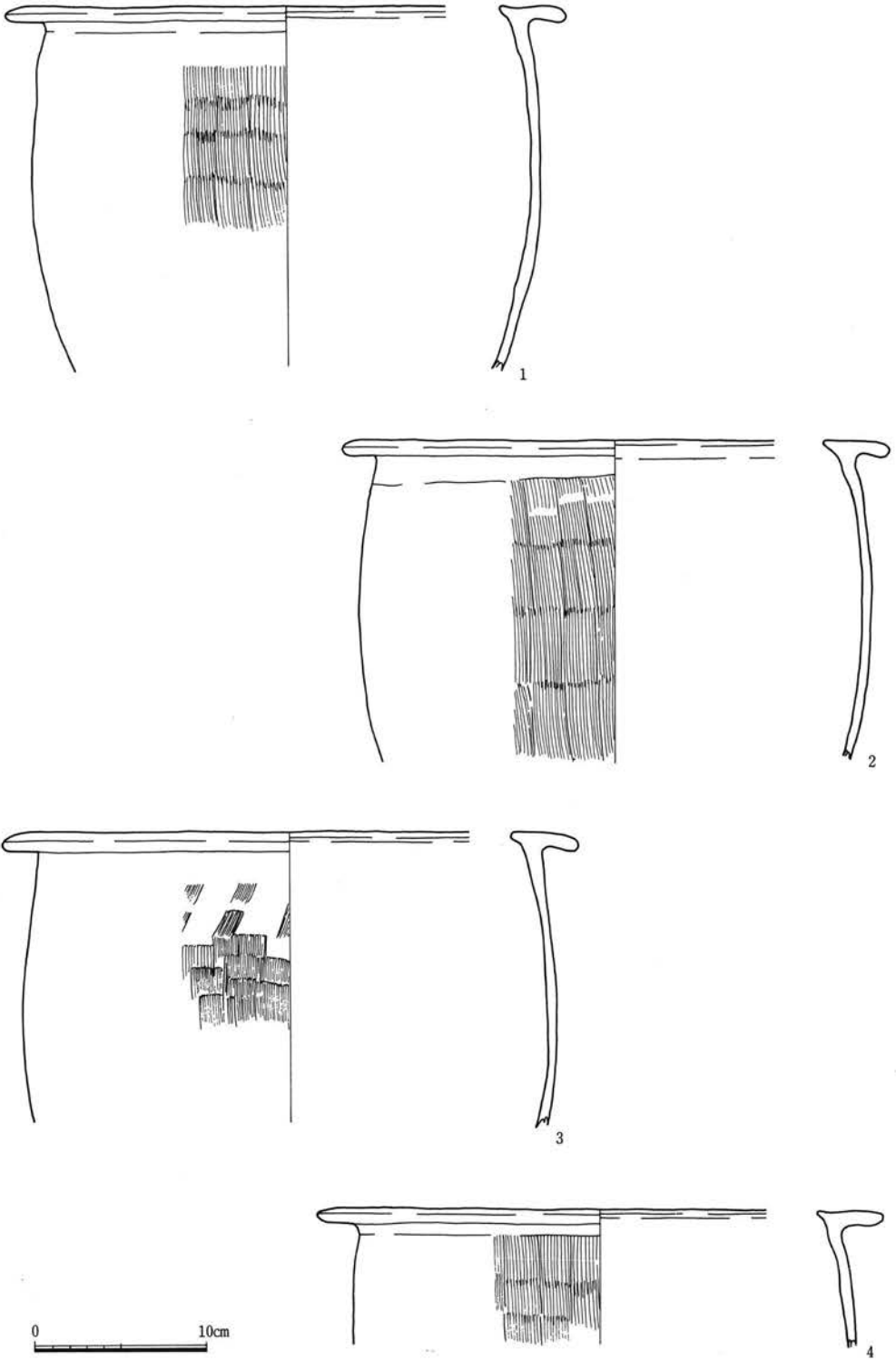


Fig.78 SK301出土弥生土器実測図2 (1/4)

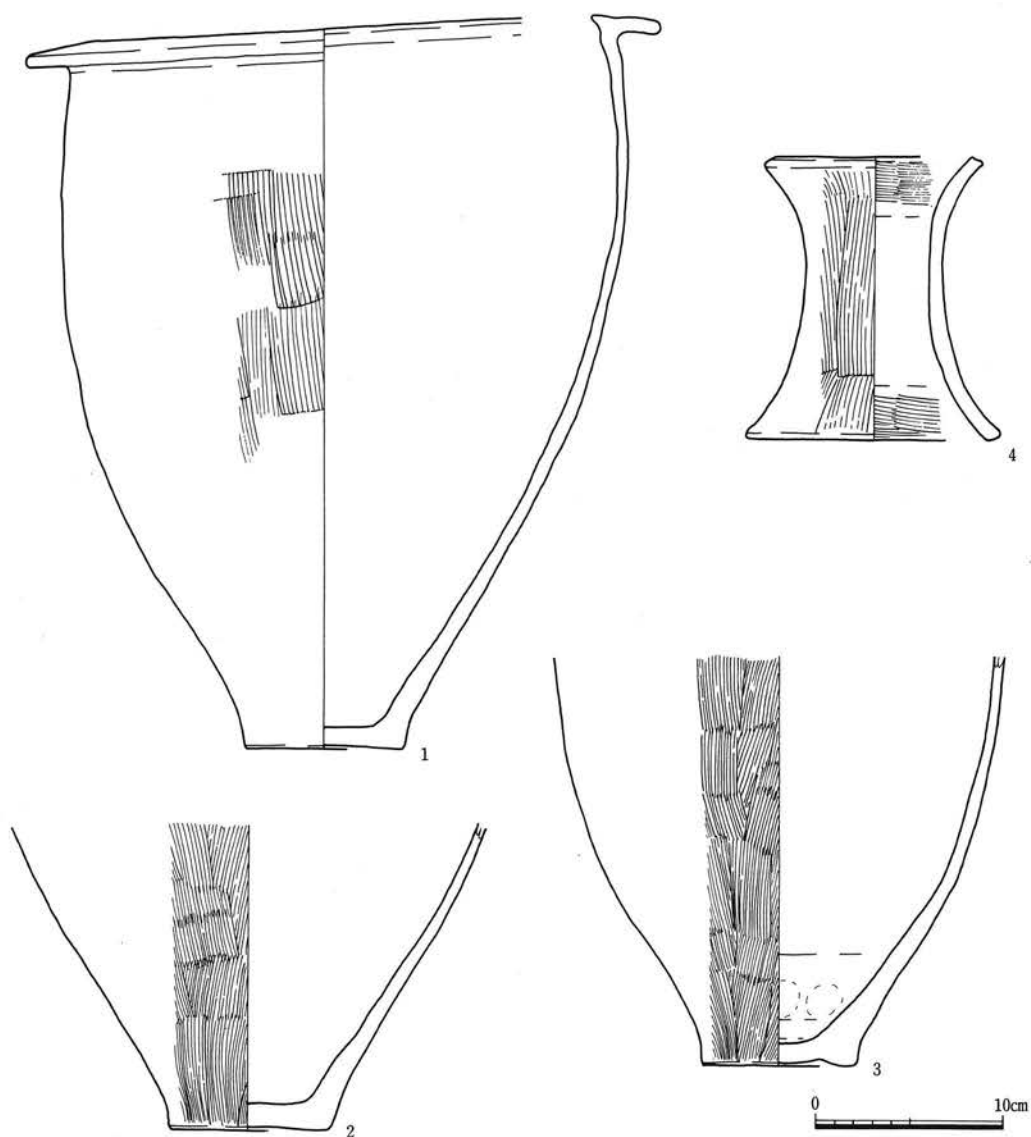


Fig.79 SK301出土弥生土器実測図3 (1/4)

(3) 溝と出土遺物

SD303溝 (Fig.80)

**位置** AU-33・AU-34・AV-33区画に検出した。検出面の標高は9.2~9.3mである。他の主要遺構とは切り合い関係にはない。溝の西端と東端は調査区外に展開する。

**形態** 平面は直線的でなく南に向い不整な弧を描く形をなし、断面形は逆台形状をなす。溝幅は0.7~0.9m、残存壁高は15~20cmほどで、壁面はきつく立ち上がる。底面はほぼ平坦で、西端と東端での標高差はほとんどない。

1. 弥生時代の遺構と遺物

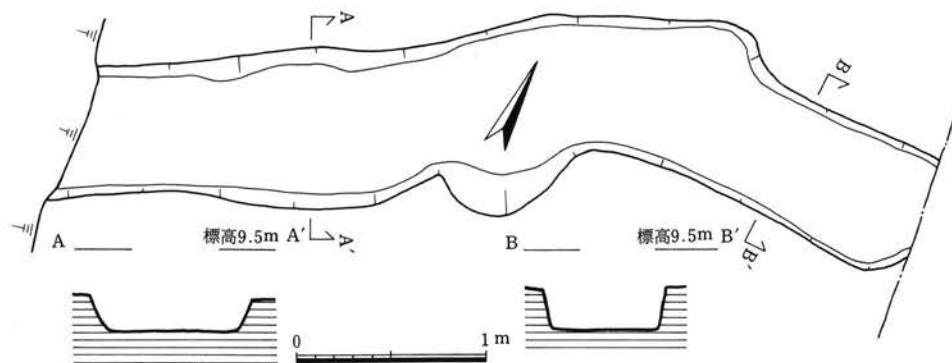


Fig.80 SD303溝実測図 (1/40)

**埋土** 上部は褐色土、下部は暗褐色土で、流水や帯水を示す堆積は認められない。埋土は遺構埋没に伴う自然流入土と判断する。埋土中には少数の遺物が含まれていた。

**出土遺物 (Fig.81)** 埋土中から、少数の弥生土器破片と石斧破片1点が出土した。埋没に伴う流れ込みと判断する。

(4) 不明遺構と出土遺物

S X 3 1 0 不明遺構 (Fig.82)

**位置** AV-37区画に検出した。検出面の標高は9.2m前後である。遺構の北側・西側の大部

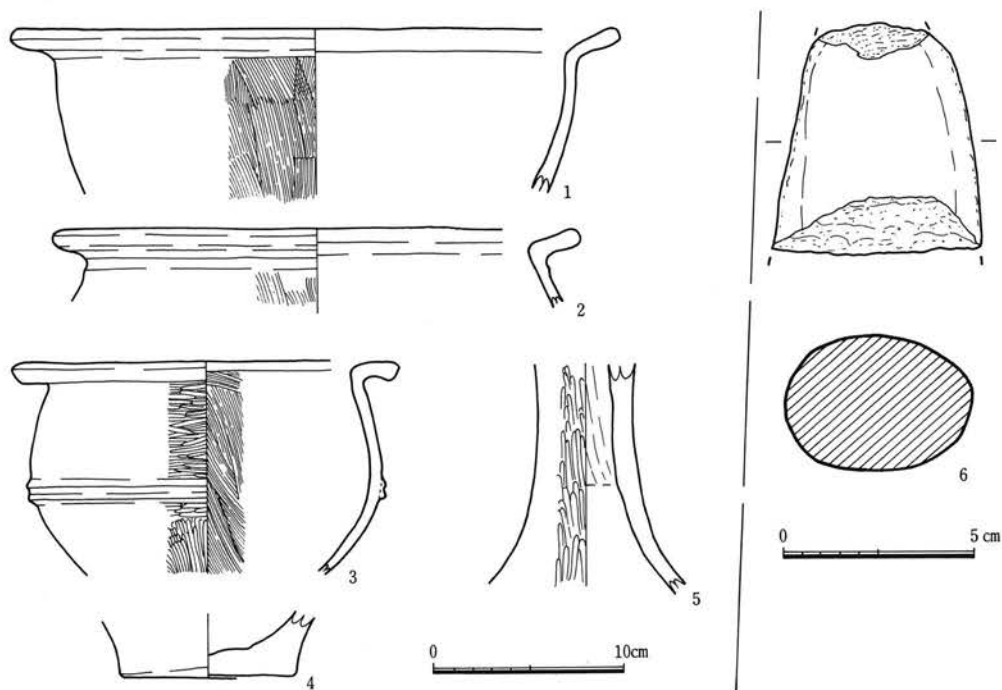


Fig.81 SD303出土弥生土器・石器実測図 (1/4・1/2)

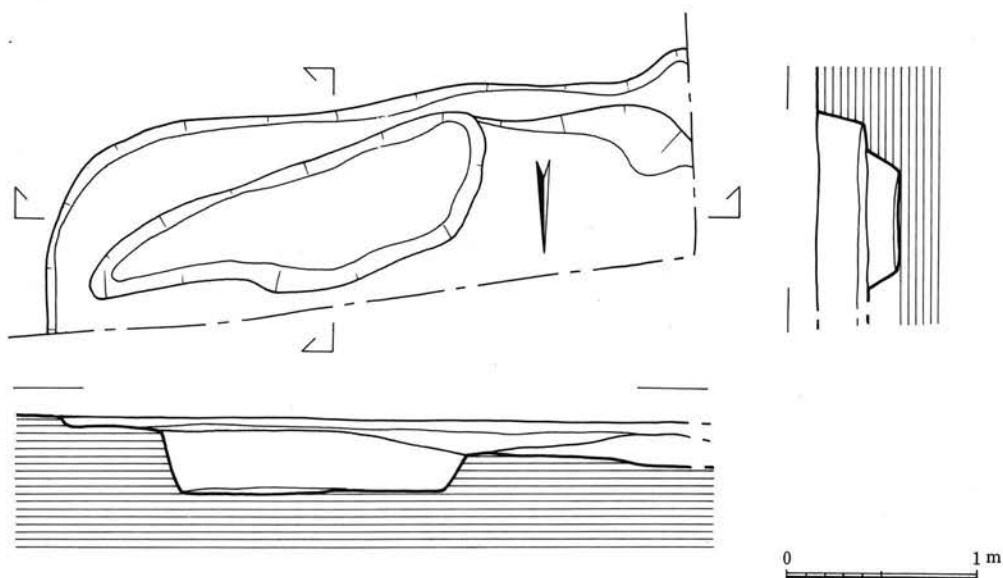


Fig.82 SX310不明遺構実測図 (1/40)

分が調査区外に展開する。他の主要遺構との切り合い関係はない。

**形態** 平面は辺3.4m以上の方形ないし正方形をなすものか。残存壁高は5~25cmほどあり、壁面はきつく立ち上がる。底面には細かい起伏がかなりあった。底面を精査した段階で底面に不整長楕円形の土壌を検出したため、遺構は2段掘りの形状を示すこととなった。土壌の残存壁高は20~30cmほどである。

**埋土** 褐色~暗褐色土で、埋没に伴う自然流入土と判断する。底面で検出した土壌埋土も同様で、埋土上面から切込んだ痕跡は認められなかった。土壌もSX310に伴い、同時に埋没した可能性が高い。埋土全体に多量の遺物が含まれていた。

**出土遺物 (Fig.83)** 埋土から多量の弥生土器破片が出土した。破片総数は多いが、接合したものは少なかった。埋没に伴う流れ込みによるものか。

**所見** 遺構検出の当初は、方形ないし長方形の竪穴住居と考えたが、底面は平坦ではなく張床らしいものも確認できなかった。他の竪穴住居の様相とはかなり異なるので、ここでは不明遺構としてあげておく。

1. 弥生時代の遺構と遺物

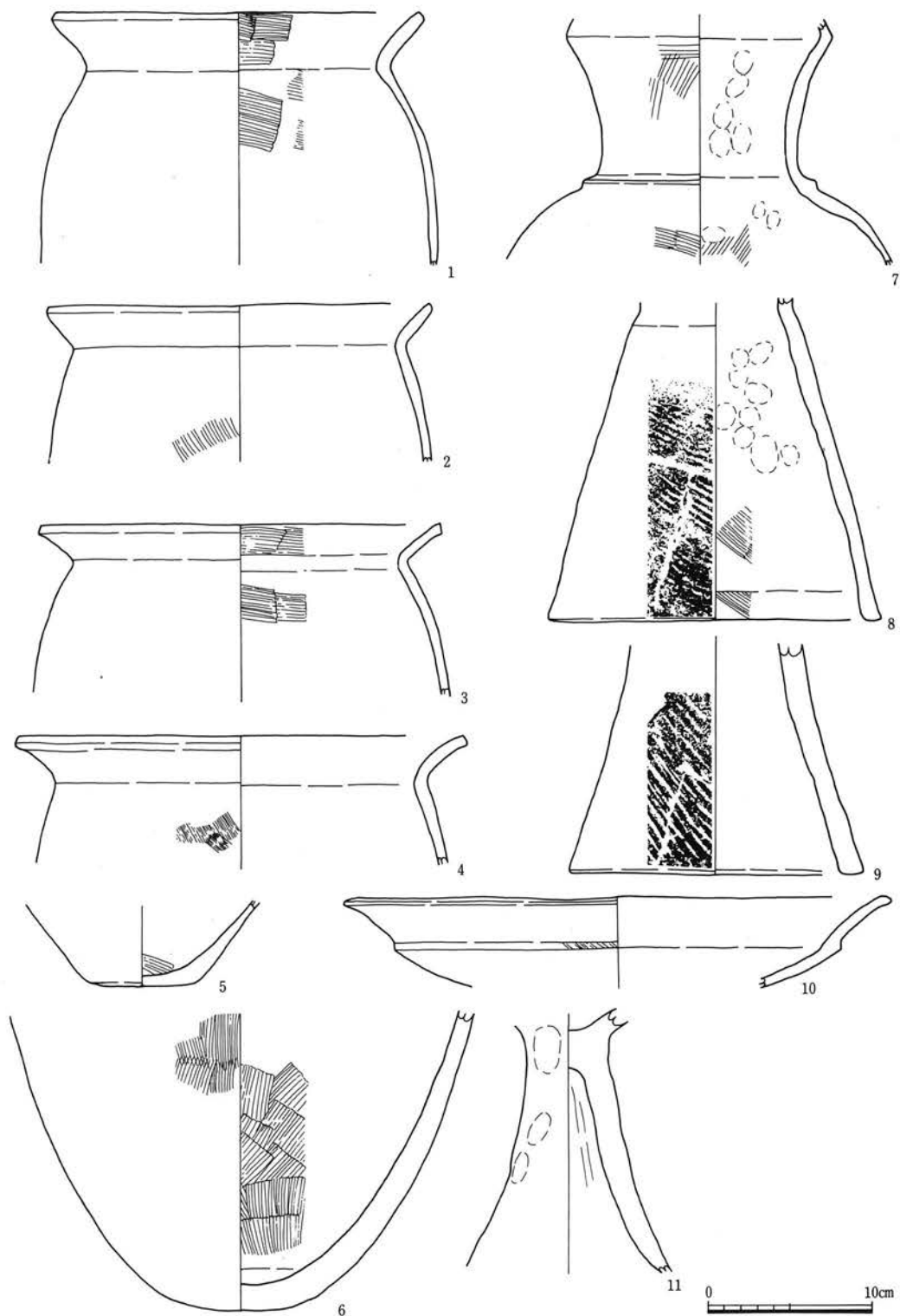


Fig.83 SX310出土弥生土器実測図 (1/4)

IV. 村徳永遺跡K地区の記録—K3区—

(5) その他の出土遺物 (Fig.84)

ここでは、主要遺構以外から出土した弥生土器のうち、特徴的なものを提示する。

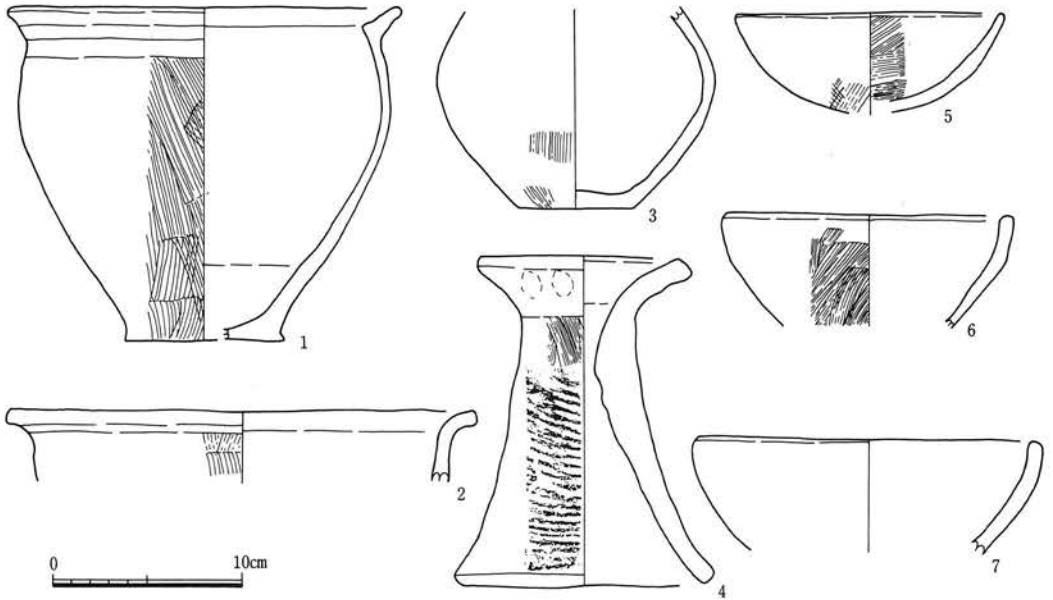


Fig.84 K3区出土弥生土器実測図 (1/4)

2. 古墳時代の遺物 (Fig.85)

ここでは、主要遺構以外から出土した古墳時代土師器を提示する。

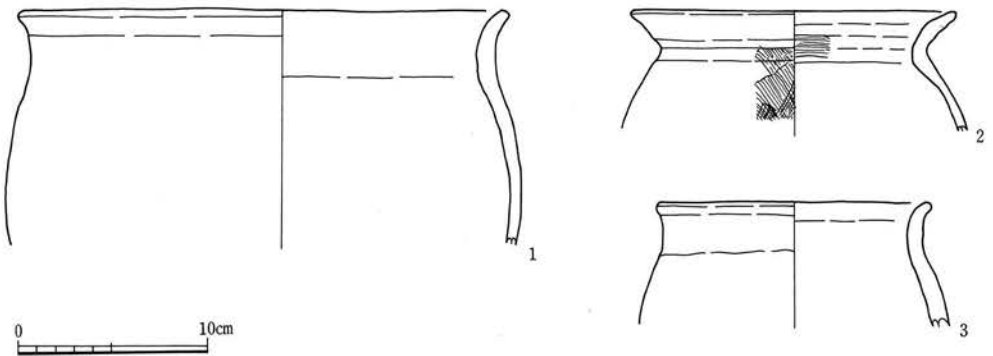


Fig.85 K3区出土土師器実測図 (1/4)

VI. 村徳永遺跡K地区の記録—K3区—

Tab. 3 村徳永遺跡K3区出土遺物一覧

挿図	番号	器種	遺構	特徴	目録番号
Fig. 71	1	甕	SH305	口縁部横ナデ。内外面ナデ。	268
	2		SH305	口縁部横ナデ。外面ハケ目。内面ナデ。	261
	3		SH305	口縁部横ナデ。外面横ナデ。内面ナデ。	266
	4		SH305	外面ナデ。内面ハケ目をナデ消し。	262
	5		SH305	外面ハケ目。内面ナデ。	263
	6		SH305	口縁部横ナデ。内外面ナデ。	264
	7		SH305	外面ナデ。内面ハケ目。	265
Fig. 73	8	手捏	SH305	内外面指押さえ。	267
	1	甕	SH306	口縁部横ナデ。外面ハケ目。内面ナデ。	271
	2		SH306	外面ハケ目。内面・外底部ハケ目をナデ消し。	270
	3		SH306	外面ハケ目。内面ナデ。	272
	4		SH306	内外面ナデ。	273
	5		SH306	内外面ナデ。	269
6	SH306		端部横ナデ。外面ハケ目。内面ナデ。	274	
Fig. 75	1	鉢	SH309	口縁部横ナデ。外面ハケ目。内面ナデ。	278
	2		SH309	口縁部横ナデ。外面ハケ目。内面ナデ。	279
	3		SH309	口縁部横ナデ。外面ハケ目ナデ消し、下端横ナデ。内面ナデ。	284
	4		SH309	外面ハケ目。内面ナデ。	283
	5		SH309	外面ハケ目ナデ消し、下端横ナデ。内面ハケ目、下端ナデ。	281
	6		SH309	外面ハケ目。内面ナデ。	282
	7		SH309	端部横ナデ。外面ハケ目。内面ハケ目ナデ消し。	285
Fig. 77	8	鉢	SH309	口縁部横ナデ。内外面ハケ目ナデ消し。	280
	1		SK301	頸部横ナデ。胴部外面調整不明瞭、ヘラミガキか。黒斑あり。	247
	2		SK301	外面横ナデ。内面ナデ。	239
	3		SK301	端部横ナデ。内外面ナデ。	250
Fig. 78	4	高杯	SK301	口縁部横ナデ。他は調整不明瞭。	248
	5		SK301	外面ハケ目。内面ナデ、上部に指頭痕が残る。	249
	1		SK301	口縁部横ナデ。外面ハケ目、下部ナデ消し。内面ナデ。	241
	2		SK301	口縁部横ナデ。外面ハケ目。内面ナデ。	244
	3		SK301	口縁部横ナデ。外面ハケ目ナデ消し、黒斑あり。内面ナデ。	243
Fig. 79	4	甕	SK301	口縁部横ナデ。外面ハケ目。内面ナデ。	242
	1		SK301	口縁部横ナデ。外面ハケ目、上下端ナデ消し。内面ナデ。	240
	2		SK301	外面ハケ目。内面ナデ。	246
Fig. 81	3	甕	SK301	外面ハケ目。内面ナデ、内底部に指頭痕が残る。	245
	4		SK301	外面ハケ目。内面上下端ハケ目、中部ナデ。	251
	1		SD303	口縁部横ナデ。外面ハケ目。内面ナデ。	254
	2		SD303	口縁部横ナデ。外面ハケ目。内面ナデ。	253
	3		SD303	口縁部横ナデ。外面ヘラミガキ。内面ハケ目。	252
Fig. 83	4	高杯	SD303	外面ナデ。内面ヘラ状工具による擦過痕。	255
	5		SD303	外面ヘラミガキ。内面ヘラ状工具の擦過痕とナデ。	256
	6		SD303	石材不明。基部・先端部欠損。	257
	1		SX310	口縁部内面ハケ目、外面横ナデ。内外面ハケ目ナデ消し。	288
	2		SX310	口縁部横ナデ。外面ハケ目ナデ消し。内面ナデ。	289
	3		SX310	口縁部内面ハケ目、外面横ナデ。内外面ハケ目ナデ消し。	287
Fig. 84	4	甕	SX310	口縁部横ナデ。外面ハケ目ナデ消し、黒斑あり。内面ナデ。	286
	5		SX310	内外面ハケ目ナデ消し。	290
	6		SX310	外面ハケ目ナデ消し。内面ハケ目。	292
	7		SX310	外面ハケ目ナデ消し。内面ハケ目ナデ消し、指頭痕が残る。	293
	8		SX310	外面タタキ目。内面上部ナデ、下部ハケ目をナデ消し。	296
	9		SX310	外面タタキ目。内面ハケ目をナデ消し。	297
	10		SX310	口縁部横ナデ。内外面はヘラミガキか。	294
	11		SX310	外面ナデ、指頭痕が残る。内面ナデ。	295
	1		P3021	口縁部横ナデ。外面ハケ目。内面ナデ。	301
	2		S 304	口縁部横ナデ。外面ハケ目。内面ナデ。	258
	Fig. 85		3	甕	S 311
4		S 312	端部横ナデ。外面タタキ目がハケ目を切る。内面ナデ。		300
5		S 312	端部横ナデ。外面ハケ目ナデ消し。内面ハケ目。		299
6		S 304	端部横ナデ。外面ハケ目。内面ナデ。		260
7		S 304	端部横ナデ。内外面ナデ。		259
1		S 307	口縁部横ナデ。外面ハケ目ナデ消し。内面ナデ。		275
2		S 308	口縁部横ナデ。外面ハケ目。内面ハケ目ナデ消し。		276
3	S 308	口縁部横ナデ。外面ハケ目ナデ消し。内面ナデ。	277		

VII. 村徳永遺跡K地区の記録—K4区—

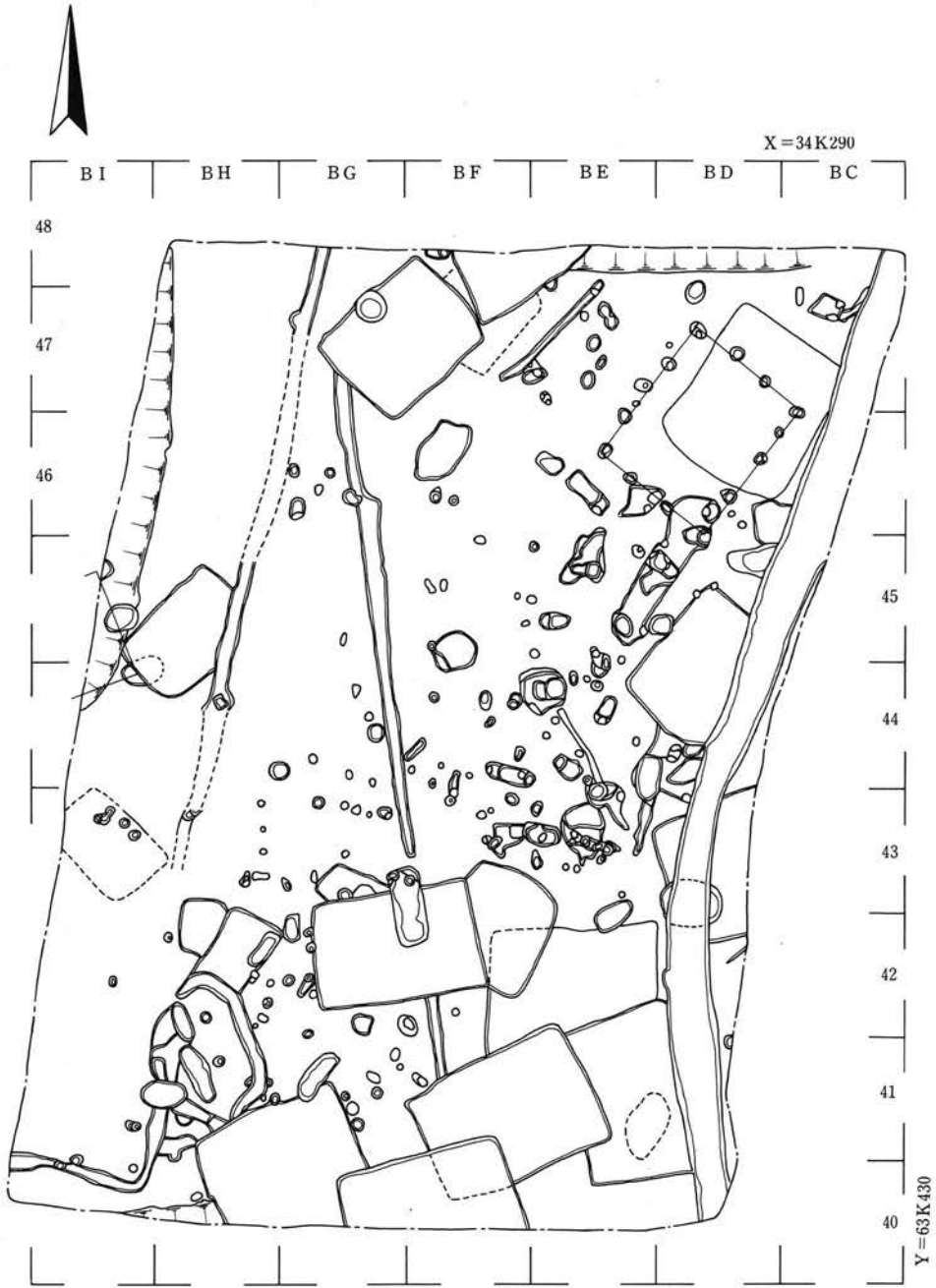


Fig.86 村徳永遺跡K4遺構配置図(1/300)

## VII. 村徳永遺跡K地区の記録—K4区—

### 1. 弥生時代の遺構と遺物

#### (1) 竪穴住居と出土遺物

##### SH401 竪穴住居 (Fig.88)

**位置** BC-46・BC-47・BD-46・BD-47区画に検出した。検出面の標高は7.9mである。SD402・SK424・SB461と切り合い関係にあり、SH401が先行する。

**形態** 平面は長辺6.5m・短辺5.5mのやや不整な長方形をなす。残存壁高は5~10cmほどである。北東隅の一部はSD402に破壊されている。

**埋土** ①層が住居埋没に伴う自然流入土と判断する。住居内埋土にはややまとまった量の

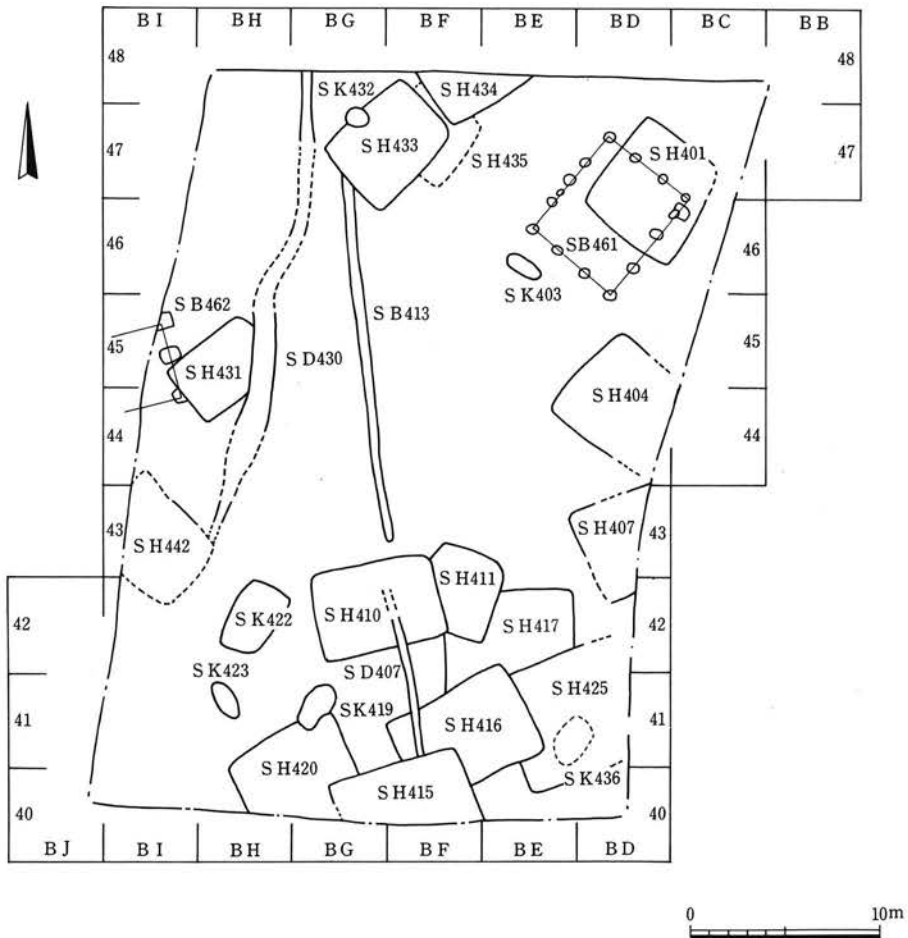


Fig.87 K4区弥生時代主要遺構配置図

VII. 村徳永遺跡K地区の記録—K4区—

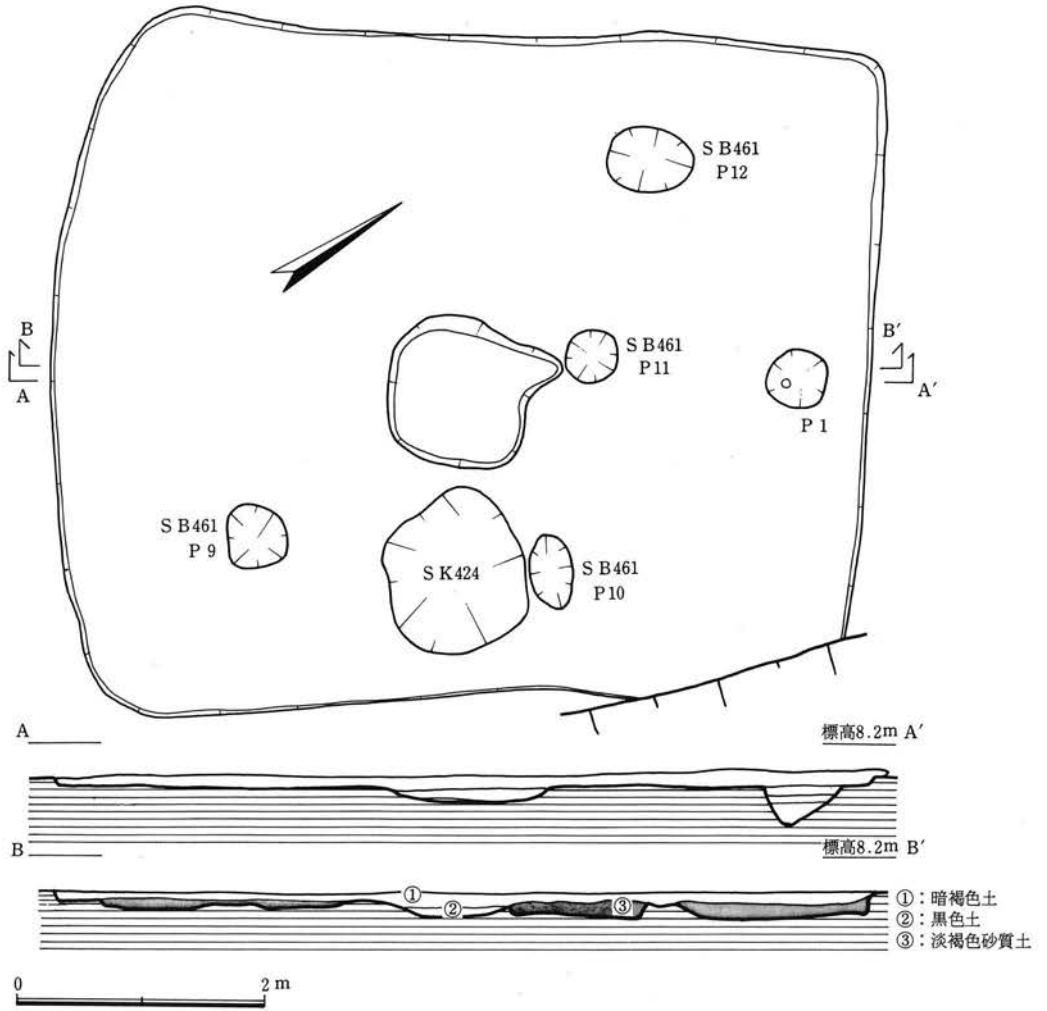


Fig.88 SH401竪穴住居実測図 (1/60)

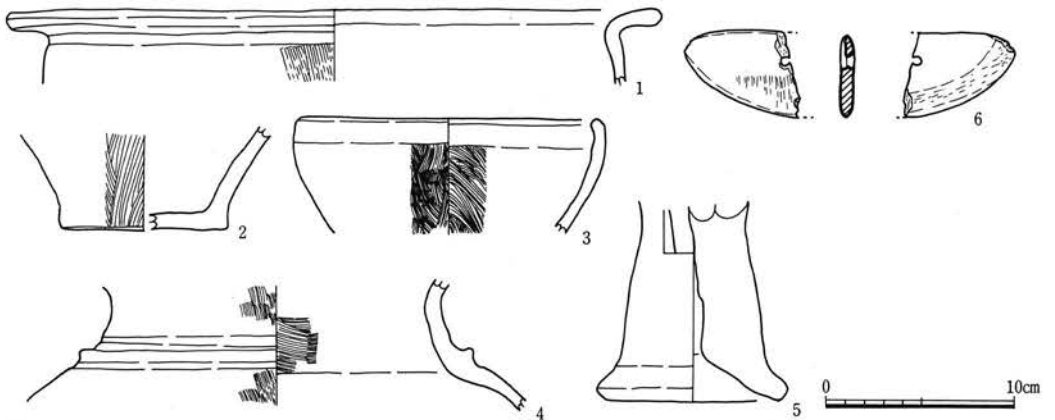


Fig.89 SH401出土弥生土器実測図 (1/4)

1. 弥生時代の遺構と遺物

遺物が含まれていた。

**床面** ③層が床面整地層で、住居のかんりの部分の床面を形成していた。

**炉** 床面を精査した段階で、住居中央に10cmほどの浅いくぼみを検出した。埋土は②層。炉である可能性が高い。

**柱穴** 床面整地層を剥がした段階でP1を検出した。床面での柱痕跡は確認されていない。位置から考えて2本柱の柱穴の1個である可能性が高いが、対応する位置に柱穴は検出できなかった。

**出土遺物 (Fig.89)** 住居内埋土からは、ややまとまった量の弥生土器破片が出土したが細片が多く図化できたものは少ない。他に石器・黒曜石破片が出土した。住居埋没に伴う流れ込みと判断する。2・5は床面整地層からの出土である。

SH404 竪穴住居 (Fig.90)

**位置** BD-44・BD-45・BE-44・BE-45区画に検出した。検出面の標高は7.9~8.1m前後である。SD402と切り合い関係にあり、SH404が先行する。SD402により西側1/3程

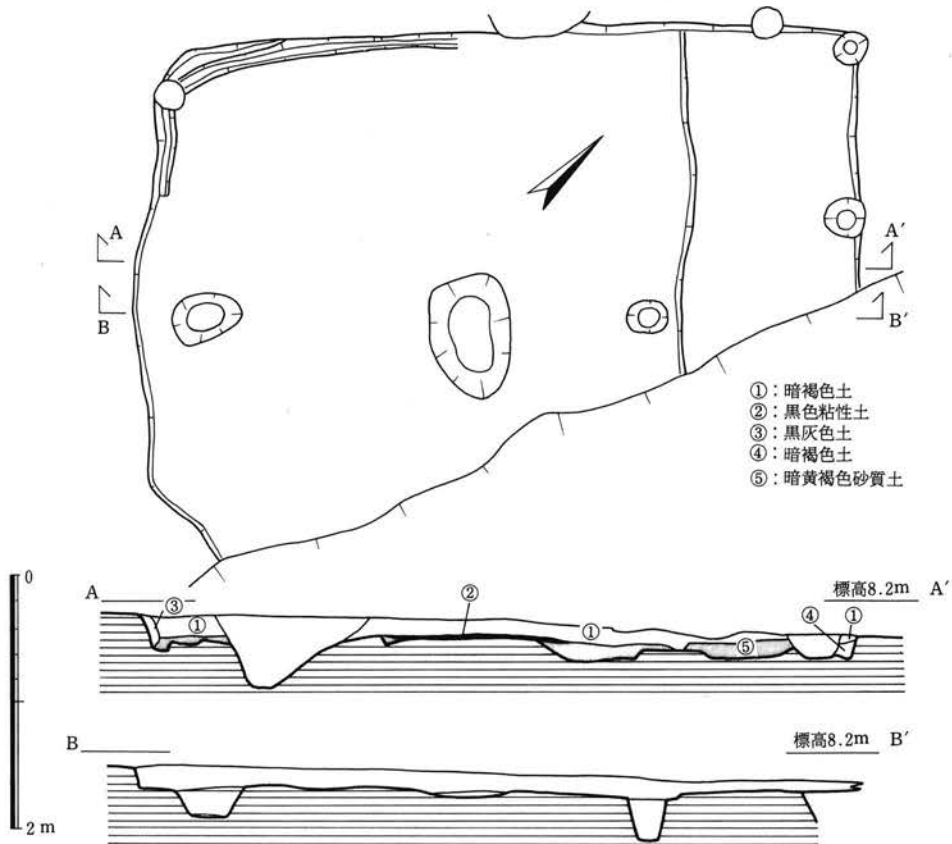


Fig.90 SH404竪穴住居実測図 (1/60)

VII. 村徳永遺跡K地区の記録—K4区—

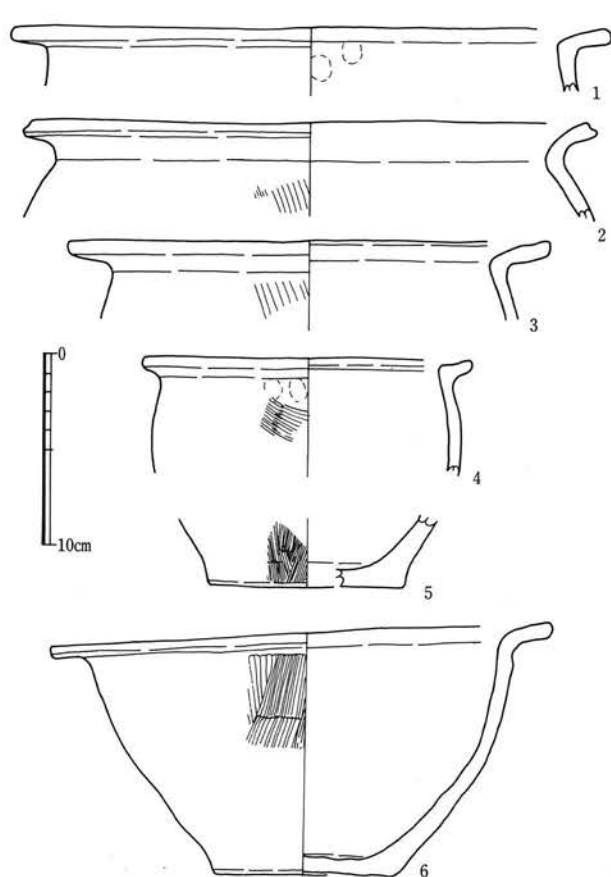


Fig.91 SH404出土弥生土器実測図 (1/4)

**柱穴** 床面整地層を剥がした段階で、2個の柱穴を確認した。埋土は淡褐色土。床面では柱痕跡の確認はできなかった。

**壁溝** 床面を精査した段階に住居の南西隅の部分で壁溝を検出した。埋土は黒灰色土で、③層と同様である。

**出土遺物 (Fig. 91)** 住居内埋土からは少数の弥生土器破片が出土した。これらは住居埋没に伴う流れ込みと判断する。6は床面上の出土である。

SH407 竪穴住居 (Fig.92)

**位置** BD-42・BD-43・BE-43区画に検出した。検出面の標高は7.9～8.0mである。SD402・SK418と切り合い関係にあり、SH407が先行する。西側2/3ほどは調査区外に展開する。

**形態** 平面は、辺5.5mの正方形か、短辺5.5m・長辺5.5m以上の長方形をなすと思われる。残存壁高は10～20cmほどである。

**埋土** 淡褐色～褐色土で、住居埋没に伴う自然流入土と判断する。住居内埋土には少数鶏

度が破壊されている。

**形態** 平面は長辺5.8m・短辺4.2m以上のやや不整な長方形をなす。残存壁高は10～20cm程である。北側の短辺には、幅1.3mほどの張り付けの段状部があり、床面との比高は6cmほどである。

**埋土** ①層が、住居埋没に伴う自然流入土と判断する。住居内埋土には少数の遺物が含まれていた。②層は、薄く床面に広がるもので、住居使用時の生活汚染の痕跡と判断する。

**床面** ⑤層が床面整地層で、住居中央部を除き、床面と段状部を形成していた。

**炉** 床面を精査した段階で、ほぼ住居中央に浅いくぼみを検出した。埋土は黒褐色土。炉である可能性は高いが、焼土・炭・床面の赤変等は確認できなかった。

1. 弥生時代の遺構と遺物

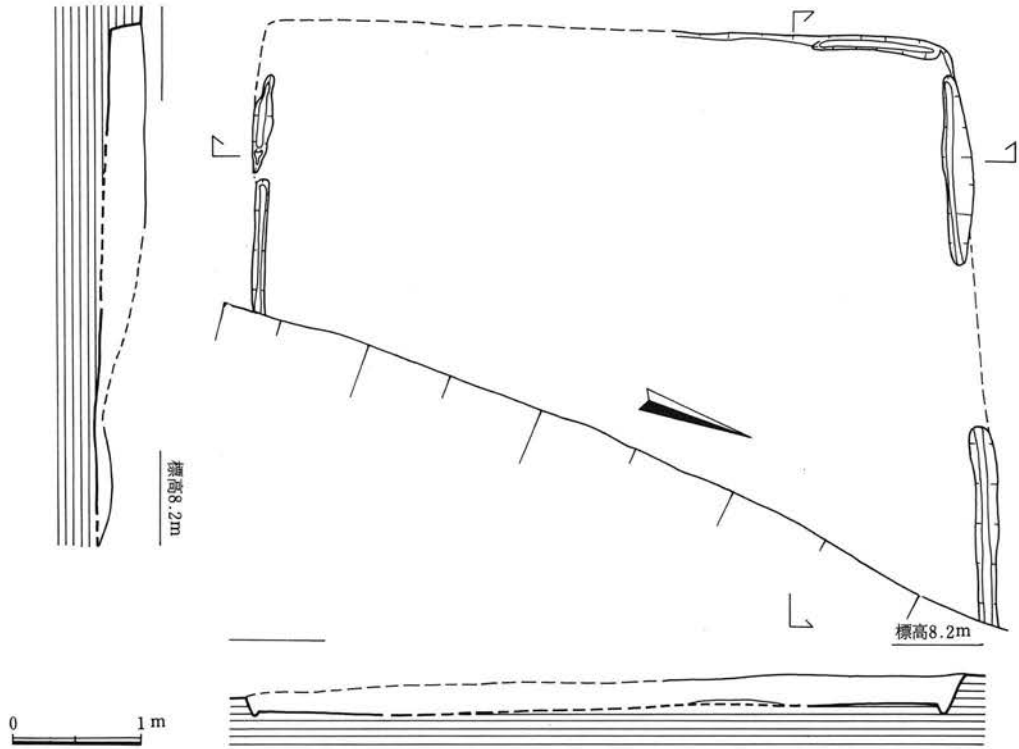


Fig.92 SH407竪穴住居実測図 (1/60)

の遺物が含まれていた。

**床面** 張床・床面整地層らしいものは確認していない。

**炉・柱穴** それらしいものは検出していない。

**壁溝** 幅20cmほど、深さ5~10ほどの壁溝が検出された。埋土は淡褐色土。

**出土遺物 (Fig.93)** 住居内埋土から少数の弥生土器破片が出土した。住居埋没に伴う流れ込みと判断する。

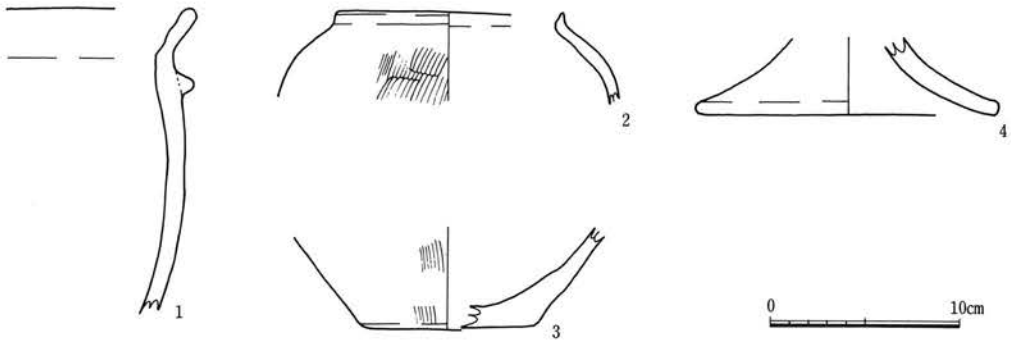


Fig.93 SH407出土弥生土器実測図 (1/4)

SH410 竪穴住居 (Fig.94)

**位置** BF-42・BF-43・BG-42・BG-43区画に検出した。検出面の標高は7.8~7.9mである。SH411・SK408・SD409と切り合い関係にあり、SH410が、SK408・SD409に先行し、SH411に後出する。

**形態** 平面は長辺6.6m・短辺4.7mの長方形をなす。残存壁高は10~20cmほどである。

**埋土** ①・②層が住居埋没に伴う自然流入土と判断する。住居内埋土には少数の遺物が含まれていた。住居南側では埋土下部で炭化木が出土した。

**床面** ④層が床面整地層で、大部分の住居床面を形成していた。

**炉** 床面を精査した段階で、住居中央に浅いくぼみを検出した。埋土は②層で、その上面に焼土を確認している。

**柱穴** 床面整地層を削がした段階で、長軸方向に2個の柱穴を検出した。埋土は淡褐色土。床面での柱痕跡は確認できなかった。

**住居内土壌** 床面を精査した段階で、南側長辺中央に土壌を検出した。埋土は②層が落ち込み、底面で焼土を確認した。住居内埋土(②層)が落ち込んでいることから、この土壌は住

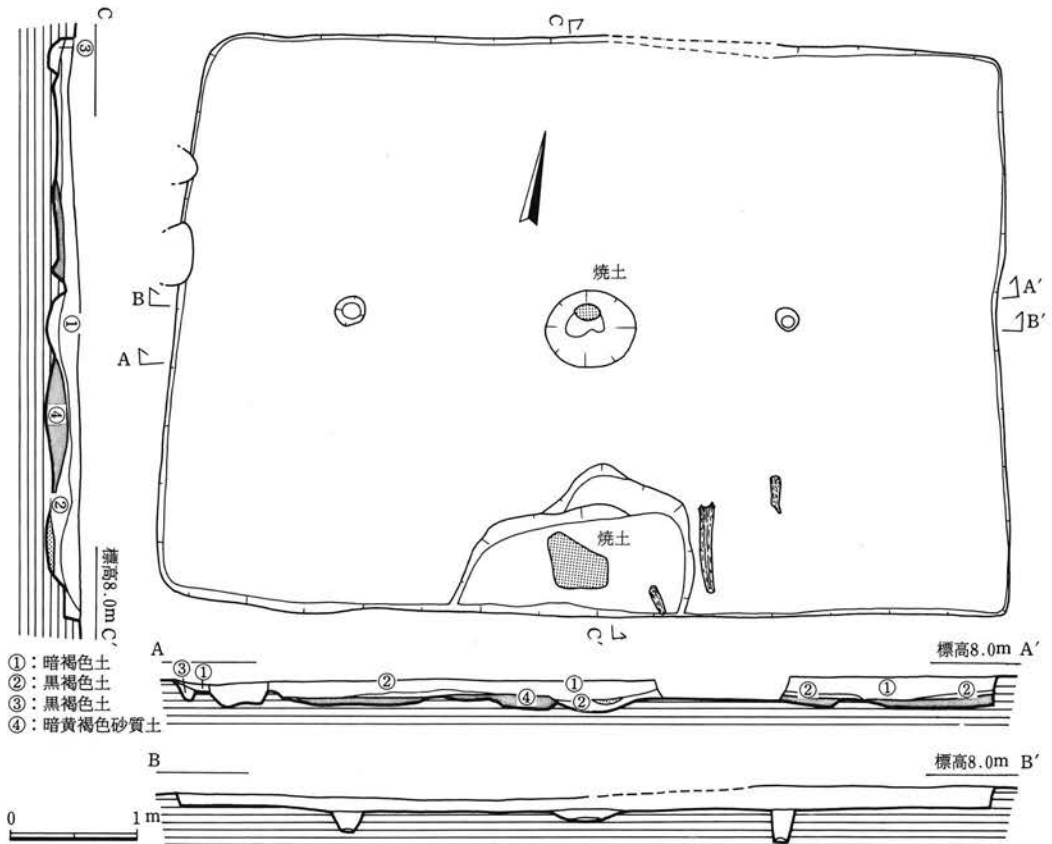


Fig.94 SH410竪穴住居実測図 (1/60)

1. 弥生時代の遺構と遺物

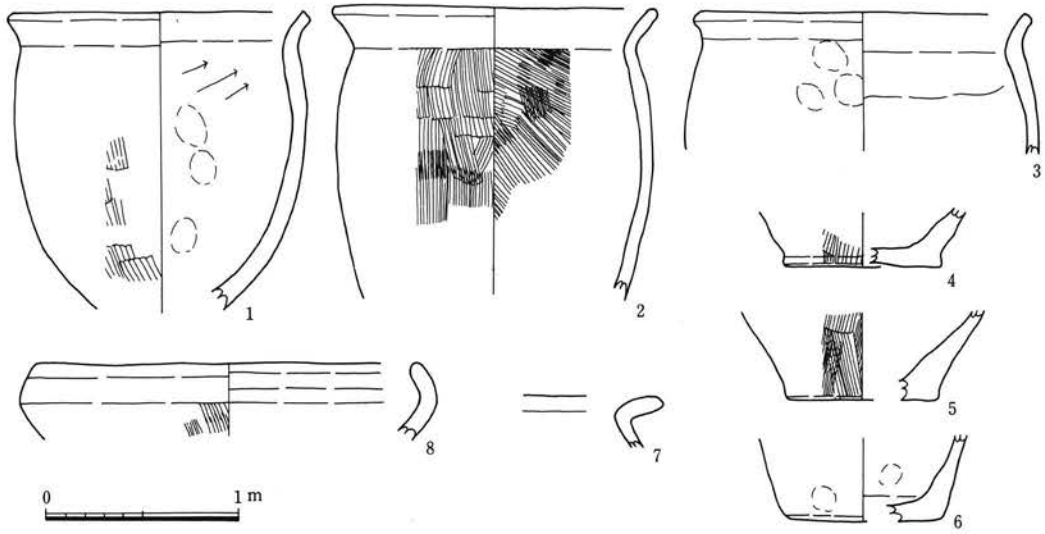


Fig.95 SH410出土弥生土器実測図 (1/4)

居使用時に、<穴>として機能していたものと判断する。

**出土遺物 (Fig. 95)** 少数の弥生土器破片が出土している。1は床面上の出土、7は床面整地層からの出土である。その他の遺物は住居内埋土から出土し、住居埋没に伴う流れ込みと判断する。

SH411 竪穴住居

(Fig.96)

**位置** BE-42・BE-43・BF-42・BF-43区画に検出した。検出面の標高は8.0~8.1m前後である。SH410・SH417と切り合い関係にあり、SH411が、SH410に先行し、SH417に後出する。西側1/4程度はSH410により破壊されている。

**形態** 平面は長辺4.6m・短辺4.0mの不整な長方形をなす。残存壁

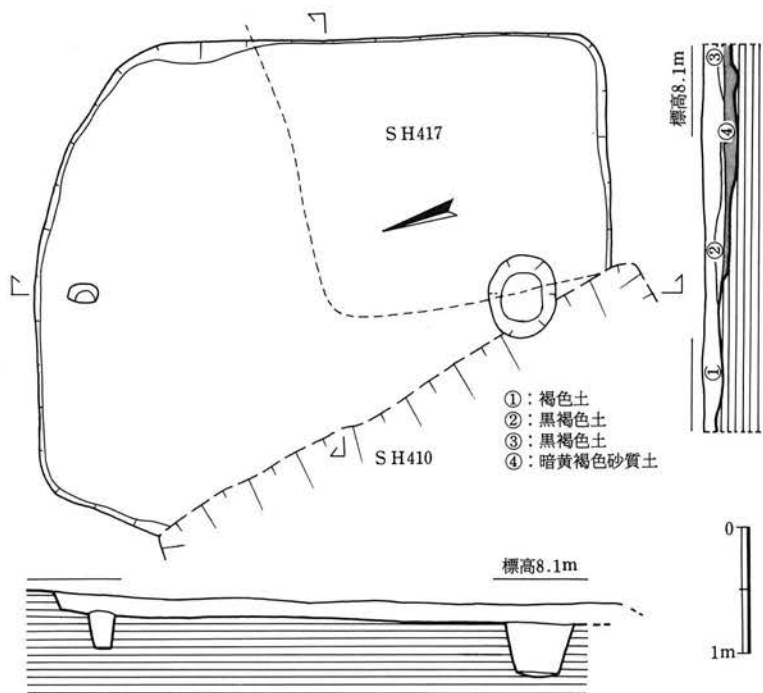


Fig.96 SH411竪穴住居実測図 (1/60)

VII. 村徳永遺跡K地区の記録—K4区—

高は10~15cmほどである。

**埋土** ①~③層が住居埋没に伴う自然流入土と判断する。住居内埋土には、ごく少数の遺物が含まれていた。

**床面** ④層が床面整地層で住居南側の床面を形成していた。

**炉** それらしいものは検出していない。

**柱穴** 床面を精査した段階で、長軸方向に2個の柱穴を検出した。埋土は黒褐色土で、微量の遺物が含まれていた。

**出土遺物 (Fig.97)** 2は、2個の柱穴埋土から出土した破片が接合したものである。他は住居内埋土から出土したもので、住居埋没に伴う流れ込みと判断する。

SH415 竪穴住居 (Fig.98)

**位置** BF-40・BF-41・BG-40区画に検出した。検出面の標高は7.8m前後である。SD409・SH416・420と切り合い関係にあり、SH415が後出する。遺構の南側1/3程度が調査区外に展開する。

**形態** 平面は長辺6.6m・短辺4.2m以上の長方形をなすと思われる。残存壁高は10cmほど

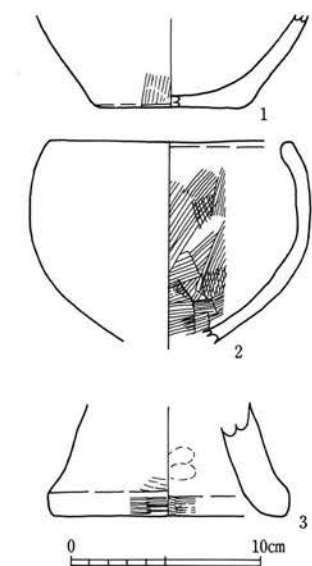


Fig.97 SH411出土弥生土器  
実測図 (1/4)

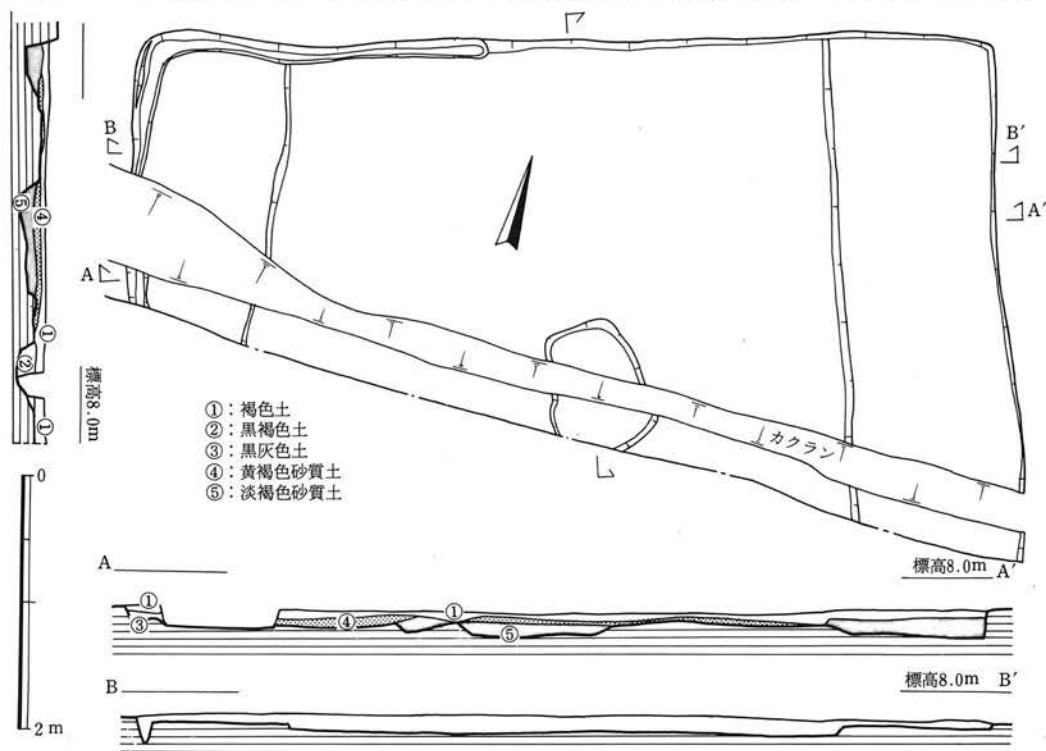


Fig.98 SH415竪穴住居実測図 (1/60)

## 1. 弥生時代の遺構と遺物

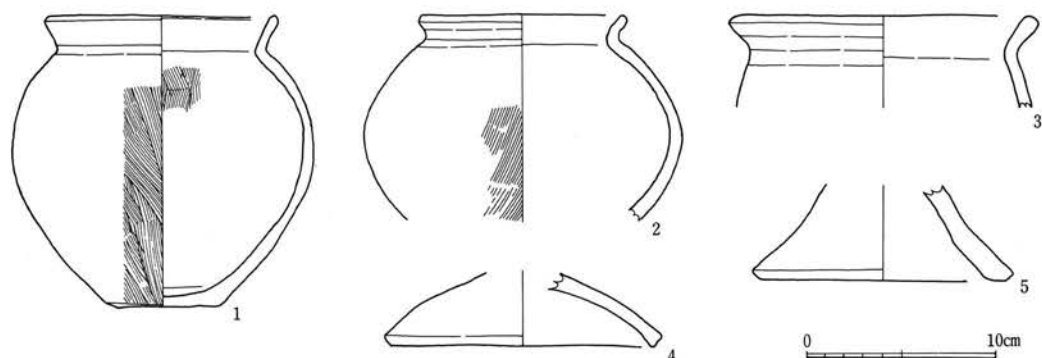


Fig.99 SH415出土弥生土器実測図 (1/4)

である。東西の短辺に幅1.2mほどの張り付け段状部をもつ。床面との比高は5cmほどある。

**埋土** ①層が、住居埋没に伴う自然流入土と判断する。住居内埋土にはややまとまった量の遺物が含まれていた。

**床面** ④層が張床で、薄く叩き締められ床面を形成していた。⑤層は床面整地層で、④層下部と段状部を成形している。

**炉** 床面を精査した段階で、住居のほぼ中央と思われる位置に、深さ15cmほどの小土壌を検出した。埋土は②層である。炉である可能性はあるが、床面の赤変・焼土・炭などは確認されていない。

**柱穴** それらしいものは検出していない。

**壁溝** 床面を精査した段階で、住居北東隅の部分に壁溝を検出した。幅8～15cm・深さ8cmほどで、埋土は③層である。

**出土遺物 (Fig.99)** 住居内埋土からはややまとまった量の弥生土器破片が出土したが、細片が多く接合できたものは少ない。

### SH416 竪穴住居 (Fig.100)

**位置** BE-41・BF-41区画に検出した。検出面の標高は7.8～7.9mである。SD409・SH415・417・425と切り合い関係にあり、SH416が、SD409・SH415に先行し、SH417・425に後出する。南西隅の部分はSH415によりかなり削平されている。

**形態** 平面は長辺6.6m・短辺5.1mのやや不整な長方形をなす。残存壁高は20～30cmほどある。西側短辺には幅0.6～1.2mの地山削り出し段状部があり、床面との比高は8cmほどである。住居北東隅には、ステップ状に地山を削り出した部分があり、床面との比高は5cm程である。

**埋土** ①～⑤が住居埋没に伴う自然流入土と判断する。住居内埋土にはまとまった量の遺

VII. 村徳永遺跡K地区の記録—K4区—

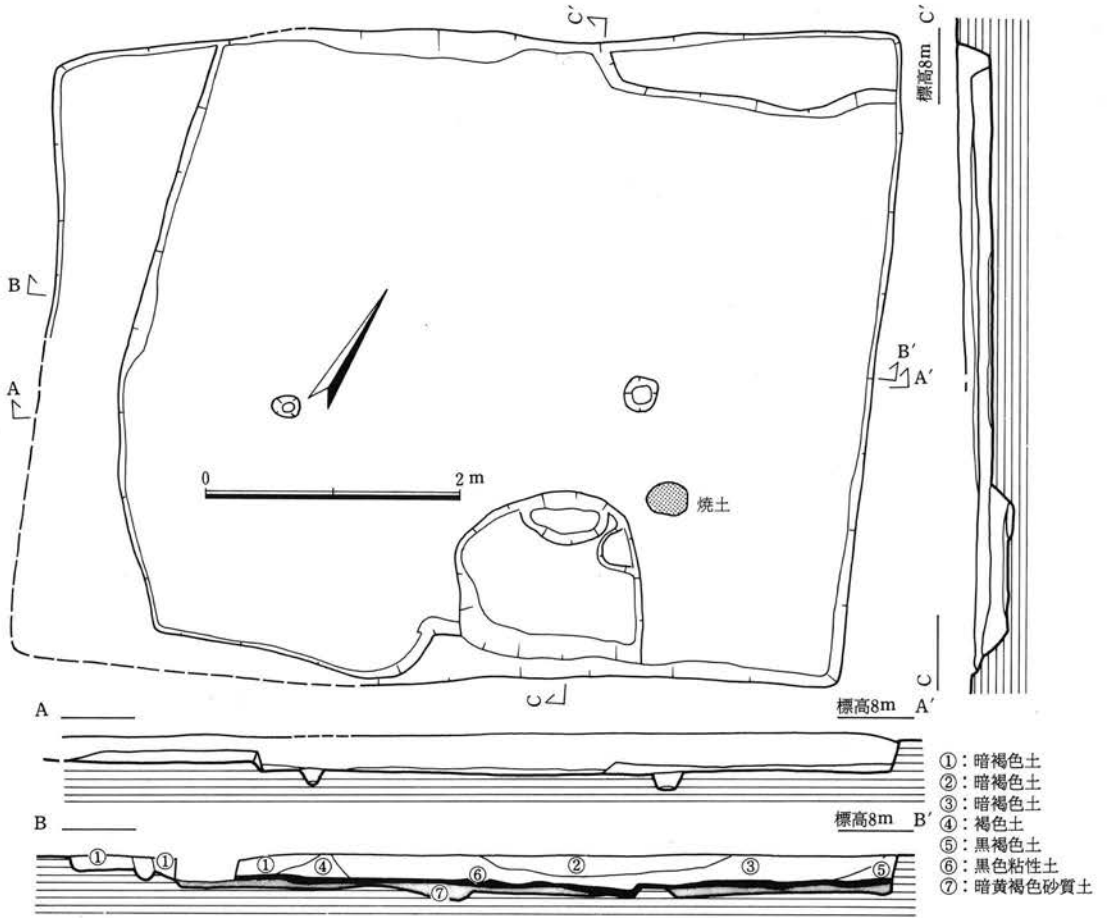


Fig.100 SH416竪穴住居実測図 (1/60)

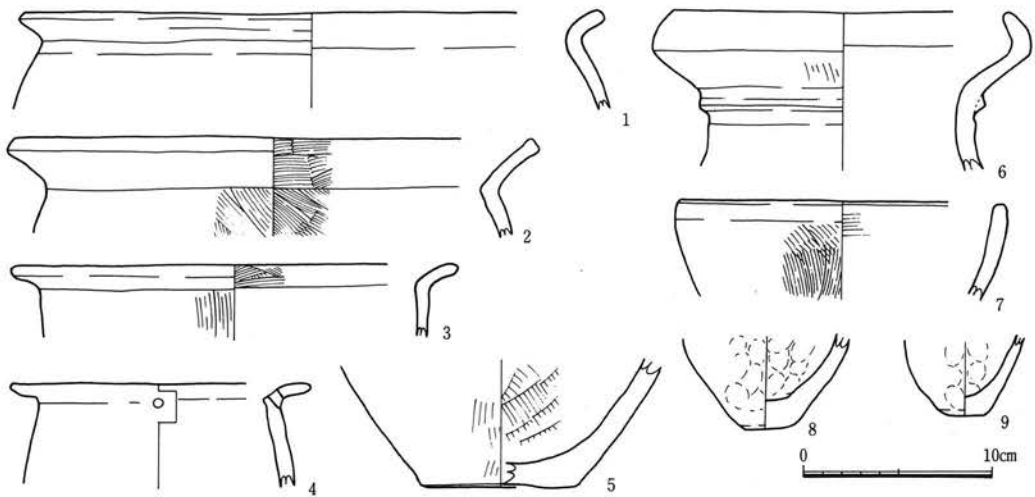


Fig.101 SH416出土弥生土器実測図 (1/4)

1. 弥生時代の遺構と遺物

物が含まれていた。⑥層は床面上に薄く広がるもので、住居使用時の生活汚染の痕跡と判断する。

**床面** ⑦層が床面整地層で、ほぼ住居全面の床面を形成していた。

**炉** それらしいものは検出していない。

**柱穴** 床面整地層を剥がした段階で、長軸方向に2個の柱穴を検出した。埋土は淡褐色土。床面での柱痕跡確認できていない。

**住居内土壌** 床面を精査した段階で、南側長辺に土壌を検出した。埋土は暗褐色土で、出土遺物はない。住居内埋土上面からの切込みは認められず、住居に伴うものと判断する。

**出土遺物 (Fig.101)** 住居内埋土からまとまった量の弥生土器破片が出土した。住居埋没に伴う流れ込みと判断する。

SH417 竪穴住居 (Fig.102)

**位置** BE-42・BF-42区画に検出した。検出面の標高は7.9m前後である。SH411・416・425と切り合い関係にあり、SH417がすべてに先行する。住居の北東隅と南側2/

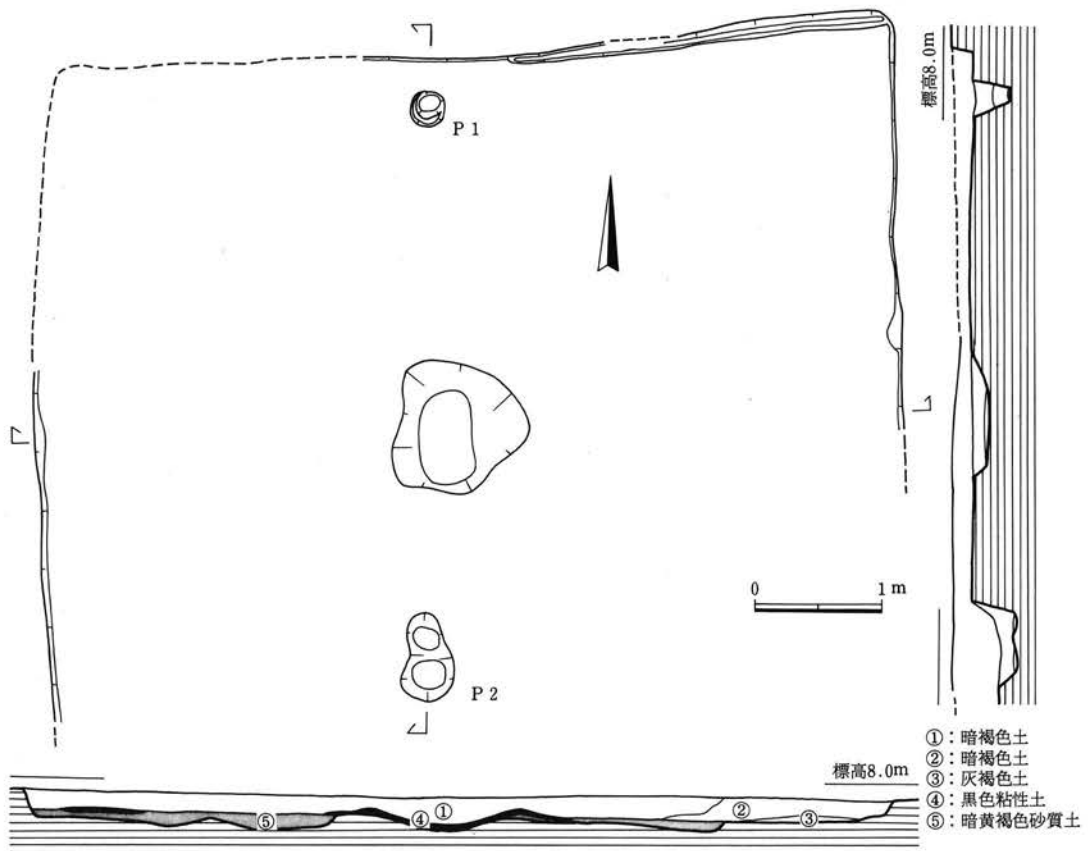


Fig.102 SH417竪穴住居実測図 (1/60)

VII. 村徳永遺跡K地区の記録—K4区—

3は切り合いによりかなり削平されている。

**形態** 平面は長辺6.8m前後・短辺5.5m前後の長方形をなすと思われる。残存壁高は15～20cmほどである。

**埋土** ①～③層が埋没に伴う自然流入土と判断する。住居内埋土には比較的多量の遺物が含まれていた。④層は床面上に薄く広がるもので住居使用時の生活汚染の痕跡と判断する。

**床面** ⑤層が床面整地層で、住居中央を除き床面を形成していた。

**炉** 床面を精査した段階で、住居ほぼ中央に浅いくぼみを検出した。埋土は④層が落ち込んでいた。炉と判断する。

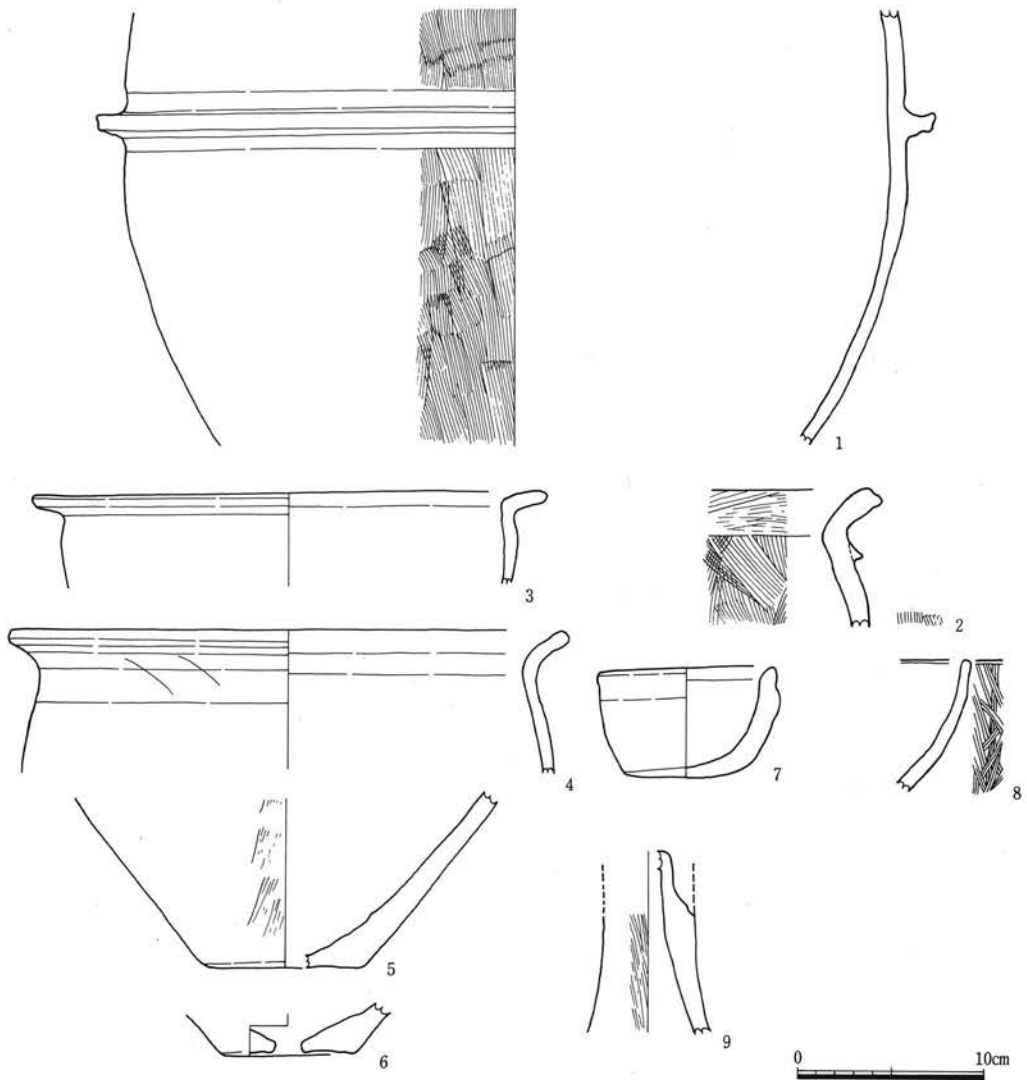


Fig.103 SH417出土弥生土器実測図 (1/4)

1. 弥生時代の遺構と遺物

**柱穴** 床面整地層を剥いだ段階で、P1・P2を検出した。埋土は淡褐色土。床面上での柱痕跡は確認できなかった。P2は建替えの可能性があるが、削平されていて切り合い関係はわからなかった。

**出土遺物 (Fig.103)** 住居内埋土からは多量の弥生土器破片が出土したが、接合したものは少なかった。

**SH420 竪穴住居 (Fig.104)**

**位置** BG-40・BG-41・BH-40・BH-41区画に検出した。検出面の標高は7.8m前後である。SH415・SK419と切り合い関係にあり、SH420が先行する。住居南側は、1/3程度調査区外に展開し、攪乱とSH415により床面が削平されていた。

**形態** 平面は、辺6.1mほどの正方形か、長辺6.1m以上・短辺6.1mの長方形をなすと思

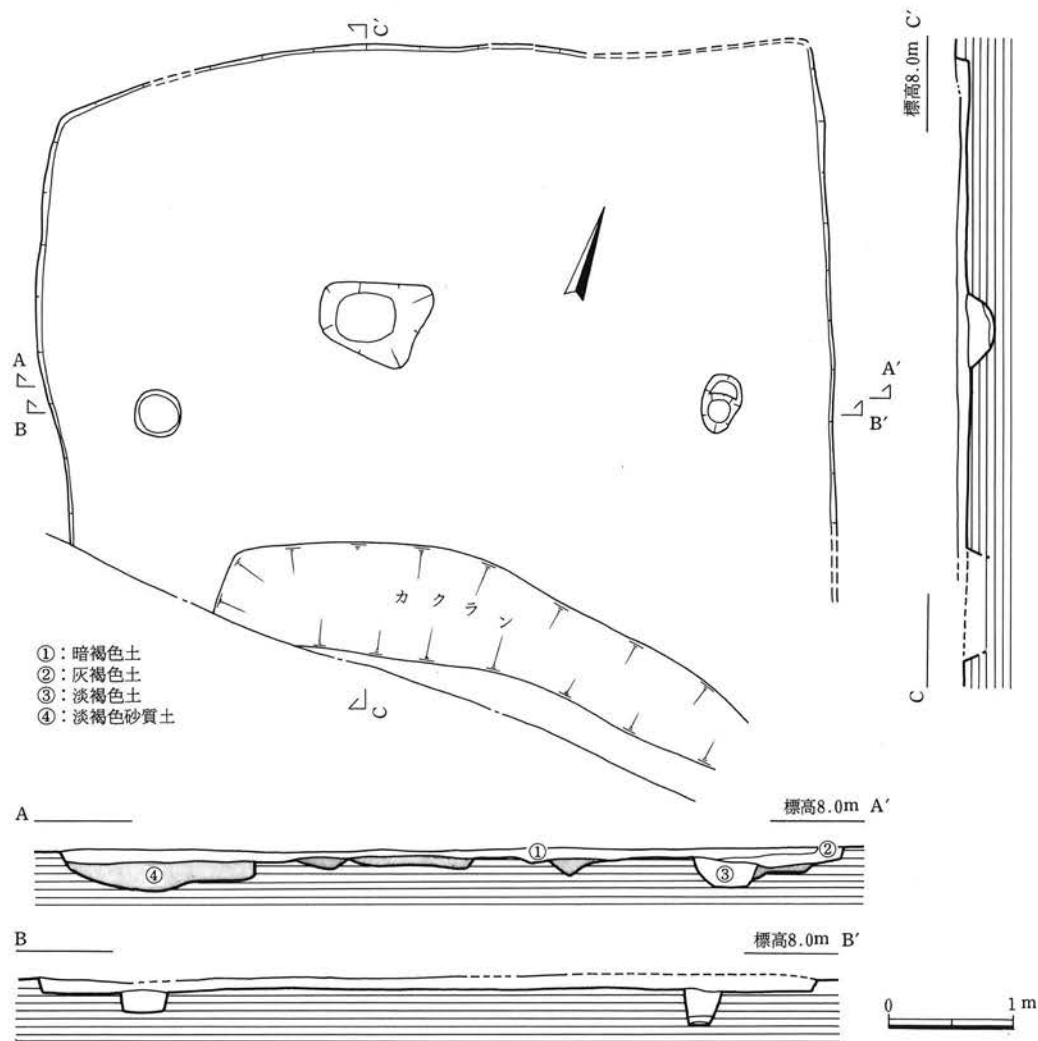


Fig.104 SH420竪穴住居実測図 (1/60)

VII. 村徳永遺跡K地区の記録—K4区—

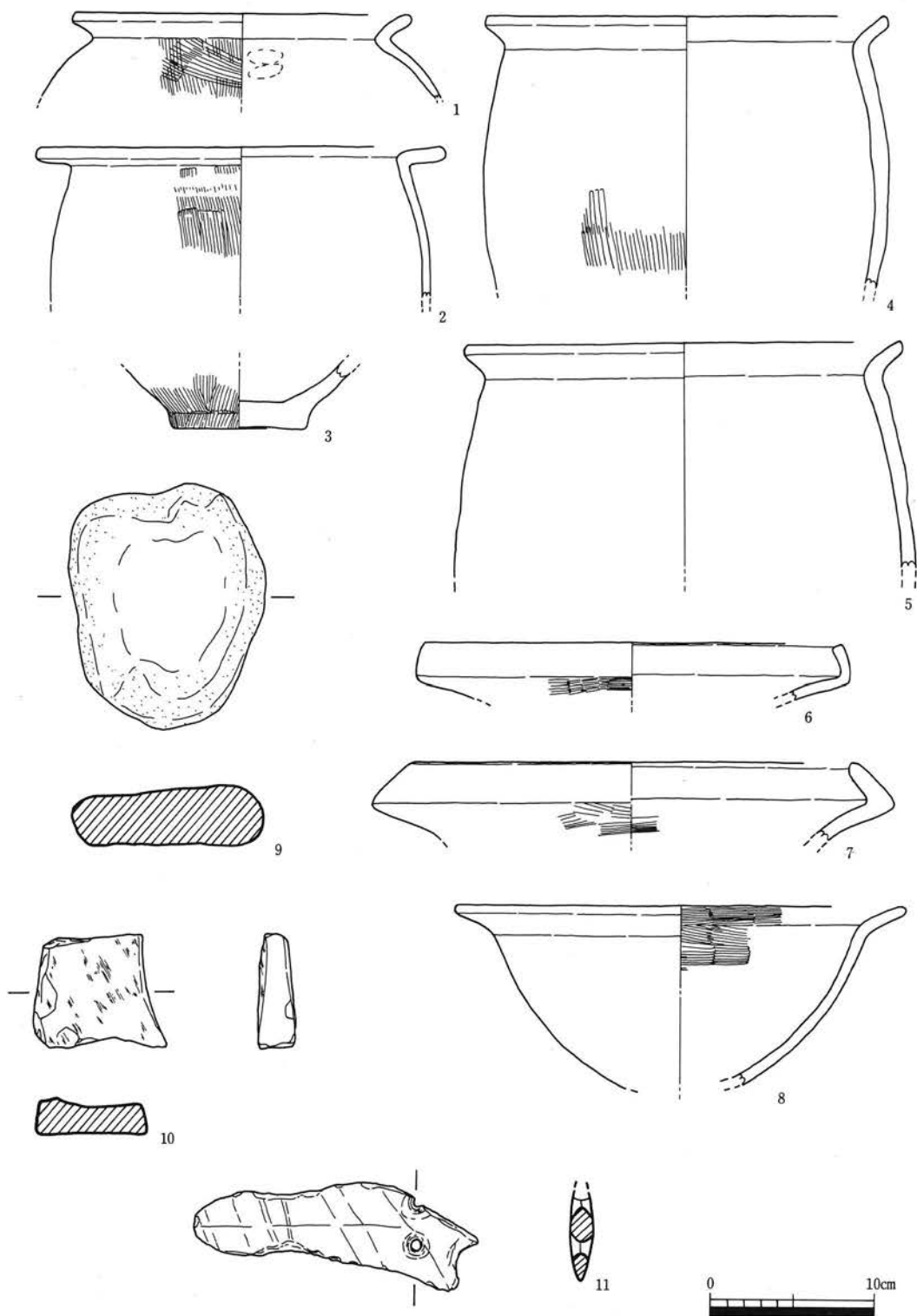


Fig.105 SH420出土弥生土器・石製品実測図 (1/4)

1. 弥生時代の遺構と遺物

われる。残存壁高は6~10cmほどである。

**埋土** ①・②層が住居埋没に伴う自然流入土と判断する。住居内埋土にはまとまった量の遺物が含まれていた。

**床面** ④層が床面整地層で、部分的に床面を形成していた。

**炉** 床面を精査した段階で、住居中央からやや北東に、深さ20cmほどの小土壇を検出した。炉である可能性はある。

**柱穴** 床面を精査した段階で、2個の柱穴を検出した。埋土は淡褐色土。

**出土遺物** (Fig.105) 4・5・7・8・11は、住居北西隅の近くの床面上でまとまって出土した。他の弥生土器・石製品は住居内埋土からの出土で、埋没に伴う流れ込みか。

SH425 竪穴住居 (Fig.106)

**位置** BD-40・BD-41・BE-40・BE-41区画に検出した。検出面の標高は7.7~7.9cmである。SD402・SH416・417・SK436と切り合い関係にあり、SH425が、SD402・SH416に先行し、SH417・SK436に後出する。SD402とSH416により東西長辺は破壊されている。

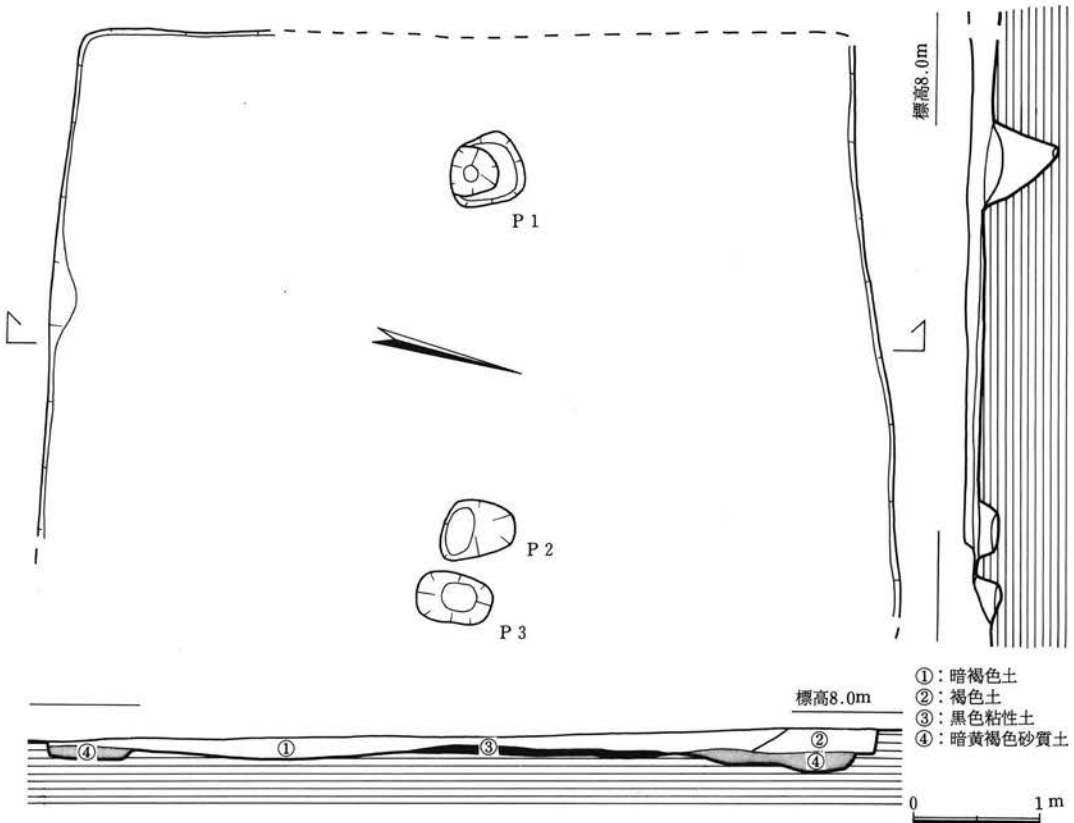


Fig.106 SH425竪穴住居実測図 (1/60)

VII. 村徳永遺跡K地区の記録—K4区—

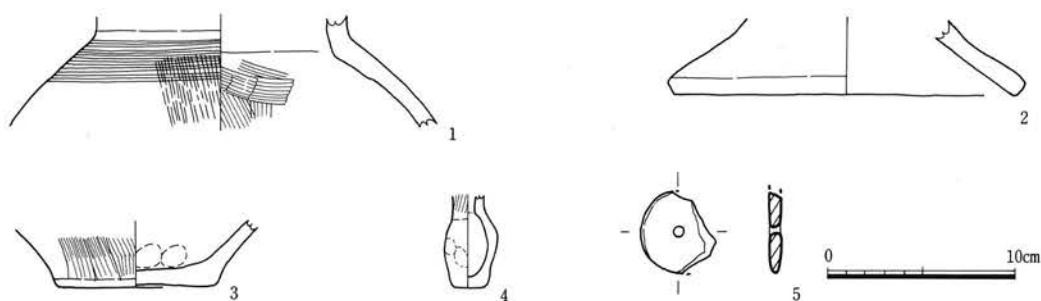


Fig.107 SH425出土弥生土器・土製品実測図 (1/4)

**形態** 平面は長辺6.2m・短辺4.7m以上の長方形をなす。残存壁高は5~20cmである。

**埋土** ①・②層が、住居埋没に伴う自然流入土と判断する。住居内埋土にはややまとまった量の遺物が含まれていた。③層は床面上に薄く広がるもので、住居使用時の生活汚染の痕跡と判断する。

**床面** 住居北側と南側では、④層が床面整地層として床面の一部を形成していた。

**炉** それらしいものは検出していない。

**柱穴** 床面を精査した段階で、短軸方向にP1・P2・P3を検出した。埋土は淡褐色土。2本柱と判断され、P2・P3は建替えの可能性が高いが、先後関係は不明である。

**出土遺物 (Fig.107)** 住居内埋土からややまとまった量の弥生土器破片が出土したが、接合・図化できたものは少ない。

SH431 竪穴住居 (Fig.108)

**位置** BH-44・BH-45・BI-44・BI-45区画に検出した。検出面の標高は7.9m前後である。SD430・SB462と切り合い関係にあり、SH431がSD430に先行し、SB462

2に後出する。SD430により、住居東側隅の部分は破壊されている。

**形態** 平面は長辺5.3m・短辺3.5m前後のやや不整な長方形をなす。残存壁高は15cmほどある。

**埋土** 砂混じりの暗褐色~黒褐色土で、住居埋没に伴う自然流入土と判断する。住居内埋土上部にはまとまった量の遺物が含まれていた。

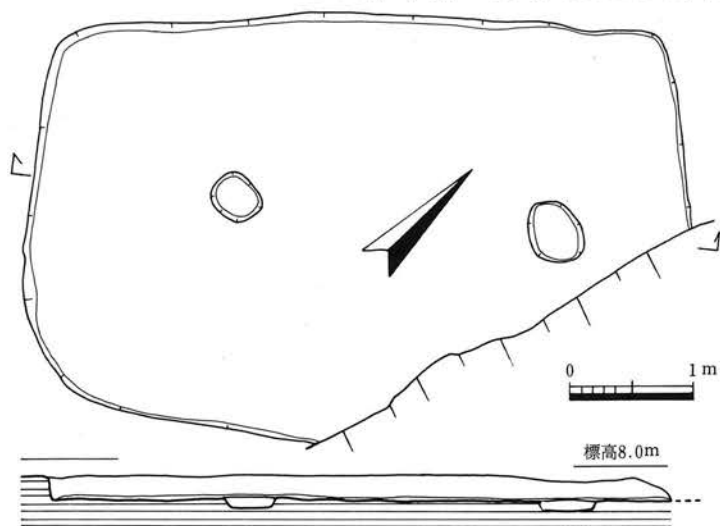


Fig.108 SH431竪穴住居実測図 (1/60)

1. 弥生時代の遺構と遺物

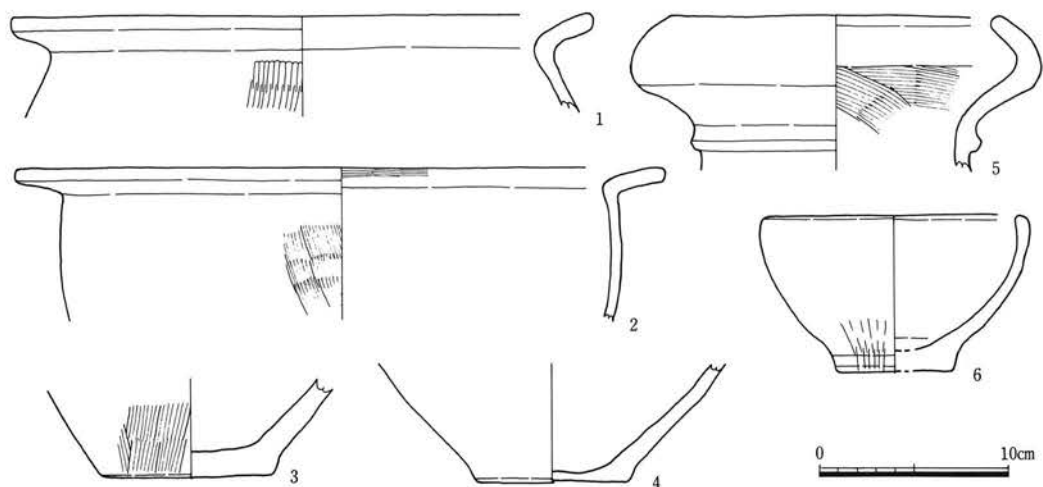


Fig.109 SH431出土弥生土器実測図(1/4)

**床面** 張床や床面整地層らしいものは確認できなかった。

**炉** それらしいものは検出していない。

**柱穴** 床面を精査した段階で、長軸方向に2個の柱穴らしいものを検出したが、柱穴とする  
とかなり浅い。

**出土遺物** (Fig.109) 住居内埋土上面から上部で、まとまった量の弥生土器破片が出土した。

SH433 竪穴住居 (Fig.110)

**位置** BF-47・BF-48・BG-47・BG-48区画に検出した。検出面の標高は7.7~7.8mである。SD413・SK432・SH435と切り合い関係にあり、SH433はSK432に先行しSD413・SH435に後出する。

**形態** 平面形は、長辺5.5~5.7m・短辺4.4mの胴張りでやや不整な長方形をなす。残存壁高は10~30cmほどである。

**埋土** 黒色~黒褐色土で、西南側の埋土上部には灰色砂質土がかぶっていた。住居埋没に伴う自然流入土と判断する。住居内埋土にはややまとまった量の遺物が含まれていた。

**床面** 暗褐色砂質土を叩き締めた床面整地層が、部分的に床面を形成していた。

**炉** 床面を精査した段階で、住居のほぼ中央に浅いくぼみを検出した。埋土は黒色土。炉である可能性が高い。

**柱穴** 床面を精査した段階で、長軸方向に2個の柱穴を検出した。埋土は褐色土。

**住居内土壌** 床面を精査した段階で、南側長辺中央に方形の小土壙を検出した。埋土は暗褐色土。住居内埋土上面からの切込みは確認できず、住居に伴うものと判断する。柱穴状の落ち込みが2個あるが、柱痕跡などは確認できていない。

VII. 村徳永遺跡K地区の記録—K4区—

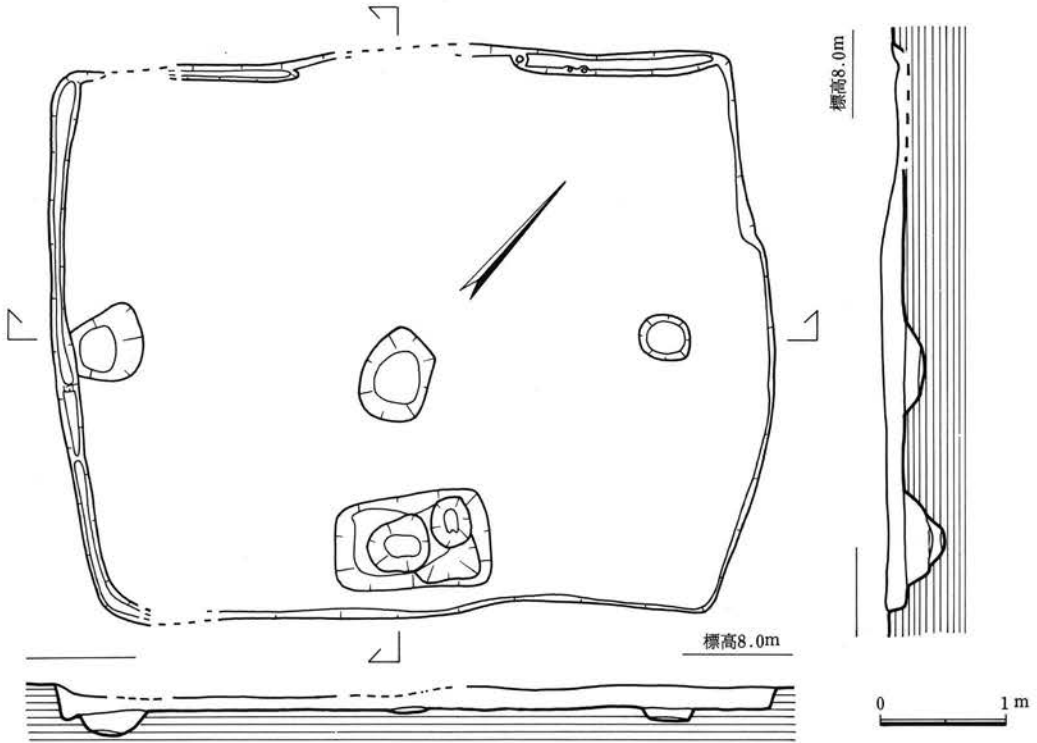


Fig.110 SH433竪穴住居実測図 (1/60)

出土遺物 (Fig.111) 2・4は住居内土壙埋土からの出土である。住居内埋土からはややまとまった量の弥生土器破片と石製品が出土したが、図化できたのは1・3だけである。

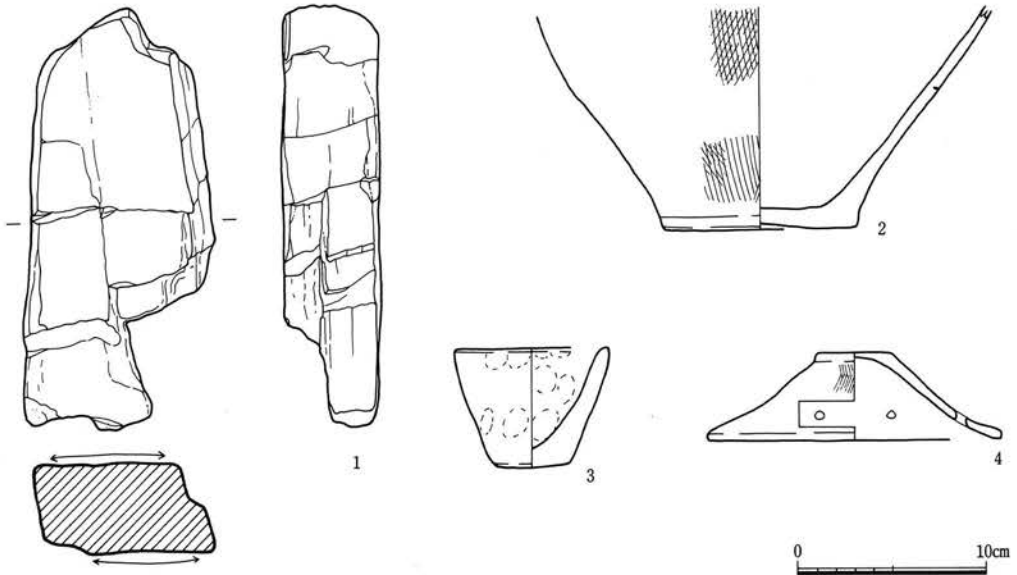


Fig.111 SH433出土弥生土器・石製品実測図 (1/4)

1. 弥生時代の遺構と遺物

SH434 竪穴住居 (Fig.112)

**位置** BE-48・BF-47・BF-48区画に検出した。検出面の標高は7.7~7.9mである。SH435と切り合い関係にあり、SH434が後出する。住居の北側2/3以上は調査区外に展開する。

**形態** 平面は辺5.5m以上の正方形ないし長方形をなすと思われる。残存壁高は10~30cmほどである。西側辺には、ステップ状に地山を削り出した部分がある。

**埋土** 暗褐色土で、住居埋没に伴う自然流入土と判断する。住居内埋土には少数の遺物が含まれていた。

**床面** 張床・床面整地層らしいものは確認していない。

**炉・柱穴** それらしいものは検出していない。

**出土遺物 (Fig.113/1・2)** 住居内埋土から、少数の弥生土器破片と石包丁破片が出土している。

SH435 竪穴住居

BF-47区画に検出した。検出面の標高は7.8m前後である。SH433・434と切り合い関係にあり、SH435が先行する。住居の大部分はSH433・434に破壊され、残存壁高も2cmほどで、内容はよくわからなかった。埋土は淡褐色土で、出土遺物はない。辺4m程度の方角竪穴住居ではないかと思う。

SH442 竪穴住居

BI-43区画付近に検出した。基盤層(VI層)上面が、IV層により激しく攪乱されていて、壁の一部を確認しただけである。正方形ないし長方形竪穴住居と思われる、残存壁高は5cmほどであった。埋土は砂混じりの黒褐色土で、ごく少数の弥生土器破片 (Fig.113/3・4・5) が出土した。

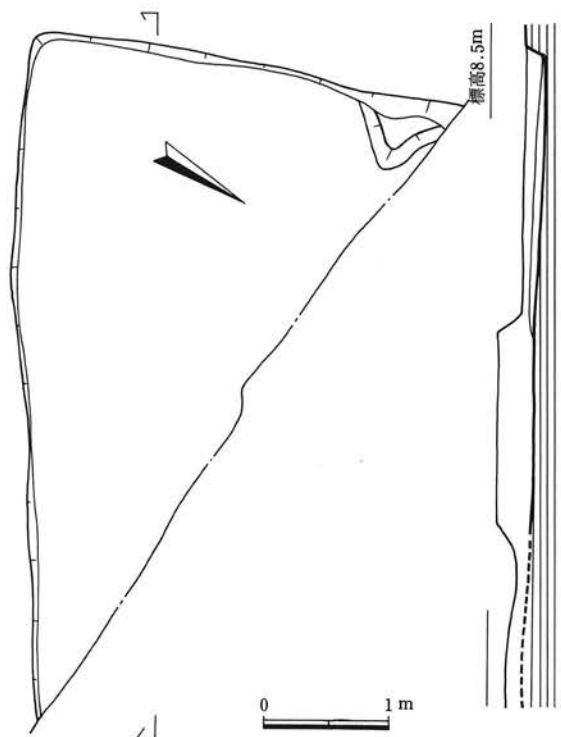


Fig.112 SH434竪穴住居実測図 (1/60)

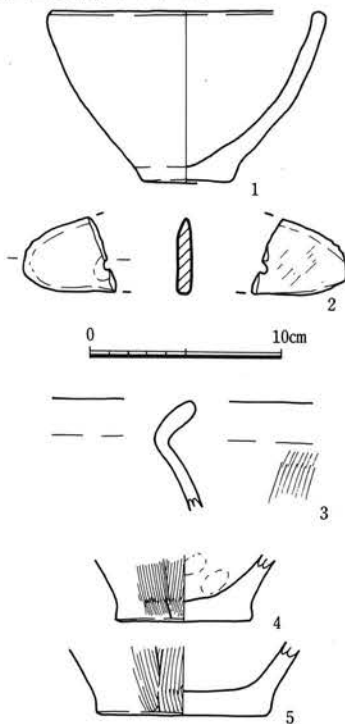


Fig.113 SH434出土弥生土器実測図 (1/4)

(2) 掘立柱建物と出土遺物

SB461 掘立柱建物 (Fig.114)

**位置** BC-46・BC-47・BD-46・BD-47・BE-46・BE-47区画に検出した。検出面の標高は7.8~7.9mである。柱穴P10・11・12・13・14がSH401と切り合い関係にあり、SB461が後出する。

**形態** 14本柱穴で長軸6.8m×短軸5.8mの、柱間が不整な3間×4間の建物である。柱間距離は図示したとおり。柱穴平面は径40~80cmの不整円形で、残存壁高は30~70cmほどある。

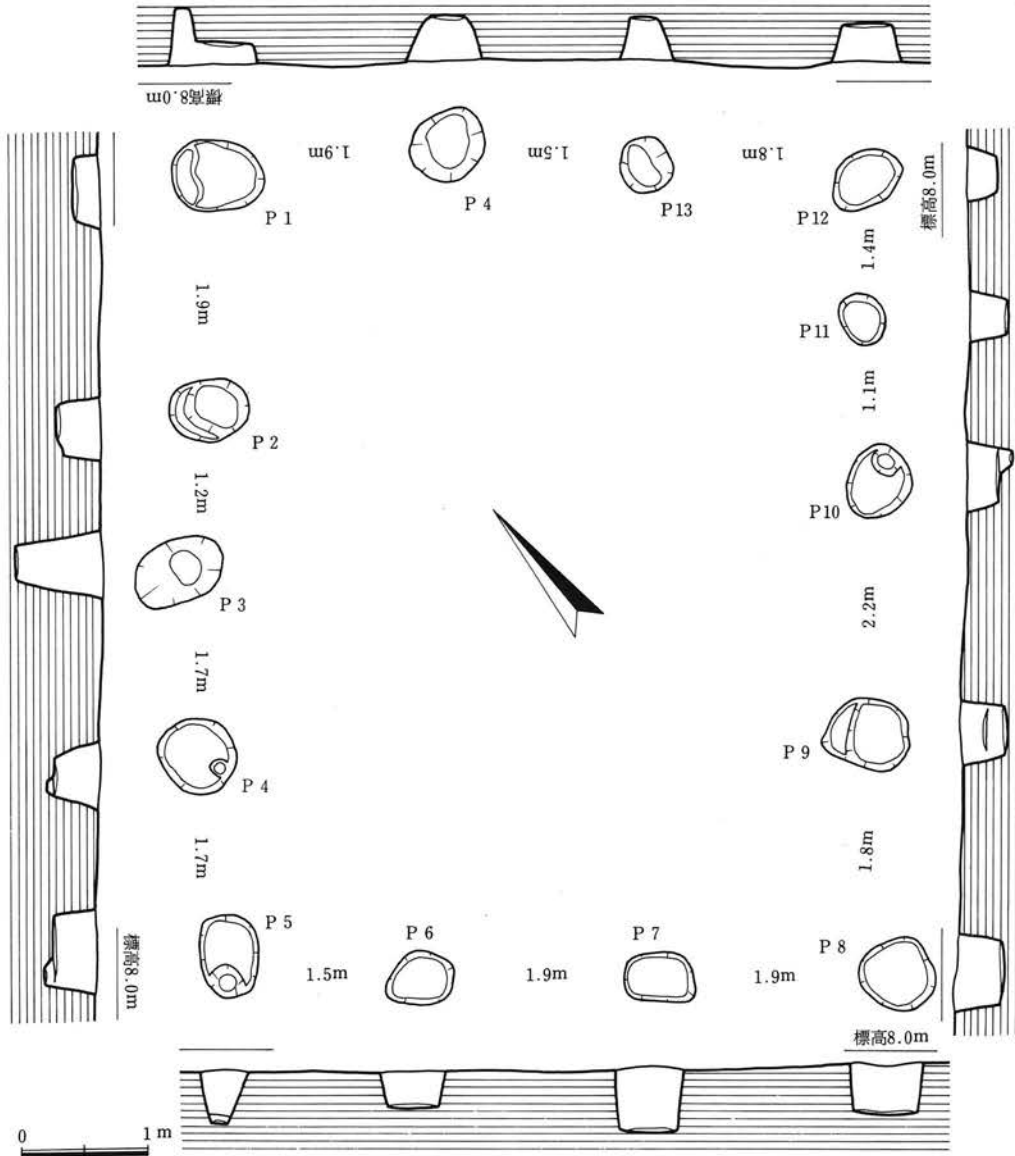


Fig.114 SB461掘立柱建物実測図 (1/60)

1. 弥生時代の遺構と遺物

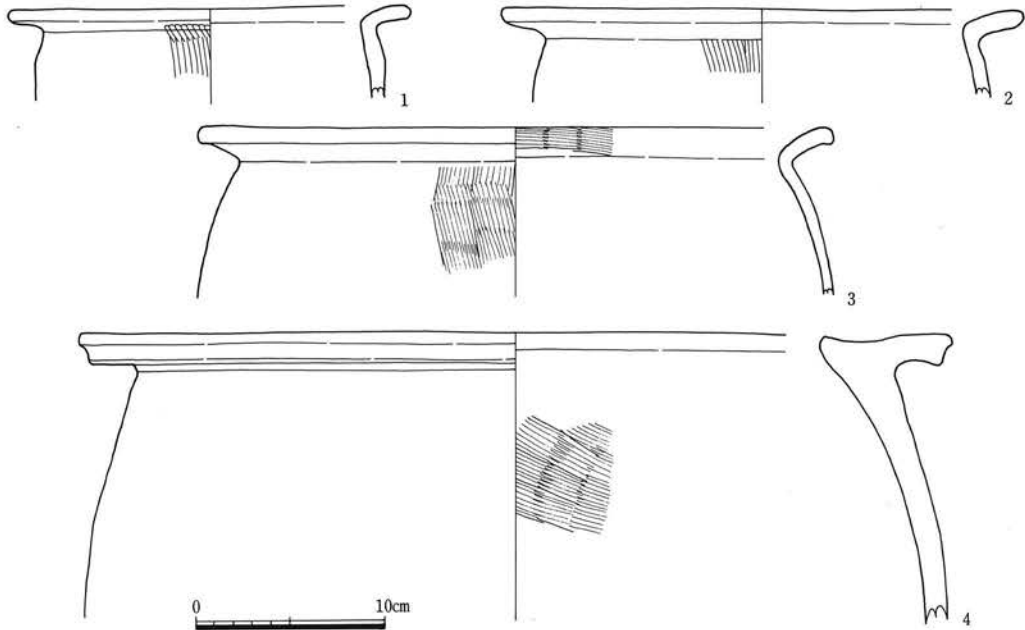


Fig.115 SB461柱穴出土弥生土器実測図 (1/4)

P1・2・4・5・9・10は浅い二段掘りの形態を示す。

**柱穴埋土** 砂混じりの暗褐色～黒褐色土で、平面及び土層断面では柱痕跡は確認できなかった。P3・5・9の柱穴埋土にはごく少数の遺物が含まれていた。

**出土遺物 (Fig.115)** P3・5・9の柱穴埋土からは、ごく少数の弥生土器破片が出土している。1・3はP3出土、2はP5出土、4はP9出土。

**所見** この地域で検出される弥生時代掘立柱建物の形態とはかなり異なるが、1)柱穴埋土出土遺物がすべて弥生土器破片であったこと、2)比較的規模の大きな多柱穴の建物は村徳永遺跡F・G・L地区でも確認されていること、3)SH401とほぼ同じ方向を示し

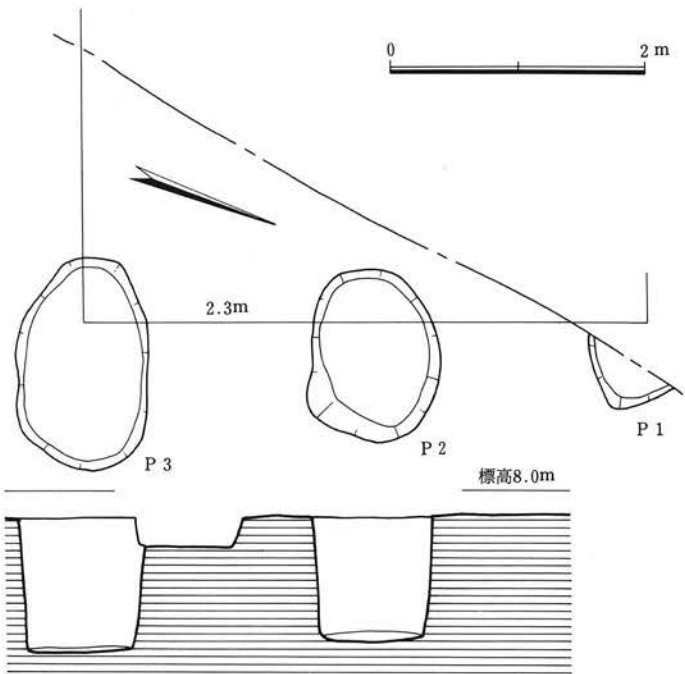


Fig.116 SB462掘立柱建物実測図 (1/60)

VII. 村徳永遺跡K地区の記録—K4区—

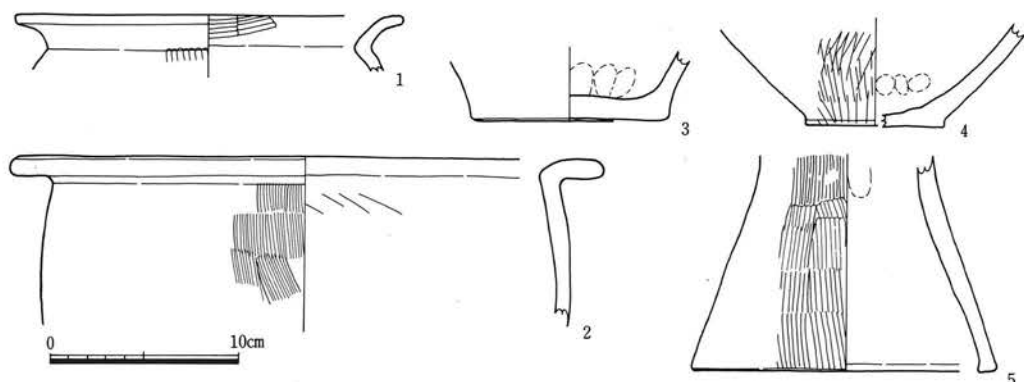


Fig.117 SB462柱穴出土弥生土器実測図 (1/4)

から一応弥生時代に属するものと判断しておく。

**SB462掘立柱建物 (Fig.116)**

**位置** BI-44・BI-45区画に検出した。検出面の標高は7.8m前後である。柱穴P3がSH431と切り合い関係にあり、SB462が先行する。P1の大部分は調査区外に展開する。

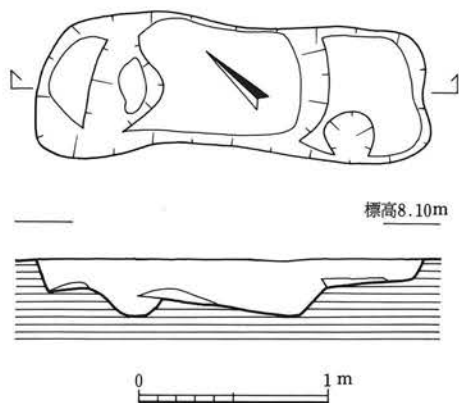
**形態** 建物の西側大部分は調査区外に展開するが、村徳永遺跡F・G・J・L地区で多数検出されている—6本柱穴・1間×2間の建物と思われる。長軸5m以上で、柱間距離は図示したとおり。

**柱穴埋土** 砂混じりの黒灰色土で、平面及び土層断面でも柱痕跡は確認できなかった。柱穴埋土には少数の遺物が含まれていた。

**出土遺物 (Fig.117)** 柱穴埋土からは少数の弥生土器破片が出土している。5はP1出土、1・3はP2出土、2・4はP3出土である。

**(3) 土壌と出土遺物**

**SK403土壌 (Fig.118)**



**位置** BE-46区画に検出した。検出面の標高は7.9m前後である。主要遺構との切り合い関係はない。

**形態** 平面は長軸2m・短軸0.7mの不整な隅丸長方形をなす。長軸方向に2段掘りの形状を示し、残存壁高は10~30cmほどで、壁面はきつく立ち上がる。底面はほぼ平坦である。

**埋土** 暗褐色土で、埋没に伴う自然流入土と判断する。埋土には微量の遺物が含まれていた。

**出土遺物** 埋土からは、流れ込みと思われる弥生土器細片が出土したが、図化できたものはない。

Fig.118 SK403土壌実測図 (1/40)

1. 弥生時代の遺構と遺物

SK419土壙 (Fig.119)

**位置** BG-41区画に検出した。検出面の標高は7.9m前後である。SH420と切り合い関係にあり、SK419が後出する。

**形態** 平面は長軸2.7m・短軸1.2mの不整な楕円形をなす。残存壁高は最深で50cmほどある。壁面の立ち上がりはさほどきつくない。

**埋土** ①・②層が埋没に伴う自然流入土と判断する。③層は壁面崩落土か。①・②層にはまとまった量の遺物が含まれていた。

**出土遺物** (Fig.121) ①・②層からまとまった量の弥生土器が出土している。

SK422土壙 (Fig.120)

**位置** BH-42区画に検出した。検出面の標高は7.8~7.9mである。SK421と切り合い関係にあり、SK422が先行する。

**形態** 平面は長辺3.5m・短辺2.2mのやや不整な長方形をなす。残存壁高は20cmほどで、底面

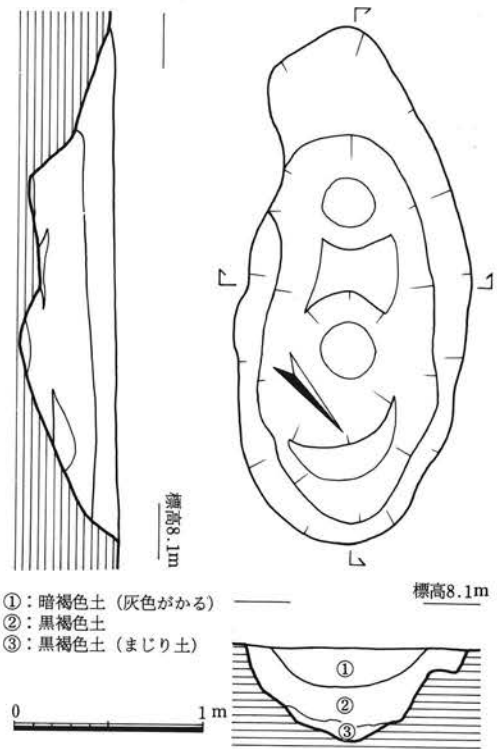


Fig.119 SK419土壙実測図 (1/40)

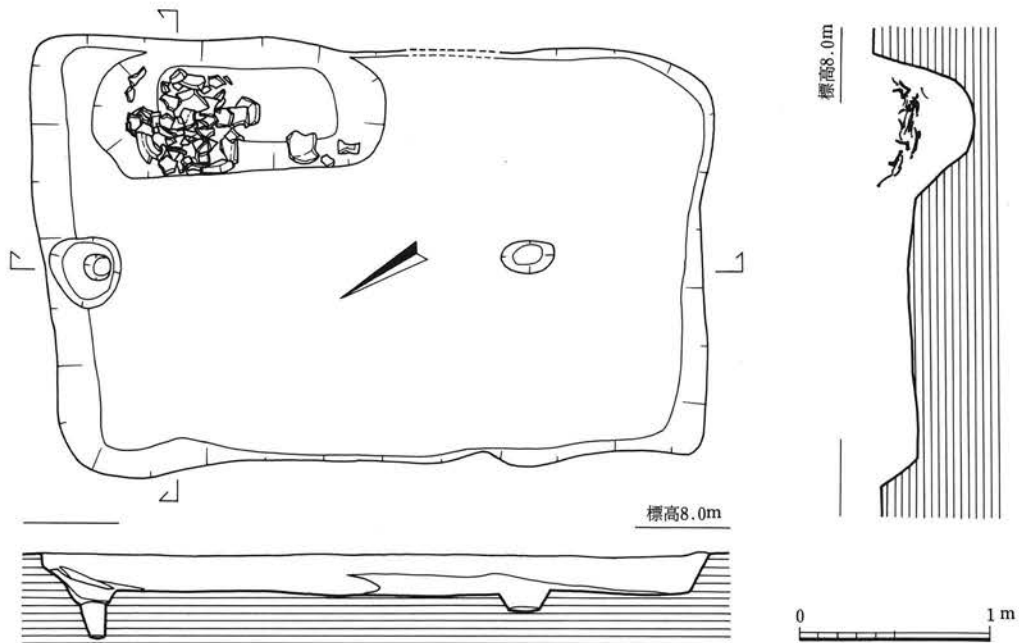


Fig.120 SK422土壙実測図 (1/40)

VII. 村徳永遺跡K地区の記録—K4区—

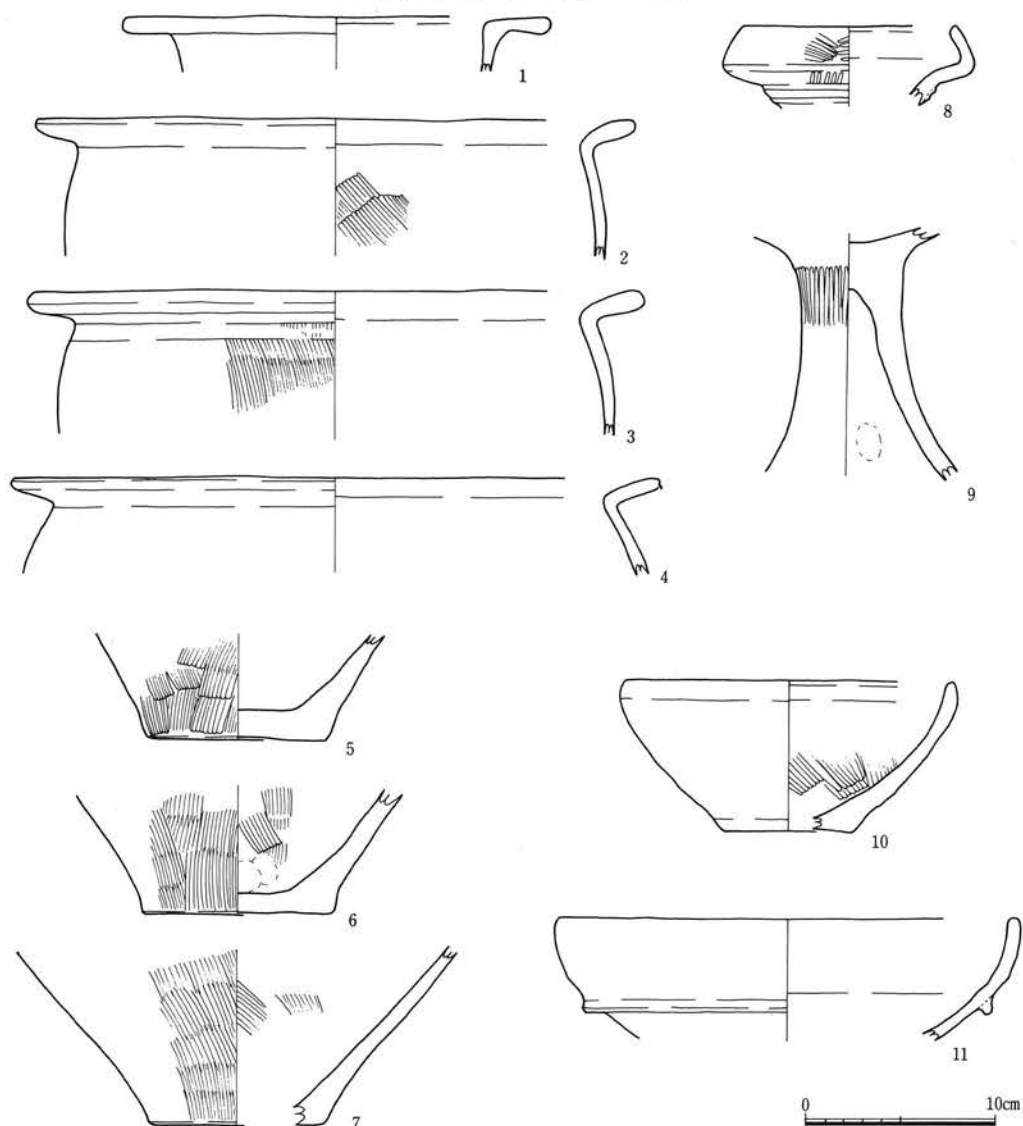


Fig.121 SK419出土弥生土器実測図 (1/4)

はほぼ平坦である。東側隅近くの底面で、長軸1.5m・短軸0.6m・深さ30cmほどの小土壙を検出した。土壙長軸中心では、南側底面と北側壁の立ち上がり部分で小穴を検出した。

**埋土** 土壙内埋土と小土壙埋土は暗褐色土で、埋没に伴う自然流入土と判断する。埋土下部には多量の遺物が含まれていた。小穴の埋土は淡褐色土であった。

**出土遺物** (Fig.122・123) 埋土下部から多量の弥生土器破片が出土した。特に東側隅近くでは、小土壙の埋土上部に落ち込む形で、甕の破片がまとまって出土した。一括投棄によるものか。

**所見** かなり小形の竪穴住居である可能性は高いが、一応土壙としてあげておく。

1. 弥生時代の遺構と遺物

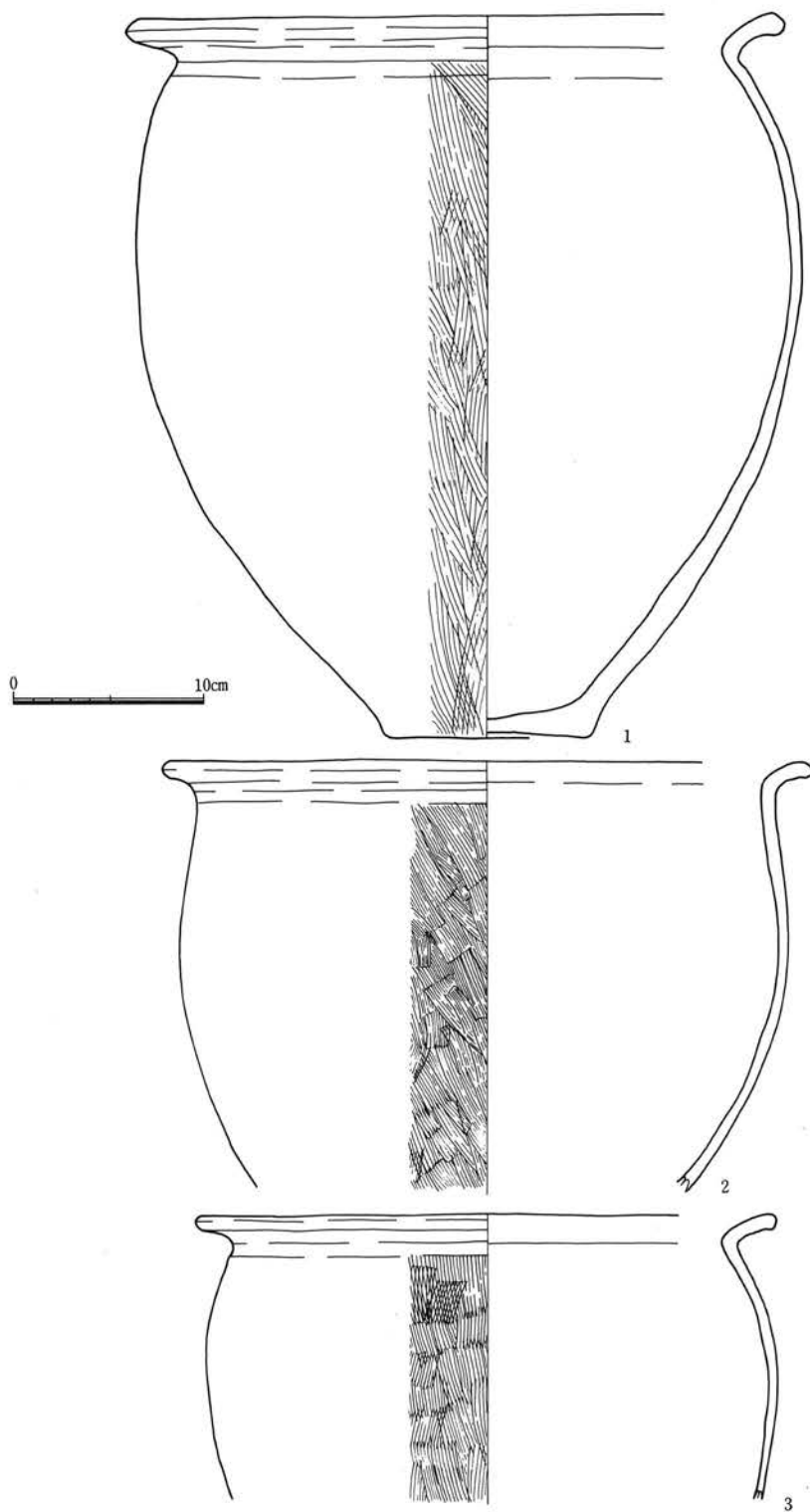


Fig.122 SK422出土弥生土器実測図1 (1/4)

VII. 村徳永遺跡K地区の記録—K4区—

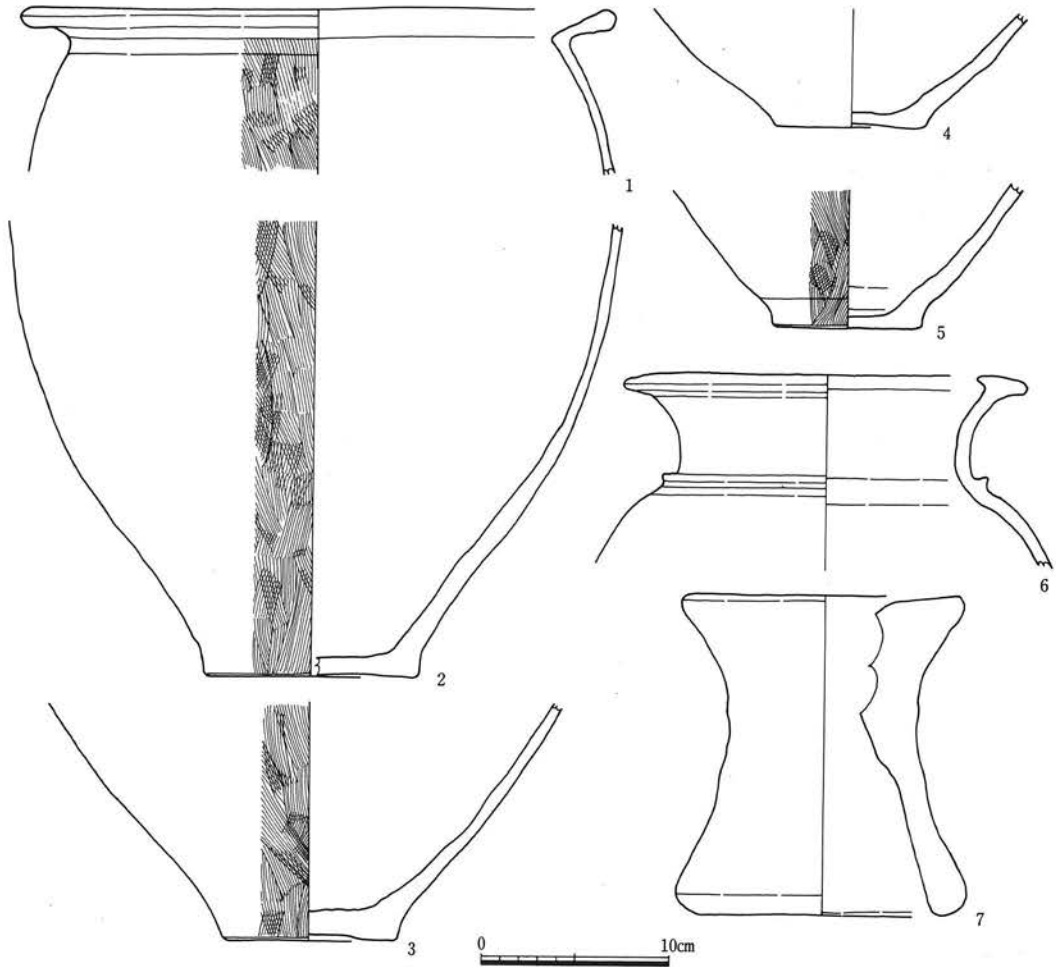


Fig.123 SK422出土弥生土器実測図2 (1/4)

SK423土壙 (Fig.124)

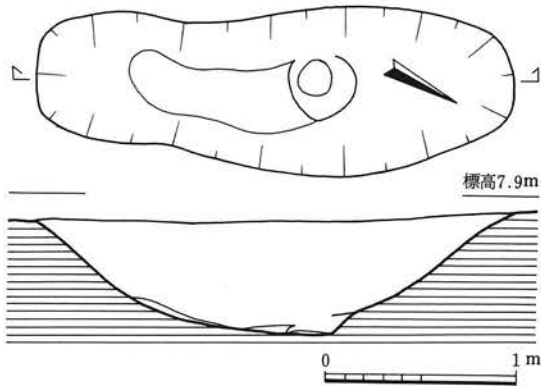


Fig.124 SK423土壙実測図 (1/40)

**位置** BH-41区画に検出した。検出面の標高は7.8m前後である。他の主要遺構とは切り合い関係にはない。

**形態** 平面は長軸2.5m・短軸0.7~0.9mの不整な隅丸長方形をなす。残存壁高は60cmほどで、壁面はゆるく立ち上がり、底面は浅い舟底状をなす。

**埋土** 褐色~暗褐色土で、埋没に伴う自然流入土と判断する。埋土中には少量の遺物が含まれていた。

1. 弥生時代の遺構と遺物

**出土遺物 (Fig.125)** 埋土からは少量の弥生土器破片が出土した。

**SK 4 2 4 土壌 (Fig.126)**

**位置** BC-46区画に検出した。検出面の標高は7.9m前後である。SH 4 0 1・SB 4 6 1と切り合い関係にあり、SK 4 2 4が、SB 4 6 1に先行し、SH 4 0 1に後出する。

**形態** 平面は径1.1~1.3mの不整な円形をなす。残存壁高は30cmほどで、壁面はゆるく立ち上がり、底面は浅いレンズ状を示す。

**埋土** ①・②層は埋没に伴う自然流入土、③層は壁面崩落土と判断する。①・②層には少数の遺物が含まれていた。

**出土遺物 (Fig.127)** ①・②層から少数の弥生土器破片と砥石が出土した。

**SK 4 3 2 土壌 (Fig.128)**

**位置** BG-47区画に検出した。検出面の標高は7.7m前後である。SH 4 3 3と切り合い関係にあり、SK 4 3 2が後出する。

**形態** 平面は径1.1~1.3mのやや不整な円形をなす。残存

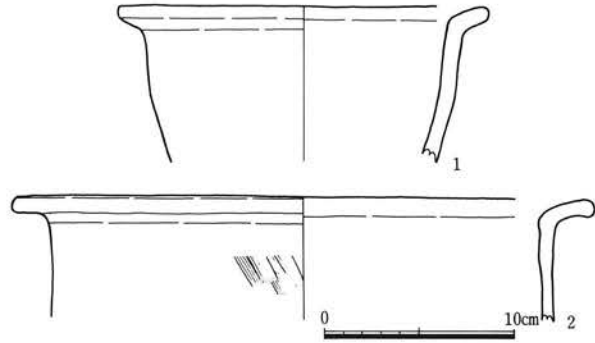
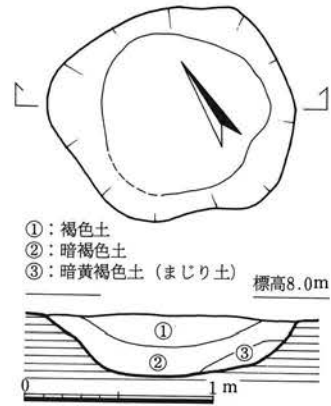


Fig.125 SK423出土弥生土器実測図 (1/4)



- ①: 褐色土
- ②: 暗褐色土
- ③: 暗黄褐色土 (まじり土)

Fig.126 SK424土壌実測図 (1/40)

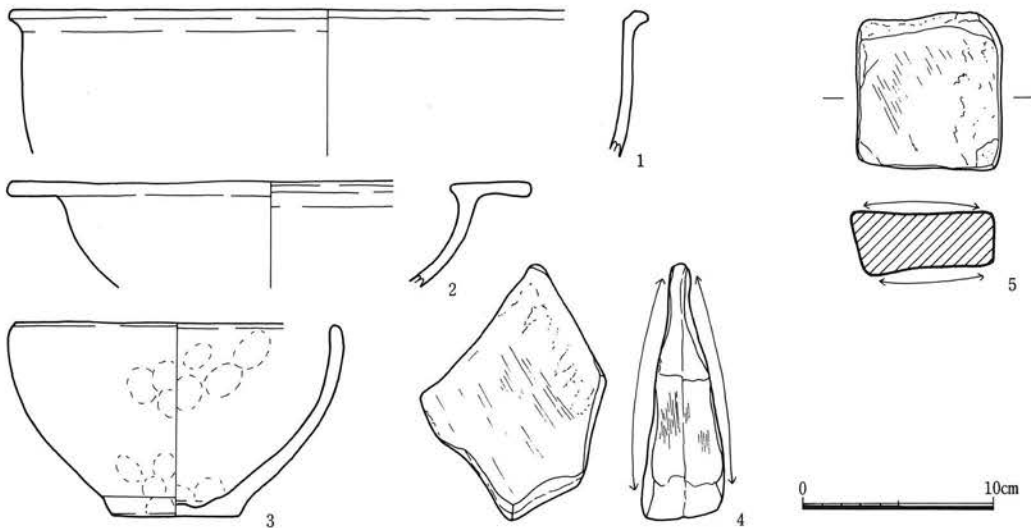


Fig.127 SK424出土弥生土器・石製品実測図 (1/4)

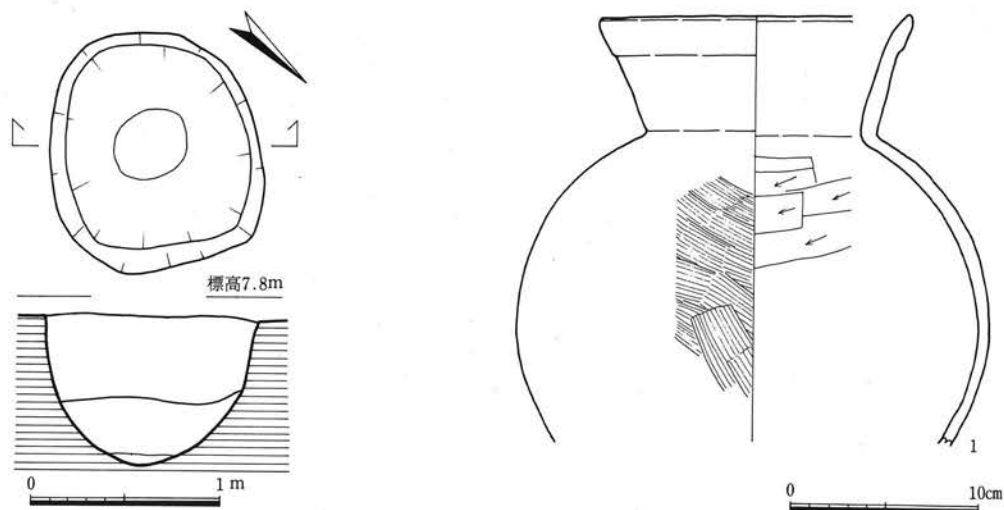


Fig.128 SK432土壌・出土遺物実測図 (1/40・1/4)

壁高は80cmほどで、壁面はきつく立ち上がる。底面は深いレンズ状を示す。

**埋土** 砂混じりの黒褐色～黒色土で、埋没に伴う自然流入土と判断する。埋土下部の底面近くからごく少数の遺物が出土した。

**出土遺物** 埋土下部から弥生土器破片が出土した。

**SK436土壌 (Fig.129)**

**位置** BD-41・BE-41区画に検出した。検出面の標高は7.6m前後である。SH425と切り合い関係にあり、SK436が先行する。

**形態** 平面は長軸2.5m・短軸1.7mの不整な隅丸長方形をなす。残存壁高は最深で90cmほどである。壁面はややゆるく立ち上がり、底面近くではゆるい二段掘りの形状を示す。

**埋土** ①～③層は埋没に伴う自然流入土と判断する。④層も自然流入土である可能性が高い。①・②層には少数の遺物が含まれていた。

**出土遺物 (Fig.130)** 埋土から少数の弥生土器破片が出土した。

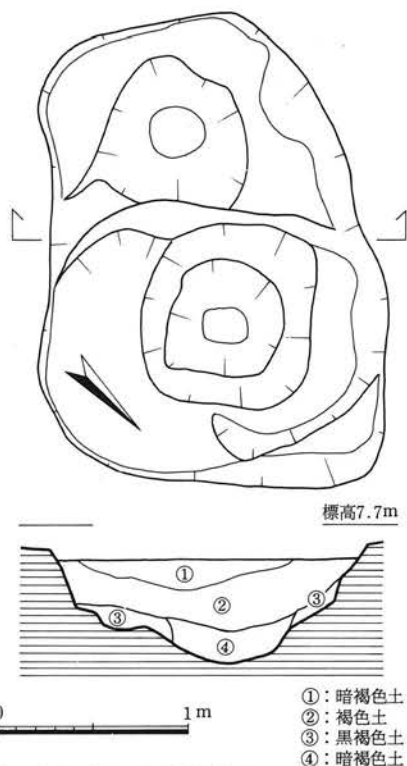


Fig.129 SK436土壌実測図 (1/40)

1. 弥生時代の遺構と遺物

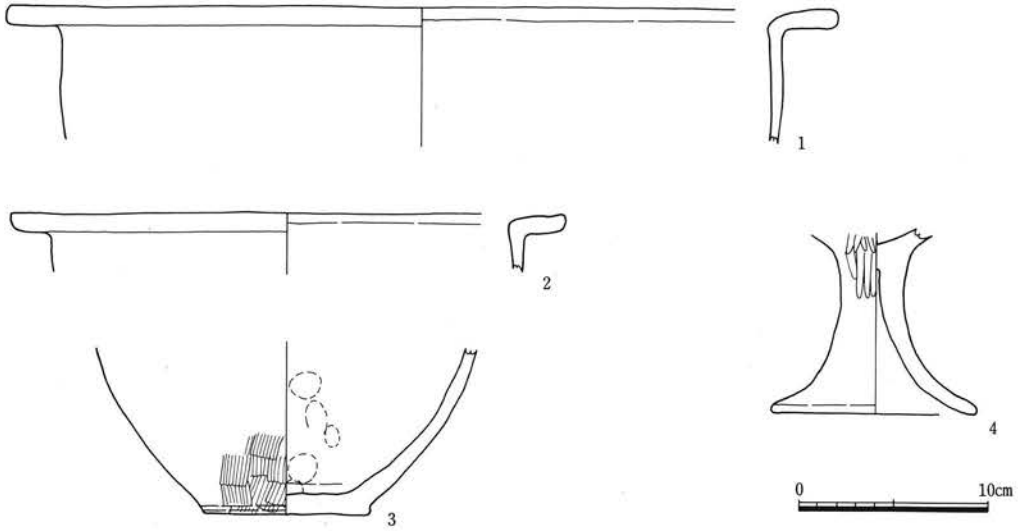


Fig.130 SK436出土弥生土器実測図 (1/4)

(4) 溝と出土遺物

SD409溝

**位置** BF-41・BF-42区画に検出した。検出面の標高は7.8m前後である。SK408・SH410・415・416と切り合い関係にあり、SD409が、SH410・416に後出し、SK408・SH415に先行する。

**形態** やや西へ振れる南北方向の溝で、8mほどの走行が確認された。溝幅30～50cm・残存壁高20～30cmで、壁面はややきつく立ち上がり、底面はゆるい舟底状をなす。

**埋土** 褐色～淡褐色土で、埋没に伴う自然流入土と判断する。埋土にはごく少数の遺物が含まれていた。

**出土遺物** (Fig.131/1・2・3) 埋土からは、少数の弥生土器破片が出土している。

SD413溝

**位置** BF-43・BG-44・BG-44・BG-45・BG-46・BG-47区画に検出した。検出面の標高は7.7～7.9mである。SH433と切り合い関係にあり、SD413が先行する。

**形態** やや西へ振れる南北方向の溝で、20mほどの走行が確認された。SH410の北側1mほどで、溝の走行は止まっている。溝幅40～80cm・残存壁高20～30cmで、壁面はややきつく立ち上がり、底面はゆるい舟底状をなす。

**埋土** 褐色～淡褐色土で、埋没に伴う自然流入土と判断する。埋土にはごく少数の遺物が含まれていた。

**出土遺物** (Fig.131/4・5・6・7・8) 埋土からは、少数の弥生土器破片が出土している。

VII. 村徳永遺跡K地区の記録—K4区—

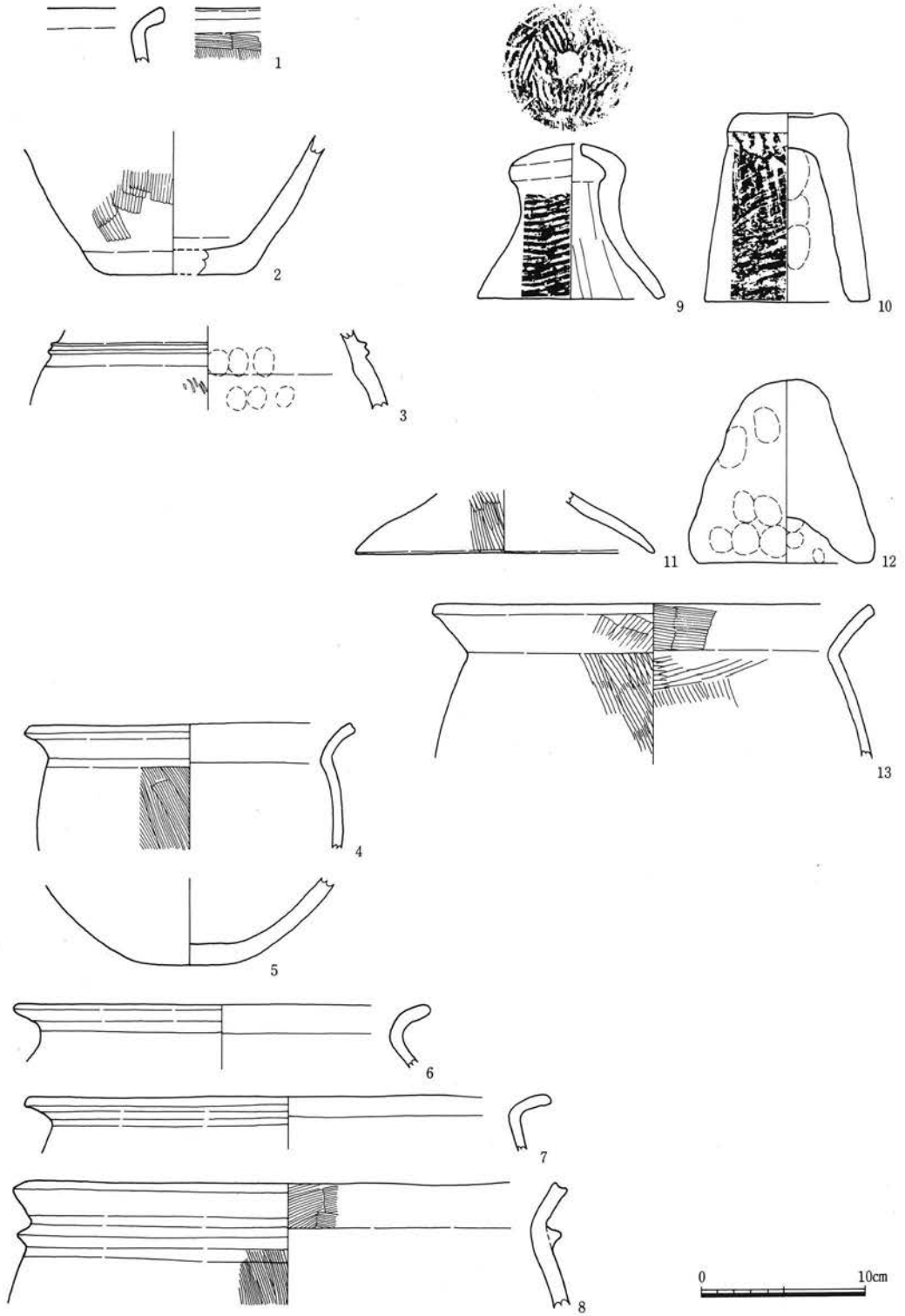


Fig.131 SD409・413・430出土弥生土器実測図 (1/4)

## 2. 古墳時代の遺構と遺物

### SD430溝

**位置** BH-43・BH-44・BH-45・BG-46・BG-47・BG-48区画に検出した。検出面の標高は7.6～7.8m前後である。SH431と切り合い関係にあり、SD430が後出する。SD430を検出したK4区西側は、IV層が厚く堆積し、検出面が激しく攪乱されていたため、溝の走行は部分的にしか確認できていない。

**形態** 西へ振れる南北の溝で北側は調査区外に展開し、推定される溝の走行は25mほどでやや蛇行している。溝幅50～90cm・残存壁高50～80cmで、壁面はきつく立ち上がり、底面は舟底状をなす。

**埋土** 上部が褐色～暗褐色土、下部が淡褐色砂で、埋没に伴う自然流入土と判断する。埋土にはまとまった量の遺物が含まれていた。

**出土遺物** (Fig.131/9・10・11・12・13) 埋土からは、まとまった量の弥生土器破片が出土したが、接合図化できたものは少ない。

## 2. 古墳時代の遺構と遺物

### (1) 土壌と出土遺物

#### SK428土壌 (Fig.133)

**位置** BF-44・BF-45区画に検出した。検出面の標高は8.2m前後である。他の主要遺構とは切り合い関係はない。

**形態** 平面は長軸1.8m・短軸1.4mの胴張りでやや不整な隅丸長方形をなす。残存壁高は20cmほどで、壁面はきつく立ち上がり、底面はほぼ平坦である。底面ほぼ中央で小穴を検出した。土壌に伴うものと考える。

**埋土** 暗褐色土で、埋没に伴う自然流入土と判断する。埋土中にはまとまった量の遺物が含まれていた。

#### 出土遺物 (Fig.134)

埋土中からまとまった量

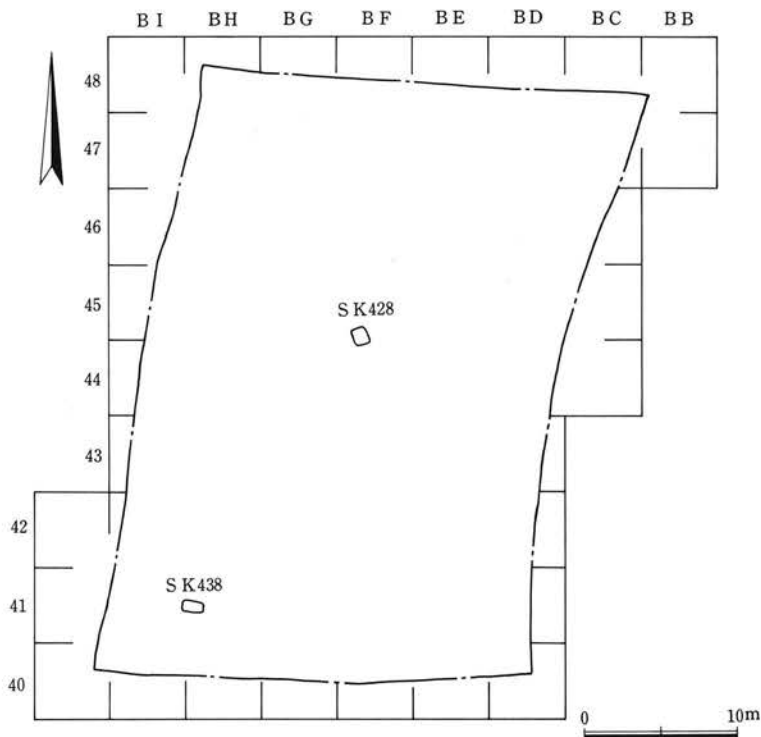


Fig.132 K4区古墳時代主要遺構配置図

VII. 村徳永遺跡K地区の記録—K4区—

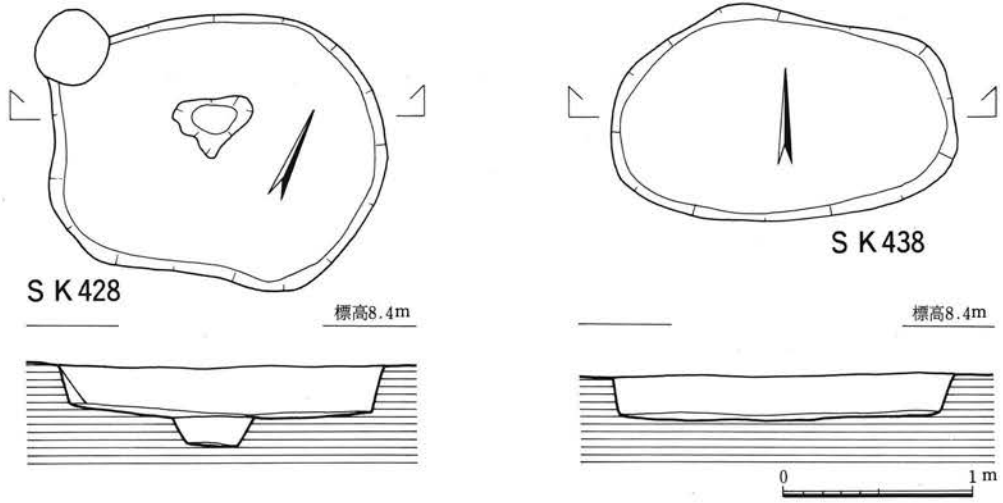


Fig.133 SK428・438土壇実測図 (1/40)

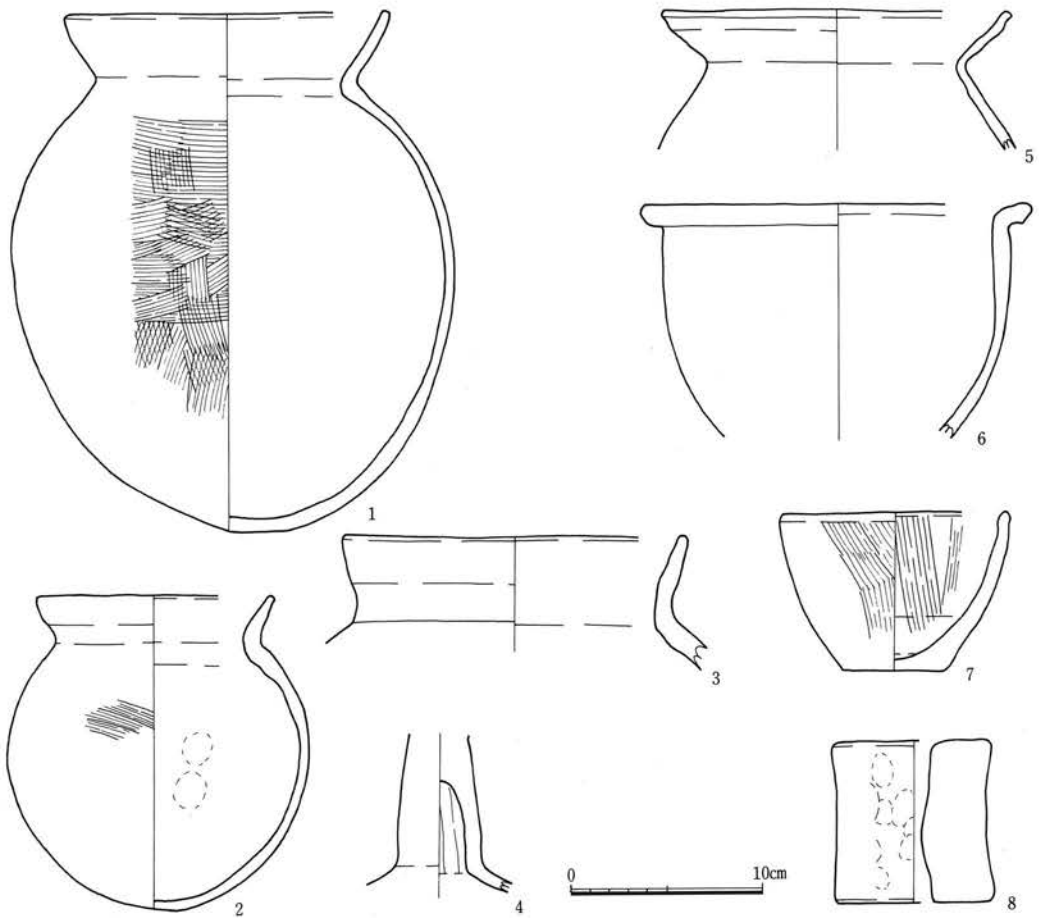


Fig.134 SK428・438出土土師器実測図 (1/4)

### 3. 古代の遺構と遺物

の土師器破片が出土していて、2個体の甕が関係に近い状態に接合できた。

#### SK438土壌 (Fig.133)

**位置** BH-41区画に検出した。検出面の標高は8.1m前後である。他の主要遺構との切り合い関係はない。

**形態** 平面は長軸1.8m・短軸1.1mの胴張りで不整な隅丸長方形をなす。残存壁高は20cmほどで、壁面はきつく立ち上がり、底面はほぼ平坦である。

**埋土** 暗褐色土で、埋没に伴う自然流入土と判断する。埋土には少数の遺物が含まれていた。

**出土遺物** (Fig.134) 埋土からは少数の土師器破片が出土している。

### 3. 古代の遺構と遺物

#### (1) 土壌と出土遺物

#### SK408土壌 (Fig.136)

**位置** BF-42・BF-43・BG-42・BG-43区画に検出した。検出面の標高は7.7~7.8mである。SD409・SH410と切り合い関係にあり、SK408が後出する。

**形態** 平面は長軸2.4m・短軸1.3mの不整な隅丸長方形をなす。北側には平坦な段状部があり、二段掘りの形状を示す。残存壁高は最深で40cmほどで、壁面はきつく立ち上がり、底面は浅い舟底状をなす。北側段状部で小穴を検出したが、土壌に伴うものかは不明である。

**埋土** 暗褐色土で、埋没に伴う自然流入土と判断する。埋土にはごく少数の遺物が含まれていた。

**出土遺物** 埋土からごく少数の土師器破片が出土した。図化できたのは甕1個である。

#### SK418土壌

(Fig.137)

**位置** BD-43区画に検出した。検出面の標高

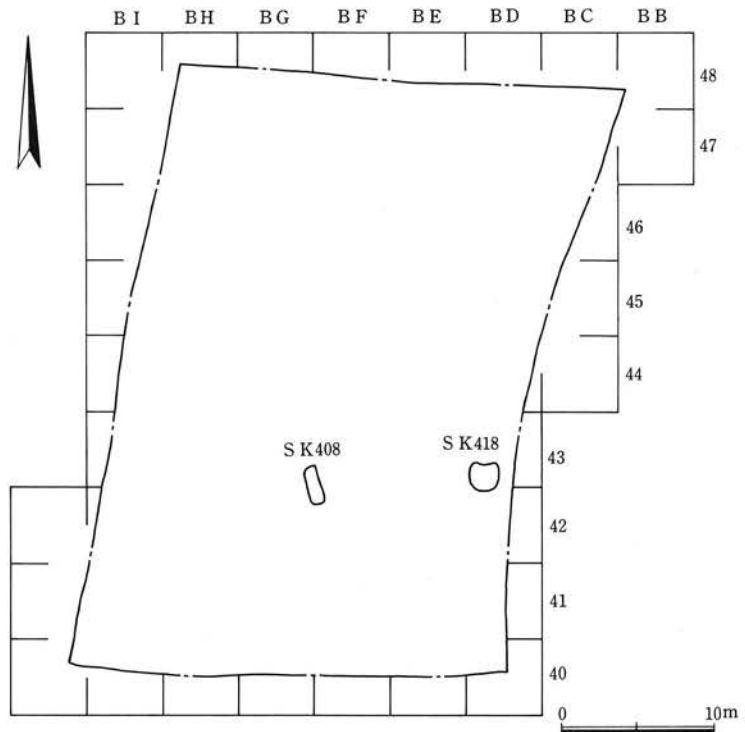


Fig.135 K4区古代主要遺構配置図

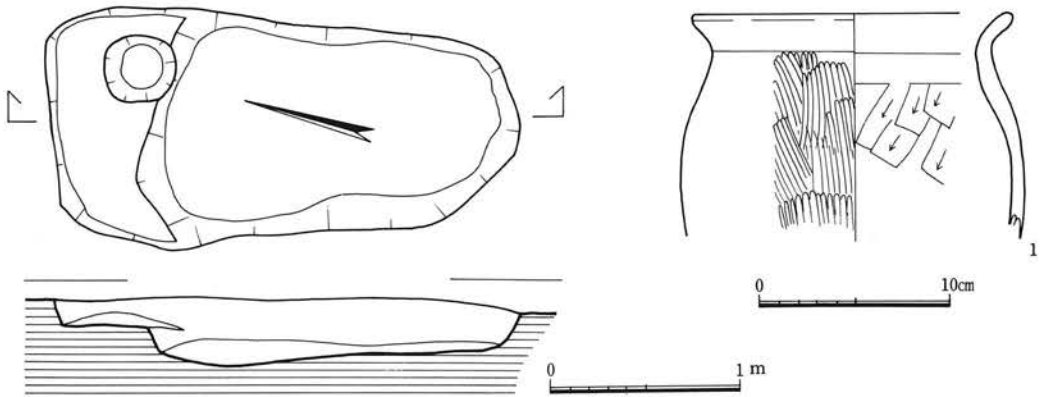


Fig.136 SK408土壌・出土土師器実測図 (1/40・1/4)

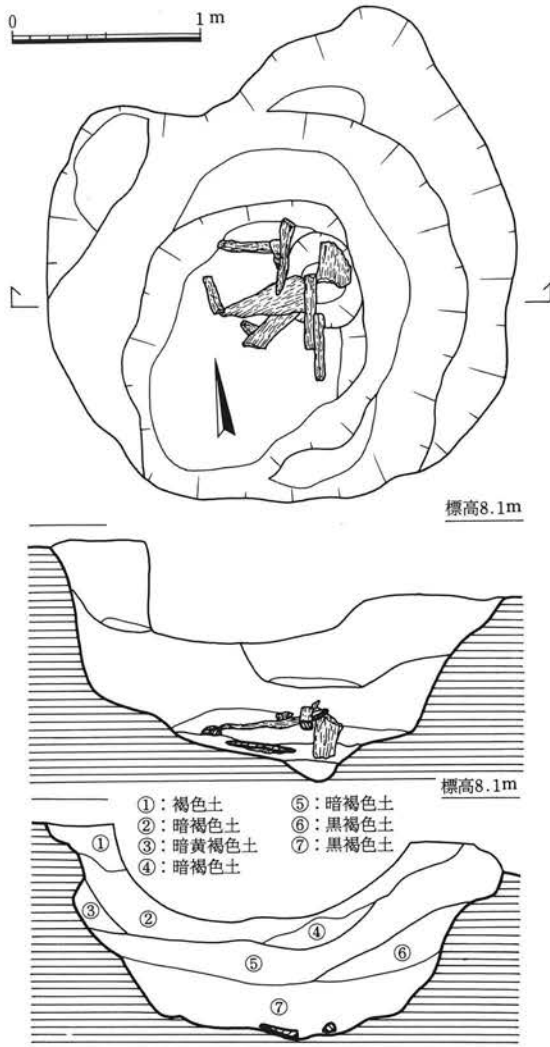


Fig.137 SK418土壌実測図 (1/40)

は7.9m前後である。SD402・SH407と切り合い関係にあり、SK418が、SD402に先行し、SH407に後出する。

**形態** 平面は長径2.8m・短径2.5mの短楕円形をなす。残存壁高は最深で80cmほどで、壁面はきつく立ち上がり、底面はレンズ状の形態を示す。

**埋土** ①・②・④～⑦は埋没に伴う自然流入土と判断する。③層は壁面の崩落土と判断する。①・②・⑤層には少数の遺物が含まれていた。⑦層下部底面上では、自然木が出土した。

**出土遺物** (Fig.138) ①・②・⑤層から土師器破片が出土している。杯は完形に近く、投棄によるものか。

#### 4. 中世の遺構と遺物

##### (1) 土壌と出土遺物

##### SK421土壌 (Fig.140)

**位置** BH-42区画に検出した。検出面の標高は8.3m前後である。SK422と切り合い関係にあり、SK421が後出する。

4. 中世の遺構と遺物

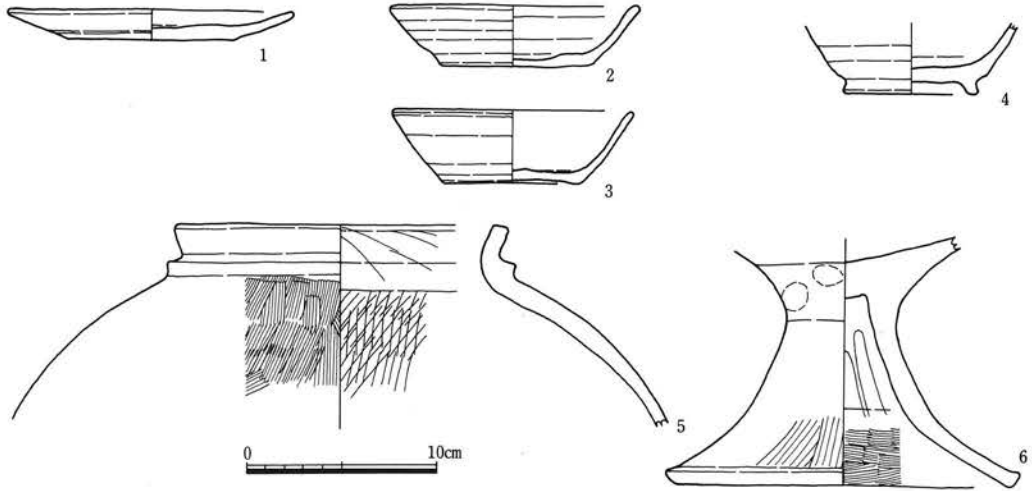


Fig.138 SK418出土土師器実測図 (1/4)

**形態** 平面形は長軸2.3m・短軸1.2~1.8mのやや不整な隅丸台形をなす。残存壁高は10cmほどで、壁面はゆるく立ち上がり、底面はほぼ平坦である。

**埋土** 淡褐色土で、埋没に伴う自然流入土と判断する。埋土にはごく少数の遺物が含まれていた。

**出土遺物** 埋土中から、土師器・須恵器細片がごく少数出土した。接合図化できたのは、須恵器捏鉢だけである。

(2) 溝と出土遺物

SD402溝

(Fig.141)

**位置** BC-45・BC-46・BC-47・BC-48・BD-40・BD-41・BD-42・BD-43・BD-44・BD-45区画に検出した。検出面の標高は7.8~8.0m前後である。SH401・404・407・425・SK418と切り合い関係にあ

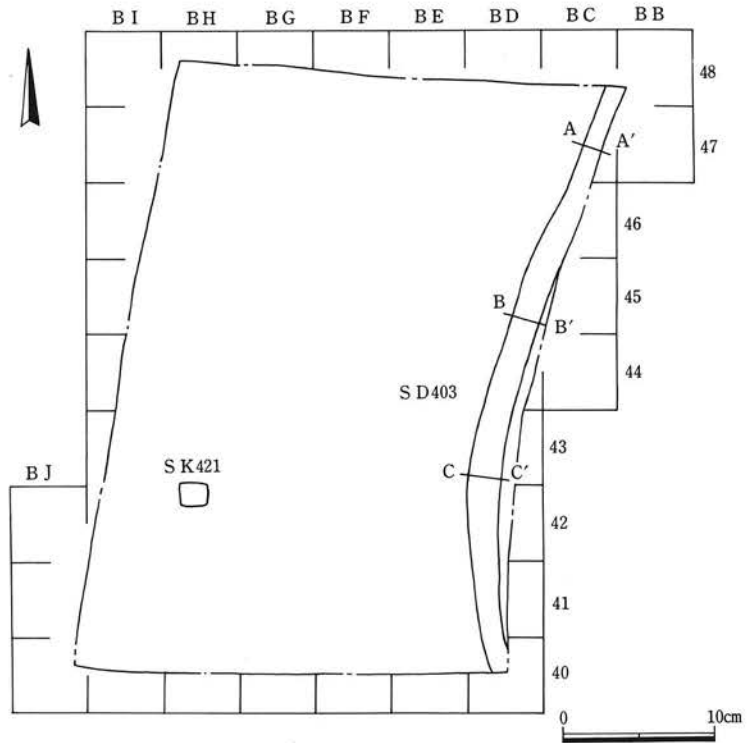


Fig.139 K4区中世主要遺構配置図

VII. 村徳永遺跡K地区の記録—K4区—

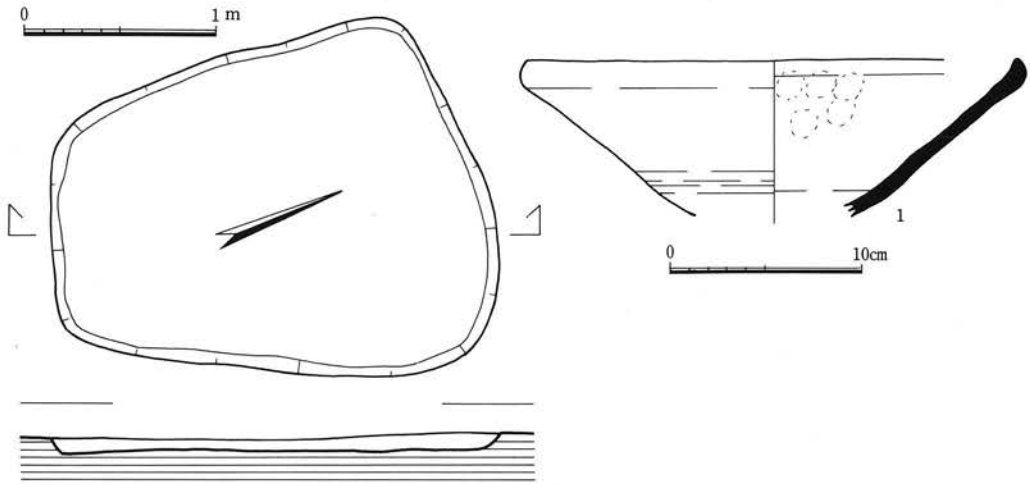


Fig.140 SK421土壌・出土土師器実測図 (1/40・1/4)

り、SD402が後出する。溝の南北端は調査区外に展開する。

**形態** 西へふくらみ弧を描く形で南北に40m以上走行する溝で、溝幅1.0~1.5m・残存壁高20~50cmほどで、壁面はきつく立ち上がり、底面は浅い舟底状を示す。底面の標高はあまり変わらないが、BD-43区画付近が10cmほど深くなっていた。

**埋土** ①~⑦層は埋没に伴う自然流入土と判断する。埋土中にはややまとまった量の遺物が含まれていた。

**出土遺物** 埋土中からはややまとまった量の遺物が出土したが、ほとんどは弥生時代遺物であった。中世に属する遺物で図化できたものは少ない。

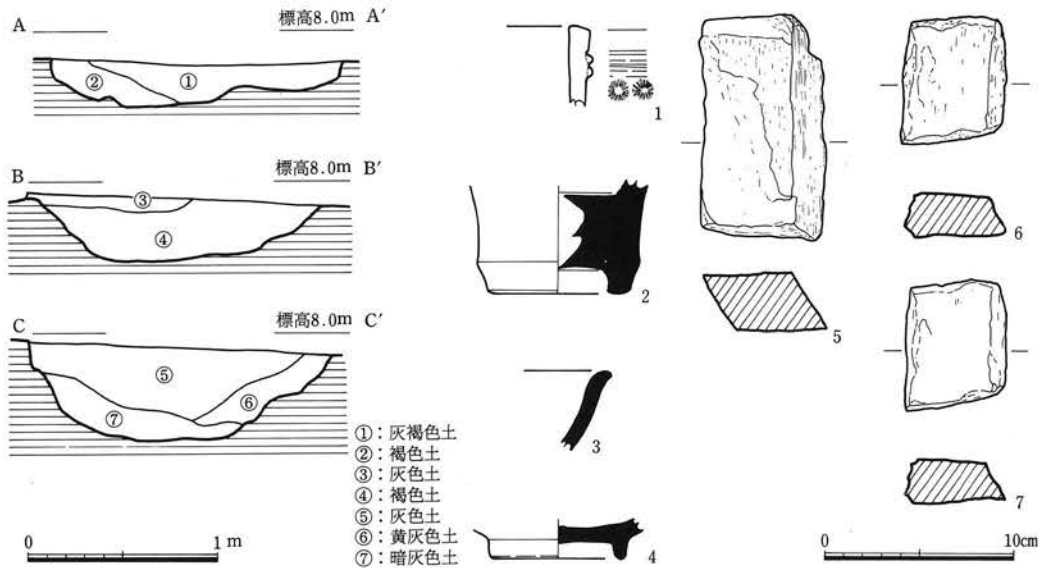


Fig.141 SD402土層断面・出土遺物実測図 (1/40・1/4)

VII. 村徳永遺跡K地区の記録—K4区—

Tab. 4 村徳永遺跡K4区出土遺物一覧

挿図	番号	器種	遺構	特徴	目録番号
Fig. 89	1	甕	SH401	口縁部横ナデ。外面ハケ目。内面ナデ。	303
	2		SH401	外面ハケ目。内面ナデ。	305
	3		SH401	端部横ナデ。内外面ハケ目。	307
	4		SH401	外面ハケ目。内面ハケ目ナデ消し。	306
	5		SH401	内外面ナデ。	309
Fig. 91	6	石包丁	SH401	石材不明。刃部はかなり磨耗。	310
	1	甕	SH404	口縁部横ナデ。内外面ナデ。内面には指頭痕が残る。	324
	2		SH404	口縁部横ナデ。外面ハケ目。内面ナデ。	321
	3		SH404	口縁部横ナデ。外面ハケ目。内面ナデ。	323
	4		SH404	口縁部横ナデ。外面ハケ目ナデ消し。内面ナデ。	322
5	SH404		外面ハケ目。内面ナデ。	325	
Fig. 93	6	鉢	SH404	口縁部横ナデ。外面上部ハケ目、下部ナデ消し。内面ナデ。	326
	1		SH407	端部横ナデ。外面ハケ目。内面ナデ。	328
	2		SH407	端部横ナデ。外面ハケ目。内面ナデ。	330
Fig. 95	3	高杯	SH407	外面ハケ目ナデ消し。内面ヘラ状工具の擦過痕。	329
	4		SH407	端部横ナデ。内外面ナデ。	331
	1		SH410	口縁部横ナデ。外面ハケ目ナデ消し。内面ヘラ削り後ナデ。	336
	2		SH410	口縁部横ナデ。内外面ハケ目。	337
Fig. 97	3	甕	SH410	口縁部横ナデ。内外面ナデ。外面には指頭痕が残る。	338
	4		SH410	外面ハケ目。内面ナデ。	340
	5		SH410	外面ハケ目。内面ナデ。	342
	6		SH410	内外面ナデ。指頭痕が残る。	341
	7		SH410	口縁部横ナデ。外面ハケ目ナデ消し。内面ナデ。	339
	8		SH410	口縁部横ナデ。外面ハケ目ナデ消し。内面ナデ。	343
	1		SH411	外面ハケ目ナデ消し。内面ナデ。	344
	2		SH411	端部横ナデ。外面ハケ目ナデ消し。内面ハケ目。	346
Fig. 99	3	器台	SH411	端部横ナデ。内外面ハケ目ナデ消し。	345
	1		SH415	口縁部横ナデ。外面ハケ目。内面ハケ目ナデ消し。	354
Fig. 101	2	甕	SH415	口縁部横ナデ。外面ハケ目ナデ消し。内面ナデ。	356
	3		SH415	口縁部横ナデ。内外面ナデ。	355
	4		SH415	端部横ナデ。内外面ナデ。	357
	5		SH415	端部・外面横ナデ。内面ナデ。	358
	1		SH416	口縁部横ナデ。内外面ナデ。	360
	2		SH416	端部・口縁部外面横ナデ。内外面ハケ目。	359
	3		SH416	端部・口縁部外面横ナデ。外面ハケ目。内面ナデ。	362
	4		SH416	口縁部横ナデ。穿孔あり。内外面ナデ。	361
	5		SH416	内外面ハケ目ナデ消し。	363
	6		SH416	口縁部横ナデ。外面ハケ目ナデ消し。内面ナデ。	364
Fig. 103	7	鉢	SH416	端部横ナデ。外面ハケ目。内面ハケ目ナデ消し。	365
	8		SH416	指押さえ。	366
	9		SH416	指押さえ。	367
	1		SH417	外面ハケ目。内面ナデ。	376
	2		SH417	端部横ナデ。外面ナデ。内面ハケ目。	373
	3		SH417	口縁部横ナデ。内外面ナデ。	371
	4		SH417	口縁部横ナデ。外面ハケ目ナデ消し。内面ナデ。	372
	5		SH417	外面ハケ目ナデ消し。内面ナデ。	375
	6		SH417	底部中央穿孔あり。外面ハケ目ナデ消し。内面ナデ。	374
	7		SH417	端部横ナデ。内外面ナデ。	378
Fig. 105	8	鉢	SH417	端部横ナデ。外面ハケ目。内面ナデ。	379
	9		SH417	外面ヘラミガキ。内面細いヘラ状工具の擦過痕。	377
	1		SH420	口縁部横ナデ。外面ハケ目。内面ナデ。	399
	2		SH420	口縁部横ナデ。外面ハケ目、下部ナデ消し。内面ナデ。	401
	3		SH420	外面ハケ目。内面ナデ。	404
	4		SH420	口縁部横ナデ。外面ハケ目ナデ消し。内面ナデ。	398
	5		SH420	口縁部横ナデ。外面ハケ目ナデ消し。内面ナデ。	400
	6		SH420	口縁部・内面横ナデ。外面ハケ目。	403
	7		SH420	口縁部横ナデ。外面ハケ目。内面ハケ目ナデ消し。	402
	8		SH420	端部横ナデ。外面ハケ目ナデ消し。内面ハケ目下部ナデ消し。	405
Fig. 107	9	石(台石)	SH420	砂岩系石材。2面に敲打痕あり。	407
	10		SH420	石材不明。2面に擦過痕あり。	406
	11		SH420	石材不明。背部分欠損。基部に2個の穿孔あり。	408
	1		SH425	内外面ハケ目。	430
	2		SH425	端部横ナデ。外面ハケ目ナデ消し。内面ナデ。	431
Fig. 109	3	高杯	SH425	外面ハケ目。内面ナデ。指頭痕が残る。	429
	4		SH425	外面上部ハケ目。他は指押さえ。	432
	5		SH425	土製紡錘車。	433
	1		SH431	口縁部横ナデ。外面ハケ目。内面ナデ。	448
	2		SH431	口縁部横ナデ。外面ハケ目一部ナデ消し。内面ナデ。	449
Fig. 109	3	甕	SH431	外面ハケ目。内面ナデ。外面一部黒斑あり。	450
	4		SH431	外面ハケ目ナデ消し。内面ナデ。外面一部黒斑あり。	452
	5		SH431	口縁部・外面横ナデ。内面ハケ目ナデ消し。	451

VII. 村徳永遺跡K地区の記録—K4区—

Fig. 109	6	鉢	SH431	端部横ナデ。外面ハケ目ナデ消し。内面ヘラ状工具の擦過痕。	453
Fig. 111	1	砥石	SH433	石材不明。2面に擦過痕がある。	458
	2	甕	SH433	外面ハケ目ナデ消し、赤色顔料の痕跡あり。内面ナデ。	455
	3	手捏	SH433	内外面指押さえ。	456
	4	蓋鉢	SH433	端部横ナデ。外面ハケ目ナデ消し。内面ナデ。	457
Fig. 113	1	鉢	SH431	端部横ナデ。外面ナデ。内面ヘラ状工具の擦過痕。	459
	2	石包丁	SH431	石材不明。	460
	3	甕	SH442	口縁部横ナデ。外面ハケ目ナデ消し。内面ナデ。	491
	4	甕	SH442	外面ハケ目。内面ナデ、指頭痕あり。	493
	5	甕	SH442	外面ハケ目。内面ナデ。	492
Fig. 115	1	甕	SB461	口縁部横ナデ。外面ハケ目。内面ナデ。	494
	2	甕	SB461	口縁部横ナデ。外面ハケ目。内面ナデ。	496
	3	甕	SB461	口縁部横ナデ。外面ハケ目。内面ナデ。	495
	4	甕	SB461	口縁部横ナデ。内外面ハケ目ナデ消し。	497
Fig. 117	1	甕	SB462	口縁部横ナデ。口縁内面・胴部外面ハケ目。内面ナデ。	498
	2	甕	SB462	口縁部横ナデ。外面ハケ目。内面ヘラ状工具の擦過痕。	500
	3	甕	SB462	外面ハケ目ナデ消し。内面ナデ、指頭痕が残る。	499
	4	甕	SB462	外面ハケ目。内面ナデ、指頭痕が残る。	501
Fig. 121	5	甕器台	SB462	端部横ナデ。外面ハケ目。内面ナデ。	502
	1	甕	SK419	口縁部横ナデ。外面ハケ目ナデ消し、顔料附着。内面ナデ	390
	2	甕	SK419	口縁部横ナデ。内外面ハケ目ナデ消し。	388
	3	甕	SK419	口縁部横ナデ。外面ハケ目。内面ナデ。	387
	4	甕	SK419	口縁部横ナデ。外面ハケ目ナデ消し。内面ナデ。	389
	5	甕	SK419	外面ハケ目。内面ナデ、指頭痕あり。	392
	6	甕	SK419	外面ハケ目。内面ハケ目ナデ消し。	393
	7	甕	SK419	外面ハケ目。内面ハケ目ナデ消し。	391
	8	甕	SK419	丹塗り。外面ヘラミガキ。内面ナデ。	394
	9	高杯	SK419	丹塗り。外面ヘラミガキ。内面ナデ。	395
	10	鉢	SK419	端部横ナデ。内外面ハケ目ナデ消し。	396
Fig. 122	11	鉢	SK419	丹塗り。内外面横ナデ。	397
	1	甕	SK422	口縁部横ナデ。外面ハケ目。内面ナデ。	411
	2	甕	SK422	口縁部横ナデ。外面ハケ目。内面ナデ。	412
Fig. 123	3	甕	SK422	口縁部横ナデ。外面ハケ目。内面ヘラ状工具の擦過痕。	413
	1	甕	SK422	口縁部横ナデ。外面ハケ目。内面ナデ。	414
	2	甕	SK422	外面ハケ目。内面ナデ。	416
	3	甕	SK422	外面ハケ目。内面ナデ。	415
	4	甕	SK422	内外面ナデ。	419
	5	甕	SK422	外面ハケ目。内面ナデ。	417
	6	甕	SK422	口縁部・外面横ナデ。内面ナデ。	418
Fig. 125	7	甕器台	SK422	内外面ナデ。	420
	1	甕	SK423	口縁部横ナデ。外面ハケ目ナデ消し。内面ナデ。	422
	2	甕	SK423	口縁部横ナデ。外面ハケ目。内面ナデ。	421
Fig. 127	1	甕	SK424	口縁部横ナデ。内外面ナデ。	424
	2	高杯	SK424	丹塗り。口縁部横ナデ。外面ハケ目ナデ消し。内面横ナデ。	425
	3	鉢	SK424	端部横ナデ。内外面ナデ、指頭痕が残る。	426
	4	砥石	SK424	石材不明。2面を使用。	427
	5	砥石	SK424	石材不明。2面を使用。	428
Fig. 128	1	甕	SK432	口縁部横ナデ。外面ハケ目一部ナデ消し。内面ヘラ削り。	454
Fig. 130	1	甕	SK436	口縁部横ナデ。内外面ナデ。	461
	2	甕	SK436	口縁部横ナデ。内外面ナデ。	462
	3	甕	SK436	外面ハケ目ナデ消し。内面ナデ、指頭痕が残る。	463
Fig. 131	4	高杯	SK436	外面ヘラミガキ不明瞭。内面ヘラ状工具の擦過痕。	464
	1	甕	SD409	口縁部横ナデ。外面ナデ。内面ナデ。	333
	2	甕	SD409	外面ハケ目ナデ消し。内面ナデ。	334
	3	甕?	SD409	外面横ナデ。内面ナデ、指頭痕が残る。	335
	4	甕	SD413	口縁部横ナデ。外面ハケ目。内面ナデ。	348
	5	甕	SD413	内外面ナデ。	351
	6	甕	SD413	口縁部横ナデ。内外面ナデ。	349
	7	甕	SD413	口縁部横ナデ。外面ハケ目ナデ消し。内面ナデ。	350
	8	甕	SD413	口縁外面横ナデ、内面ハケ目。外面ハケ目。内面ナデ。	347
	9	甕器台	SD430	外面平行タタキ目。内面ナデ、ヘラ状工具の擦過痕。	443
	10	甕器台	SD430	外面ハケ目後平行タタキ目。内面ナデ、指頭痕が残る。	444
	11	高杯	SD430	外面ヘラミガキ。内面ナデ。	442
	12	支脚	SD430	内外面指押さえ。	445
	13	甕	SD430	口縁外面ハケ目をナデ消し、内面ハケ目。内外面ハケ目。	441
Fig. 134	1	甕	SK428	口縁部横ナデ。外面ハケ目、下部ナデ消し。内面ナデ。	434
	2	甕	SK428	口縁部横ナデ。外面ハケ目ナデ消し。内面ナデ。	435
	3	甕	SK428	口縁部横ナデ。内外面ナデ。	436
	4	高杯	SK428	外面横ナデ。内面ナデ。	438
	5	甕	SK438	口縁部横ナデ。外面横ナデ。内面ナデ。	471
	6	甕	SK438	口縁部横ナデ。内外面ナデ。	470
	7	鉢	SK438	端部横ナデ。内外面ハケ目。	472
	8	支脚	SK438	内外面指押さえ。	473
Fig. 136	1	甕	SK408	口縁部横ナデ。外面ハケ目。内面ヘラ削り。	332

VII. 村徳永遺跡K地区の記録—K4区—

Fig. 138	1	皿	SK418	体部回転ナデ。外底部回転ヘラ切り、板目痕。	383
	2	杯	SK418	体部回転ナデ。外底部回転ヘラ切り、板目痕。	380
	3	杯	SK418	体部回転ナデ。外底部回転ヘラ切り、板目痕。	381
	4	高台付杯	SK418	体部回転ナデ。内底部ナデ。外底部回転ナデ。	382
	5	甕	SK418	口縁部横ナデ。外面ハケ目。内面ハケ目をナデ消し。	384
	6	高杯	SK418	外面ハケ目をナデ消し。内面下部ハケ目。	386
Fig. 140	1	捏鉢	SK421	口縁部横ナデ。外面横ナデ、煤付着。内面ナデ、指頭痕残る。	410
Fig. 141	1	火鉢	SD402	内外面横ナデ。	315
	2	器種不明	SD402	青磁。	314
	3	碗	SD402	青磁。	312
	4	碗	SD402	青磁。	313
	5	砥石	SD402	石材不明。2面使用。	316
	6	砥石	SD402	石材不明。2面使用。	317
	7	砥石	SD402	石材不明。2面使用。	318

VIII. 篠木野遺跡 I 区の記録

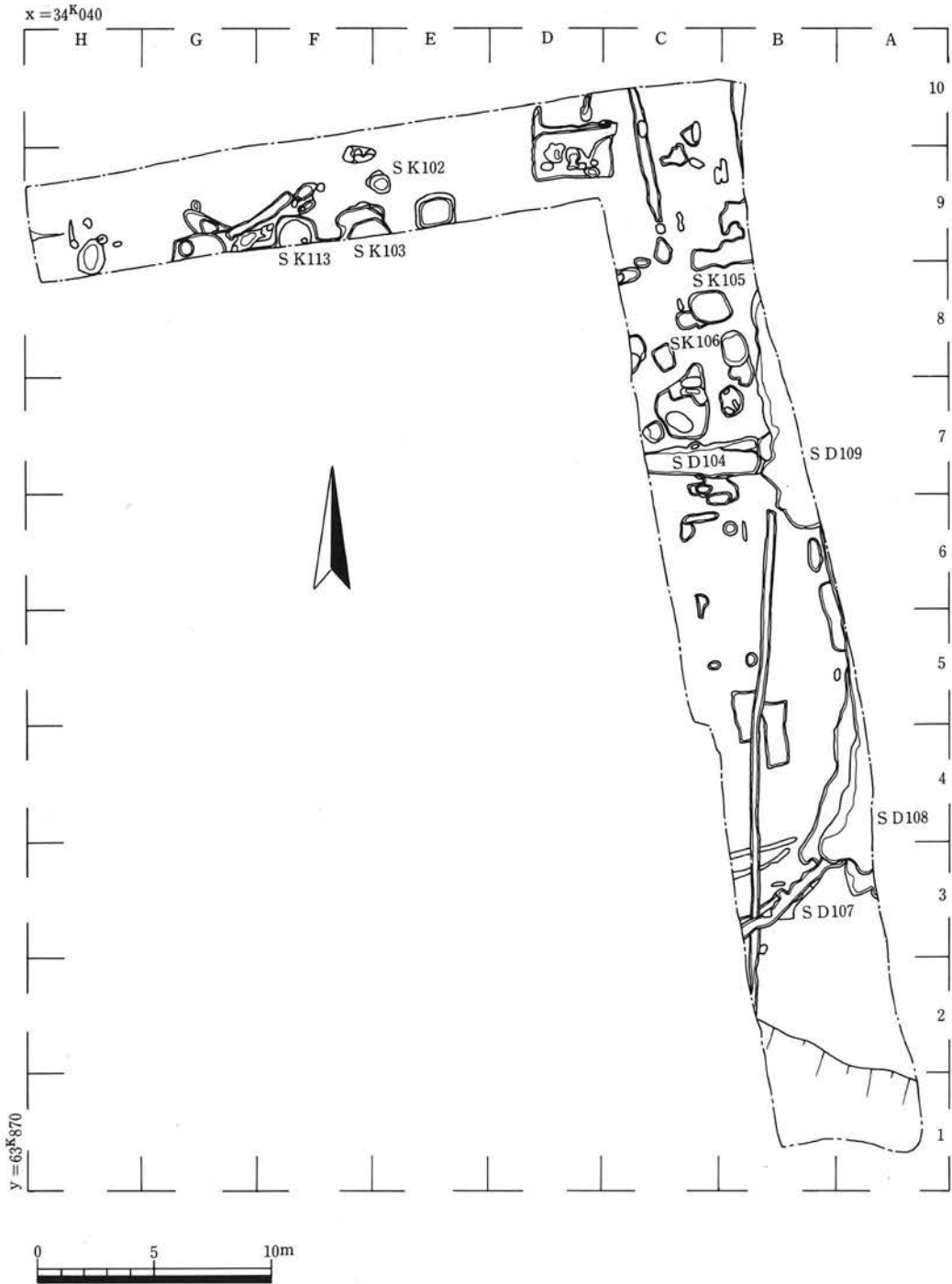


Fig.142 篠木野遺跡 I 区遺構配置図 (1/300)

## VIII. 篠木野遺跡 1 区の記録

### 1. 近世の遺構と遺物

#### (1) 土壌と出土遺物

##### SK102土壌 (Fig.143)

**位置** E-9区画に検出した。検出面の標高は7.0m前後である。他の主要遺構との切り合い関係はない。

**形態** 平面は長径1.1m・短径0.8mの不整な短楕円形をなす。南西側には段状部があり、二段掘りの形状を示す。残存壁高は最深で80cmほどで、壁面はきつく立ち上がり、底面はレンズ状をなす。

**埋土** 砂混じりの淡褐色～灰褐色土で、埋没に伴う自然流入土と判断する。

**出土遺物** 遺物はまったく出土しなかった。

##### SK103土壌 (Fig.143)

**位置** E-9・F-9区画に検出した。検出面の標高は7.0m前後である。他の主要遺構との切り合い関係はない。遺構の1/3程度は調査区外に展開する。

**形態** 平面は長辺2.2m以上・短辺2.1mの不整な隅丸長方形をなすと思われる。残存壁高は最深で40cmほどあり、壁面はややきつく立ち上がり、底面はほぼ平坦である。

**埋土** 砂混じりの淡褐色土で、埋没に伴う自然流入土と判断する。埋土には少数の遺物が含まれていた。

**出土遺物** (Fig.144) 埋土から少数の瓦器・陶器・磁器の破片が出土した。埋没に伴う流れ込みと判断する。

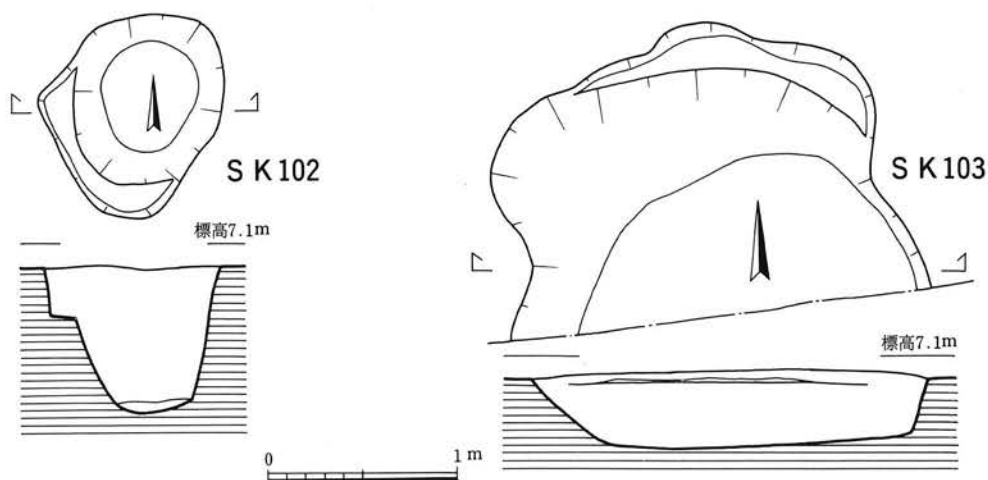


Fig.143 SK102・103土壌実測図 (1/40)

VIII. 篠木野遺跡1区の記録

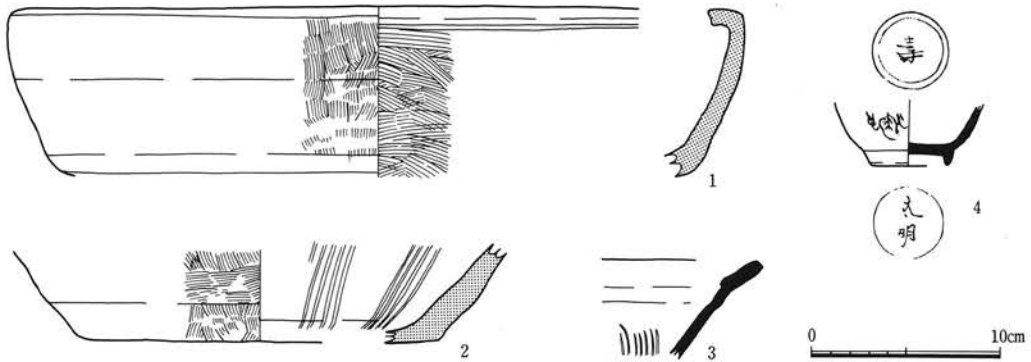


Fig.144 SK103出土遺物実測図 (1/4)

SK105土壇 (Fig.145)

**位置** B-8・C-8区画に検出した。検出面の標高は7.0m前後である。他の主要遺構とは切り合い関係にはない。

**形態** 平面は長辺1.6m・短辺1.4mの不整な隅丸長方形をなす。残存壁高は50cmほどで、壁面はきつく立ち上がり、底面はほぼ平坦である。

**埋土** 地山ブロック混じりの淡褐色～赤褐色土で、人為的なものか。埋土中にはごく少数の遺物が含まれていた。

**出土遺物** 埋土中からごく少数の土師器・瓦器細片が出土しているが、図化できるものはない。

SK106土壇 (Fig.145)

**位置** B-8区画に検出した。検出面の標高は7.0m前後である。他の主要遺構との切り合い

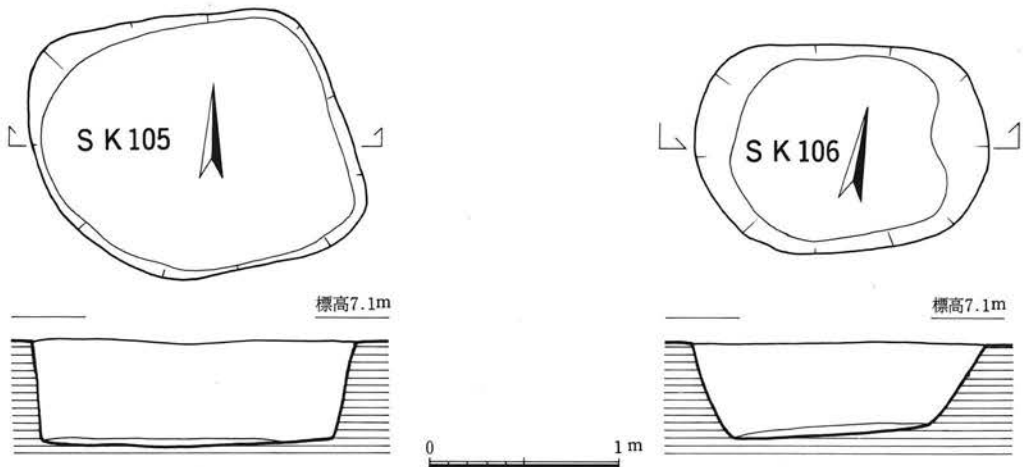


Fig.145 SK105・106土壇実測図 (1/40)

1. 近世の遺構と遺物

関係にはない。

**形態** 平面形は長軸1.5m・短軸1.1mの胴張りの隅丸長方形をなす。残存壁高は50cmほどあり、壁面はきつく立ち上がり、底面はほぼ平坦である。

**埋土** 地山ブロック混じりの淡褐色～赤褐色土で、人為的なものか。埋土中にはごく少数の遺物が含まれていた。

**出土遺物 (Fig.147)** 埋土からごく少数の土師器・瓦器・磁器破片が出土している。2点が図化できた。

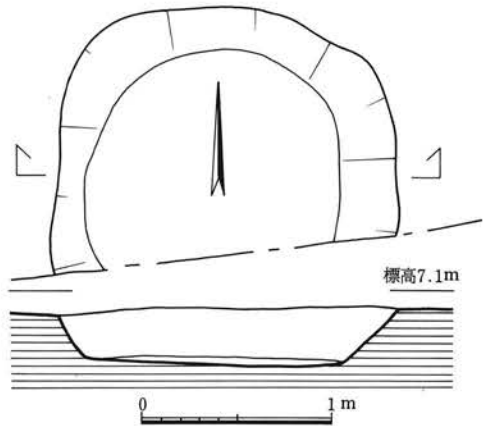


Fig.146 SK113土壌実測図 (1/40)

SK133土壌 (Fig.146)

**位置** F-9区画に検出した。検出面の標高は7.0m前後である。他の主要遺構とは切り合い関係にない。遺構の1/3程度は調査区外に展開する。

**形態** 平面は、辺1.8mの隅丸正方形か、短辺1.8m・長辺1.8m以上の隅丸長方形をなすと思われる。残存壁高は30cmほどで、壁面はゆるく立ち上がり、底面はほぼ平坦である。

**埋土** 砂混じりの黒灰色土で、埋没に伴う自然流入土と判断する。埋土には少数の遺物が含まれていた。

**出土遺物 (Fig.147)** 埋土から少数の土師器・瓦器の破片が出土した。

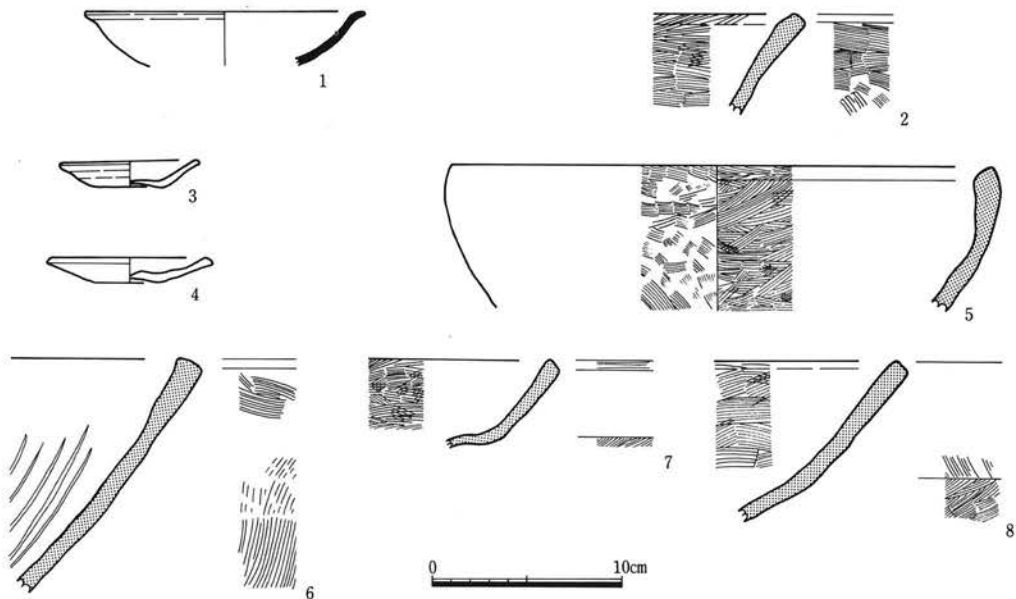


Fig.147 SK106・113出土遺物実測図 (1/4)

VIII. 篠木野遺跡1区の記録

(2) 溝と出土遺物

SD104・109溝

**位置** B-6・B-7・B-8・C-7区画に検出した。SD104の西端とSD109の東端は、調査区外に展開する。

**形態** 2条の溝が「T」字形に連結する。SD104は東西方向に走行し、溝幅0.9~1.5m・残存壁高50cmほどで、壁面はきつく立ち上がり、底面はほぼ平坦である。SD109は南北方向に走行し、南端はB-6区画で終結する。溝幅1.6m以上・残存壁高50~60cmほどで、壁面はきつく立ち上がり、底面は南に向ってわずかに低くなる。

**埋土** 砂混じりの灰黒色~灰褐色土で、埋土には少数の遺物が含まれていた。

**出土遺物** (Fig.148/1~5) 瓦器・陶磁器破片があるが、図化できたものは少ない。

SD107・108溝

**位置** A-3・A-4・A-5・B-3・B-4区画に検出した。SD107の西端とSD108の東端は、調査区外に展開する。

**形態** 2条の溝が、不整な「T」字形に連結する。SD107は東西方向に走行し、溝幅0.6~0.8m・残存壁高30cmほどで、壁面はややゆるく立ち上がり、底面はほぼ平坦である。SD109は南北方向に走行し、南端はA-3区画で終結する。溝幅2.5m以上・残存壁高40~60cmほどで、壁面はきつく立ち上がり、底面は南に向って低くなる。

**埋土** 砂混じりの灰黒色土で、埋土には少数の遺物が含まれていた。

**出土遺物** (Fig.148/6~9) 土師器・陶磁器破片があるが、図化できたものは少ない。

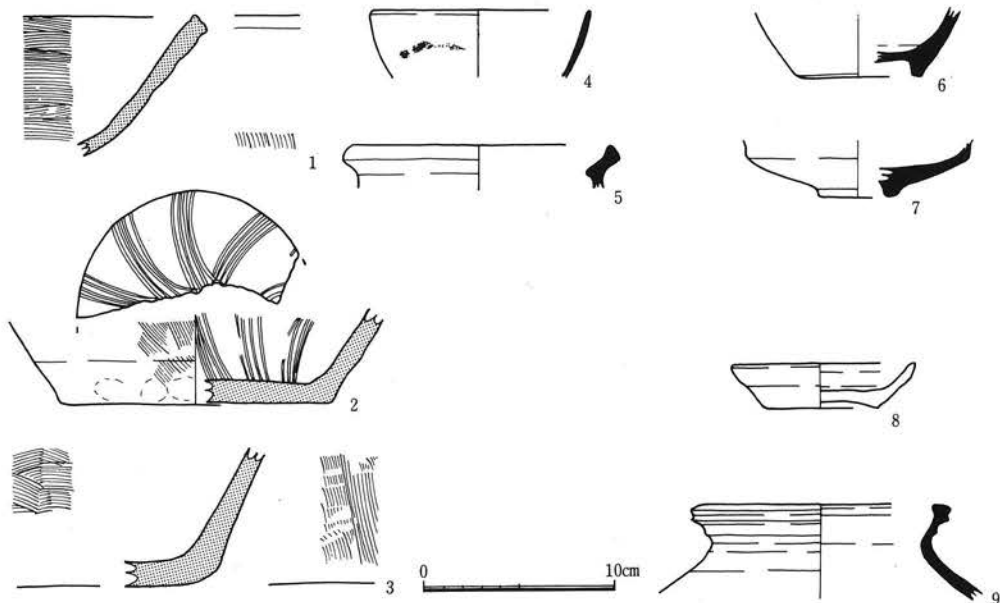


Fig.148 SD104・107・108・109出土遺物実測図

## VIII. 篠木野遺跡 I 区の記録

Tab. 5 篠木野遺跡 1 区出土遺物一覧

挿図	番号	器種	遺構	特徴	目録番号
Fig. 144	1	鉢	SK103	口縁部横ナデ。外面ハケ目一部ナデ消し。内面ハケ目。	006
	2	播鉢	SK103	外面ハケ目。内面ハケ目ナデ消し。	005
	3	播鉢	SK103	肥前焼き。	004
	4	碗	SK103	染め付け。	007
Fig. 147	1	碗	SK106	青磁。	008
	2	鉢	SK106	端部横ナデ。内外面ハケ目。	009
	3	皿	SK113	体部回転ナデ。内底部ナデ。外底部回転糸切り。	019
	4	皿	SK113	体部回転ナデ。内底部ナデ。外底部回転糸切り。	020
	5	鉢	SK113	内外面ハケ目。	024
	6	播鉢	SK113	端部横ナデ。外面ハケ目。内面ハケ目ナデ消し。	023
	7	鉢	SK113	外面ハケ目ナデ消し。内面ハケ目。	022
	8	鉢	SK113	外面ハケ目ナデ消し。内面ハケ目。	021
Fig. 148	1	鉢	SD104	端部横ナデ。外面ハケ目ナデ消し。内面ハケ目。	007
	2	播鉢	SD109	外面ハケ目ナデ消し。内面ナデ。	016
	3	鉢	SD109	内外面ハケ目。	017
	4	碗	SD109	染め付け。	014
	5	壺?	SD109	陶器。暗緑褐色の釉。	015
	6	壺?	SD107	陶器。鉄釉。	010
	7	碗?	SD107	陶器。褐色の釉。	011
	8	皿	SD108	体部・内底部回転ナデ。外底部回転糸切り。	012
	9	壺	SD108	陶器。鉄釉。	013

## IX. 付 論 —埋没地形の復原—

## 1. はじめに

今日の佐賀平野<sup>1)</sup>は見渡す限り水田が広がり、きわめて平坦な地域である印象を受けるが、発掘調査や試掘データを総合すると、遺跡の分布範囲は埋没した地形に大きな制約を受けていることがわかる。現況での微地形図に表現される高低が遺跡分布と強い相関を有することは、白石平野では証明されているが<sup>2)</sup>、佐賀平野ではそうした作業を試みる動きはなかった。

本稿では、村徳永遺跡西半部の埋没地形の復原を試みる。そのため、圃場整備施工前の微地形図と、地下の地山区分図の作成を行った。その結果は、巨勢川の埋没旧河道と微丘陵（扇状地帯の中洲）によって形成された複雑な谷地形が入り組んでいることがわかった。また、弥生時代から中世にいたる生活遺構は、微丘陵の地山上位面に限って展開し、特に弥生時代集落の立地を考える上で重要な資料となった。

## 2. 対象資料と操作法

村徳永遺跡西半部の東西800m・南北1,100mの地域について、微地形図と地山区分図の作成を行うために、県営圃場整備事業計画平面図と、発掘調査および試掘の土層断面データを利用した。以下、それらの資料的特性とその操作法について解説する。

**微地形図の作成** 微地形図の作成には、佐賀県農林部が作成した縮尺1/1,000の計画平面図を利用した。この資料には、田畑1面ごとに標高が記入されている。この記入された標高から0.1m単位の等高線をおこす作業を行った。民家が密集し集落を構成している東側の部分は、作業の範囲から除外している。具体的な方法としては、平面図に記入されている標高数値をもとに、比例配分により0.1m単位の標高点を平面上でとらえ、等高線をまわすことによって微地形図を作成した。

**地山区分図の作成** 地山区分図<sup>3)</sup>の作成には、発掘調査および試掘の土層断面データを利用した。これにより、最深で地表下2m程度までの土層断面データが得られた。発掘調査および

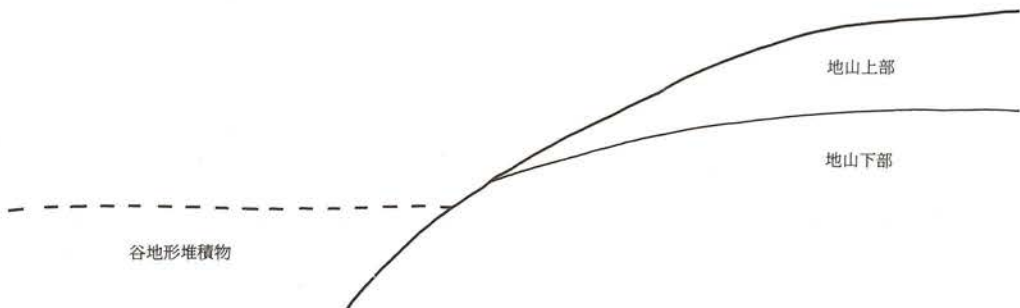


Fig.149 地山区分概念図

IX. 付 論一埋没地形の復原一

試掘地点は、前述の計画平面図に記入されている。発掘調査の土層断面データには標高が記入されており、試掘の土層断面データは前述の田面標高から標高を復元した。それぞれの地点で得られた地山のデータを、①：褐色粘性土・黄褐色粘性土の地山上部、②：黄灰色粘土・青灰色粘土の地山下部、③：淡褐色～黒灰色砂・黒色泥炭土の谷地形堆積物、に分類した。計画平面図上でこの①～③の外郭地点を線引きし、埋没した谷地形の位置と地山面の高低を表示した。また、発掘調査および試掘データの標高を利用して、地山断面模式図を作成した。

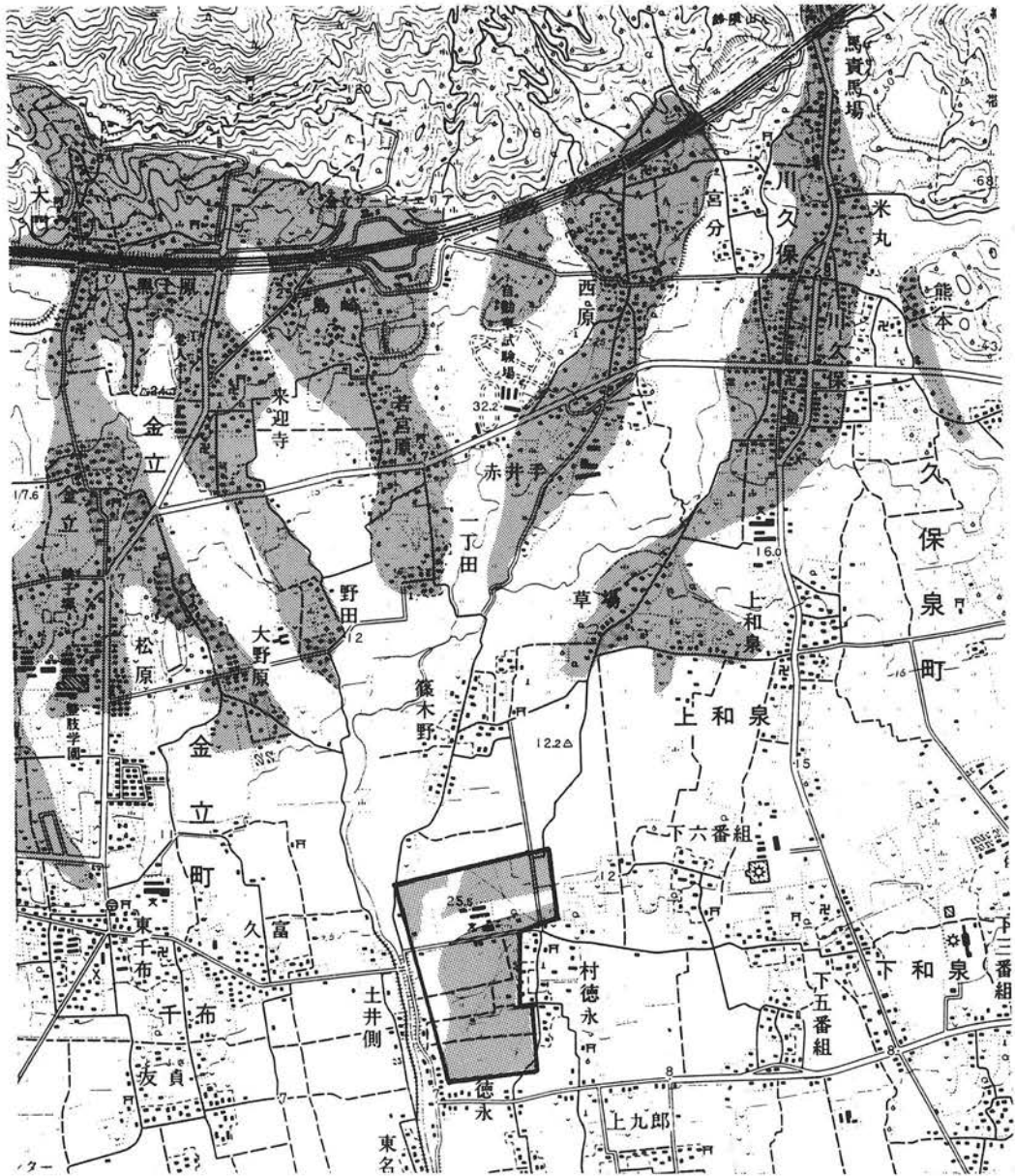


Fig.150 地表観察による洪積段丘面の分布 (1/25,000)

IX. 付 論—埋没地形の復原—

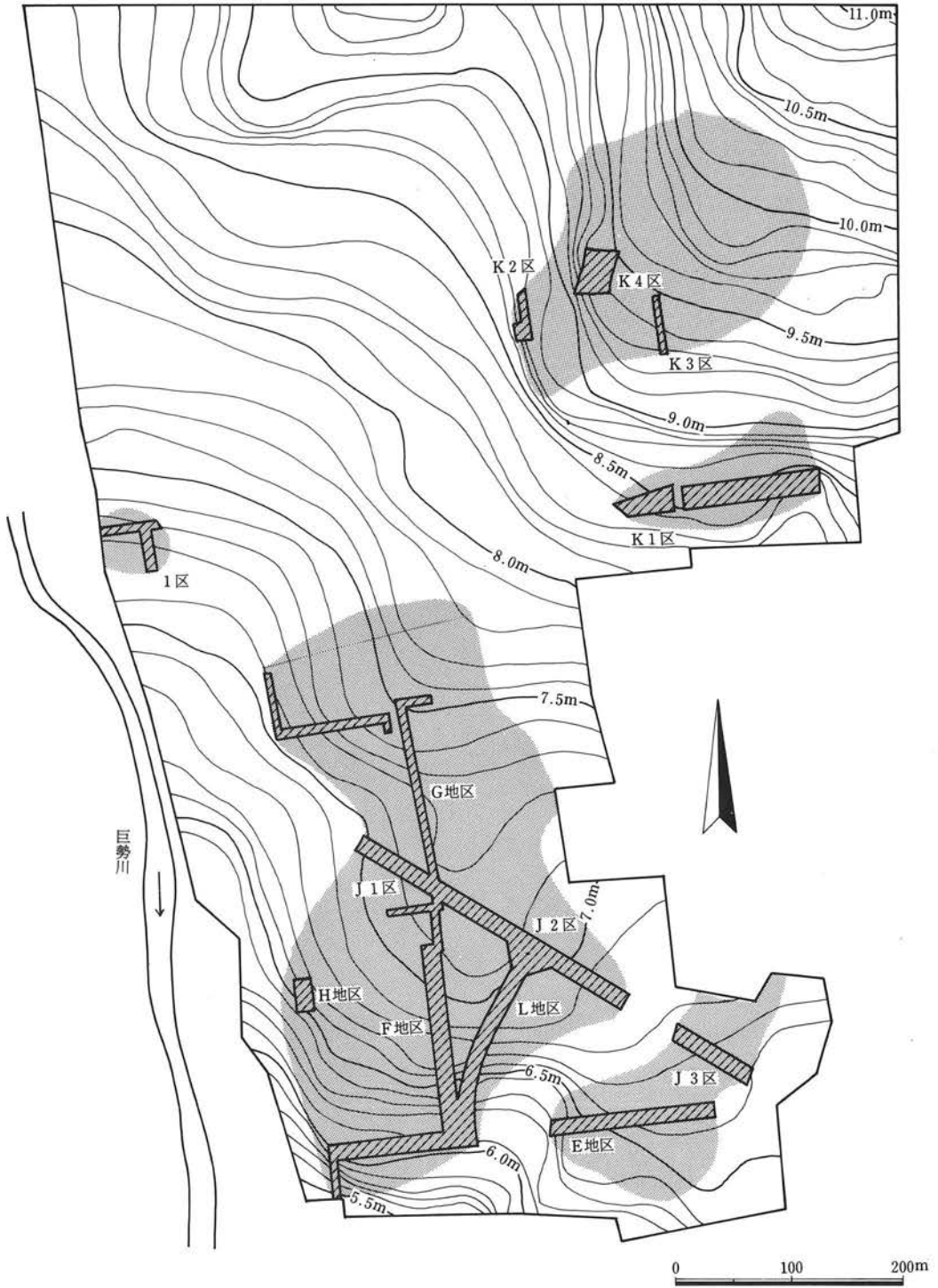


Fig.151 微地形図 (1/6,000)

IX. 付 論—埋没地形の復原—



Fig.152 地山区分図 (1/8,000)

IX. 付 論—埋没地形の復原—

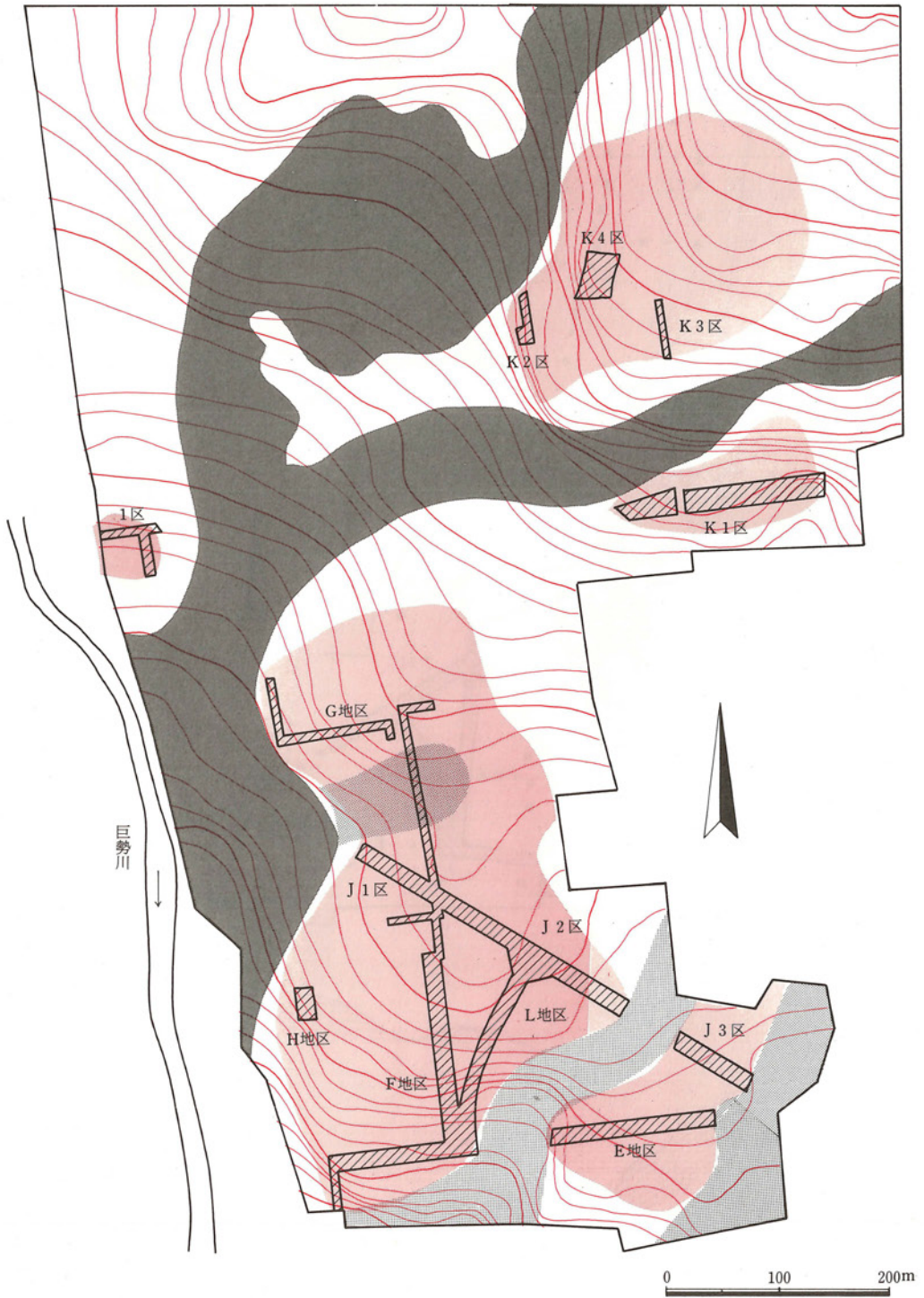


Fig.153 埋没地形復原図 (1/6,000)

## 3. 操作の結果

**微地形図(Fig.151)** 縮尺：1/6,000、等高線：0.1m単位、斜線：発掘調査区、網カケ：試掘によって得られた遺構分布の推定範囲、である。作成した微地形の等高線からは、篠木野遺跡1区と村徳永遺跡K地区の間の谷地形と、村徳永遺跡J2区・L地区とJ3区・E地区の間の谷地形、が読み取れる。G地区にも谷地形が入っていることがわかる。

**地山区分図(Fig.152)** 縮尺：1/8,000、●：地山上部の地点、▲：地山下部の地点、■：谷地形堆積物の地点、斜線：発掘調査区、赤線：地山上部と地山下部の区分、赤網カケ：谷地形堆積物の位置、である。地山断面模式図は、距離：標高＝1：40である。微地形図から読み取れた篠木野遺跡1区と村徳永遺跡K地区の間の谷地形は、谷地形堆積物が広く分布し、旧河道であったことがわかる。微地形図には表れなかったが、村徳永遺跡K1区とK2・K3・K4区の間には、分流と思われる旧河道が存在する。微地形図に表れた、村徳永遺跡G地区の谷地形と、村徳永遺跡J2区・L地区とJ3区・E地区の間の谷地形、村徳永遺跡J3区・E地区の東側の谷地形は、浅いものであったことがわかる。

**埋没地形復原図(Fig.153)** 縮尺：1/6,000、等高線：0.1m単位、斜線：発掘調査区、網カケ(密)：河道の位置、網カケ(粗)：浅い谷の位置、赤網カケ：試掘によって得られた遺構分布の推定範囲、である。遺構の分布範囲が、埋没した地形に大きな制約を受けていることがよくわかる。

## 4. まとめ

今回の埋没地形復原の成果と、現在までの発掘調査成果を合わせると、以下のことを考察し得る。

① Fig.150の洪積段丘面(中位段丘面)の分布をみると、山地帯から派生し樹枝状にのびた洪積段丘面の段丘崖が、標高13m付近で水田面に埋没し終息していることがわかる。今回の地山区分であられた微丘陵は、埋没した洪積段丘面が埋没旧河道により複雑に開析された姿である。

② 不安定な地山下部面が広がる篠木野遺跡1区では近世の遺構しか確認されておらず、1区より北の標高9.5m付近では地山上位面で弥生時代から中世にいたる遺跡が確認されている。丘陵の低い部分の篠木野遺跡1区周辺は、少なくとも集落地としては中世まで利用されていなかった可能性が高い。

③ 村徳永遺跡西半部の弥生時代集落は巨勢川の分流に分断され、K2・K3・K4区と、それより南のK1区・G地区・J1区・J2区・H地区・F地区・L地区・J3区・E地区に分けられる。K1区の集落は主としてⅢ期、E地区・F地区・G地区・H地区・J1区・J2区・J3区・L地区の集落は主としてⅢ～Ⅳ期、K2区・K3区・K4区の集落は主としてⅣ～Ⅴ期に、それぞれ属している。K1区の南にも浅い谷が入っていた可能性は高く、地形に制

## IX. 付 論—埋没地形の復原—

約されるか、あるいはそれを利用しながら、Ⅲ～Ⅳ期の弥生時代集落が移動している。

④ 弥生時代Ⅲ～Ⅳ期を主体とするE地区・F地区・G地区・H地区・J1区・J2区・J3区・L地区の集落は、浅い谷地形によりF地区・G地区・H地区・J1区・J2区・L地区と、E地区・J3区の部分に分断される。E地区・J3区では、当該期の遺構密度はかなり薄くなり、竪穴住居・掘立柱建物は検出されず、若干の土壌と小形甕棺墓が検出された。浅い谷に隔てられた集落の外縁部であることがわかる。

⑤ これらの弥生時代集落の生産基盤である水田遺構は、K2・K4区西方の旧河道の落ちぎわの地山下部面に展開する可能性が高い。

⑥ F地区・G地区・H地区・J1区・J2区・L地区と、E地区・J3区を分断する浅い谷を境にして、その東側では平安時代から鎌倉時代にかけての遺構密度が急激に高まり、この浅い谷が中世集落の立地にも何らかの制約を加えている。

⑦ 前述の浅い谷は、遺構分布の状況から考えると、弥生時代から鎌倉時代にかけては、何らかの形で生きていたものと思われる。旧河道の機能した時期・埋没の時期についてはよくわからないが、旧河道堆積物に弥生時代遺構の上面が攪乱されている地点があり（氾濫によるものと思われる）、少なくとも弥生時代の終末までは旧河道の一部は流水路として機能していた可能性が高い。

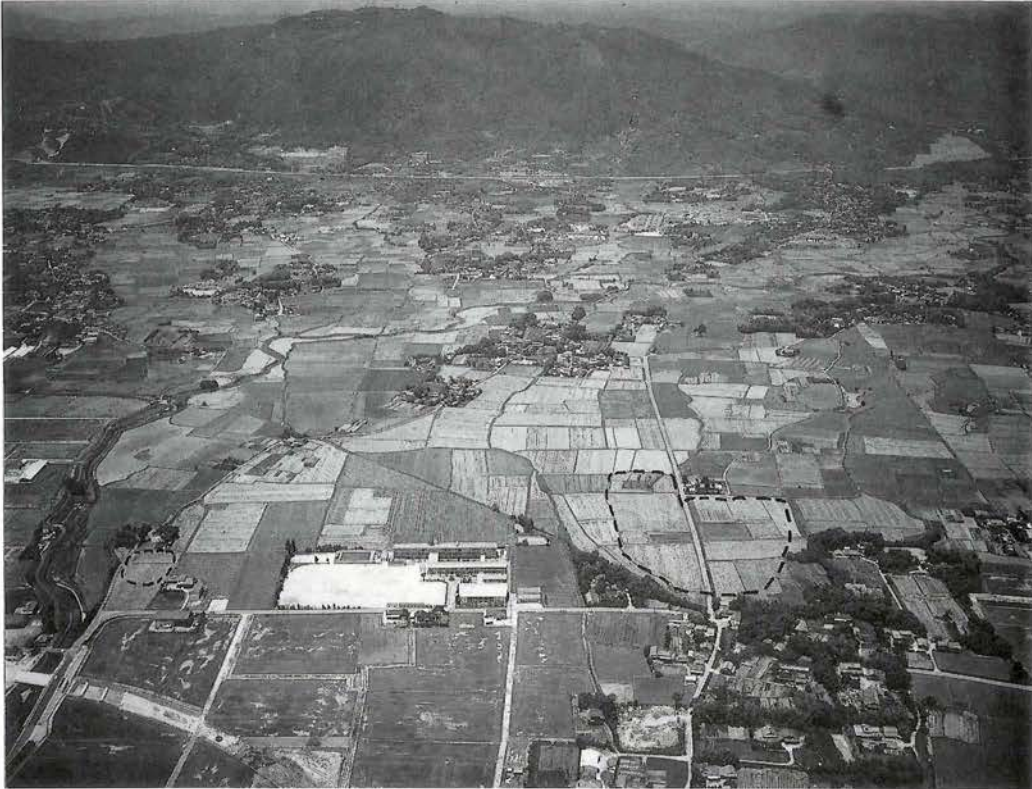
## 謝 辞

本稿をまとめるにあたって、以下の方々にご教示を受けた。特に、田崎氏には地形復原の具体的方法についてお教えいただき、高橋氏には地形復原全般について有益なご助言を受けた。

田崎博之・吉留秀敏・平田定幸・城戸康利・山村信栄・高橋学・外山秀一

## 註と引用参考文献

- 1) 佐賀平野の景観が今日に近いものとなった時期は、14世紀後半以降の集落跡が現在の集落地と重複する例が多いこと、南部の鎌倉時代までの集落跡の溝などの走行が周辺のクリークと整合しないこと、の2点から、室町時代から江戸時代初頭にかけてと考える。
- 2) 徳富則久1988；「埋没条里（地割り）確認調査」『佐賀県農業基盤整備事業に係る文化財調査報告書6』佐賀県文化財調査報告書第90集
- 3) ここでいう〈地山〉とは、便宜上洪積段丘面をいう。
- 4) Fig.151は、経済企画庁1966；『土地基本分類調査 佐賀』の表層地質図（1/50,000）を一部改変して1/25,000地形図に引き写した。
- 5) 弥生時代の時期区分については、II章の註6）参照のこと。



PL. 1-1 調査区全景（南から）

中央手前が金泉中学校。北には、脊振山系と長崎自動車道が見える。北東から南西に蛇行しているのが巨勢川。

金泉中学校の東側に村徳永遺跡K地区、西側に篠木野遺跡1区が位置する。

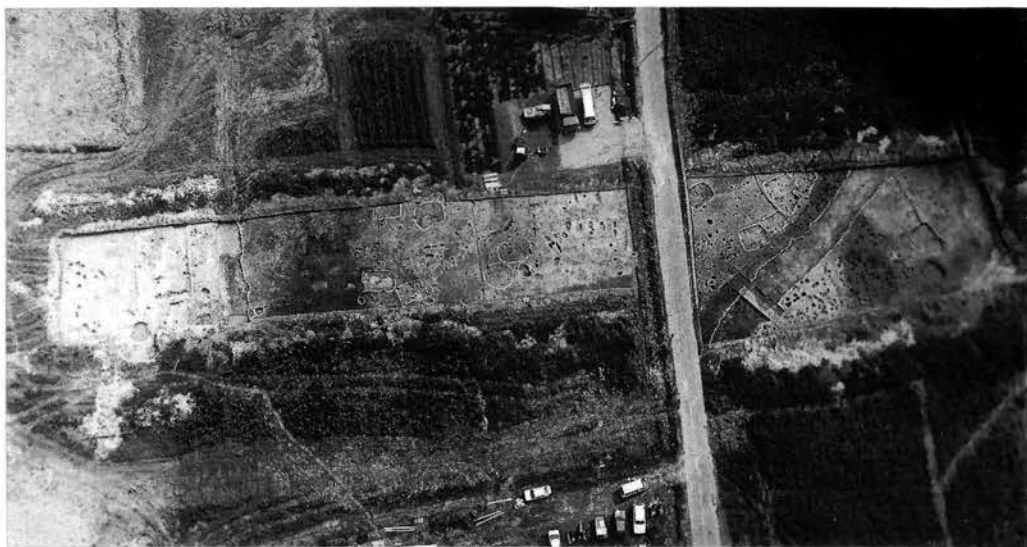
遺物写真は挿図と対照できるように、  
挿図番号を併記した。

PL.4-10    SH401    (69 — 21)

図版番号    遺構番号    挿図番号    挿図内遺物番号

PL.2

村徳永遺跡K地区 (K1区)



PL.2-1 村徳永遺跡K1区全景 (北から)



PL.2-2 村徳永遺跡K1区東側 (北から)



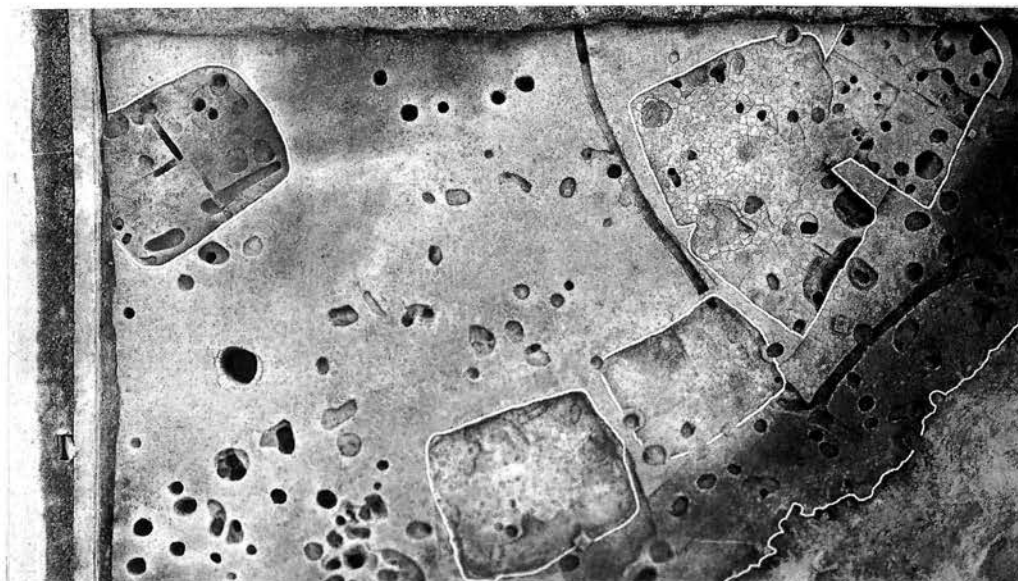
PL.3-1 村徳永遺跡K 1区西側 (東から)



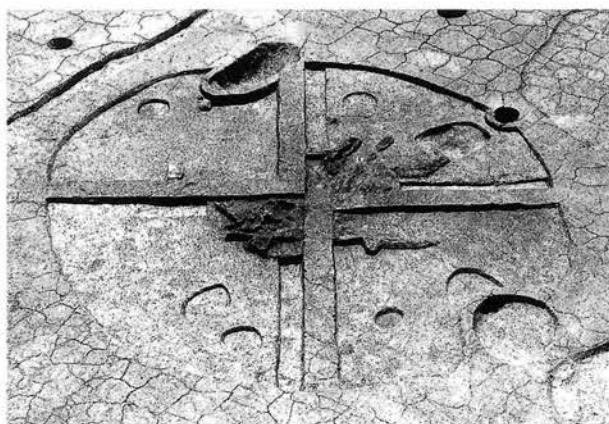
PL.3-2 K 1区東側 竪穴住居群 (南から)

PL.4

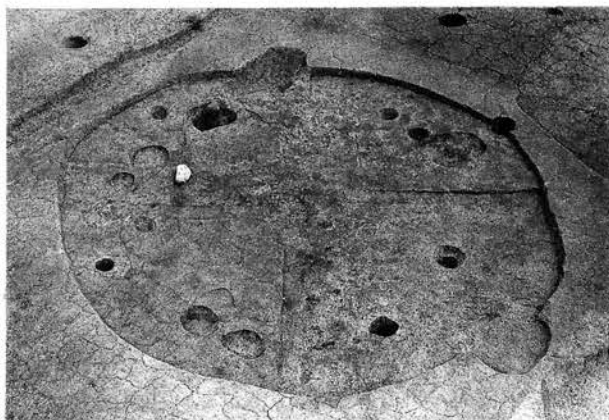
村徳永遺跡K地区 (K1区)



PL.4-1 K1区西側 竪穴住居群 (北から)



PL.4-2 SH101 (北西から)  
炭化木検出状況



PL.4-3 SH101 (北西から)  
完掘状況

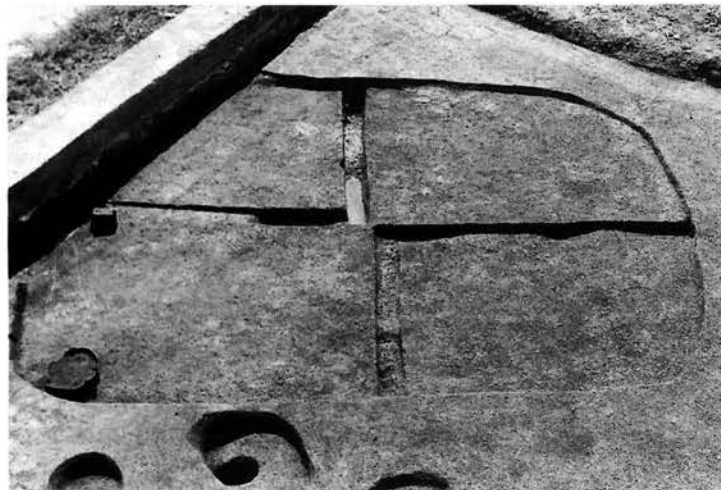
PL.5-1 SH103 (南から)  
床面検出状況



PL.5-2 SH106 (北から)  
完掘状況



PL.5-3 SH107 (北から)  
床面検出状況



PL. 6

村徳永遺跡K地区 (K1区)



PL.6-1 SH110 (北西から)  
完掘状況



PL.6-2 SH111 (北西から)  
完掘状況



PL.6-3 SH116 (北東から)  
床面検出状況

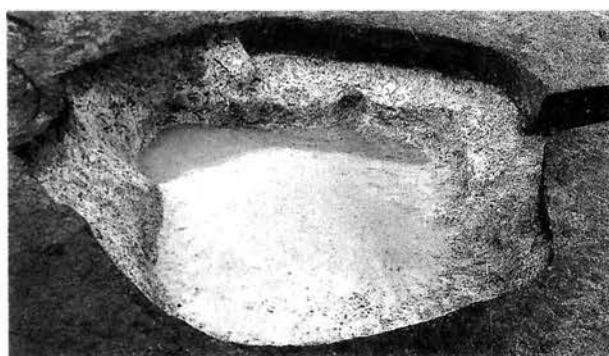
PL.7-1 SK113 (北から)

完掘状況



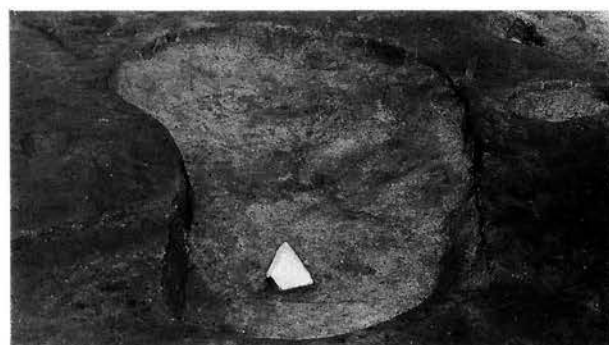
PL.7-2 SK114 (西から)

完掘状況



PL.7-3 SK115 (南から)

完掘状況



PL.7-4 SK135 (南から)

完掘状況

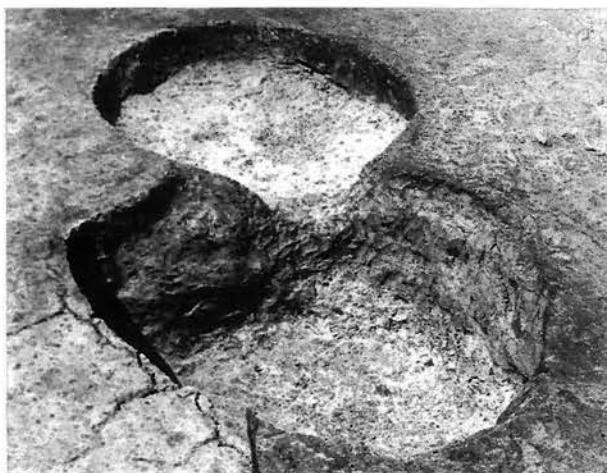


PL. 8

村徳永遺跡K地区 (K 1区)



PL.8-1 SE136土層断面  
(南東から)



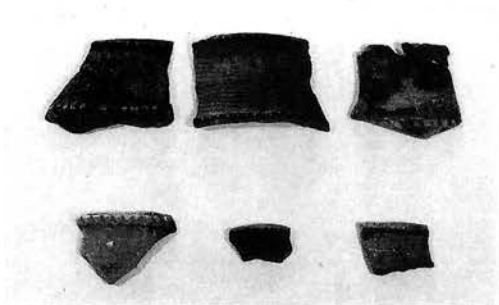
PL.8-2 SK137・138 (南から)  
完掘状況



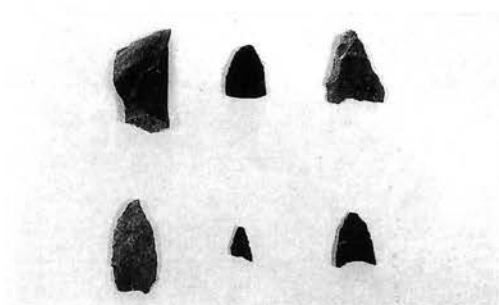
PL.8-3 SD121土層断面  
(南西から)



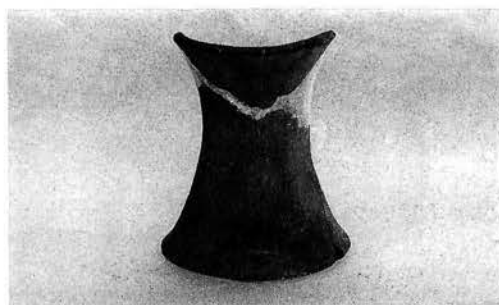
PL.8-3 SD141土層断面  
(南から)



PL.9-1 K1区出土縄文土器 (11-1~6)



PL.9-2 K1区出土打製石器 (12-1~6)



PL.9-3 SH103 (16-5)



PL.9-4 SH103 (16-6)



PL.9-5 SH109 (24-1)



PL.9-6 SH110 (26-1)



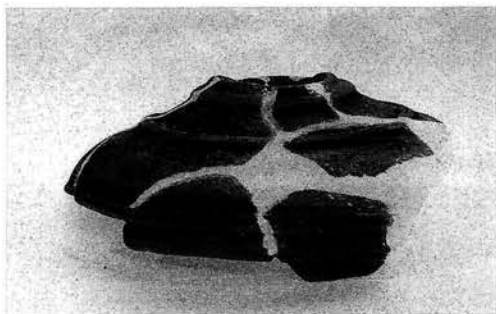
PL.9-7 SH116 (31-1)



PL.9-8 SH116 (32-6)

PL.10

村徳永遺跡K地区 (K 1区)



PL.10-1 SH114 (34-2)



PL.10-2 SH105 (37-1)



PL.10-3 SH105 (37-9)



PL.10-4 SH105 (38-1)



PL.10-5 SH105 (38-3)



PL.10-6 SH105 (38-16)



PL.10-7 SH105 (39-1)



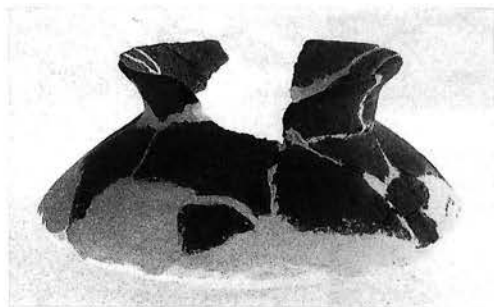
PL.10-8 SH105 (39-2)



PL.11-1 SH105 (39-6)



PL.11-2 SH105 (39-8)



PL.11-3 SK113 (42-1)



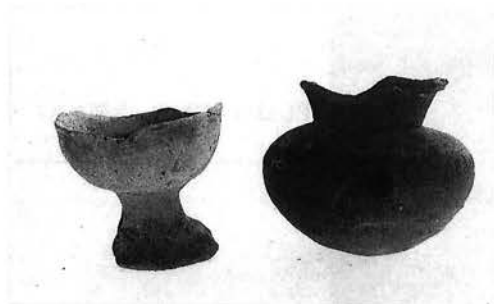
PL.11-4 SK113 (42-3)



PL.11-5 SK132 (45-2)



PL.11-6 SK133 (47-1)



PL.11-7 SK135 (49-1・2)



PL.11-8 SK138 (51-4)

PL.12

村徳永遺跡K地区 (K 2区)



PL.12-1 SK203 (北西から)  
遺物出土状況



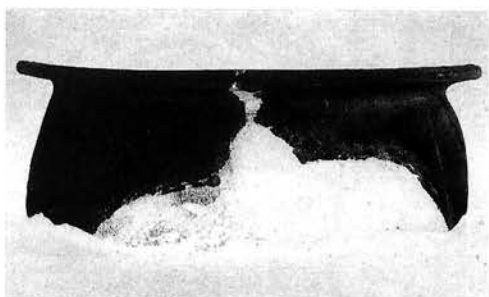
PL.12-2 SK203 (南から)  
遺物出土状況



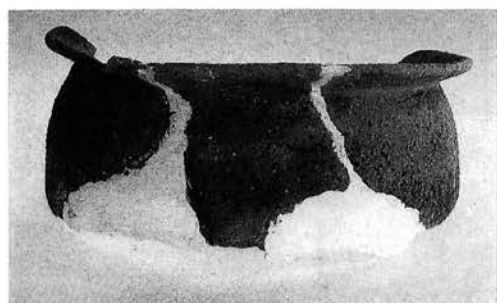
PL.12-3 SH213 (北西から)  
完掘状況



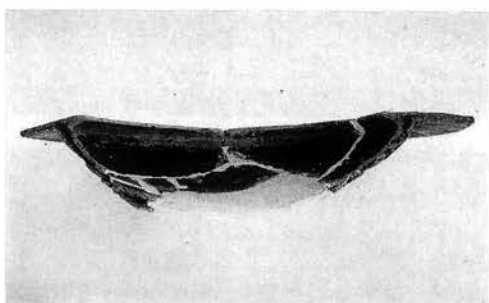
PL.13-1 SH213 (62-2)



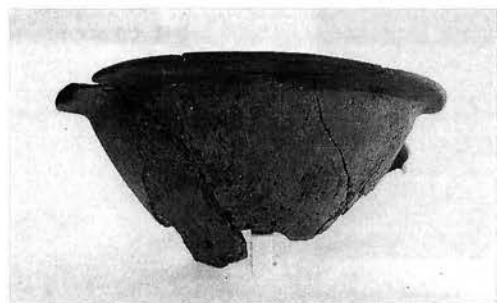
PL.13-2 SK203 (64-2)



PL.13-3 SK203 (64-3)



PL.13-4 SK203 (65-4)



PL.13-5 SK203 (65-5)



PL.13-6 SK203 (65-6)



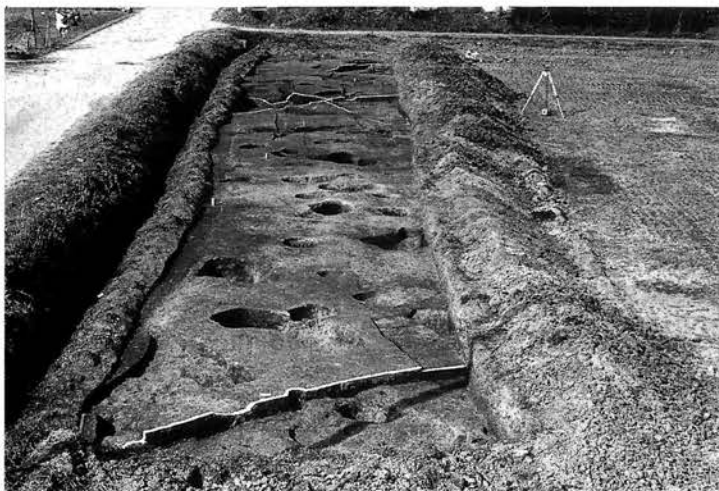
PL.13-7 SK203 (66-3)



PL.13-8 SK203 (66-5)

PL.14

村徳永遺跡K地区 (K 3区)



PL.14-1 村徳永遺跡K 3区  
全景 (南から)



PL.14-2 村徳永遺跡K 3区  
全景 (北から)



PL.14-3 SH305・306(南東から)  
完掘状況



PL.15-1 SH309 (75-1)



PL.15-2 SH309 (75-3)



PL.15-3 SK301 (77-1)



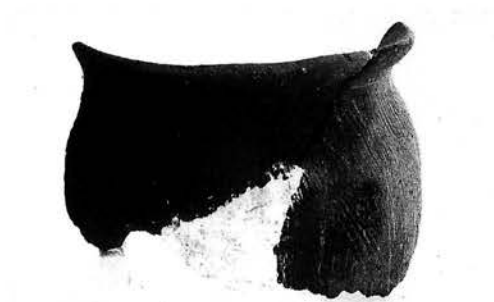
PL.15-4 SK301 (77-3)



PL.15-5 SK301 (79-1)



PL. 15-6 SK301 (79-4)



PL.15-7 SD303 (81-3)



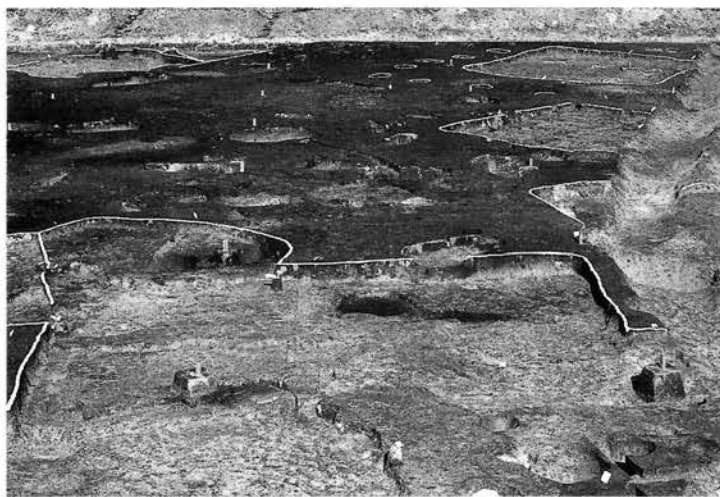
PL.15-8 P3021 (84-1)

PL.16

村徳永遺跡K地区 (K4区)



PL.16-1 村徳永遺跡K4区  
全景 (南から)



PL.16-2 村徳永遺跡K4区  
全景 (南から)



PL.16-3 村徳永遺跡K4区  
全景 (南西から)

PL.17-1 SH401 (東から)  
完掘状況



PL.17-2 SH404 (東から)  
完掘状況



PL.17-3 SH407 (東から)  
完掘状況



PL.18

村徳永遺跡K地区 (K 4区)



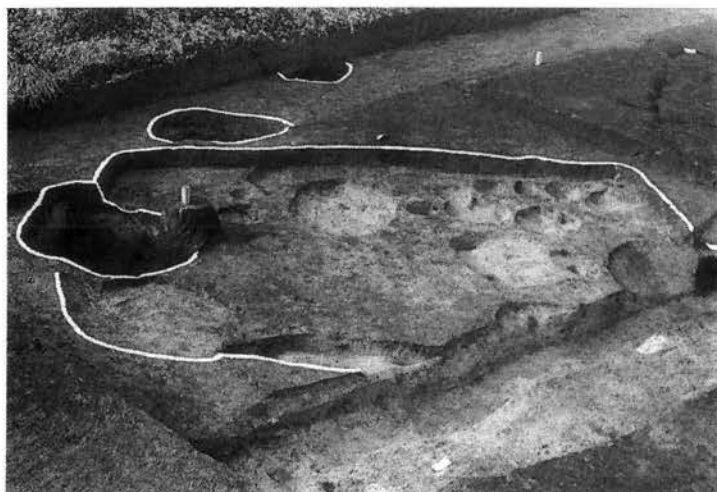
PL.18-1 SH410 (北から)

完掘状況



PL.18-2 SH411 (北から)

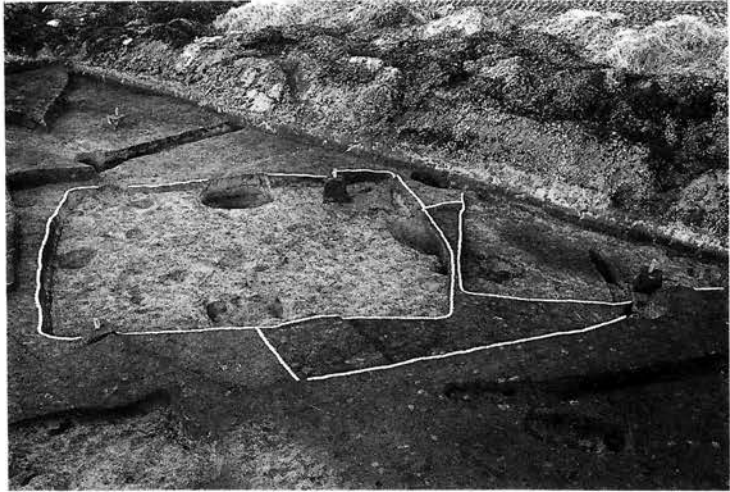
完掘状況



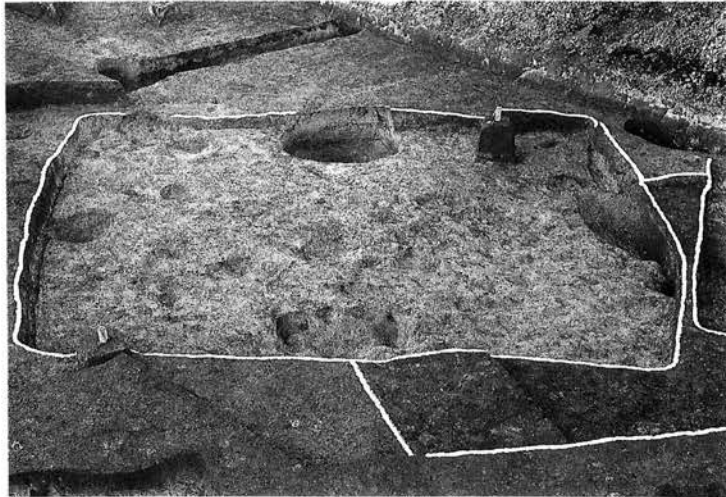
PL.18-3 SH431 (東から)

完掘状況

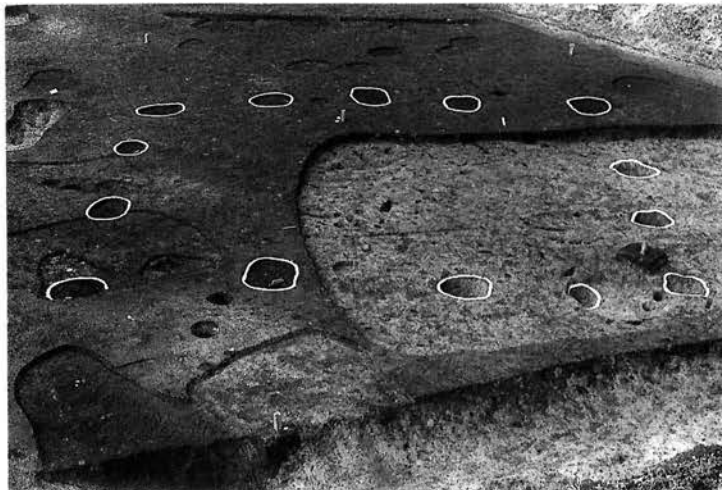
PL.19-1 SH433・434・435  
(南東から)



PL.19-2 SH433 (南東から)  
完掘状況

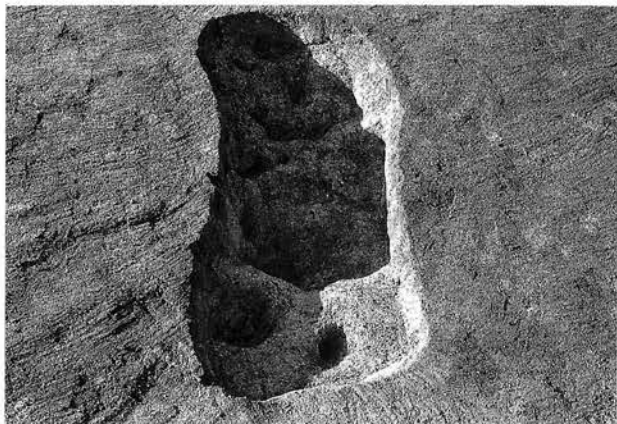


PL.19-3 SB461 (東から)



PL.20

村徳永遺跡K地区 (K 4区)



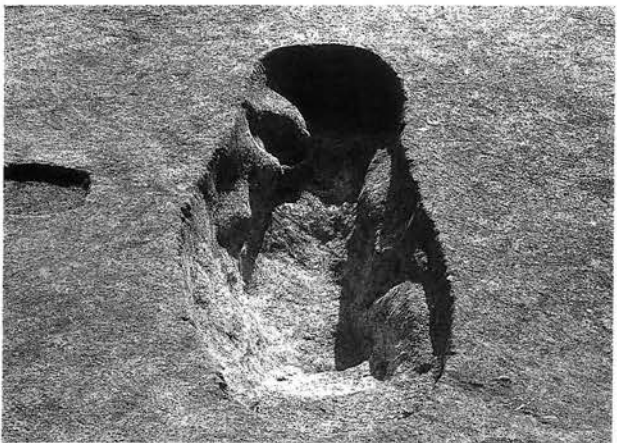
PL.20-1 SK403 (西から)

完掘状況



PL.20-2 SK419 (東から)

完掘状況



PL.20-3 SK423 (北から)

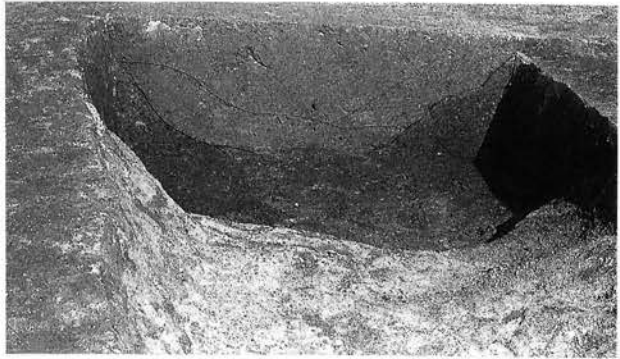
完掘状況



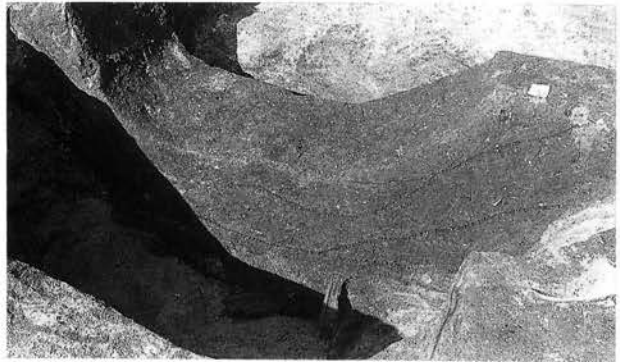
PL.20-4 SK419 (西から)

完掘状況

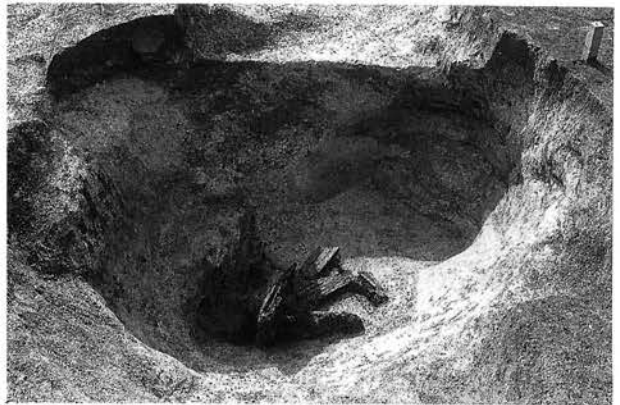
PL.21-1 SD402・SK418土層断面  
(南から)



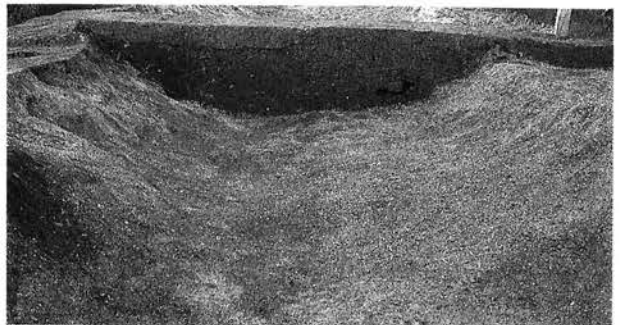
PL.21-2 SK418土層断面  
(南東から)



PL.21-3 SK418 (南から)  
完掘状況



PL.21-4 SD402土層断面  
(南から)



PL.22

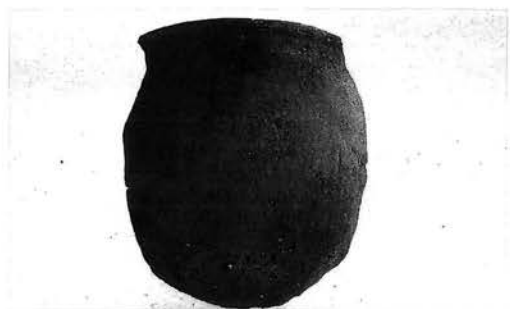
村徳永遺跡K地区 (K 4区)



PL.22-1 SH401 (85-5)



PL.22-2 SH404 (91-6)



PL.22-3 SH410 (95-1)



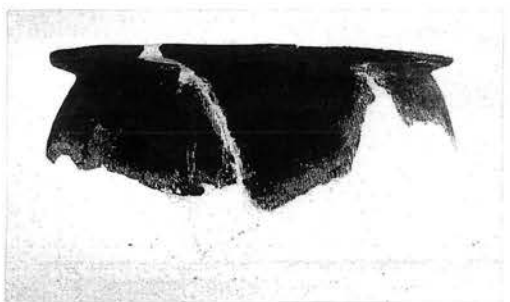
PL.22-4 SH415 (99-1)



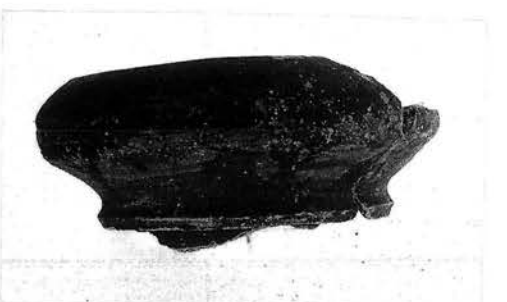
PL.22-5 SH417 (103-7)



PL.22-6 SH420 (105-11)



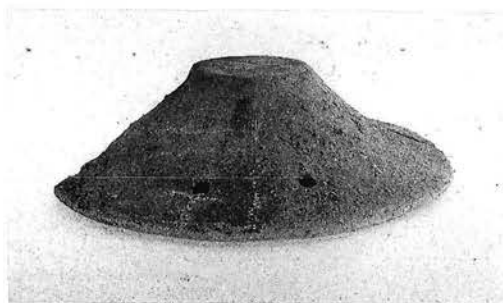
PL.22-7 SH431 (109-2)



PL.22-8 SH431 (109-5)



PL.23-1 SH433 (111-3)



PL.23-2 SH433 (111-4)



PL.23-3 SK422 (122-1)



PL.23-4 SK422 (122-3)



PL.23-5 SK424 (127-3)



PL.23-6 SK432 (128-1)



PL.23-7 SK436 (130-4)



PL.23-8 SD430 (131-9)

PL.24

村徳永遺跡K地区 (K 4区)



PL.24-1 SD430 (131-10)



PL.24-2 SD430 (131-12)



PL.24-3 SK428 (134-1)



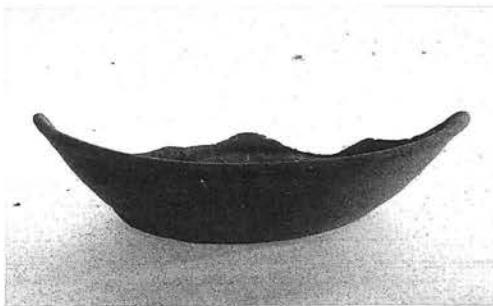
PL.24-4 SK428 (134-2)



PL.24-5 SK438 (134-7)



PL.24-6 SK438 (134-8)



PL.24-7 SK418 (138-2)



PL.24-8 SK418 (135-5)

PL.25-1 篠木野遺跡 1 区全景  
(北から)



PL.25-2 SK102 (東から)  
完掘状況



PL.25-3 SK105 (西から)  
完掘状況



PL.25-4 SD104 (東から)  
完掘状況



PL.26

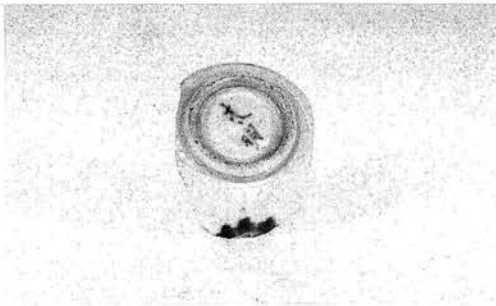
篠木野遺跡 1 区



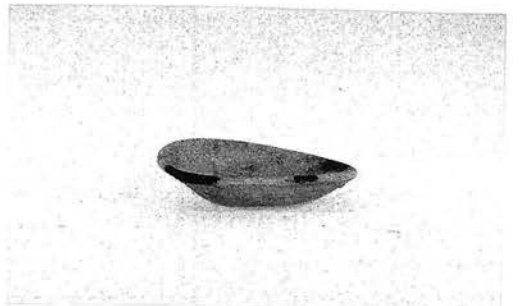
PL.26-1 SK103 (144-1)



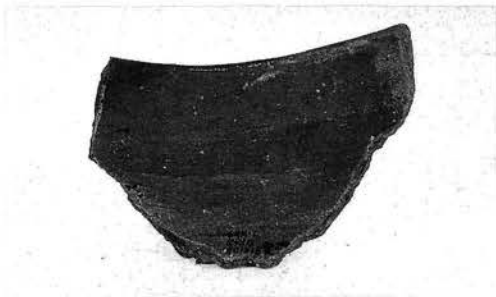
PL.26-2 SK103 (144-2)



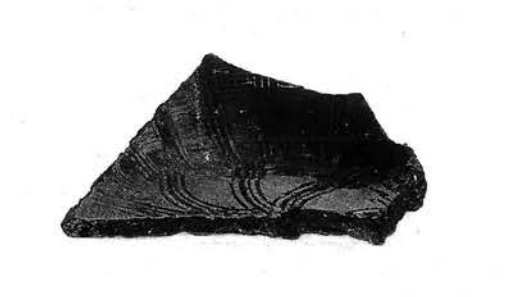
PL.26-3 SK103 (144-4)



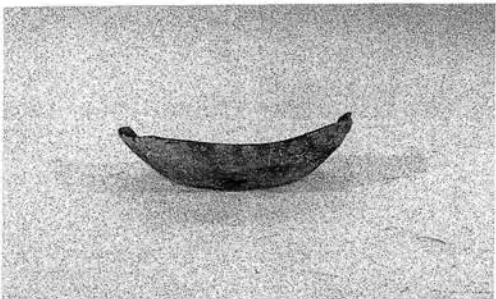
PL.26-4 SK113 (147-3)



PL.26-5 SK113 (147-5)



PL.26-6 SD109 (148-2)



PL.26-7 SD108 (148-8)



PL.26-8 SD108 (148-4)

村徳永遺跡Ⅱ地区  
篠木野遺跡Ⅰ区  
収 蔵 品 目 録

# 村德永遺跡K地区収蔵品目録

目録番号	名称	種別	時代	材質(%)	法	量 (cm, g)	遺構名	出土年月	実測番号	Fig.番号	刃形番号	A・B
MTN-K-001	深鉢	縄文土器	縄文時代	不明	口径 — 底径 —	器高 2.5g	SH1 0 2	1990.08	1-001	11-7	4 2	A
MTN-K-002	深鉢	縄文土器	縄文時代	不明	口径 — 底径 —	器高 3.4g	SH1 0 2	1990.08	1-002	11-9	4 2	A
MTN-K-003	深鉢	縄文土器	縄文時代	不明	口径 — 底径 —	器高 2.9g	SH1 0 2	1990.08	1-003	11-10	4 2	A
MTN-K-004	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 32.8g 底径 —	器高 9.7g	SH1 0 3	1990.08	2-004	16-1	4 2	A
MTN-K-005	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 32.4g 底径 —	器高 4.1g	SH1 0 3	1990.08	2-005	16-2	4 2	A
MTN-K-006	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 22.8g 底径 —	器高 12.4g	SH1 0 3	1990.08	3-006	16-3	4 2	A
MTN-K-007	高杯	弥生土器	弥生時代	不明	口径 21.8g 底径 —	器高 3.8g	SH1 0 3	1990.08	3-007	16-4	4 2	A
MTN-K-008	器台	弥生土器	弥生時代	不明	口径 9.6g 底径 9.9	器高 10.2	SH1 0 3	1990.08	2-008	16-5	4 2	A
MTN-K-009	支脚	弥生土器	弥生時代	不明	口径 4.8g 底径 —	器高 10.2g	SH1 0 3	1990.08	2-009	16-6	4 2	A
MTN-K-010	深鉢	縄文土器	縄文時代	不明	口径 — 底径 —	器高 7.8g	SH1 0 4	1990.08	4-010	11-3	4 2	A
MTN-K-011	甕	土師器	古墳時代	不明	口径 — 底径 —	器高 25.4g	SH1 0 5	1990.08	5-011	37-1	4 2	A
MTN-K-012	甕	土師器	古墳時代	不明	口径 16.6 底径 —	器高 8.0g	SH1 0 5	1990.08	5-012	37-6	4 2	A
MTN-K-013	甕	土師器	古墳時代	不明	口径 10.7g 底径 —	器高 7.8g	SH1 0 5	1990.08	5-013	37-11	4 2	A
MTN-K-014	甕	土師器	古墳時代	不明	口径 16.6g 底径 —	器高 6.8g	SH1 0 5	1990.08	5-014	37-7	4 2	A
MTN-K-015	甕	土師器	古墳時代	不明	口径 25.0g 底径 —	器高 9.8g	SH1 0 5	1990.08	6-015	37-2	4 2	A
MTN-K-016	甕	土師器	古墳時代	不明	口径 23.0g 底径 —	器高 15.0g	SH1 0 5	1990.08	6-016	37-3	4 2	A
MTN-K-017	甕	土師器	古墳時代	不明	口径 12.4g 底径 —	器高 13.1g	SH1 0 5	1990.08	6-017	37-9	4 2	A
MTN-K-018	甕	土師器	古墳時代	不明	口径 12.8g 底径 —	器高 9.8g	SH1 0 5	1990.08	6-018	37-10	4 2	A
MTN-K-019	甕	土師器	古墳時代	不明	口径 11.5g 底径 —	器高 10.2g	SH1 0 5	1990.08	7-019	—	4 2	B
MTN-K-020	甕	土師器	古墳時代	不明	口径 11.4g 底径 —	器高 4.8g	SH1 0 5	1990.08	7-020	37-12	4 2	A
MTN-K-021	甕	土師器	古墳時代	不明	口径 15.0g 底径 —	器高 9.8g	SH1 0 5	1990.08	7-021	37-4	4 2	A
MTN-K-022	甕	土師器	古墳時代	不明	口径 19.6g 底径 —	器高 4.4g	SH1 0 5	1990.08	7-022	37-8	4 2	A
MTN-K-023	甕	土師器	古墳時代	不明	口径 — 底径 —	器高 2.8g	SH1 0 5	1990.08	7-023	37-13	4 2	A
MTN-K-024	甕	土師器	古墳時代	不明	口径 — 底径 7.5	器高 3.8g	SH1 0 5	1990.08	7-024	37-14	4 2	A
MTN-K-025	深鉢	縄文土器	縄文時代	不明	口径 — 底径 —	器高 2.8g	SH1 0 5	1990.08	7-025	—	4 2	B

村德永遺跡 (K地区) I種

目錄番号	名称	種別	時代	群(%)	法	量 (cm, g)	遺構名	出土年月	実測番号	Fig. 番号	工号	A・B
MTN-K-026	壺	縄文土器	縄文時代	不明	口径— 底径6.0	器高4.4g	SH105	1990.08	7-026	11-8	42	A
MTN-K-027	甕	土師器	古墳時代	不明	口径— 底径—	器高6.4g	SH105	1990.08	8-027	37-15	42	A
MTN-K-028	高杯	土師器	古墳時代	不明	口径— 底径—	器高7.7g	SH105	1990.08	8-028	38-23	42	A
MTN-K-029	高杯	土師器	古墳時代	不明	口径— 底径14.0g	器高3.4g	SH105	1990.08	8-029	38-24	42	A
MTN-K-030	鉢	土師器	古墳時代	不明	口径16.2g 底径—	器高5.8g	SH105	1990.08	8-030	38-8	42	A
MTN-K-031	鉢	土師器	古墳時代	不明	口径15.5g 底径—	器高9.0	SH105	1990.08	9-031	38-1	43	A
MTN-K-032	鉢	土師器	古墳時代	不明	口径12.2 底径—	器高5.8g	SH105	1990.08	9-032	38-2	43	A
MTN-K-033	鉢	土師器	古墳時代	不明	口径12.6g 底径—	器高8.0	SH105	1990.08	9-033	38-17	43	A
MTN-K-034	鉢	土師器	古墳時代	40	口径13.0g 底径—	器高5.3	SH105	1990.08	9-034	38-3	43	A
MTN-K-035	鉢	土師器	古墳時代	不明	口径13.7 底径—	器高5.9	SH105	1990.08	9-035	38-4	43	A
MTN-K-036	鉢	土師器	古墳時代	不明	口径14.2 底径—	器高4.2g	SH105	1990.08	9-036	38-5	43	A
MTN-K-037	鉢	土師器	古墳時代	不明	口径12.8g 底径—	器高4.5g	SH105	1990.08	10-037	38-6	43	A
MTN-K-038	鉢	土師器	古墳時代	不明	口径14.0g 底径—	器高4.6g	SH105	1990.08	10-038	38-7	43	A
MTN-K-039	鉢	土師器	古墳時代	75	口径8.2g 底径5.1	器高6.6	SH105	1990.08	10-039	38-18	43	A
MTN-K-040	鉢	土師器	古墳時代	完存	口径16.6 底径13.1	器高12.2	SH105	1990.08	10-040	38-16	43	A
MTN-K-041	鉢	土師器	古墳時代	不明	口径13.0g 底径—	器高5.4	SH105	1990.08	11-041	38-9	43	A
MTN-K-042	鉢	土師器	古墳時代	不明	口径13.4g 底径—	器高5.0	SH105	1990.08	11-042	38-10	43	A
MTN-K-043	鉢	土師器	古墳時代	不明	口径15.8g 底径—	器高5.2g	SH105	1990.08	10-043	38-11	43	A
MTN-K-044	鉢	土師器	古墳時代	不明	口径14.4g 底径—	器高5.3g	SH105	1990.08	11-044	38-12	43	A
MTN-K-045	鉢	土師器	古墳時代	不明	口径17.0g 底径—	器高5.5g	SH105	1990.08	11-045	38-13	43	A
MTN-K-046	鉢	土師器	古墳時代	不明	口径13.8g 底径—	器高5.6g	SH105	1990.08	11-046	38-14	43	A
MTN-K-047	鉢	土師器	古墳時代	不明	口径14.4g 底径—	器高5.1g	SH105	1990.08	11-047	38-15	43	A
MTN-K-048	支脚	土師器	古墳時代	不明	口径— 底径7.4	器高4.7g	SH105	1990.08	11-048	38-26	43	A
MTN-K-049	支脚	土師器	古墳時代	不明	口径6.0g 底径7.3	器高13.9	SH105	1990.08	8-049	38-25	43	A
MTN-K-050	甗	土師器	古墳時代	不明	口径— 底径11.6	器高6.0g	SH105	1990.08	12-050	39-8	43	A

村徳永遺跡 (K地区) I種

目錄番号	名称	種別	時代	群葬(%)	法	量 (cm, g)	遺構名	出土年月	実測番号	Fig. 番号	コナリ番号	A・B
MTN-K-051	甌	土師器	古墳時代	不明			SH105	1990.08	12-051	39-7	4-3	A
MTN-K-052	手捏	土師器	古墳時代	90	口径 6.3	器高 5.2	SH105	1990.08	12-052	38-19	4-3	A
MTN-K-053	手捏	土師器	古墳時代	95	口径 3.8	器高 3.7	SH105	1990.08	12-053	38-20	4-3	A
MTN-K-054	手捏	土師器	古墳時代	不明	口径 —	器高 3.2g	SH105	1990.08	12-054	38-22	4-3	A
MTN-K-055	手捏	土師器	古墳時代	不明	口径 —	器高 3.1g	SH105	1990.08	12-055	38-21	4-3	A
MTN-K-056	不明土製品	土製品	古墳時代	不明	口径 —		SH105	1990.08	13-056	39-6	4-3	A
MTN-K-057	高杯	須恵器	古墳時代	55	口径 13.8	器高 5.6g	SH105	1990.08	13-057	39-2	4-3	A
MTN-K-058	杯	須恵器	古墳時代	40	口径 10.4g	器高 5.2	SH105	1990.08	13-058	39-1	4-3	A
MTN-K-059	甕	須恵器	古墳時代	不明	口径 —	器高 6.9g	SH105	1990.08	13-059	39-3	4-3	A
MTN-K-060	甕	須恵器	古墳時代	不明	口径 —	器高 6.5g	SH105	1990.08	13-060	39-4	4-3	A
MTN-K-061	甕	須恵器	古墳時代	不明	口径 —	器高 4.1g	SH105	1990.08	13-061	39-5	4-3	A
MTN-K-062	石鏃	石器	縄文時代	80	最大長 3.2	最大幅 2.3	SH105	1990.08	13-062	12-2	4-3	A
MTN-K-063	砥石	石製品	古墳時代	不明	最大長 5.5	最大幅 3.6	SH105	1990.08	13-063	39-9	4-3	A
MTN-K-064	紡錘車	石製品	古墳時代	完存	最大径 3.3	最大厚 0.4	SH105	1990.08	13-064	39-10	4-3	A
MTN-K-065	深鉢	縄文土器	縄文時代	不明	口径 —	器高 3.5g	SH106	1990.08	14-065	11-4	4-3	A
MTN-K-066	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 17.0g	器高 2.9g	SH106	1990.08	14-066	18-1	4-3	A
MTN-K-067	深鉢	縄文土器	縄文時代	不明	口径 —	器高 2.4g	SH107	1990.08	15-067	11-5	4-3	A
MTN-K-068	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 24.0g	器高 3.9g	SH107	1990.08	15-068	20-1	4-3	A
MTN-K-069	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 23.6g	器高 4.0g	SH107	1990.08	15-069	20-4	4-3	A
MTN-K-070	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 29.0g	器高 8.4g	SH107	1990.08	15-070	20-5	4-3	A
MTN-K-071	壺	弥生土器	弥生時代	不明	口径 30.0g	器高 3.7g	SH107	1990.08	16-071	20-6	4-3	A
MTN-K-072	壺	弥生土器	弥生時代	不明	口径 26.4g	器高 4.2g	SH107	1990.08	16-072	20-7	4-3	A
MTN-K-073	手捏	弥生土器	弥生時代	完存	口径 4.7	器高 3.4	SH107	1990.08	16-073	20-8	4-3	A
MTN-K-074	土彈	土製品	弥生時代	完存	最大長 3.9	最大径 2.3	SH107	1990.08	16-074	20-9	4-3	A
MTN-K-075	蓋	弥生土器	弥生時代	不明	口径 6.2	器高 4.5g	SH107	1990.08	16-075	20-3	4-3	A

目録番号	名称	種別	時代	解釋(%)	法	量 (cm, g)	遺構名	出土年月	実測番号	Fig. 番号	方向	A・B
MTN-K-076	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 — 底徑 7.6	器高 27.7g	SH107	1990.08	17-076	20-2	4 4	A
MTN-K-077	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 21.6g 底徑 —	器高 6.6g	SH108	1990.08	18-077	22-1	4 4	A
MTN-K-078	石鏃	石器	縄文時代	完存	長さ 3.0 最大幅 2.1	最大厚 0.5	SH108	1990.08	18-078	12-6	4 4	A
MTN-K-079	石鏃	石器	縄文時代	7 5	最大長 2.3 最大幅 1.1	最大厚 0.3	SH108	1990.08	18-079	22-2	4 4	A
MTN-K-080	石刻	石製品	弥生時代	不明	最大長 8.8 最大幅 3.2	最大厚 1.2	SH109	1990.09	19-080	24-1	4 4	A
MTN-K-081	石鏃	石器	縄文時代	一部欠	最大長 1.9 最大幅 1.2	最大厚 0.3	SH109	1990.09	19-081	12-5	4 4	A
MTN-K-082	鉢	弥生土器	弥生時代	5 0	口径 13.6g 底徑 6.0g	器高 6.0	SH110	1990.09	20-082	26-1	4 4	A
MTN-K-083	石鏃	石器	縄文時代	完存	長さ 5.0 最大幅 2.4	最大厚 0.7	SH110	1990.09	20-083	12-4	4 4	A
MTN-K-084	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 22.8g 底徑 —	器高 6.7g	SH111	1990.09	21-084	28-1	4 4	A
MTN-K-085	石鏃	石器	縄文時代	一部欠	最大長 4.6 最大幅 3.2	最大厚 1.0	SH111	1990.09	21-085	12-3	4 4	A
MTN-K-086	甕	土師器	古墳時代	9 5	口径 18.0 底徑 7.0	器高 22.5	SE113	1990.10	22-086	42-3	4 4	A
MTN-K-087	甕	土師器	古墳時代	不明	口径 19.0 底徑 —	器高 10.6g	SE113	1990.10	23-087	42-1	4 4	A
MTN-K-088	甕	土師器	古墳時代	不明	口径 — 底徑 —	器高 16.6g	SE113	1990.10	24-088	42-2	4 4	A
MTN-K-089	高杯	土師器	古墳時代	不明	口径 — 底徑 14.0g	器高 5.4g	SE113	1990.10	24-089	42-5	4 4	A
MTN-K-090	手捏	土師器	古墳時代	完存	口径 3.4 底徑 —	器高 2.9	SE113	1990.10	24-090	42-4	4 4	A
MTN-K-091	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 19.2g 底徑 —	器高 4.4g	SE114	1990.09	25-091	34-1	4 5	A
MTN-K-092	壺	弥生土器	弥生時代	不明	口径 8.2 底徑 —	器高 8.0g	SE114	1990.09	25-092	34-3	4 5	A
MTN-K-093	壺	弥生土器	弥生時代	不明	口径 — 底徑 —	器高 8.3g	SE114	1990.09	25-093	34-2	4 5	A
MTN-K-094	深鉢	縄文土器	縄文時代	不明	口径 — 底徑 —	器高 5.0g	SE114	1990.09	25-094	11-6	4 5	A
MTN-K-095	深鉢	縄文土器	縄文時代	不明	口径 — 底徑 —	器高 14.8g	SK115	1990.09	26-095	10-4	4 5	A
MTN-K-096	深鉢	縄文土器	縄文時代	不明	口径 — 底徑 —	器高 4.8g	SK115	1990.09	26-096	10-5	4 5	A
MTN-K-097	深鉢	縄文土器	縄文時代	不明	口径 — 底徑 —	器高 2.2g	SK115	1990.09	26-097	10-12	4 5	A
MTN-K-098	深鉢	縄文土器	縄文時代	不明	口径 — 底徑 —	器高 6.2g	SK115	1990.09	26-098	10-1	4 5	A
MTN-K-099	深鉢	縄文土器	縄文時代	不明	口径 — 底徑 —	器高 5.3g	SK115	1990.09	26-099	10-2	4 5	A
MTN-K-100	深鉢	縄文土器	縄文時代	不明	口径 — 底徑 —	器高 7.1g	SK115	1990.09	26-100	10-6	4 5	A

村徳永遺跡 (K地区) I種

目録番号	名称	種別	時代	熟練(%)	法	量 (cm, g)	遺構名	出土年月	実測番号	Fig. 番号	功片番号	A・B
MTN-K-101	深鉢	縄文土器	縄文時代	不明	口径 — 底径 —	器高 4.5釐	S K 1 1 5	1990.09	27-101	—	4 5	B
MTN-K-102	深鉢	縄文土器	縄文時代	不明	口径 — 底径 —	器高 2.9釐	S K 1 1 5	1990.09	27-102	10-7	4 5	A
MTN-K-103	深鉢	縄文土器	縄文時代	不明	口径 — 底径 9.0釐	器高 2.8釐	S K 1 1 5	1990.09	27-103	10-8	4 5	A
MTN-K-104	深鉢	縄文土器	縄文時代	不明	口径 — 底径 —	器高 3.3釐	S K 1 1 5	1990.09	27-104	10-3	4 5	A
MTN-K-105	浅鉢	縄文土器	縄文時代	不明	口径 17.0釐 底径 —	器高 3.2釐	S K 1 1 5	1990.09	27-105	10-9	4 5	A
MTN-K-106	浅鉢	縄文土器	縄文時代	不明	口径 13.4釐 底径 —	器高 2.1釐	S K 1 1 5	1990.09	27-106	10-10	4 5	A
MTN-K-107	壺	縄文土器	縄文時代	不明	口径 — 底径 —	器高 4.1釐	S K 1 1 5	1990.09	27-107	10-11	4 5	A
MTN-K-108	不明底部	縄文土器	縄文時代	不明	口径 — 底径 9.0釐	器高 3.0釐	S K 1 1 5	1990.09	27-108	10-13	4 5	A
MTN-K-109	砥石 (台石)	石製品	縄文時代	完存	最大長 30.5 最大幅 19.7	最大厚 16.9	S K 1 1 5	1990.09	28-109	—	4 5	A
MTN-K-110	甕	弥生土器	弥生時代	完存	口径 26.7 底径 8.2	器高 37.3	S H 1 1 6	1990.10	29-110	31-1	4 6	A
MTN-K-111	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 27.5釐 底径 —	器高 19.1釐	S H 1 1 6	1990.10	30-111	31-2	4 7	A
MTN-K-112	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 22.6釐 底径 —	器高 13.2釐	S H 1 1 6	1990.10	31-112	31-3	4 8	A
MTN-K-113	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 26.4釐 底径 —	器高 13.2釐	S H 1 1 6	1990.10	31-113	32-1	4 8	A
MTN-K-114	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 — 底径 8.0	器高 22.1釐	S H 1 1 6	1990.10	32-114	32-2	4 8	A
MTN-K-115	壺	弥生土器	弥生時代	不明	口径 — 底径 —	器高 8.2釐	S H 1 1 6	1990.10	32-115	32-5	4 8	A
MTN-K-116	壺	弥生土器	弥生時代	不明	口径 32.4釐 底径 —	器高 9.2釐	S H 1 1 6	1990.10	33-116	32-4	4 8	A
MTN-K-117	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 — 底径 8.2釐	器高 14.6釐	S H 1 1 6	1990.10	33-117	32-3	4 8	A
MTN-K-118	器台	弥生土器	弥生時代	完存	口径 10.1 底径 11.1	器高 15.3	S H 1 1 6	1990.10	33-118	32-6	4 8	A
MTN-K-119	砥石 (台石)	石製品	弥生時代	完存	最大長 24.0 最大幅 15.9	最大幅 5.0	S H 1 1 6	1990.10	34-119	—	4 9	B
MTN-K-120	砥石 (台石)	石製品	弥生時代	完存	最大長 12.7 最大幅 13.6	最大幅 5.2	S H 1 1 6	1990.10	35-120	—	4 9	B
MTN-K-121	砥石 (台石)	石製品	弥生時代	完存	最大長 18.1 最大幅 12.0	最大幅 6.5	S H 1 1 6	1990.10	35-121	—	4 9	B
MTN-K-122	砥石 (台石)	石製品	弥生時代	完存	最大長 12.0 最大幅 7.8	最大幅 6.1	S H 1 1 6	1990.10	36-122	—	4 9	B
MTN-K-123	砥石 (台石)	石製品	弥生時代	完存	最大長 15.0 最大幅 8.3	最大幅 4.0	S H 1 1 6	1990.10	36-123	—	4 9	B
MTN-K-124	スクレーパー	石器	縄文時代	完存?	最大長 6.1 最大幅 3.1	最大幅 1.3	S H 1 1 6	1990.10	31-124	12-1	4 9	A
MTN-K-125	杯	土師器	奈良時代	9 0	口径 12.2 底径 6.8	器高 4.0	S D 1 2 1	1990.09	37-125	53-1	4 9	A

目録番号	名称	種別	時代	重量(%)	法	量 (cm, g)	遺構名	出土年月	実測番号	Fig.番号	コナリ番	A,B
MTN-K-126	杯	土師器	奈良時代	8.5	口径 13.2 底径 7.8	器高 3.3	SD 1 2 1	1990.09	37-126	53-2	4.9	A
MTN-K-127	杯	土師器	奈良時代	6.0	口径 12.4 底径 7.2	器高 3.4	SD 1 2 1	1990.09	37-127	53-3	4.9	A
MTN-K-128	杯	土師器	奈良時代	5.0	口径 13.6 底径 8.0	器高 3.5	SD 1 2 1	1990.09	37-128	53-4	4.9	A
MTN-K-129	杯	土師器	奈良時代	6.0	口径 12.8 底径 8.0	器高 3.8	SD 1 2 1	1990.09	37-129	53-5	4.9	A
MTN-K-130	杯	土師器	奈良時代	6.0	口径 12.2 底径 7.0	器高 4.0	SD 1 2 1	1990.09	37-130	53-6	4.9	A
MTN-K-131	杯	土師器	奈良時代	4.0	口径 12.8 底径 8.2	器高 2.9	SD 1 2 1	1990.09	37-131	53-7	4.9	A
MTN-K-132	杯	須恵器	奈良時代	7.0	口径 12.4 底径 7.0	器高 3.5	SD 1 2 1	1990.09	37-132	53-8	4.9	A
MTN-K-133	杯	須恵器	古墳時代	不明	口径 11.1 底径 —	器高 2.4	SD 1 2 1	1990.09	38-133	53-19	4.9	A
MTN-K-134	鉢	土師器	古墳時代	4.0	口径 8.0 底径 6.0	器高 5.6	SD 1 2 1	1990.09	38-134	53-24	4.9	A
MTN-K-135	高台付杯	土師器	奈良時代	9.5	口径 15.1 底径 8.6	器高 6.2	SD 1 2 1	1990.09	38-135	53-9	4.9	A
MTN-K-136	高台付杯	土師器	奈良時代	8.0	口径 13.4 底径 7.8	器高 5.8	SD 1 2 1	1990.09	38-136	53-12	4.9	A
MTN-K-137	高台付杯	土師器	奈良時代	7.0	口径 13.0 底径 7.0	器高 6.6	SD 1 2 1	1990.09	38-137	53-11	4.9	A
MTN-K-138	高台付杯	土師器	奈良時代	6.0	口径 13.8 底径 7.0	器高 5.1	SD 1 2 1	1990.09	38-138	53-10	4.9	A
MTN-K-139	高台付杯	土師器	奈良時代	4.0	口径 14.0 底径 7.6	器高 5.8	SD 1 2 1	1990.09	38-139	53-13	4.9	A
MTN-K-140	高台付杯	土師器	奈良時代	不明	口径 14.0 底径 —	器高 5.7	SD 1 2 1	1990.09	39-140	53-14	4.9	A
MTN-K-141	高台付杯	土師器	奈良時代	不明	口径 — 底径 3.0	器高 4.6	SD 1 2 1	1990.09	39-141	53-16	4.9	A
MTN-K-142	高台付杯	土師器	奈良時代	不明	口径 — 底径 7.2	器高 2.6	SD 1 2 1	1990.09	39-142	53-15	4.9	A
MTN-K-143	高台付杯	黒色土器A	奈良時代	不明	口径 — 底径 8.2	器高 2.0	SD 1 2 1	1990.09	39-143	53-17	4.9	A
MTN-K-144	高台付杯	黒色土器A	奈良時代	不明	口径 — 底径 8.0	器高 5.0	SD 1 2 1	1990.09	39-144	53-18	4.9	A
MTN-K-145	蓋	土師器	奈良時代	不明	口径 14.0 底径 —	器高 1.4	SD 1 2 1	1990.09	39-145	53-20	4.9	A
MTN-K-146	高台付杯	須恵器	奈良時代	不明	口径 13.4 底径 —	器高 1.0	SD 1 2 1	1990.09	39-146	53-21	4.9	A
MTN-K-147	高杯	須恵器	奈良時代	不明	口径 16.0 底径 —	器高 2.4	SD 1 2 1	1990.09	39-147	53-22	4.9	A
MTN-K-148	皿	土師器	奈良時代	6.0	口径 20.0 底径 15.6	器高 1.8	SD 1 2 1	1990.09	40-148	53-25	4.9	A
MTN-K-149	皿	土師器	奈良時代	5.0	口径 17.8 底径 14.6	器高 1.5	SD 1 2 1	1990.09	40-149	53-26	4.9	A
MTN-K-150	皿	黒色土器B	平安時代	2.0	口径 17.0 底径 11.0	器高 1.0	SD 1 2 1	1990.09	40-150	53-27	4.9	A

村徳永遺跡 (K地区) I種

目録番号	名称	種別	時代	解釋(%)	法	量 (cm, g)	遺構名	出土年月	実測番号	Fig. 番号	コノリ標	A・B
MTN-K-151	甕	土師器	奈良時代	不明	口径 24.8雫 底径 — 器高 4.1雫	口径 24.8雫 底径 — 器高 4.1雫	SD 1 2 1	1990.09	40-151	53-28	4 9	A
MTN-K-152	高杯	土師器	古墳時代	不明	口径 — 底径 8.2雫 器高 —	口径 — 底径 8.2雫 器高 —	SD 1 2 1	1990.09	40-152	53-23	4 9	A
MTN-K-153	浅鉢	縄文土器	縄文時代	不明	口径 26.2雫 底径 — 器高 7.3雫	口径 26.2雫 底径 — 器高 7.3雫	SD 1 2 1	1990.09	42-153	11-1	4 9	A
MTN-K-154	甕	土師器	古墳時代	不明	口径 13.9雫 底径 — 器高 7.3雫	口径 13.9雫 底径 — 器高 7.3雫	SK 1 3 1	1990.08	42-154	43-2	4 9	A
MTN-K-155	甕	土師器	古墳時代	不明	口径 19.0雫 底径 — 器高 5.0雫	口径 19.0雫 底径 — 器高 5.0雫	SK 1 3 1	1990.08	42-155	43-3	4 9	A
MTN-K-156	手捏	土師器	古墳時代	8 0	口径 8.8雫 底径 — 器高 4.5	口径 8.8雫 底径 — 器高 4.5	SK 1 3 1	1990.08	42-156	43-1	4 9	A
MTN-K-157	甕	土師器	古墳時代	不明	口径 19.4雫 底径 — 器高 4.9雫	口径 19.4雫 底径 — 器高 4.9雫	SK 1 3 2	1990.08	43-157	45-1	4 9	A
MTN-K-158	埴	土師器	古墳時代	7 5	口径 8.4雫 底径 — 器高 7.3	口径 8.4雫 底径 — 器高 7.3	SK 1 3 2	1990.08	43-158	45-2	4 9	A
MTN-K-159	埴	土師器	古墳時代	不明	口径 — 底径 — 器高 6.8雫	口径 — 底径 — 器高 6.8雫	SK 1 3 2	1990.08	43-159	45-3	4 9	A
MTN-K-160	杯蓋	須恵器	古墳時代	5 0	口径 12.4雫 底径 — 器高 5.0	口径 12.4雫 底径 — 器高 5.0	SK 1 3 3	1990.08	44-160	47-1	5 0	A
MTN-K-161	甕	土師器	古墳時代	不明	口径 16.0雫 底径 — 器高 12.7雫	口径 16.0雫 底径 — 器高 12.7雫	SK 1 3 3	1990.08	44-161	47-3	5 0	A
MTN-K-162	甕	土師器	古墳時代	4 5	口径 18.0雫 底径 — 器高 25.8	口径 18.0雫 底径 — 器高 25.8	SK 1 3 3	1990.08	45-162	47-2	5 0	A
MTN-K-163	甕	土師器	古墳時代	不明	口径 15.4雫 底径 — 器高 15.0雫	口径 15.4雫 底径 — 器高 15.0雫	SK 1 3 4	1990.08	46-163	47-5	5 0	A
MTN-K-164	瓶	須恵器	古墳時代	不明	口径 — 底径 — 器高 9.3雫	口径 — 底径 — 器高 9.3雫	SK 1 3 4	1990.08	46-164	47-4	5 0	A
MTN-K-165	珠	須恵器	古墳時代	不明	口径 — 底径 — 器高 9.2雫	口径 — 底径 — 器高 9.2雫	SK 1 3 5	1990.08	47-165	49-1	5 0	A
MTN-K-166	鉢	土師器	古墳時代	8 0	口径 8.7雫 底径 7.2雫 器高 10.1	口径 8.7雫 底径 7.2雫 器高 10.1	SK 1 3 5	1990.08	47-166	49-2	5 0	A
MTN-K-167	甕	土師器	古墳時代	不明	口径 19.2雫 底径 — 器高 8.2雫	口径 19.2雫 底径 — 器高 8.2雫	SK 1 3 5	1990.08	47-167	49-5	5 0	A
MTN-K-168	瓶	須恵器	古墳時代	不明	口径 — 底径 — 器高 6.0雫	口径 — 底径 — 器高 6.0雫	SK 1 3 5	1990.08	47-168	49-6	5 0	A
MTN-K-169	鉢	土師器	古墳時代	不明	口径 10.4雫 底径 — 器高 8.2雫	口径 10.4雫 底径 — 器高 8.2雫	SK 1 3 5	1990.08	48-169	49-4	5 0	A
MTN-K-170	手捏	土師器	古墳時代	完存	口径 4.4 底径 — 器高 2.6	口径 4.4 底径 — 器高 2.6	SK 1 3 5	1990.08	48-170	49-3	5 0	A
MTN-K-171	鉢	土師器	古墳時代	7 0	口径 9.9雫 底径 — 器高 10.0	口径 9.9雫 底径 — 器高 10.0	SK 1 3 8	1990.08	49-171	51-5	5 0	A
MTN-K-172	埴	土師器	古墳時代	8 0	口径 8.4 底径 — 器高 10.0	口径 8.4 底径 — 器高 10.0	SK 1 3 8	1990.08	49-172	51-4	5 0	A
MTN-K-173	埴	土師器	古墳時代	完存	口径 6.9 底径 — 器高 6.4	口径 6.9 底径 — 器高 6.4	SK 1 3 8	1990.08	49-173	51-6	5 0	A
MTN-K-174	埴	土師器	古墳時代	4 0	口径 8.8雫 底径 — 器高 8.4	口径 8.8雫 底径 — 器高 8.4	SK 1 3 8	1990.08	49-174	51-7	5 0	A
MTN-K-175	埴?	土師器	古墳時代	不明	口径 — 底径 — 器高 3.9雫	口径 — 底径 — 器高 3.9雫	SK 1 3 8	1990.08	49-175	51-8	5 0	A

目録番号	名称	種別	時代	群葬(%)	法	量 (cm, g)	遺構名	出土年月	実測番号	Fig. 番号	工方群	A・B
MTN-K-176	鉢	土師器	古墳時代	80	口径 13.0	底径 — 器高 6.3	SK138	1990.08	49-176	51-1	50	A
MTN-K-177	鉢	土師器	古墳時代	30	口径 14.8雫	底径 — 器高 6.4	SK138	1990.08	50-177	51-2	50	A
MTN-K-178	鉢	土師器	古墳時代	不明	口径 17.0雫	底径 — 器高 4.6雫	SK138	1990.08	50-178	51-3	50	A
MTN-K-179	手捏	土師器	古墳時代	完存	口径 6.4	底径 — 器高 6.2雫	SK138	1990.08	50-179	51-10	50	A
MTN-K-180	甕	土師器	古墳時代	不明	口径 17.6雫	底径 — 器高 3.7雫	SK138	1990.08	50-180	51-9	50	A
MTN-K-181	湯釜	瓦器	室町時代	不明	口径 14.0雫	底径 — 器高 10.4雫	SK139	1990.09	51-181	58-6	50	A
MTN-K-182	擂鉢	瓦器	室町時代	不明	口径 —	底径 16.4雫	SK139	1990.09	51-182	58-4	50	A
MTN-K-183	火鉢	土師器	室町時代	不明	口径 —	底径 — 器高 25.7雫	SK139	1990.09	52-183	59-5	50	A
MTN-K-184	鍋	瓦器	室町時代	不明	口径 33.0雫	底径 — 器高 11.7雫	SK139	1990.09	53-184	59-2	50	A
MTN-K-185	鍋	瓦器	室町時代	不明	口径 41.0雫	底径 — 器高 8.6雫	SK139	1990.09	53-185	59-3	50	A
MTN-K-186	鉢	瓦器	室町時代	不明	口径 —	底径 — 器高 6.9雫	SK139	1990.09	54-186	59-4	50	A
MTN-K-187	鍋	土師器	室町時代	不明	口径 24.2雫	底径 — 器高 10.0雫	SK139	1990.09	54-187	59-1	50	A
MTN-K-188	鍋	土師器	室町時代	不明	口径 —	底径 — 器高 8.5雫	SK139	1990.09	55-188	58-5	50	A
MTN-K-189	皿	土師器	室町時代	60	口径 9.4雫	底径 4.8	SK139	1990.09	55-189	58-1	50	A
MTN-K-190	皿	土師器	室町時代	45	口径 8.0雫	底径 4.4	SK139	1990.09	55-190	58-2	50	A
MTN-K-191	皿	土師器	室町時代	40	口径 10.0雫	底径 4.0雫	SK139	1990.09	55-191	58-3	50	A
MTN-K-192	鉢	土師器	室町時代	不明	口径 15.4雫	底径 — 器高 7.5雫	SK139	1990.09	56-192	—	50	B
MTN-K-193	甕	縄文土器	縄文時代	不明	口径 22.4雫	底径 — 器高 7.5雫	SK139	1990.09	56-193	11-2	50	A
MTN-K-194	皿	青磁	室町時代	不明	口径 22.6雫	底径 — 器高 5.4雫	SD141	1990.10	57-194	56-1	50	A
MTN-K-195	皿	土師器	室町時代	不明	口径 —	底径 4.8	SD141	1990.10	57-195	56-4	50	A
MTN-K-196	鉢?	陶器	室町時代	不明	口径 23.2雫	底径 — 器高 4.6雫	SD141	1990.10	57-196	56-5	50	A
MTN-K-197	擂鉢	陶器	室町時代	不明	口径 26.8雫	底径 — 器高 3.9雫	SD141	1990.10	57-197	56-6	50	A
MTN-K-198	鉢	瓦器	室町時代	不明	口径 25.6雫	底径 — 器高 6.6雫	SD141	1990.10	57-198	56-2	50	A
MTN-K-199	鍋	土師器	室町時代	不明	口径 30.0雫	底径 — 器高 10.9雫	SD141	1990.10	57-199	56-3	50	A
MTN-K-200	甕	縄文土器	縄文時代	不明	口径 —	底径 6.8	SD141	1990.10	58-200	11-11	50	A

村徳永遺跡 (K地区) I種

目録番号	名称	種別	時代	群粧(%)	法	量 (cm, g)	遺構名	出土年月	実測番号	Fig. 番号	ヨリ番	A・B
MTN-K-201	鉢	陶器	室町時代	20	口径 31.4㎝ 底径 21.4㎝	器高 6.5	SK145	1990.09	59-201	—	50	B
MTN-K-202	擂鉢	陶器	室町時代	不明	口径 30.0㎝ 底径 —	器高 7.1㎝	SK145	1990.09	59-202	—	50	B
MTN-K-203	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 24.6㎝ 底径 —	器高 8.2㎝	SK203	1990.10	60-203	64-3	51	A
MTN-K-204	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 33.2㎝ 底径 —	器高 24.1㎝	SK203	1990.10	60-204	64-1	51	A
MTN-K-205	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 29.1㎝ 底径 —	器高 9.4㎝	SK203	1990.10	60-205	64-2	51	A
MTN-K-206	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 27.2㎝ 底径 —	器高 12.7㎝	SK203	1990.10	61-206	64-4	51	A
MTN-K-207	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 — 底径 9.0	器高 12.3㎝	SK203	1990.10	61-207	64-8	51	A
MTN-K-208	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 — 底径 8.6	器高 12.3㎝	SK203	1990.10	61-208	64-9	51	A
MTN-K-209	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 — 底径 12.0	器高 38.8㎝	SK203	1990.10	66-209	65-1	51	A
MTN-K-210	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 — 底径 9.0㎝	器高 3.5㎝	SK203	1990.10	62-210	64-5	51	A
MTN-K-211	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 — 底径 7.4㎝	器高 6.8㎝	SK203	1990.10	62-211	64-6	51	A
MTN-K-212	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 — 底径 5.8㎝	器高 5.6㎝	SK203	1990.10	62-212	64-7	51	A
MTN-K-213	壺	弥生土器	弥生時代	不明	口径 — 底径 —	器高 9.5㎝	SK203	1990.10	62-213	65-3	52	A
MTN-K-214	壺	弥生土器	弥生時代	不明	口径 — 底径 —	器高 7.6㎝	SK203	1990.10	62-214	65-2	52	A
MTN-K-215	高杯	弥生土器	弥生時代	不明	口径 19.2㎝ 底径 —	器高 6.4㎝	SK203	1990.10	63-215	65-4	52	A
MTN-K-216	高杯	弥生土器	弥生時代	不明	口径 19.7㎝ 底径 —	器高 9.6㎝	SK203	1990.10	63-216	65-5	52	A
MTN-K-217	高杯	弥生土器	弥生時代	不明	口径 — 底径 18.0㎝	器高 7.0㎝	SK203	1990.10	63-217	65-7	52	A
MTN-K-218	高杯	弥生土器	弥生時代	不明	口径 — 底径 10.6㎝	器高 8.3㎝	SK203	1990.10	63-218	65-6	52	A
MTN-K-219	鉢	弥生土器	弥生時代	不明	口径 30.8㎝ 底径 —	器高 9.9㎝	SK203	1990.10	64-219	65-8	52	A
MTN-K-220	器台	弥生土器	弥生時代	不明	口径 14.8㎝ 底径 4.3㎝	器高 14.8	SK203	1990.10	65-220	66-1	52	A
MTN-K-221	器台	弥生土器	弥生時代	40	口径 14.0 底径 13.8㎝	器高 14.1	SK203	1990.10	64-221	66-2	52	A
MTN-K-222	器台	弥生土器	弥生時代	90	口径 13.7 底径 14.2	器高 20.0	SK203	1990.10	65-222	66-3	52	A
MTN-K-223	器台	弥生土器	弥生時代	90	口径 12.0 底径 12.4	器高 10.4	SK203	1990.10	65-223	66-4	52	A
MTN-K-224	器台	弥生土器	弥生時代	不明	口径 — 底径 17.0	器高 11.4㎝	SK203	1990.10	66-224	66-6	52	A
MTN-K-225	器台	弥生土器	弥生時代	80	口径 8.4㎝ 底径 9.0	器高 12.8	SK203	1990.10	65-225	66-5	52	A

目錄番号	名称	種別	時代	聚積(%)	法	量 (cm, g)	遺構名	出土年月	実測番号	Fig. 番号	コナリ番	A・B
MTN-K-226	砥石	石製品	弥生時代	完存	最大長 12.9 最大幅 8.0	最大厚 7.7	SK203	1990.10	67-226	66-7	5 2	A
MTN-K-227	投擲	土製品	弥生時代	完存	最大長 4.0	最大幅 2.2	S 2 0 9	1990.10	68-227	67-8	5 2	A
MTN-K-228	器台	弥生土器	弥生時代	不明	口径 8.6	器高 12.1 <sup>g</sup>	S 2 1 2	1990.10	69-228	67-7	5 4	A
MTN-K-229	壺	弥生土器	弥生時代	不明	口径 24.0 <sup>g</sup>	器高 3.4 <sup>g</sup>	SH213	1990.10	70-229	62-1	5 4	A
MTN-K-230	高杯	弥生土器	弥生時代	不明	口径 —	器高 9.2 <sup>g</sup>	SH213	1990.10	70-230	62-2	5 4	A
MTN-K-231	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 21.6 <sup>g</sup>	器高 2.6 <sup>g</sup>	S 2 1 4	1990.10	71-231	—	5 4	B
MTN-K-232	壺	弥生土器	弥生時代	不明	口径 —	器高 3.6 <sup>g</sup>	S 2 1 4	1990.10	71-232	—	5 4	B
MTN-K-233	壺	弥生土器	弥生時代	不明	口径 —	器高 26.1 <sup>g</sup>	S 2 1 5	1990.10	72-233	67-1	5 4	A
MTN-K-234	鉢	弥生土器	弥生時代	不明	口径 —	器高 7.1 <sup>g</sup>	S 2 1 5	1990.10	72-234	67-5	5 4	A
MTN-K-235	高杯	弥生土器	弥生時代	不明	口径 —	器高 15.2 <sup>g</sup>	S 2 1 6	1990.10	73-235	67-3	5 4	A
MTN-K-236	鉢	弥生土器	弥生時代	8 0	口径 16.8	器高 5.2	P 2 0 3 8	1990.10	74-236	67-4	5 4	A
MTN-K-237	支脚	弥生土器	弥生時代	8 0	口径 6.7	器高 8.6	P 2 0 4 0	1990.10	75-237	67-6	5 4	A
MTN-K-238	壺	弥生土器	弥生時代	不明	口径 8.0 <sup>g</sup>	器高 9.2 <sup>g</sup>	表 採	1990.10	76-238	67-2	5 4	A
MTN-K-239	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 —	器高 8.9	SK301	1990.10	77-239	77-2	5 4	A
MTN-K-240	甕	弥生土器	弥生時代	5 0	口径 25.8	器高 37.7	SK301	1990.10	78-240	79-1	5 3	A
MTN-K-241	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 24.6	器高 21.1 <sup>g</sup>	SK301	1990.10	79-241	78-1	5 4	A
MTN-K-242	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 24.8	器高 7.9 <sup>g</sup>	SK301	1990.10	77-242	78-4	5 6	A
MTN-K-243	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 25.4 <sup>g</sup>	器高 16.9 <sup>g</sup>	SK301	1990.10	80-243	78-3	5 5	A
MTN-K-244	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 23.8 <sup>g</sup>	器高 18.5 <sup>g</sup>	SK301	1990.10	81-244	78-2	5 5	A
MTN-K-245	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 —	器高 21.3 <sup>g</sup>	SK301	1990.10	82-245	79-3	5 5	A
MTN-K-246	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 —	器高 15.3 <sup>g</sup>	SK301	1990.10	83-246	79-2	5 5	A
MTN-K-247	甕	弥生土器	弥生時代	7 0	口径 21.0	器高 34.0	SK301	1990.10	84-247	77-1	5 3	A
MTN-K-248	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 18.4 <sup>g</sup>	器高 6.0 <sup>g</sup>	SK301	1990.10	85-248	77-4	5 4	A
MTN-K-249	蓋	弥生土器	弥生時代	不明	口径 6.0	器高 11.1 <sup>g</sup>	SK301	1990.10	86-249	77-5	5 4	A
MTN-K-250	鉢	弥生土器	弥生時代	完存	口径 13.2	器高 5.2	SK301	1990.10	85-250	77-3	5 4	A

村徳永遺跡 (K地区) I種

目録番号	名称	種別	時代	群葬(%)	法	量 (cm, g)	遺構名	出土年月	実測番号	Fig. 番号	コナリ群	A・B
MTN-K-251	器台	弥生土器	弥生時代	完存	口径 10.2 底径 11.8 器高 14.8	SK 3 0 1	1990.10	86-251	79-4	5 4	A	
MTN-K-252	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 19.0雫 底径 — 器高 11.2雫	SD 3 0 3	1990.10	87-252	81-3	5 4	A	
MTN-K-253	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 26.4雫 底径 — 器高 3.9雫	SD 3 0 3	1990.10	87-253	81-2	5 4	A	
MTN-K-254	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 31.2雫 底径 — 器高 8.7雫	SD 3 0 3	1990.10	87-254	81-1	5 4	A	
MTN-K-255	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 — 底径 11.2雫 器高 3.0雫	SD 3 0 3	1990.10	87-255	81-4	5 4	A	
MTN-K-256	高杯	弥生土器	弥生時代	不明	口径 — 底径 — 器高 12.5雫	SD 3 0 3	1990.10	87-256	81-5	5 4	A	
MTN-K-257	石斧	石器	弥生時代	不明	最大長 5.1 最大幅 5.0	SD 3 0 3	1990.10	87-257	81-6	5 4	A	
MTN-K-258	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 24.2雫 底径 — 器高 3.8雫	S 3 0 4	1990.10	88-258	84-2	5 6	A	
MTN-K-259	鉢	弥生土器	弥生時代	不明	口径 17.4雫 底径 — 器高 5.9雫	S 3 0 4	1990.10	88-259	84-7	5 6	A	
MTN-K-260	鉢	弥生土器	弥生時代	不明	口径 14.6雫 底径 — 器高 5.9雫	S 3 0 4	1990.10	88-260	84-6	5 6	A	
MTN-K-261	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 21.0雫 底径 — 器高 5.1雫	SH 3 0 5	1990.10	89-261	71-2	5 6	A	
MTN-K-262	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 — 底径 10.0 器高 7.3雫	SH 3 0 5	1990.10	89-262	71-4	5 6	A	
MTN-K-263	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 — 底径 8.7 器高 3.3雫	SH 3 0 5	1990.10	89-263	71-5	5 6	A	
MTN-K-264	壺	弥生土器	弥生時代	不明	口径 22.2雫 底径 — 器高 7.7雫	SH 3 0 5	1990.10	89-264	71-6	5 6	A	
MTN-K-265	鉢	弥生土器	弥生時代	2 0	口径 8.2雫 底径 4.8雫 器高 6.2	SH 3 0 5	1990.10	89-265	71-7	5 6	A	
MTN-K-266	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 14.1雫 底径 — 器高 3.0雫	SH 3 0 5	1990.10	89-266	71-3	5 6	A	
MTN-K-267	手捏	弥生土器	弥生時代	不明	口径 5.9雫 底径 2.6雫 器高 4.0	SH 3 0 5	1990.10	89-267	71-8	5 6	A	
MTN-K-268	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 23.4雫 底径 — 器高 3.7雫	SH 3 0 5	1990.10	90-268	71-1	5 6	A	
MTN-K-269	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 — 底径 8.8雫 器高 5.0雫	SH 3 0 6	1990.10	91-269	73-5	5 6	A	
MTN-K-270	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 — 底径 8.8 器高 —	SH 3 0 6	1990.10	91-270	73-2	5 6	A	
MTN-K-271	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 19.2雫 底径 — 器高 16.5雫	SH 3 0 6	1990.10	91-271	73-1	5 6	A	
MTN-K-272	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 — 底径 8.8 器高 12.5雫	SH 3 0 6	1990.10	92-272	73-3	5 6	A	
MTN-K-273	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 — 底径 5.6 器高 6.8雫	SH 3 0 6	1990.10	92-273	73-4	5 6	A	
MTN-K-274	鉢	弥生土器	弥生時代	不明	口径 20.2雫 底径 — 器高 7.2雫	SH 3 0 6	1990.10	92-274	73-6	5 6	A	
MTN-K-275	甕	土師器	古墳時代	不明	口径 12.9雫 底径 — 器高 12.3雫	S 3 0 7	1990.10	93-275	85-1	5 6	A	

村徳永遺跡 (K地区) I種

目録番号	名称	種別	時代	群像(%)	法	量 (cm, g)	遺構名	出土年月	実測番号	Fig. 番号	コトワザ科	A・B
MTN-K-276	甕	土師器	古墳時代	不明	口径 16.6雫 底径 — 器高 6.2雫	S 3 0 8	1990.10	94-276	85-2	5 6	A	
MTN-K-277	甕	土師器	古墳時代	不明	口径 13.7雫 底径 — 器高 6.5雫	S 3 0 8	1990.10	94-277	85-3	5 6	A	
MTN-K-278	甕	弥生土器	弥生時代	6 0	口径 27.3雫 底径 10.1 器高 29.9	SH 3 0 9	1990.10	95-278	75-1	5 8	A	
MTN-K-279	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 25.9 底径 — 器高 13.5雫	SH 3 0 9	1990.10	96-279	75-2	5 6	A	
MTN-K-280	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 27.0 底径 — 器高 6.9雫	SH 3 0 9	1990.10	96-280	75-8	5 6	A	
MTN-K-281	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 — 底径 7.3 器高 7.5雫	SH 3 0 9	1990.11	96-281	75-5	5 6	A	
MTN-K-282	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 — 底径 12.2 器高 5.6雫	SH 3 0 9	1990.11	96-282	75-6	5 6	A	
MTN-K-283	壺	弥生土器	弥生時代	不明	口径 — 底径 9.0 器高 4.9雫	SH 3 0 9	1990.11	97-283	75-4	5 6	A	
MTN-K-284	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 20.4雫 底径 6.1 器高 14.1	SH 3 0 9	1990.11	97-284	75-3	5 6	A	
MTN-K-285	器台	弥生土器	弥生時代	不明	口径 — 底径 16.6雫 器高 8.6雫	SH 3 0 9	1990.11	97-285	75-7	5 6	A	
MTN-K-286	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 26.8雫 底径 — 器高 7.6雫	SK 3 1 0	1990.11	98-286	83-4	5 6	A	
MTN-K-287	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 24.0雫 底径 — 器高 10.1雫	SK 3 1 0	1990.11	98-287	83-3	5 6	A	
MTN-K-288	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 22.0雫 底径 — 器高 15.2雫	SK 3 1 0	1990.11	99-288	83-1	5 6	A	
MTN-K-289	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 23.0雫 底径 — 器高 9.5雫	SK 3 1 0	1990.11	99-289	83-2	5 6	A	
MTN-K-290	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 — 底径 7.0雫 器高 5.0雫	SK 3 1 0	1990.11	100-290	83-5	5 6	A	
MTN-K-291	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 — 底径 — 器高 28.6雫	SK 3 1 0	1990.11	101-291	—	5 6	B	
MTN-K-292	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 — 底径 — 器高 18.0雫	SK 3 1 0	1990.11	100-292	83-6	5 6	A	
MTN-K-293	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 — 底径 — 器高 14.7雫	SK 3 1 0	1990.11	102-293	83-7	5 6	A	
MTN-K-294	高杯	弥生土器	弥生時代	不明	口径 32.0雫 底径 — 器高 5.5雫	SK 3 1 0	1990.11	102-294	83-10	5 6	A	
MTN-K-295	高杯	弥生土器	弥生時代	不明	口径 — 底径 — 器高 14.7雫	SK 3 1 0	1990.11	102-295	83-11	5 6	A	
MTN-K-296	器台	弥生土器	弥生時代	不明	口径 — 底径 20.0雫 器高 19.4雫	SK 3 1 0	1990.11	103-296	83-8	5 6	A	
MTN-K-297	器台	弥生土器	弥生時代	不明	口径 — 底径 17.8雫 器高 13.8雫	SK 3 1 0	1990.11	103-297	83-9	5 6	A	
MTN-K-298	壺	弥生土器	弥生時代	不明	口径 — 底径 6.0 器高 10.43雫	SK 3 1 1	1990.11	104-298	84-3	5 6	A	
MTN-K-299	鉢	弥生土器	弥生時代	不明	口径 14.0雫 底径 — 器高 5.2	S 3 1 2	1990.11	105-299	84-5	5 6	A	
MTN-K-300	器台	弥生土器	弥生時代	6 0	口径 10.4 底径 13.6 器高 17.0	S 3 1 2	1990.11	105-300	84-4	5 6	A	

村徳永遺跡 (K 地区) I 種

目録番号	名称	種別	時代	粘率(%)	法	量 (cm, g)	遺構名	出土年月	実測番号	Fig.番号	コナリ番号	A・B
MTN-K-301	甕	弥生土器	弥生時代	40	口径 22.1雫 底径 8.3	器高 17.4	P3021	1990.11	106-301	84-1	56	A
MTN-K-302	砥石	石製品	弥生時代	完存	最大長 15.1 最大幅 8.4	最大厚 5.3	P3022	1990.11	107-302	—	56	B
MTN-K-303	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 33.6雫	器高 3.8雫	SH401	1990.12	108-303	89-1	57	A
MTN-K-304	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 —	器高 2.6雫	SH401	1990.12	108-304	—	57	B
MTN-K-305	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 —	器高 5.0雫	SH401	1990.12	108-305	89-2	57	A
MTN-K-306	壺	弥生土器	弥生時代	不明	口径 —	器高 5.9雫	SH401	1990.12	108-306	89-4	57	A
MTN-K-307	鉢	弥生土器	弥生時代	不明	口径 15.3雫	器高 7.0雫	SH401	1990.12	108-307	89-3	57	A
MTN-K-308	鉢	弥生土器	弥生時代	不明	口径 —	器高 5.5雫	SH401	1990.12	109-308	—	57	B
MTN-K-309	器台	弥生土器	弥生時代	不明	口径 —	器高 10.5雫	SH401	1990.12	109-309	89-5	57	A
MTN-K-310	石包丁	石器	弥生時代	不明	最大長 17.3 最大幅 4.4	最大厚 0.7	SH401	1990.12	109-310	89-6	57	A
MTN-K-311	石斧	石器	弥生時代	不明	最大長 16.7 最大幅 6.6	最大厚 3.8	SH401	1990.12	109-311	—	57	B
MTN-K-312	碗	青磁	室町時代	不明	口径 —	器高 4.2雫	SD402	1990.12	110-312	141-3	57	A
MTN-K-313	碗	青磁	室町時代	不明	口径 —	器高 1.5雫	SD402	1990.12	110-313	141-4	57	A
MTN-K-314	不明	青磁	室町時代	不明	口径 —	器高 6.4雫	SD402	1990.12	110-314	141-2	57	A
MTN-K-315	火鉢	青磁	室町時代	不明	口径 —	器高 4.2雫	SD402	1990.12	110-315	141-1	57	A
MTN-K-316	砥石	石製品	室町時代	不明	最大長 6.2 最大幅 4.9	最大厚 3.0	SD402	1990.12	110-316	141-5	57	A
MTN-K-317	砥石	石製品	室町時代	不明	最大長 6.4 最大幅 5.5	最大厚 2.3	SD402	1990.12	110-317	141-6	57	A
MTN-K-318	砥石	石製品	室町時代	不明	最大長 11.7 最大幅 6.5	最大厚 3.1	SD402	1990.12	111-318	141-7	57	A
MTN-K-319	壺	弥生土器	弥生時代	不明	口径 7.6雫	器高 4.6雫	SD402	1990.12	111-319	—	57	B
MTN-K-320	高杯	弥生土器	弥生時代	不明	口径 —	器高 17.7雫	SD402	1990.12	111-320	—	57	B
MTN-K-321	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 29.0雫	器高 5.1雫	SH404	1990.12	112-321	91-2	57	A
MTN-K-322	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 17.0雫	器高 6.1雫	SH404	1990.12	112-322	91-4	57	A
MTN-K-323	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 25.0雫	器高 4.1雫	SH404	1990.12	112-323	91-3	57	A
MTN-K-324	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 31.0雫	器高 3.2雫	SH404	1990.12	112-324	91-1	57	A
MTN-K-325	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 —	器高 10.0雫	SH404	1990.12	112-325	91-5	57	A

目録番号	名称	種別	時代	解釋(%)	法	量 (cm, g)	遺構名	出土年月	実測番号	Fig. 番号	コナリ群	A・B
MTN-K-326	鉢	弥生土器	弥生時代	7.0	口径 26.3 底径 9.2	器高 12.6	SH 4 0 4	1980.12	113-326	91-6	5 7	A
MTN-K-327	砥石	弥生土器	弥生時代	不明	最大長 4.6 最大幅 2.8	最大厚 0.8	SH 4 0 4	1980.12	113-327	—	5 7	B
MTN-K-328	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 — 底径 —	器高 18.5釐 器高 4.8釐	SH 4 0 7	1980.12	114-328	93-1	5 7	A
MTN-K-329	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 — 底径 9.2釐	器高 4.8釐	SH 4 0 7	1980.12	114-329	93-3	5 7	A
MTN-K-330	壺	弥生土器	弥生時代	不明	口径 11.8釐 底径 —	器高 4.5釐	SH 4 0 7	1980.12	114-330	93-2	5 7	A
MTN-K-331	高杯	弥生土器	弥生時代	不明	口径 — 底径 15.6釐	器高 4.1釐	SH 4 0 7	1980.12	114-331	93-4	5 7	A
MTN-K-332	甕	土師器	古墳時代	不明	口径 16.6釐 底径 —	器高 11.7釐	SK 4 0 8	1980.12	115-332	136-1	5 7	A
MTN-K-333	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 — 底径 —	器高 3.2釐	SD 4 0 9	1980.12	116-333	131-1	5 7	A
MTN-K-334	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 — 底径 9.4釐	器高 7.5釐	SH 4 0 9	1980.12	116-334	131-2	5 7	A
MTN-K-335	壺	弥生土器	弥生時代	不明	口径 — 底径 —	器高 4.5釐	SH 4 0 9	1980.12	116-335	131-3	5 7	A
MTN-K-336	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 15.0釐 底径 —	器高 15.4釐	SH 4 1 0	1980.12	117-336	95-1	5 7	A
MTN-K-337	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 16.8釐 底径 —	器高 15.1釐	SH 4 1 0	1980.12	117-337	95-2	5 7	A
MTN-K-338	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 17.0釐 底径 —	器高 7.2釐	SH 4 1 0	1980.12	118-338	95-3	5 7	A
MTN-K-339	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 — 底径 —	器高 2.9釐	SH 4 1 0	1980.12	118-339	95-7	5 7	A
MTN-K-340	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 — 底径 8.2釐	器高 2.9釐	SH 4 1 0	1980.12	118-340	95-4	5 7	A
MTN-K-341	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 — 底径 8.0釐	器高 4.2釐	SH 4 1 0	1980.12	118-341	95-6	5 7	A
MTN-K-342	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 — 底径 8.0釐	器高 4.6釐	SH 4 1 0	1980.12	118-342	95-5	5 7	A
MTN-K-343	壺	弥生土器	弥生時代	不明	口径 19.6釐 底径 —	器高 3.9釐	SH 4 1 0	1980.12	118-343	95-8	5 7	A
MTN-K-344	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 — 底径 8.0釐	器高 4.9釐	SH 4 1 1	1980.12	119-344	97-1	5 7	A
MTN-K-345	器台	弥生土器	弥生時代	不明	口径 — 底径 12.0釐	器高 5.9釐	SH 4 1 1	1980.12	119-345	97-3	5 7	A
MTN-K-346	鉢	弥生土器	弥生時代	不明	口径 12.6釐 底径 —	器高 10.5釐	SH 4 1 1	1980.12	119-346	97-2	5 7	A
MTN-K-347	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 32.0釐 底径 —	器高 7.2釐	SD 4 1 3	1980.12	120-347	131-8	5 7	A
MTN-K-348	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 19.2釐 底径 —	器高 8.5釐	SD 4 1 3	1980.12	120-348	131-4	5 7	A
MTN-K-349	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 24.6釐 底径 —	器高 3.4釐	SD 4 1 3	1980.12	120-349	131-6	5 7	A
MTN-K-350	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 30.8釐 底径 —	器高 3.9釐	SD 4 1 3	1980.12	120-350	131-7	5 7	A

村徳永遺跡 (K地区) I種

目錄番号	名稱	種別	時代	解釋(%)	法	量 (cm, g)	遺構名	出土年月	実測番号	Fig. 番号	工方特征	A・B
MTN-K-351	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 — 底徑 —	器高 4.8號	SD 4 1 3	1990.12	121-351	131-5	5 7	A
MTN-K-352	鉢	弥生土器	弥生時代	不明	口径 — 底徑 —	器高 7.1號	SD 4 1 8	1990.12	121-352	—	5 7	B
MTN-K-353	不明底部	弥生土器	弥生時代	不明	口径 — 底徑 7.9	器高 2.5號	SD 4 1 3	1990.12	121-353	—	5 7	B
MTN-K-354	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 11.0號 底徑 6.0	器高 15.2號	SH 4 1 5	1990.12	122-354	99-1	5 7	A
MTN-K-355	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 15.0號 底徑 —	器高 4.8號	SH 4 1 5	1990.12	122-355	99-3	5 7	A
MTN-K-356	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 10.0號 底徑 —	器高 10.7號	SH 4 1 5	1990.12	122-356	99-2	5 7	A
MTN-K-357	鉢	弥生土器	弥生時代	不明	口径 13.8號 底徑 —	器高 3.9號	SH 4 1 5	1990.12	122-357	99-4	5 7	A
MTN-K-358	支脚	弥生土器	弥生時代	不明	口径 — 底徑 12.6號	器高 5.0號	SH 4 1 5	1990.12	123-358	99-5	5 7	A
MTN-K-359	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 27.0號 底徑 —	器高 5.0號	SH 4 1 6	1990.12	124-359	101-2	5 7	A
MTN-K-360	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 30.0號 底徑 —	器高 5.0號	SH 4 1 6	1990.12	124-360	101-1	5 7	A
MTN-K-361	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 15.9號 底徑 —	器高 5.3號	SH 4 1 6	1990.12	124-361	101-4	5 7	A
MTN-K-362	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 22.7號 底徑 —	器高 3.8號	SH 4 1 6	1990.12	124-362	101-3	5 7	A
MTN-K-363	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 — 底徑 8.2	器高 6.3號	SH 4 1 6	1990.12	125-363	101-5	5 7	A
MTN-K-364	壺	弥生土器	弥生時代	不明	口径 17.4號 底徑 —	器高 8.2號	SH 4 1 6	1990.12	125-364	101-6	5 7	A
MTN-K-365	鉢	弥生土器	弥生時代	不明	口径 17.0號 底徑 —	器高 5.0號	SH 4 1 6	1990.12	125-365	101-7	5 7	A
MTN-K-366	手捏	弥生土器	弥生時代	不明	口径 — 底徑 2.8	器高 4.7號	SH 4 1 6	1990.12	125-366	101-8	5 7	A
MTN-K-367	手捏	弥生土器	弥生時代	不明	口径 — 底徑 2.8	器高 4.0號	SH 4 1 6	1990.12	125-367	101-9	5 7	A
MTN-K-368	不明	土製品	弥生時代	不明	最大長 6.2 最大徑 1.9		SH 4 1 6	1990.12	125-368	—	5 7	B
MTN-K-369	管玉	石製品	弥生時代	完存	最大徑 0.55 最大厚 0.2		SH 4 1 6	1990.12	125-369	—	5 7	B
MTN-K-370	砥石	石製品	弥生時代	不明	最大長 16.8 最大幅 7.1	最大厚 1.7	SH 4 1 6	1990.12	126-370	—	5 7	B
MTN-K-371	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 26.4號 底徑 —	器高 4.8號	SH 4 1 7	1990.12	127-371	103-3	5 7	A
MTN-K-372	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 28.6號 底徑 —	器高 7.5號	SH 4 1 7	1990.12	127-372	103-4	5 7	A
MTN-K-373	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 — 底徑 —	器高 7.1號	SH 4 1 7	1990.12	127-373	103-2	5 7	A
MTN-K-374	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 — 底徑 7.0	器高 2.1號	SH 4 1 7	1990.12	127-374	103-6	5 7	A
MTN-K-375	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 — 底徑 8.5	器高 8.8號	SH 4 1 7	1990.12	127-375	103-5	5 7	A

目錄番号	名稱	種別	時代	熟練(%)	法	量 (cm, g)	遺構名	出土年月	実測番号	Fig.番号	功打番号	A·B
MTN-K-376	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 — 底徑 —	器高 22.6釐	SH 4 1 7	1990.12	128-376	103-1	5 7	A
MTN-K-377	高杯	弥生土器	弥生時代	不明	口径 — 底徑 —	器高 6.1釐	SH 4 1 7	1990.12	129-377	103-9	5 7	A
MTN-K-378	鉢	弥生土器	弥生時代	不明	口径 9.0 底徑 6.8	器高 5.7	SH 4 1 7	1990.12	129-378	103-7	5 7	A
MTN-K-379	鉢	弥生土器	弥生時代	不明	口径 — 底徑 —	器高 6.9釐	SH 4 1 7	1990.12	129-379	103-8	5 7	A
MTN-K-380	杯	土師器	平安時代	6 0	口径 12.8釐 底徑 7.6	器高 3.2	SK 4 1 8	1990.12	130-380	138-2	6 1	A
MTN-K-381	杯	土師器	平安時代	5 0	口径 12.5釐 底徑 7.3釐	器高 3.8	SK 4 1 8	1990.12	130-381	138-3	6 1	A
MTN-K-382	高台付杯	土師器	平安時代	不明	口径 — 底徑 7.0釐	器高 3.5釐	SK 4 1 8	1990.12	130-382	138-4	6 1	A
MTN-K-383	皿	土師器	平安時代	3 0	口径 14.5釐 底徑 8.6釐	器高 1.5	SK 4 1 8	1990.12	130-383	138-1	6 1	A
MTN-K-384	甕	土師器	平安時代	不明	口径 17.2釐 底徑 —	器高 10.2釐	SK 4 1 8	1990.12	131-384	138-5	6 1	A
MTN-K-385	甕	土師器	平安時代	不明	口径 17.4釐 底徑 —	器高 4.9釐	SK 4 1 8	1990.12	131-385	—	6 1	B
MTN-K-386	高杯	土師器	平安時代	不明	口径 — 底徑 17.4釐	器高 12.5釐	SK 4 1 8	1990.12	130-386	138-6	6 1	A
MTN-K-387	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 31.4釐 底徑 —	器高 7.5釐	SK 4 1 9	1990.12	132-387	121-3	6 1	A
MTN-K-388	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 31.0釐 底徑 —	器高 7.3釐	SK 4 1 9	1990.12	132-388	121-2	6 1	A
MTN-K-389	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 33.6釐 底徑 —	器高 4.9釐	SK 4 1 9	1990.12	132-389	121-4	6 1	A
MTN-K-390	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 15.6釐 底徑 —	器高 2.8釐	SK 4 1 9	1990.12	132-390	121-1	6 1	A
MTN-K-391	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 — 底徑 9.2	器高 9.0釐	SK 4 1 9	1990.12	133-391	121-7	6 1	A
MTN-K-392	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 — 底徑 9.4	器高 5.5釐	SK 4 1 9	1990.12	133-392	121-5	6 1	A
MTN-K-393	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 — 底徑 10.0釐	器高 6.2釐	SK 4 1 9	1990.12	133-393	121-6	6 1	A
MTN-K-394	壺	弥生土器	弥生時代	不明	口径 11.0釐 底徑 —	器高 4.1釐	SK 4 1 9	1990.12	133-394	121-8	6 1	A
MTN-K-395	高杯	弥生土器	弥生時代	不明	口径 — 底徑 —	器高 12.4釐	SK 4 1 9	1990.12	134-395	121-9	6 1	A
MTN-K-396	鉢	弥生土器	弥生時代	4 5	口径 17.2釐 底徑 6.6釐	器高 7.8	SK 4 1 9	1990.12	134-396	121-10	6 1	A
MTN-K-397	鉢	弥生土器	弥生時代	不明	口径 24.0釐 底徑 —	器高 6.3釐	SK 4 1 9	1990.12	134-397	121-11	6 1	A
MTN-K-398	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 24.0釐 底徑 —	器高 16.3釐	SH 4 2 0	1990.12	135-398	105-4	6 1	A
MTN-K-399	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 20.0釐 底徑 —	器高 5.0釐	SH 4 2 0	1990.12	135-399	105-1	6 1	A
MTN-K-400	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 26.0釐 底徑 —	器高 13.4釐	SH 4 2 0	1990.12	136-400	105-5	6 1	A

目録番号	名称	種別	時代	解釋(%)	法	量 (cm, g)	遺構名	出土年月	実測番号	Fig. 番号	コナリ群	A・B
MTN-K-401	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 24.0㎝	底径 — 器高 9.1㎝	SH 4 2 0	1990.12	136-401	105-2	6 1	A
MTN-K-402	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 26.0㎝	底径 — 器高 4.9㎝	SH 4 2 0	1990.12	137-402	105-7	6 1	A
MTN-K-403	壺	弥生土器	弥生時代	不明	口径 25.0㎝	底径 — 器高 3.9㎝	SH 4 2 0	1990.12	137-403	105-6	6 1	A
MTN-K-404	壺	弥生土器	弥生時代	不明	口径 —	底径 8.0㎝ 器高 13.3㎝	SH 4 2 0	1990.12	137-404	105-3	6 1	A
MTN-K-405	鉢	弥生土器	弥生時代	不明	口径 27.0㎝	底径 — 器高 10.7㎝	SH 4 2 0	1990.12	137-405	105-8	6 1	A
MTN-K-406	砥石	石製品	弥生時代	完存	最大長 6.6	最大幅 7.5 最大厚 2.2	SH 4 2 0	1990.12	138-406	105-10	6 1	A
MTN-K-407	磨石	石製品	弥生時代	完存	最大長 14.5	最大幅 11.8 最大厚 3.6	SH 4 2 0	1990.12	138-407	105-9	6 1	A
MTN-K-408	石鎌	石製品	弥生時代	不明	最大長 5.1	最大幅 17.1 最大厚 1.3	SH 4 2 0	1990.12	139-408	105-11	6 1	A
MTN-K-409	小玉	ガラス製品	弥生時代	完存	長さ 0.6	径 0.6 孔径 0.2	SH 4 2 0	1990.12	139-409	—	6 1	B
MTN-K-410	捏鉢	須恵器	埴～瀬群	不明	口径 26.0㎝	底径 — 器高 8.2㎝	SK 4 2 1	1990.12	140-410	140-1	6 1	A
MTN-K-411	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 29.8㎝	底径 — 器高 38.0㎝	SK 4 2 2	1990.12	144-411	122-1	6 0	A
MTN-K-412	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 33.4㎝	底径 — 器高 22.6㎝	SK 4 2 2	1990.12	142-412	122-2	5 9	A
MTN-K-413	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 29.8㎝	底径 — 器高 15.0㎝	SK 4 2 2	1990.12	142-413	122-3	5 9	A
MTN-K-414	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 30.0㎝	底径 — 器高 8.9㎝	SK 4 2 2	1990.12	143-414	123-1	5 9	A
MTN-K-415	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 —	底径 9.0 器高 12.2㎝	SK 4 2 2	1990.12	143-415	123-3	5 9	A
MTN-K-416	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 —	底径 11.0㎝ 器高 23.8㎝	SK 4 2 2	1990.12	143-416	123-2	5 9	A
MTN-K-417	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 —	底径 7.6 器高 7.9㎝	SK 4 2 2	1990.12	144-417	123-5	5 9	A
MTN-K-418	壺	弥生土器	弥生時代	不明	口径 16.8㎝	底径 — 器高 10.01㎝	SK 4 2 2	1990.12	144-418	123-6	5 9	A
MTN-K-419	壺	弥生土器	弥生時代	不明	口径 —	底径 7.6 器高 6.1㎝	SK 4 2 2	1990.12	144-419	123-4	5 9	A
MTN-K-420	器台	弥生土器	弥生時代	3 0	口径 14.6㎝	底径 15.2㎝ 器高 16.6	SK 4 2 2	1990.12	144-420	123-7	5 9	A
MTN-K-421	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 30.0㎝	底径 — 器高 6.9㎝	SK 4 2 3	1990.12	145-421	125-2	6 1	A
MTN-K-422	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 19.0㎝	底径 — 器高 8.1㎝	SK 4 2 3	1990.12	145-422	125-1	6 1	A
MTN-K-423	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 35.4㎝	底径 — 器高 7.9㎝	SK 4 2 4	1990.12	146-423	—	6 1	B
MTN-K-424	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 33.0㎝	底径 — 器高 7.9㎝	SK 4 2 4	1990.12	146-424	127-1	6 1	A
MTN-K-425	高杯	弥生土器	弥生時代	不明	口径 19.0㎝	底径 — 器高 5.5㎝	SK 4 2 4	1990.12	146-425	127-2	6 1	A

目録番号	名称	種別	時代	熟練(%)	法	量 (cm, g)	遺構名	出土年月	実測番号	Fig.番号	功片番号	A・B
MTN-K-426	鉢	弥生土器	弥生時代	55	口径16.8雫 底径6.7	器高10.0	SK4224	1990.12	147-426	127-3	61	A
MTN-K-427	砥石	石製品	弥生時代	完存	最大長12.8 最大幅9.5	最大厚4.1	SK4224	1990.12	147-427	127-4	61	A
MTN-K-428	砥石	石製品	弥生時代	完存	最大長8.1 最大幅3.6	最大厚3.3	SK4224	1990.12	148-428	127-5	61	A
MTN-K-429	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径— 底径8.4雫	器高3.0雫	SH425	1990.12	149-429	107-3	61	A
MTN-K-430	壺	弥生土器	弥生時代	不明	口径— 底径—	器高5.6雫	SH425	1990.12	149-430	107-1	61	A
MTN-K-431	器台	弥生土器	弥生時代	不明	口径— 底径18.0雫	器高3.9雫	SH425	1990.12	149-431	107-2	61	A
MTN-K-432	ミチユア土器	弥生土器	弥生時代	不明	口径— 底径1.6	器高4.8雫	SH425	1990.12	149-432	107-4	61	A
MTN-K-433	紡錘車	土製品	弥生時代	不明	最大径4.0 最大厚0.6		SH425	1990.12	149-433	107-5	61	A
MTN-K-434	甕	土師器	古墳時代	75	口径16.6雫 底径—	器高26.9	SK428	1990.12	150-434	134-1	58	A
MTN-K-435	甕	土師器	古墳時代	70	口径11.8雫 底径—	器高16.4	SK428	1990.12	150-435	134-2	61	A
MTN-K-436	甕	土師器	古墳時代	不明	口径18.0雫 底径—	器高5.7雫	SK428	1990.12	151-436	134-3	61	A
MTN-K-437	壺	土師器	古墳時代	不明	口径17.8雫 底径—	器高8.5雫	SK428	1990.12	151-437	—	61	B
MTN-K-438	高杯	土師器	古墳時代	不明	口径— 底径—	器高7.8雫	SK428	1990.12	151-438	134-4	61	A
MTN-K-439	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径30.6雫 底径—	器高6.7雫	SK429	1990.12	152-439	—	61	B
MTN-K-440	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径— 底径—	器高2.3雫	SK429	1990.12	152-440	—	61	B
MTN-K-441	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径26.0雫 底径—	器高9.1雫	SD430	1990.12	153-441	131-13	61	A
MTN-K-442	高杯	弥生土器	弥生時代	不明	口径— 底径18.0雫	器高3.6雫	SD430	1990.12	153-442	131-11	61	A
MTN-K-443	支脚	弥生土器	弥生時代	完存	口径6.6 底径11.0	器高9.2	SD430	1990.12	153-443	131-9	61	A
MTN-K-444	支脚	弥生土器	弥生時代	40	口径6.0雫 底径10.0	器高11.3	SD430	1990.12	153-444	131-10	61	A
MTN-K-445	支脚	弥生土器	弥生時代	完存	口径— 底径10.4	器高11.0	SD430	1990.12	153-445	131-12	61	A
MTN-K-446	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径15.9雫 底径—	器高17.2雫	SH431	1990.12	154-446	—	61	B
MTN-K-447	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径26.0雫 底径—	器高9.0雫	SH431	1990.12	154-447	—	61	B
MTN-K-448	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径30.0雫 底径—	器高5.1雫	SH431	1990.12	155-448	109-1	61	A
MTN-K-449	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径33.6雫 底径—	器高7.9雫	SH431	1990.12	155-449	109-2	61	A
MTN-K-450	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径— 底径8.6	器高4.6雫	SH431	1990.12	155-450	109-3	61	A

村徳永遺跡 (K地区) I種

目録番号	名称	種別	時代	群葬(%)	法	量 (cm, g)	遺構名	出土年月	実測番号	Fig. 番号	コナリ群	A・B
MTN-K-451	壺	弥生土器	弥生時代	不明	口径 17.0雫	器高 8.0雫	SH 4 3 1	1990.12	156-451	109-5	6 1	A
MTN-K-452	壺	弥生土器	弥生時代	不明	口径 —	器高 7.6雫	SH 4 3 1	1990.12	156-452	109-4	6 1	A
MTN-K-453	鉢	弥生土器	弥生時代	3 0	口径 13.2雫	器高 8.1	SH 4 3 1	1990.12	156-453	109-6	6 1	A
MTN-K-454	甕	土師器	古墳時代	不明	口径 16.0雫	器高 22.3雫	SK 4 3 2	1990.12	157-454	128-1	6 2	A
MTN-K-455	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 —	器高 11.2雫	SH 4 3 3	1990.12	158-455	111-2	6 2	A
MTN-K-456	甕	弥生土器	弥生時代	5 5	口径 7.8雫	器高 6.2	SH 4 3 3	1990.12	158-456	111-3	6 2	A
MTN-K-457	蓋	弥生土器	弥生時代	8 0	口径 15.4	器高 4.5	SH 4 3 3	1990.12	158-457	111-4	6 2	A
MTN-K-458	砥石	石製品	弥生時代	完存	最大長 21.5	最大幅 9.6	SH 4 3 3	1990.12	159-458	111-1	6 2	A
MTN-K-459	鉢	弥生土器	弥生時代	3 0	口径 14.0雫	器高 8.9	SK 4 3 4	1990.12	160-459	113-1	6 2	A
MTN-K-460	石包丁	石器	弥生時代	不明	最大長 4.6	最大幅 3.9	SK 4 3 4	1990.12	160-460	113-2	6 2	A
MTN-K-461	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 43.0雫	器高 7.0雫	SK 4 3 6	1990.12	161-461	130-1	6 2	A
MTN-K-462	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 28.8雫	器高 3.0雫	SK 4 3 6	1990.12	161-462	130-2	6 2	A
MTN-K-463	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 —	器高 8.6雫	SK 4 3 6	1990.12	161-463	130-3	6 2	A
MTN-K-464	高杯	弥生土器	弥生時代	不明	口径 —	器高 10.6	SK 4 3 6	1990.12	161-464	130-4	6 2	A
MTN-K-465	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 35.0雫	器高 11.2雫	SK 4 3 7	1990.12	162-465	—	6 2	B
MTN-K-466	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 26.0雫	器高 8.2雫	SK 4 3 7	1990.12	162-466	—	6 2	B
MTN-K-467	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 —	器高 8.1雫	SK 4 3 7	1990.12	162-467	—	6 2	B
MTN-K-468	鉢	弥生土器	弥生時代	完存	口径 8.8	器高 5.6	SK 4 3 7	1990.12	162-468	—	6 2	B
MTN-K-469	叩石	石器	弥生時代	完存	最大長 14.3	最大幅 12.4	SK 4 3 7	1990.12	163-469	—	6 2	B
MTN-K-470	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 20.0雫	器高 12.3雫	SK 4 3 8	1990.12	164-470	134-6	6 2	A
MTN-K-471	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 18.0雫	器高 7.2雫	SK 4 3 8	1990.12	164-471	134-5	6 2	A
MTN-K-472	鉢	弥生土器	弥生時代	完存	口径 11.8	器高 8.2	SK 4 3 8	1990.12	164-472	134-7	6 2	A
MTN-K-473	支脚	弥生土器	弥生時代	完存	口径 8.3	器高 8.4	SK 4 3 8	1990.12	164-473	134-8	6 2	A
MTN-K-474	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 —	器高 6.0雫	SD 4 3 9	1990.12	165-474	—	6 2	B
MTN-K-475	壺	弥生土器	弥生時代	不明	口径 12.6雫	器高 6.9雫	SD 4 3 9	1990.12	165-475	—	6 2	B

村徳永遺跡 (K 地区) I 種

目錄番号	名稱	種別	時代	群葬(%)	法	量 (cm, g)	遺構名	出土年月	実測番号	Fig. 番号	功勞番号	A・B
MTN-K-476	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 31.0雫	底径 —	器高 13.0雫	SD 4 4 1	166-476	—	6 2	B
MTN-K-477	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 26.0雫	底径 —	器高 10.3雫	SD 4 4 1	166-477	—	6 2	B
MTN-K-478	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 22.8雫	底径 —	器高 6.4雫	SD 4 4 1	167-478	—	6 2	B
MTN-K-479	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 24.8雫	底径 —	器高 6.0雫	SD 4 4 1	167-479	—	6 2	B
MTN-K-480	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 20.0雫	底径 —	器高 5.0雫	SD 4 4 1	167-480	—	6 2	B
MTN-K-481	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 —	底径 8.0	器高 5.5雫	SD 4 4 1	167-481	—	6 2	B
MTN-K-482	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 —	底径 7.2	器高 4.6雫	SD 4 4 1	168-482	—	6 2	B
MTN-K-483	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 —	底径 10.0雫	器高 5.9雫	SD 4 4 1	168-483	—	6 2	B
MTN-K-484	壺	弥生土器	弥生時代	不明	口径 14.0雫	底径 —	器高 7.0雫	SD 4 4 1	168-484	—	6 2	B
MTN-K-485	鉢	弥生土器	弥生時代	7 0	口径 12.7	底径 4.2	器高 5.8	SD 4 4 1	168-485	—	6 2	B
MTN-K-486	鉢	弥生土器	弥生時代	5 0	口径 12.4雫	底径 4.6雫	器高 8.7	SD 4 4 1	168-486	—	6 2	B
MTN-K-487	器台	弥生土器	弥生時代	不明	口径 15.2	底径 —	器高 12.0雫	SD 4 4 1	169-487	—	6 2	B
MTN-K-488	器台	弥生土器	弥生時代	不明	口径 —	底径 14.8雫	器高 7.1雫	SD 4 4 1	169-488	—	6 2	B
MTN-K-489	器台	弥生土器	弥生時代	不明	口径 —	底径 10.2	器高 10.5雫	SD 4 4 1	169-489	—	6 2	B
MTN-K-490	器台	弥生土器	弥生時代	不明	口径 —	底径 6.8雫	器高 7.5雫	SD 4 4 1	169-490	—	6 2	B
MTN-K-491	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 —	底径 —	器高 5.5雫	SH 4 4 2	170-491	113-3	6 2	A
MTN-K-492	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 —	底径 8.8雫	器高 3.4雫	SH 4 4 2	170-492	113-5	6 2	A
MTN-K-493	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 —	底径 6.8雫	器高 3.2雫	SH 4 4 2	170-493	113-4	6 2	A
MTN-K-494	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 20.4雫	底径 —	器高 4.7雫	SB 4 6 1	171-494	115-1	6 2	A
MTN-K-495	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 32.8雫	底径 —	器高 8.2雫	SB 4 6 1	171-495	115-3	6 2	A
MTN-K-496	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 27.0雫	底径 —	器高 4.5雫	SB 4 6 1	172-496	115-2	6 2	A
MTN-K-497	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 31.8雫	底径 —	器高 14.8雫	SB 4 6 1	172-497	115-4	6 2	A
MTN-K-498	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 20.0雫	底径 —	器高 2.8雫	SB 4 6 2	173-498	117-1	6 2	A
MTN-K-499	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 —	底径 10.0雫	器高 3.1雫	SB 4 6 2	173-499	117-3	6 2	A
MTN-K-500	甕	弥生土器	弥生時代	不明	口径 30.0雫	底径 —	器高 8.7雫	SB 4 6 2	173-500	117-2	6 2	A

村徳永遺跡 (K地区) I種



地区名	種別	時代	遺構名	出土年月	コナリ番	袋数	備考
MTN-K1区	弥生土器・土師器破片	弥生～古墳時代	SH101, SH102, SH103, SH104, SH105	1990.08～10	1	29	
MTN-K1区	弥生土器・土師器破片	弥生～古墳時代	SH105, SH106, SH107, SH108, SH109, SH110, SH111, SH112, SH113	1990.08～10	2	36	
MTN-K1区	弥生土器・土師器・須恵器破片	弥生～室町時代	SH114, SK115, SH116, SD117, SD121	1990.08～10	3	17	
MTN-K1区	弥生土器・土師器・瓦器破片	弥生～室町時代	SD121, SD122, SK131, SK132, SK133, SK134, SK135, SE136, SK137, SK138, SE139	1990.08～10	4	17	
MTN-K1・2区	弥生土器・土師器・瓦器破片	弥生～室町時代	SE139, SD141, SD142, SK143, SK144, SK145, SK146, SD147, SD201	1990.08～10	5	13	
MTN-K2区	弥生土器破片	弥生時代	SD201, SH202, SK203	1990.10	6	20	
MTN-K2区	弥生土器破片	弥生時代	SK203, SK204, SD205, SD206, SK208, SD209	1990.10	7	10	
MTN-K2・3区	弥生土器破片	弥生時代	SD210, SK211, SK212, SH213, SH214, SD215, SK216, SK217, SK218, SK219, SK301	1990.10	8	18	
MTN-K3区	弥生土器・土師器破片	弥生～古墳時代	SH302, SD303, SK304, SH305, SH306, SK307, SK308, SH309	1990.10～11	9	10	
MTN-K3区	弥生土器・土師器破片	弥生～古墳時代	SH309, SK310	1990.11	10	9	
MTN-K3・4区	弥生土器・土師器破片	弥生～鎌倉時代	SK310, SK311, SK312, SH401, SD402	1990.11～12	11	15	
MTN-K4区	弥生土器・土師器破片	弥生～鎌倉時代	SD402, SK403, SH404, SK406, SH407, SK408, SD409	1990.11～12	12	17	
MTN-K4区	弥生土器・土師器破片	弥生～古墳時代	SH410, SH411, SD413, SK414, SH415	1990.12	13	29	
MTN-K4区	弥生土器・土師器破片	弥生～平安時代	SH416, SH417, SK418	1990.12	14	25	
MTN-K4区	弥生土器・土師器破片	弥生～古墳時代	SK418, SK419, SH420, SK421, SK422	1990.12	15	31	
MTN-K4区	弥生土器・土師器破片	弥生～古墳時代	SK422, SK423, SK424, SK425, SK427	1990.12	16	22	
MTN-K4区	弥生土器・土師器破片	弥生～古墳時代	SK428, SD430, SH431, SK432, SH433, SH434	1990.12	17	11	
MTN-K4区	弥生土器・土師器破片	弥生～古墳時代	SK436, SD437, SK438, SD439, SD440, SD441, SH442, SB461, SB462	1990.12	18	21	

村徳永遺跡 (K地区) II種

地区名	種別	時代	遺構名	出土年月	功年齢	袋数	備考
MTN-K1区	弥生土器破片	弥生時代	P1001~1083	1990.10	1 9	5 4	
MTN-K1・2区	弥生土器破片	弥生時代	P1095~1109, P2001~2016	1990.10~11	2 0	3 1	
MTN-K2・3区	弥生土器破片	弥生時代	P2018~2040, P3001~3030	1990.10~11	2 1	5 3	
MTN-K地区	弥生土器・土師器破片	弥生~古墳時代	P4001~4087, 表採	1990.08~12	2 2	8 8	
MTN-K地区	弥生土器・土師器破片	弥生~古墳時代	K4区トレンチA~E, AB-7, AC-6, AD-8, AE-7, AF-6, AG-5, AI-5, AJ-5, AJ-4, AJ-5	1990.08~12	2 3	1 8	
MTN-K地区	弥生土器破片	弥生時代	AK-6, AL-6, AM-4, AN-4, AO-4, AP-6, AT-7, AU-5, AU-6, AU-30, AU-31, AU-32, AU-34, AU-36, AV-2, AV-3, AV-4, AV-6, AV-7, AV-32, AV-33, AV-34	1990.08~11	2 4	3 2	
MTN-K地区	弥生土器破片	弥生時代	AV-35, AV-36, AV-37	1990.10~11	2 5	9	
MTN-K地区	弥生土器破片	弥生時代	AV-37	1990.10	2 6	6	
MTN-K地区	弥生土器破片	弥生時代	AV-37	1990.10~11	2 7	6	
MTN-K地区	弥生土器破片	弥生時代	AV-37, AW-2, AW-3, AW-5, AW-6, AX-2	1990.09~11	2 8	1 2	
MTN-K地区	弥生土器破片	弥生時代	AX-3, AX-4, AX-5, AX-6, AY-3, AY-4, AY-5, AY-6	1990.09	2 9	1 7	
MTN-K地区	弥生土器破片	弥生時代	AZ-2, AZ-3, AZ-5, AZ-6, BA-2, BA-3, BA-5, BB-3, BB-4, BD-41, BD-42, BD-44, BD-45, BD-46, BE-40, BE-41, BE-42, BE-43, BE-44, BE-45, BE-46	1990.09~12	3 0	3 4	
MTN-K地区	弥生土器破片	弥生時代	BE-47, BF-42, BF-44, BF-47, BF-48, BG-40, BG-41, BG-45, BG-46, BG-47	1990.12	3 1	1 9	
MTN-K地区	弥生土器破片	弥生時代	BG-47, BH-41, BH-42, BH-44, BH-45, BH-46, BH-48	1990.12	3 2	1 4	
MTN-K地区	弥生土器破片	弥生時代	BI-42, BR-32, BR-33	1990.10~12	3 3	8	
MTN-K地区	弥生土器破片	弥生時代	BR-33, BR-34, BR-35	1990.10	3 4	6	
MTN-K地区	弥生土器破片	弥生時代	BR-35, BR-36, BS-32, BS-33	1990.10	3 5	9	

地区名	種別	時代	遺構名	出土年月	コナリ番	袋数	備考
MTN-K地区	弥生土器破片	弥生時代	BS-33, BS-34	1990.10	36	6	
MTN-K地区	弥生土器破片	弥生時代	BS-34, BS-35	1990.10	37	8	
MTN-K地区	弥生土器破片	弥生時代	BS-35, BS-36, BS-39, BS-40	1990.10	38	9	
MTN-K地区	弥生土器破片	弥生時代	BT-32, BT-33, BT-34	1990.10	39	8	
MTN-K地区	弥生土器破片	弥生時代	BT-34, BT-35	1990.10~12	40	7	
MTN-K地区	弥生土器破片	弥生時代	BT-35, BT-42, 不明遺物	1990.10	41	5	

村徳永遺跡 (K地区) II種

目録番号	名称	種別	時代	製法(%)	法	量 (cm, g)	遺構名	出土年月	実測番号	Fig. 番号	コナリ番号	A・B
SGN-1-001	杯	土師器	江戸時代	不明	口径 — 底径 4.0	器高 2.2g	SK 1 0 1	1990.09	1-001	—	2	B
SGN-1-002	土鍋	土師器	江戸時代	不明	口径 27.2g	器高 3.9g	SK 1 0 1	1990.09	1-002	—	2	B
SGN-1-003	椀	磁器	江戸時代	不明	口径 — 底径 4.0	器高 3.9g	SK 1 0 3	1990.10	2-003	—	2	B
SGN-1-004	播鉢	陶器	江戸時代	不明	口径 — 底径 —	器高 5.2g	SK 1 0 3	1990.10	2-004	144-3	2	A
SGN-1-005	播鉢	瓦器	江戸時代	不明	口径 — 底径 19.0	器高 4.7g	SK 1 0 3	1990.10	2-005	144-2	2	A
SGN-1-006	鉢	瓦器	江戸時代	不明	口径 36.6g	器高 8.7g	SK 1 0 3	1990.10	2-006	144-1	2	A
SGN-1-007	鉢	瓦器	江戸時代	不明	口径 — 底径 —	器高 7.2g	SD 1 0 4	1990.10	3-007	144-4	2	A
SGN-1-008	椀	磁器	江戸時代	不明	口径 14.4g	器高 2.9g	SK 1 0 6	1990.10	4-008	147-1	2	A
SGN-1-009	土鍋	瓦器	江戸時代	不明	口径 — 底径 —	器高 5.3g	SK 1 0 6	1990.10	4-009	147-2	2	A
SGN-1-010	壺	陶器	江戸時代	不明	口径 — 底径 6.0g	器高 3.4g	SD 1 0 7	1990.10	5-010	148-6	2	A
SGN-1-011	椀	磁器	江戸時代	不明	口径 — 底径 3.6g	器高 2.9g	SD 1 0 7	1990.10	5-011	148-7	2	A
SGN-1-012	皿	土師器	江戸時代	6 0	口径 9.4g	器高 2.3	SD 1 0 8	1990.10	6-012	148-8	2	A
SGN-1-013	壺	陶器	江戸時代	不明	口径 12.2g	器高 4.7g	SD 1 0 8	1990.10	6-013	148-9	2	A
SGN-1-014	椀	磁器	江戸時代	不明	口径 5.7g	器高 3.9g	SD 1 0 9	1990.10	7-014	148-3	2	A
SGN-1-015	壺	磁器	江戸時代	不明	口径 13.6g	器高 2.9g	SD 1 0 9	1990.10	7-015	148-4	2	A
SGN-1-016	播鉢	瓦器	江戸時代	不明	口径 — 底径 14.2g	器高 4.8g	SD 1 0 9	1990.10	7-016	148-1	2	A
SGN-1-017	鉢	瓦器	江戸時代	不明	口径 — 底径 —	器高 6.8g	SD 1 0 9	1990.10	7-017	148-2	2	A
SGN-1-018	石鉢	打製石器	弥生時代	完形	最大長 2.2	最大幅 1.6	SD 1 0 9	1990.10	7-018	—	2	B
SGN-1-019	皿	土師器	江戸時代	完形	口径 7.0	器高 1.4	SK 1 1 3	1990.10	8-019	147-3	2	A
SGN-1-020	皿	土師器	江戸時代	2 0	口径 4.2g	器高 1.4	SK 1 1 3	1990.10	8-020	147-4	2	A
SGN-1-021	鉢	土師器	江戸時代	不明	口径 — 底径 —	器高 3.9g	SK 1 1 3	1990.10	8-021	147-8	2	A
SGN-1-022	鉢	土師器	江戸時代	不明	口径 — 底径 —	器高 4.8g	SK 1 1 3	1990.10	8-022	147-7	2	A
SGN-1-023	播鉢	瓦器	江戸時代	不明	口径 — 底径 —	器高 12.2	SK 1 1 3	1990.10	8-023	147-6	2	A
SGN-1-024	壺	瓦器	江戸時代	不明	口径 27.8g	器高 7.9g	SK 1 1 3	1990.10	9-024	147-5	2	A

地区名	種別	時代	遺構名	出土年月	ｺﾝｸﾘｰﾄ番号	袋数	備考
SGN-1区	土師器・瓦器・陶磁器破片	江戸時代	SK101, SK103, SD105, SK106, SD107, SD108, SD109, SK110, SK111, SK112, SK113, SK114, PI001~1005, B-3, B-4, B-6, C-1, G-6	1990.09~10	1	23	

篠木野遺跡（I区）II種

佐賀市文化財調査報告書第37集

村徳永遺跡（K地区）

篠木野遺跡（1 区）

平成4年3月31日

発行 佐賀市教育委員会  
佐賀市栄町1番1号

印刷 (株)佐賀印刷社  
佐賀市高木瀬西六丁目11-7